

男女共同参画に関する 基礎調査報告書

令和6年9月調査

新 潟 市

目 次

I 調 査 概 要	1
II 調 査 結 果	5
1 男女の地位の平等感	6
2 男女の役割についての考え方	22
(1) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方	22
(2) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に賛成の理由	26
(3) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に反対の理由	28
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	30
(1) 家庭内の役割分担	30
(2) 役割分担の納得感	40
(3) 家事・育児・介護等に従事する時間について	43
(4) 仕事と家庭生活や地域活動などの位置付け	49
(5) 男性が家庭生活や地域活動等に積極的に参加していくために必要なこと	52
(6) 男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するためのさまたげとなっているもの	54
4 女性の活躍推進	57
(1) 女性の職業と生活設計についての考え方	57
(2) 女性が職業を持ち続けていくうえで課題になること	59
(3) 女性のリーダーを増やすときにさまたげとなっているもの	61
(4) 災害対応として必要なこと	63
5 女性の健康と権利	65
(1) 女性の健康と権利についての配慮	65
(2) 女性の健康と権利について、男女が理解し合うために必要なこと	67
6 配偶者からの暴力（DV）	69
(1) 配偶者からの暴力（DV）を受けた体験の有無	69
(2) 配偶者からの暴力（DV）を最初に受けた時期	80
(3) 配偶者からの暴力（DV）を受けたことの悪影響（生きづらさ）	82
(4) 配偶者からの暴力（DV）に関する相談先	84
(5) 配偶者からの暴力（DV）に関する相談をしなかった理由	86
(6) DVに関する相談窓口の認知度	88
(7) DV防止のために必要なこと	90
7 子ども時代の暴力（DV）	92
(1) 子どもの頃の暴力（DV）に関する体験の有無	92
(2) 子どもの頃の暴力（DV）に関する体験の悪影響（生きづらさ）	94
(3) その状況を変えるために、だれかに助けを求めたことの有無	96
(4) 子どもの頃の暴力（DV）に関する相談相手	98
(5) 子どもの頃の暴力（DV）に関する相談をしなかった理由	100

8 交際相手からの暴力（デートDV）	101
(1) 交際相手からの暴力を受けた体験の有無	101
(2) 交際相手からの暴力を受けたことの悪影響（生きづらさ）	112
(3) 交際相手からの暴力に関する相談先	114
(4) 交際相手からの暴力に関する相談をしなかった理由	116
9 性の多様性	118
(1) ことばや法律の認知度	118
(2) L G B T Q等性的マイノリティが日常生活を営むうえで直面している課題	134
(3) L G B T Q等性的マイノリティに対する理解の促進や支援に必要だと思うもの	136
10 男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと	138
11 男女共同参画社会に関することばの認知度	140
12 女性の現在の暮らし	145
(1) 現在の暮らしの満足度	145
(2) 現在困っていること	147
(3) 困っていることの相談状況	150
(4) 相談していない理由	151
13 女性の心の状態や人間関係	153
(1) 普段感じていることの度合	153
(2) 普段感じていることの頻度	162
(3) 大変なときや重大な決断をするときに、味方になってくれる人	175
(4) 安心できる・ほっとできる場所	177
14 望まない妊娠	179
(1) 望まない妊娠の体験の有無	179
(2) 望まない妊娠をした年齢	184
(3) 望まない妊娠による心身や暮らしへの悪影響（生きづらさ）	185
(4) 望まない妊娠がわかったときの相談の有無	186
(5) 望まない妊娠がわかったとき相談した相手	187
(6) 望まない妊娠がわかったとき相談をしなかった理由	189
(7) 相談窓口や支援の利用状況	190
15 女性に対するサポート	191
(1) 相談窓口の認知度	191
(2) 女性が困難な状況から回復するために必要だと思うこと	194
(3) 居場所がない女性たちに必要と思われるサポート	196
(4) 相談しやすい方法	198
(付) 調 査 票	200

ご利用にあたって

- 1 図表中の「n」(number of case の略)とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。

なお、性別・年齢別の数値は、それぞれの属性の無回答者を除外してあります。また、性別を「その他」とした回答者は、数が少なく、特定できる可能性があるため表示していません。

- 2 数値(%)は単位未満を四捨五入していますので、総数と内訳の計が一致しないこともあります。

- 3 職業別は次のように分類しました。

- (1) 正社員・正職員
- (2) 派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員
- (3) パート・アルバイト
- (4) 自営業、家族従業者、個人事業主
- (5) 農林水産業
- (6) 学生
- (7) 専業主婦・専業主夫
- (8) 無職(学生、専業主婦・専業主夫を除く)
- (9) その他

- 4 子ども(末子)の状況について

子どもの有無について次の区分で調査し、それぞれの区分に○の記載があったなかで最年少の回答を末子ととらえました。

- (1) 乳幼児 (2) 小学生 (3) 中学生 (4) 高校生
- (5) 専門学校・短大・大学生 (6) 1～5 以外 (7) 子どもはいない

- 5 地区別は次の8つの「区(行政区)」としました。

- (1) 北区 (2) 東区 (3) 中央区 (4) 江南区
- (5) 秋葉区 (6) 南区 (7) 西区 (8) 西蒲区

- 6 本報告書は、総数、性別・年齢階層別などの結果を収録したものです。
結果の詳しい数表については別冊にて保管してあります。

- 7 本報告書についてのご意見やご質問は、下記へご連絡ください。

〒951-8550

新潟市中央区学校町通1番町602番地1

新潟市市民生活部男女共同参画課

電話 025-226-1061(直通)

I 調 査 概 要

1 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査するもので、前回は令和元年度に実施しました。

このたび、現在の新潟市男女共同参画行動計画（第4次）の期間が令和7年度で終了し、令和8年度（2026年度）を始期とする新たな行動計画を策定する必要があることから、広く市民の皆様から男女共同参画についてのお考えをうかがい、策定の基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。

2 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 男女の地位の平等感
- (3) 男女の役割についての考え方
- (4) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）
- (5) 女性の活躍推進
- (6) 女性の健康と権利
- (7) 配偶者からの暴力（DV）
- (8) 子ども時代の暴力（DV）
- (9) 交際相手からの暴力（デートDV）
- (10) 性の多様性
- (11) 男女共同参画社会の実現のために市が力を入れるべきこと
- (12) 男女共同参画社会に関することばの認知度
〈以下、女性のみ対象〉
- (13) 女性の現在の暮らし
- (14) 女性の心の状態や人間関係
- (15) 望まない妊娠
- (16) 女性に対するサポート

3 調査の設計

- (1) 調 査 対 象：新潟市内に居住する満15歳以上の男女
- (2) 標 本 数：4,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- (3) 調 査 方 法：配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWEB方式
- (4) 調査基準日：令和6年6月1日
- (5) 調 査 期 間：令和6年9月2日～9月17日

4 回収結果

有効回収数（率）＝1,878（47.0％）

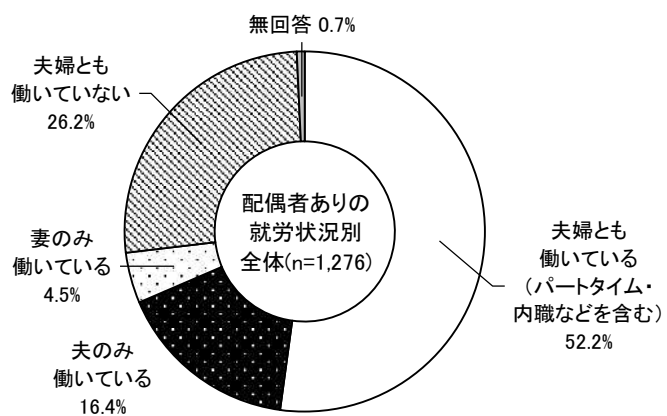
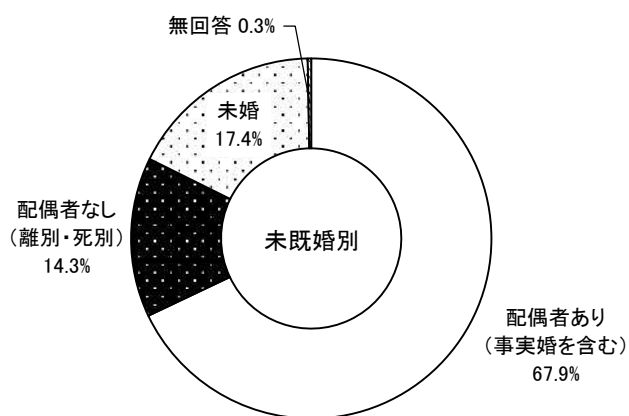
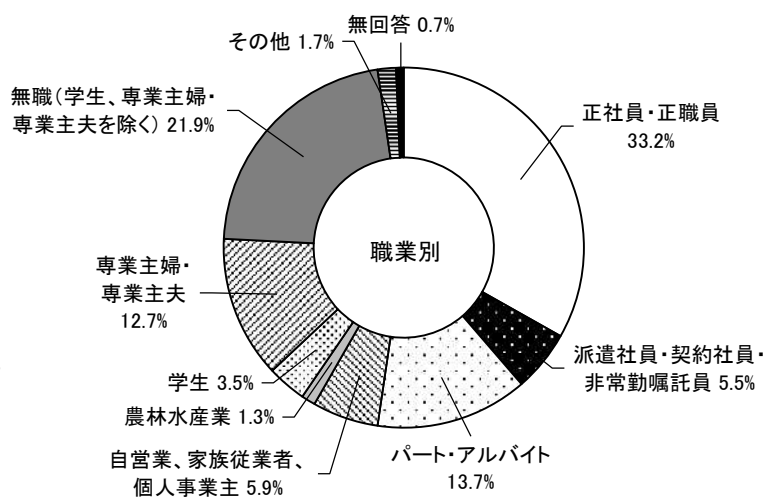
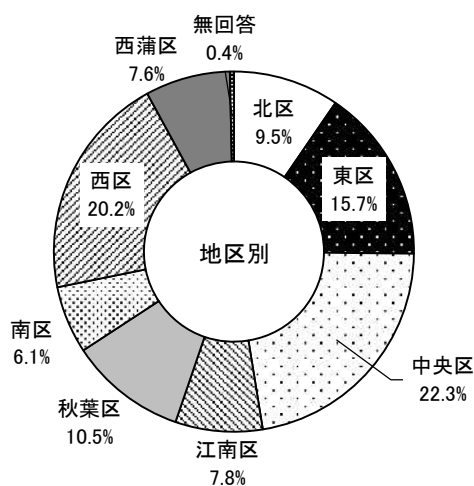
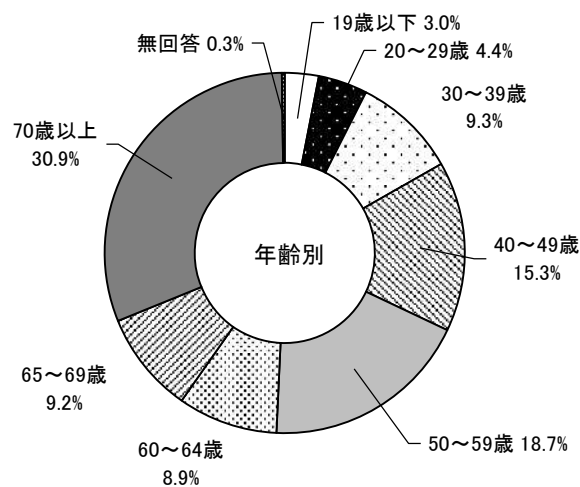
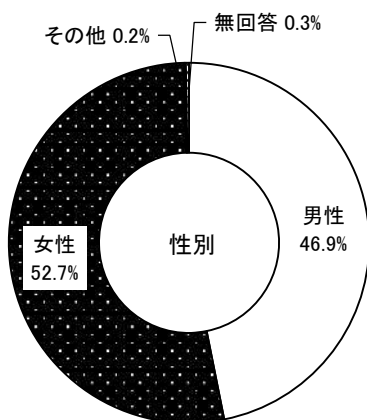
5 集計結果の数字の見方

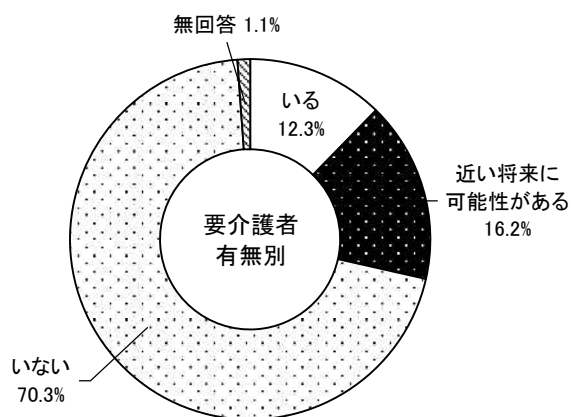
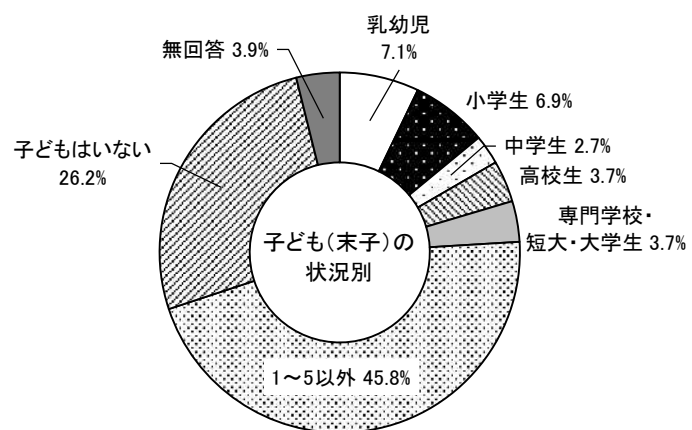
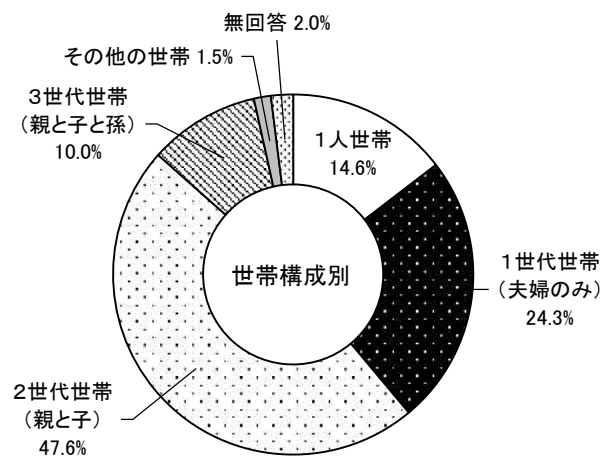
結果は百分率（％）で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100％にならないことがあります。

また、複数回答の質問（2つ以上の回答を認めた質問）では、合計が100％を超えることがあります。

6 回答者の属性

※特に記載がない限り、結果は全体（n=1,878）から算出。



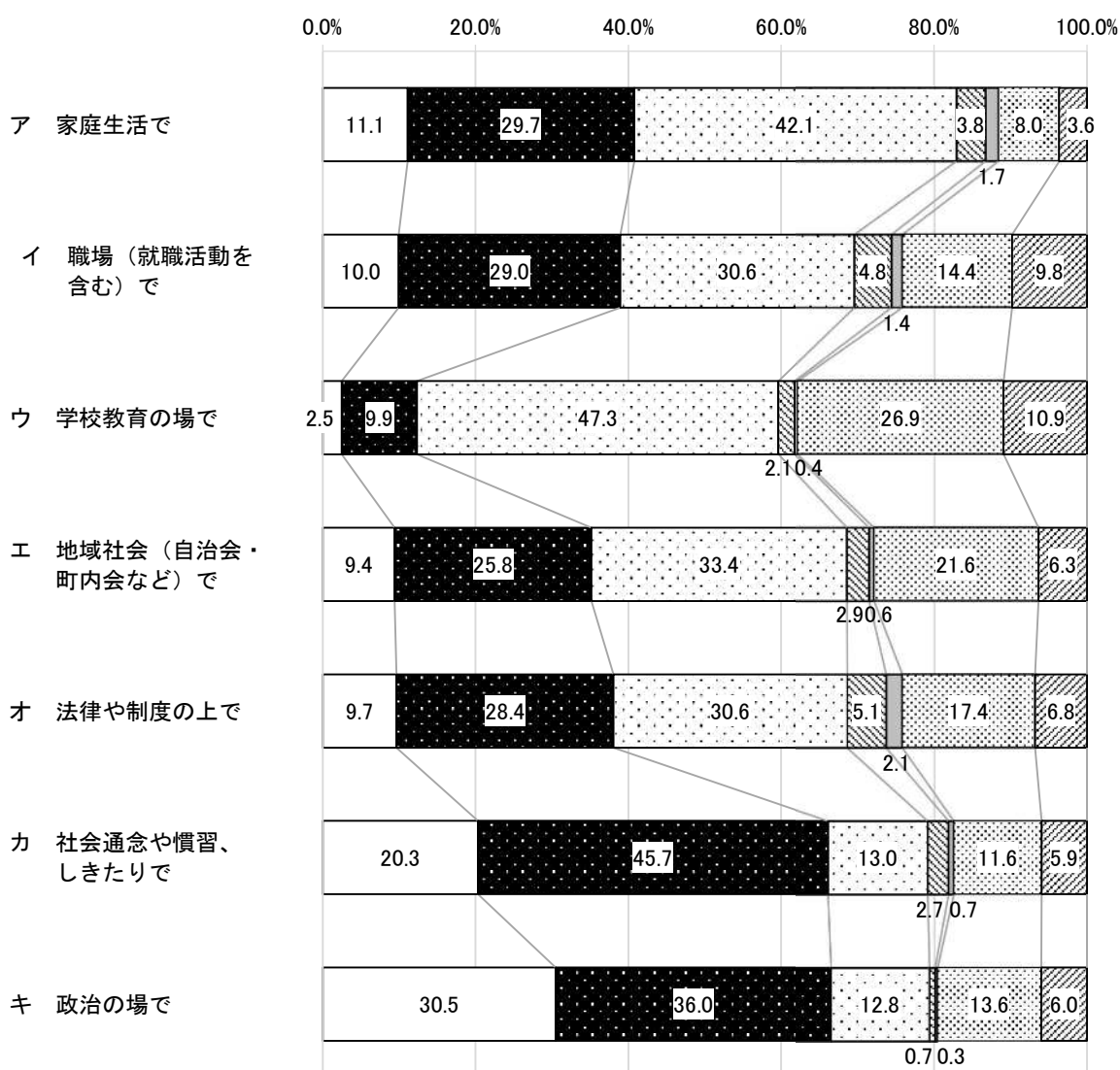


Ⅱ 調 査 結 果

1 男女の地位の平等感

問9 次にあげる場面・分野において、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。
ア～キについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)

- | | |
|---|--|
| ☐ 男性が優遇されている | ☒ どちらかという、男性が優遇されている |
| ☐ 平等である | ☒ どちらかという、女性が優遇されている |
| ☐ 女性が優遇されている | ☐ わからない |
| ☒ 無回答 | |



＜全体結果＞

男女の地位の平等感について7つの場面・分野で調査した。

「男性が優遇されている」「どちらかという、男性が優遇されている」を合わせた『男性優遇』（以下同）と答えた割合は、「政治の場で」（66.5%）、及び「社会通念や慣習、しきたりで」（66.1%）で割合が高く、6割を超えた。次いで、「家庭生活で」（40.8%）、「職場で」（39.0%）、「法律や制度の上で」（38.1%）が約4割を占めた。

「女性が優遇されている」「どちらかという、女性が優遇されている」を合わせた『女性優遇』（以下同）と答えた割合は、7つの場面・分野とも1割以下という結果となった。

「平等である」と答えた割合は、「学校教育の場で」（47.3%）で最も高く4割を超えた。「わからない」と答えた割合も、「学校教育の場で」（26.9%）で最も高く、4人に1人以上が回答した結果となった。

＜前回調査との比較＞

前回調査と比較すると、『男性優遇』の割合は、「政治の場で」（6.6ポイント減）、「社会通念や慣習、しきたりで」（8.8ポイント減）、「家庭生活で」（5.6ポイント減）「職場で」（11.5ポイント減）で減少した。

「平等である」の割合は、「家庭生活で」（9.2ポイント増）で増加した。

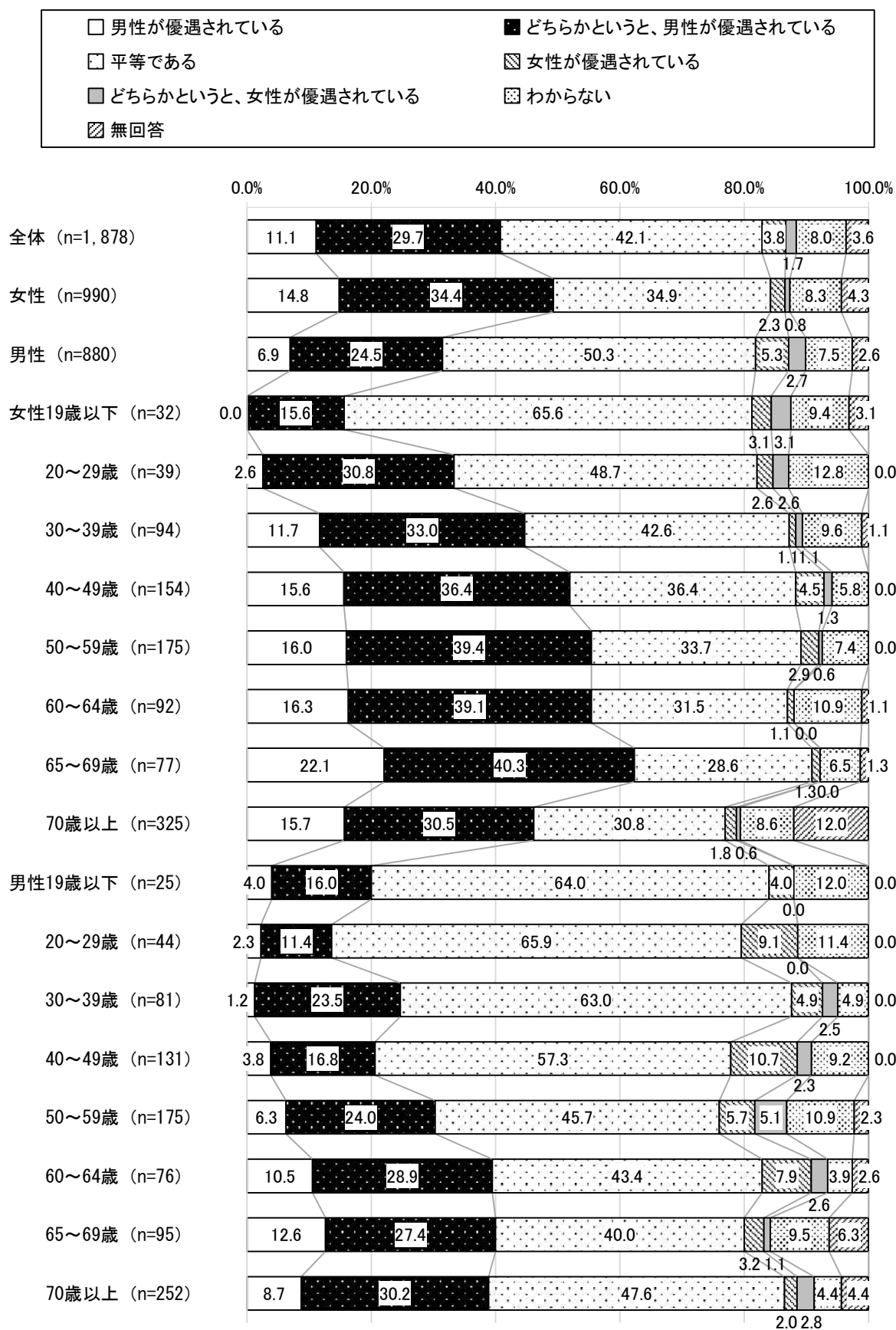
「男性が優遇＋どちらかという男性が優遇」の割合が高い場面・分野

R1年調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
社会通念や慣習、しきたりで	74.9%	政治の場で	66.5%
政治の場で	73.1%	社会通念や慣習、しきたりで	66.1%
職場で	50.5%	家庭生活で	40.8%
家庭生活で	46.4%	職場で	39.0%
地域社会で	40.3%	法律や制度の上で	38.1%
法律や制度の上で	38.6%	地域社会で	35.2%

「平等である」と回答したの多い場面・分野

R1年調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
学校教育の場で	45.8%	学校教育の場で	47.3%
家庭生活で	32.9%	家庭生活で	42.1%
法律や制度の上で	29.8%	地域社会で	33.4%
地域社会で	29.1%	法律や制度の上で	30.6%
		職場で	30.6%

ア 家庭生活における男女の地位の平等感



<全体結果>

家庭生活における男女の地位の平等感について、『男性優遇』（40.8%）の割合が『女性優遇』（5.5%）の割合より高い。「平等である」（42.1%）は4割を超えた。

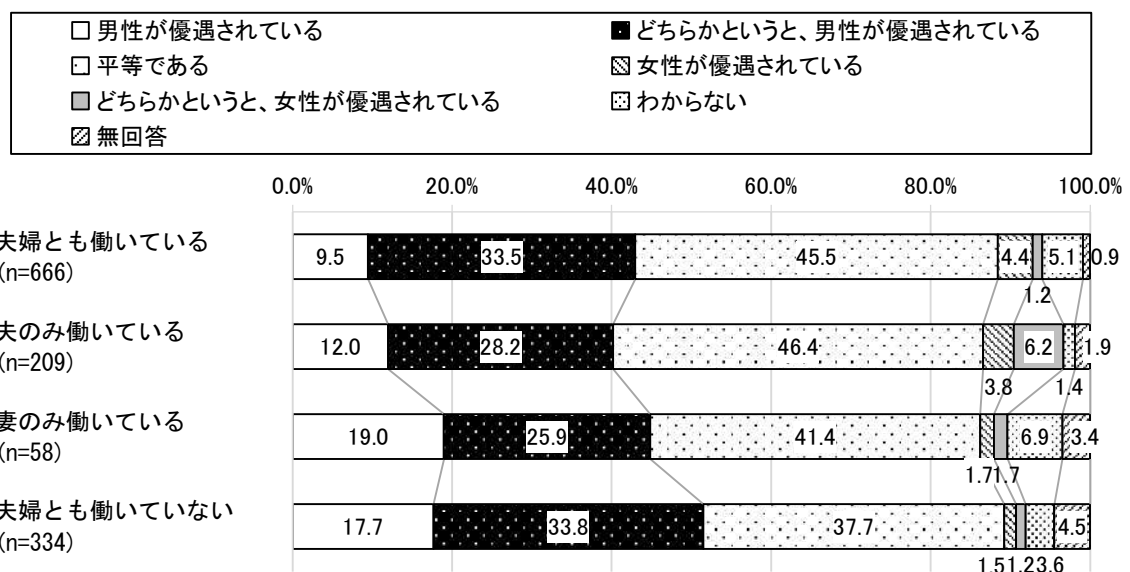
<性別・年齢別>

性別でみると、『男性優遇』は、女性が49.3%、男性が31.5%で、女性の方が17.8ポイント高い。「平等である」は、女性が34.9%、男性が50.3%で、男性の方が15.4ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性では65～69歳（62.3%）、男性でも65～69歳（40.0%）で割合が最も高い。女性の70歳以上を除く40歳以上では、『男性優遇』と答えた割合が半数を超える結果となった。「平等である」と答えた割合は、男性20歳代（65.9%）で最も高く、女性の19歳以下、男性の19歳以下、男性の30～39歳でも6割を超えた。

<その他>

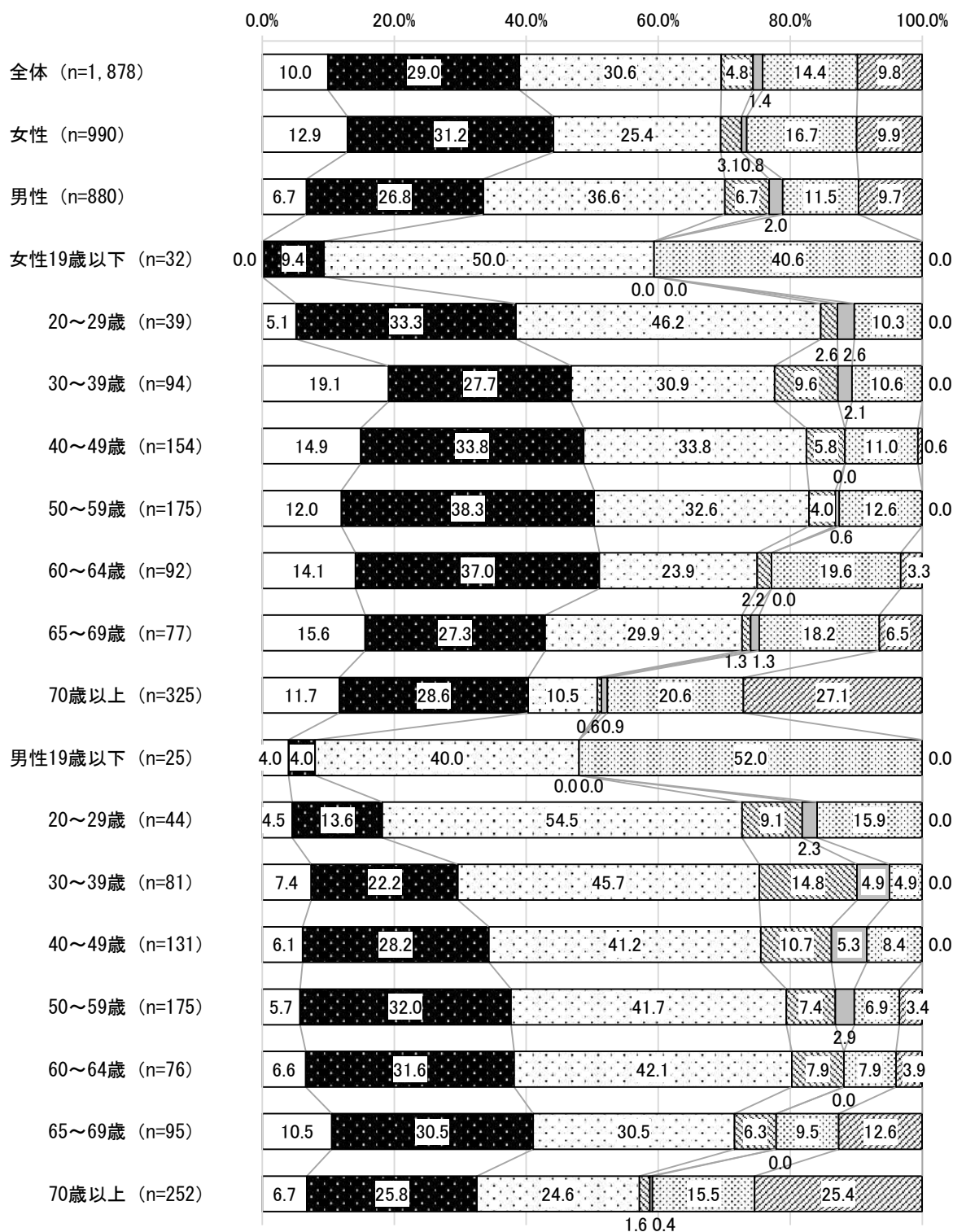
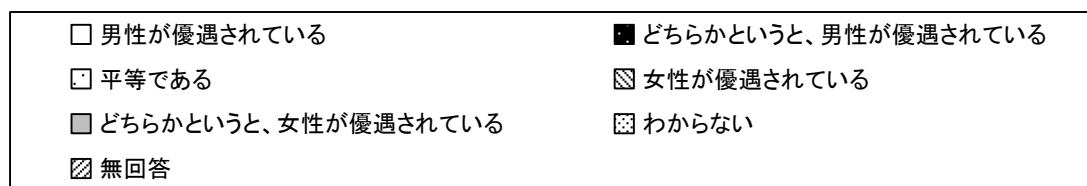
就労状況別でみると、『男性優遇』は、他の就労状況と比べて「夫婦とも働いていない」（51.5%）で割合が高い。



<前回調査との比較>

『男性優遇』の割合は、全体では前回の46.4%から今回40.8%と5.6ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の32.9%から今回42.1%と9.2ポイント増加した。

イ 職場における男女の地位の平等感



<全体結果>

職場における男女の地位の平等感について、『男性優遇』（39.0％）の割合が『女性優遇』（6.3％）の割合より高い。「平等である」（30.6％）は3割を超えた。

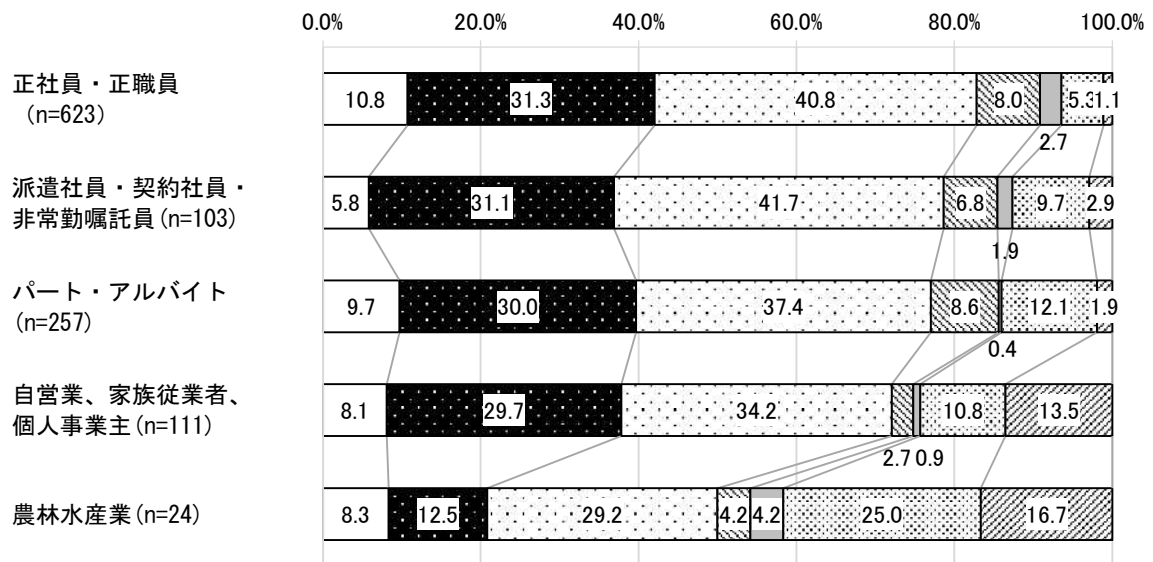
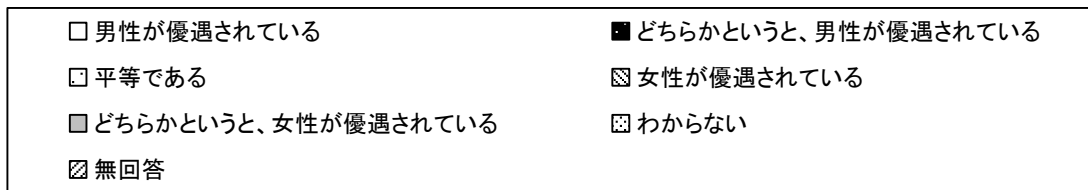
<性別・年齢別>

性別でみると、『男性優遇』は、女性が44.1％、男性が33.5％で、女性の方が10.6ポイント高い。「平等である」は、女性が25.4％、男性が36.6％で、男性の方が11.2ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性では60～64歳（51.1％）、男性では65～69歳（41.1％）で割合が最も高い。「平等である」と答えた割合は、男性20歳代（54.5％）で最も高く、5割半ばを占めた。

<その他>

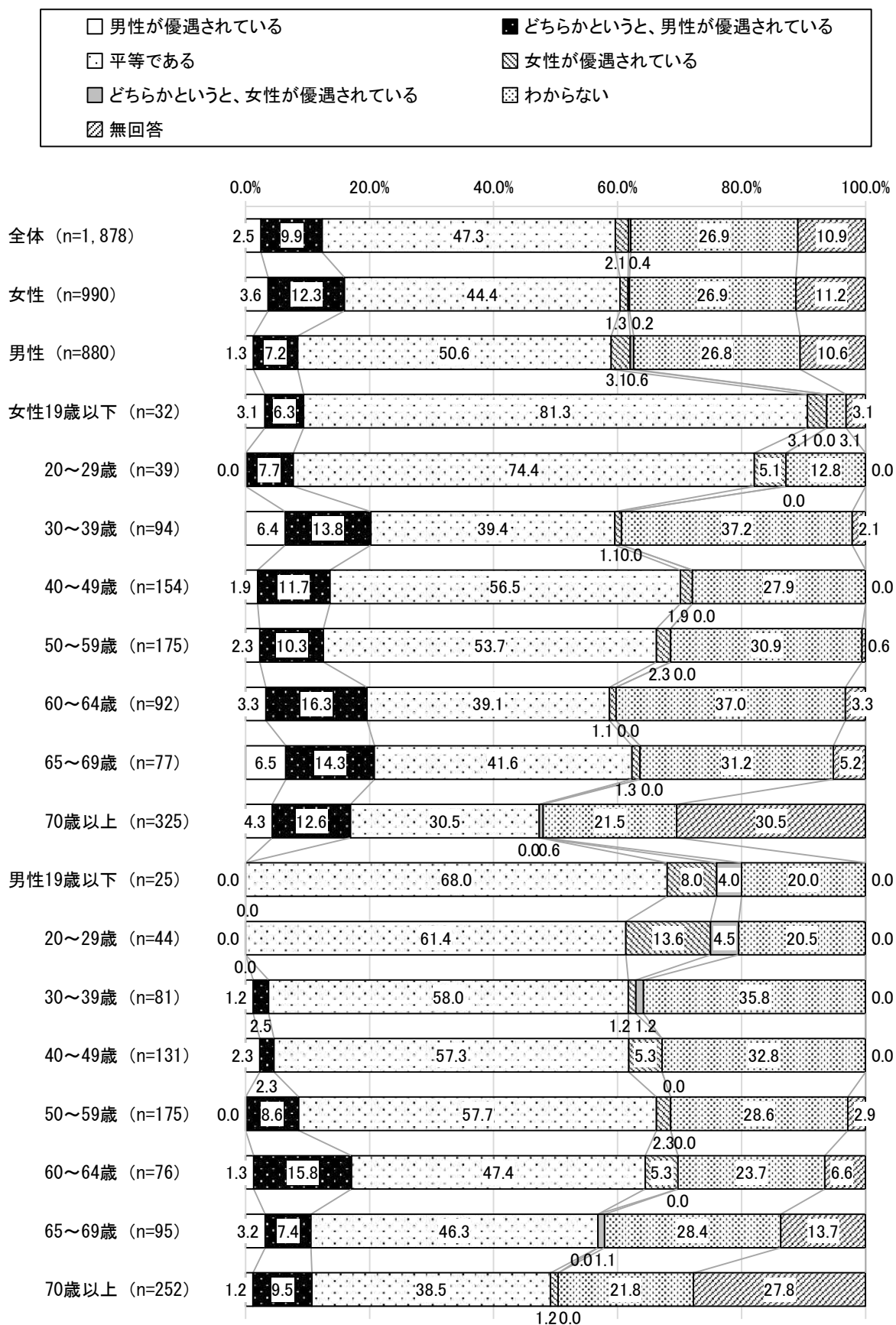
職業別にみると、『男性優遇』の割合は、正社員・正職員（42.1％）、パート・アルバイト（39.7％）、自営業、家族従業者、個人事業主（37.8％）、派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員（36.9％）の順に高くなっている。



<前回調査との比較>

『男性優遇』の割合は、全体では前回の50.5％から今回39.0％と11.5ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の22.6％から今回30.6％と8.0ポイント増加した。

ウ 学校教育の場における男女の地位の平等感



<全体結果>

学校教育の場における男女の地位の平等感について、『男性優遇』（12.4%）の割合が『女性優遇』（2.5%）の割合より高い。「平等である」（47.3%）と答えた割合が最も高く、5割弱を占めた。

<性別・年齢別>

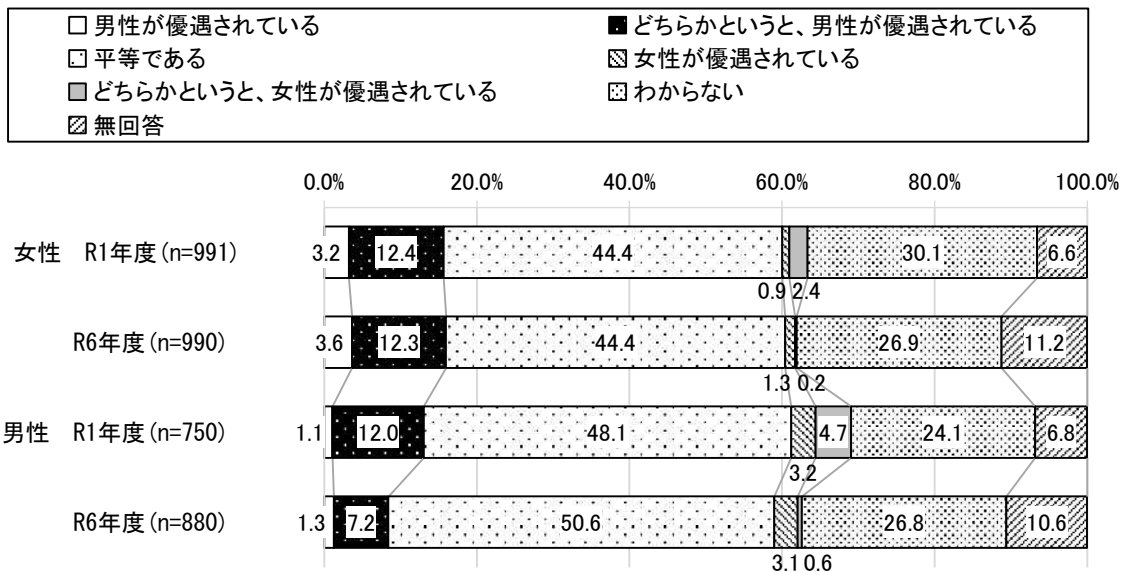
性別でみると、『男性優遇』は、女性が16.0%、男性が8.4%で、女性の方が7.6ポイント高い。「平等である」は、女性が44.4%、男性が50.6%で、男性の方が6.2ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性では65～69歳（20.8%）、男性では60～64歳（17.1%）、で割合が最も高い。すべての年齢で「平等である」と答えた割合が最も高く、概ね若年層ほど割合が高い傾向がみられる。女性19歳以下（81.3%）では8割を超えた。

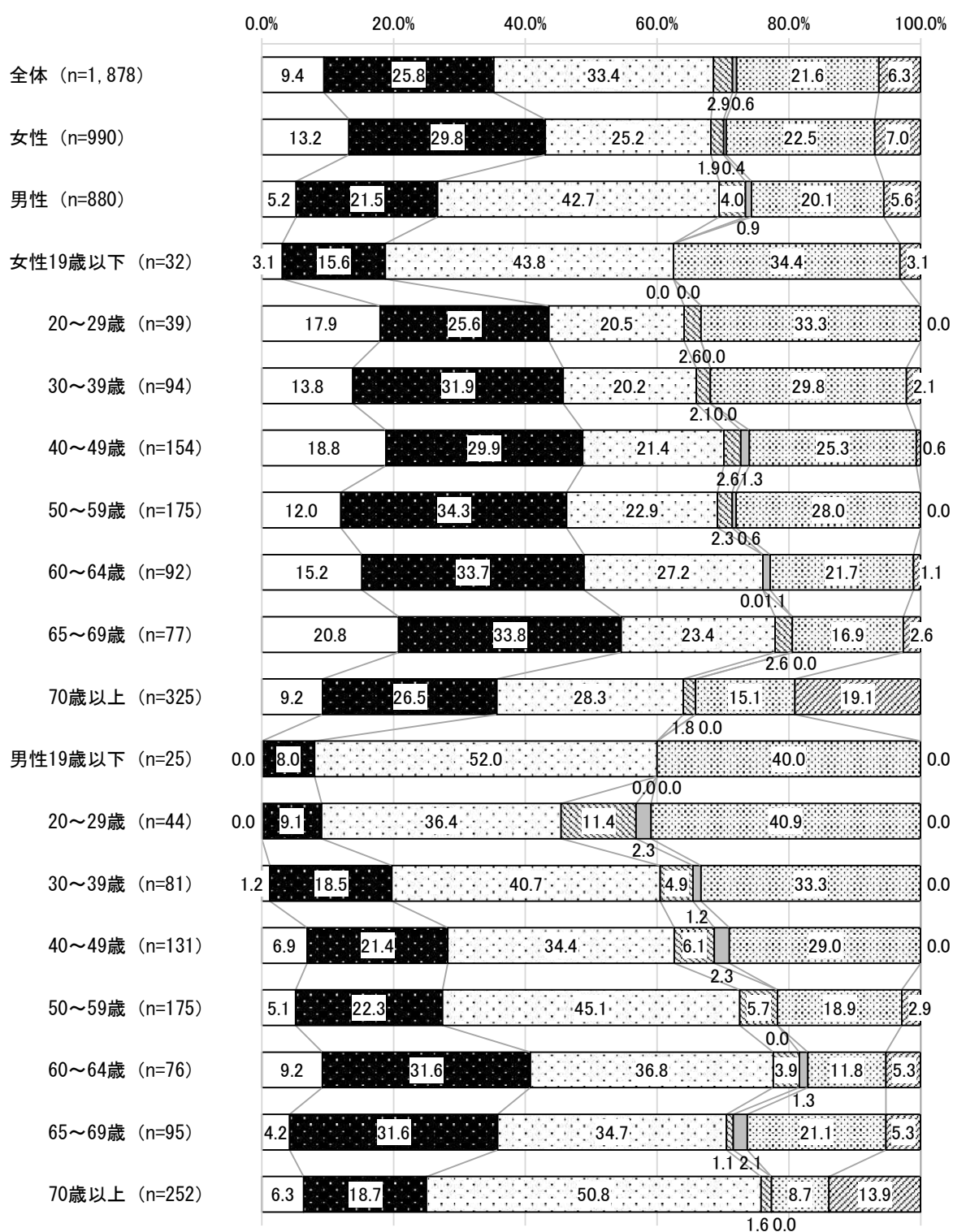
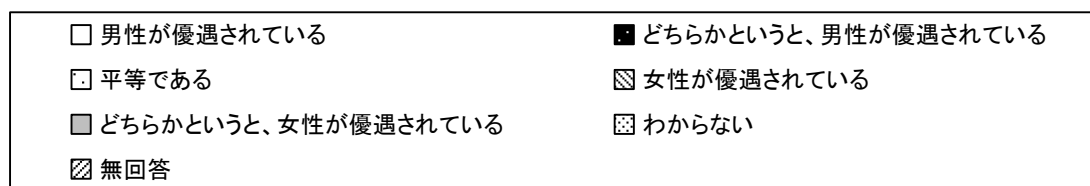
<前回調査との比較>

『男性優遇』の割合は、全体では前回の14.5%から今回12.4%と2.1ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の45.8%から今回47.3%と1.5ポイント増加した。

前回調査と比べ、男性で『男性優遇』が4.6ポイント減少した。



エ 地域社会（自治会・町内会など）における男女の地位の平等感



<全体結果>

地域社会における男女の地位の平等感について、『男性優遇』（35.2%）の割合が『女性優遇』（3.5%）の割合より高い。「平等である」（33.4%）は3割強を占めた。

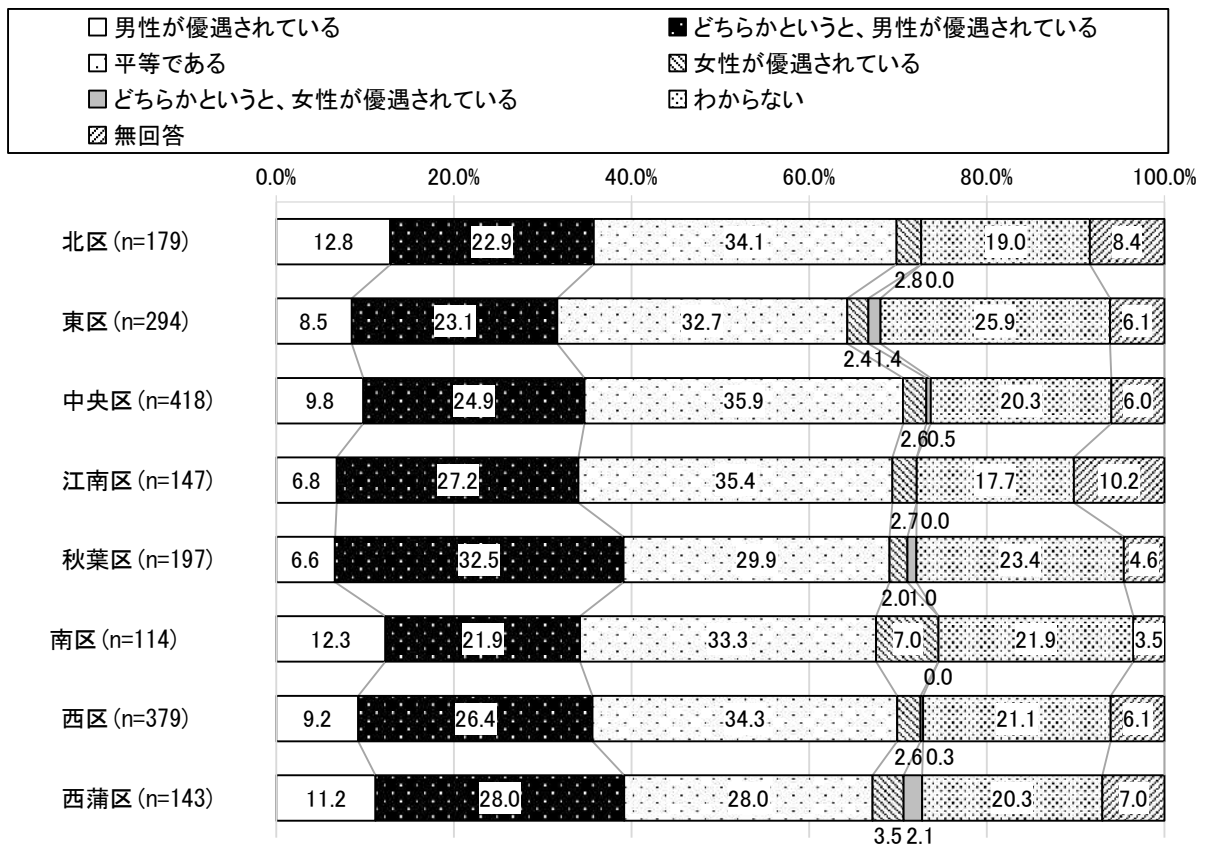
<性別・年齢別>

性別でみると、『男性優遇』は、女性が43.0%、男性が26.7%で、女性の方が16.3ポイント高い。「平等である」は、女性が25.2%、男性が42.7%で、男性の方が17.5ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性は65～69歳（54.5%）で最も高く、男性は60～64歳（40.8%）で割合が最も高い。「平等である」は、男性19歳以下（52.0%）、男性70歳以上（50.8%）で割合が高く、5割を超えた。

<その他>

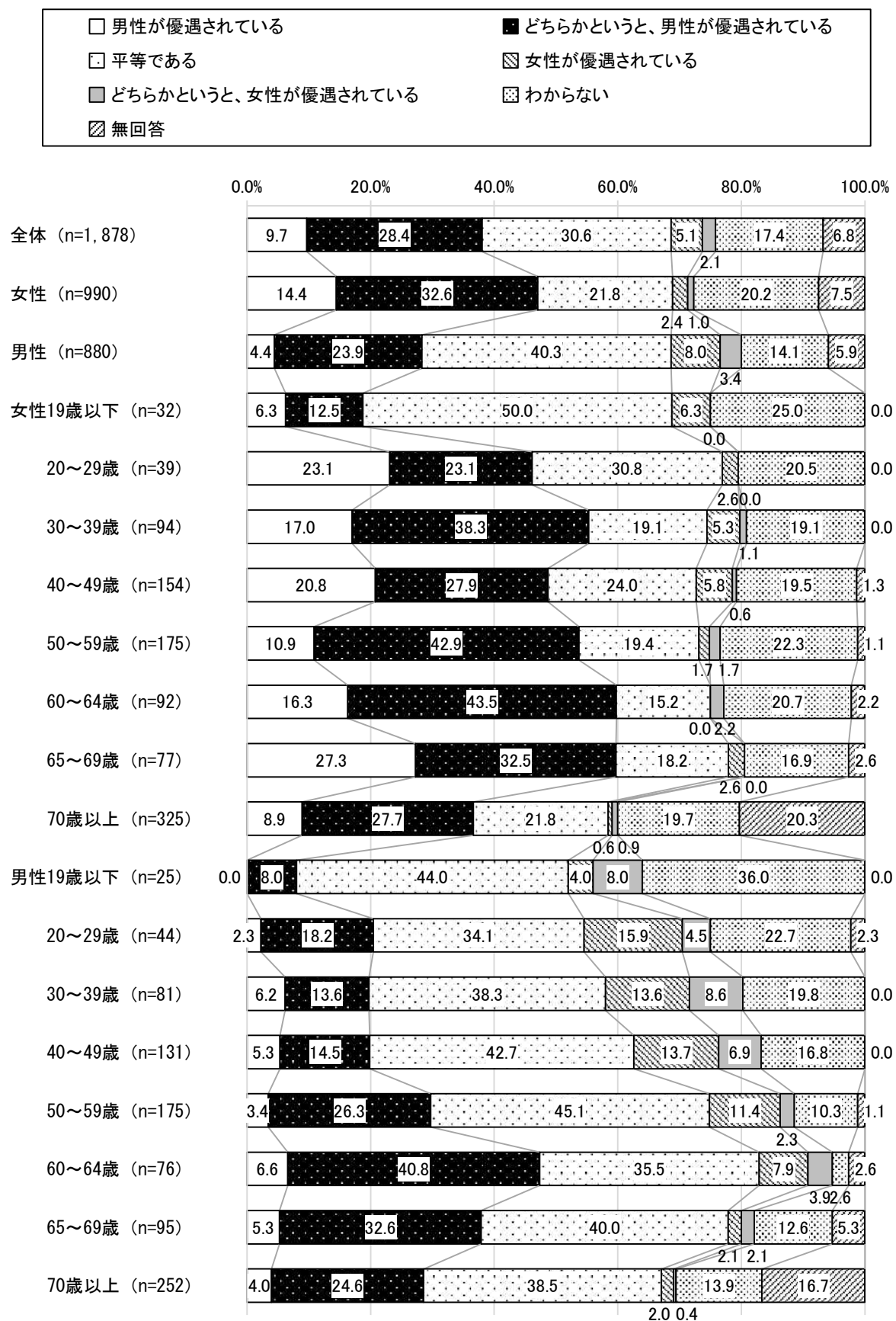
地区別でみると、『男性優遇』の割合は、他の地区と比べて西蒲区（39.2%）、秋葉区（39.1%）で高い。「平等である」は中央区（35.9%）、江南区（35.4%）で高い。



<前回調査との比較>

『男性優遇』の割合は、全体では前回の40.3%から今回35.2%と5.1ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の29.1%から今回33.4%と4.3ポイント増加した。

オ 法律や制度における男女の地位の平等感



<全体結果>

法律・制度における男女の地位の平等感について、『男性優遇』(38.1%)の割合が『女性優遇』(7.2%)の割合より高い。「平等である」(30.6%)は約3割を占めた。

<性別・年齢別>

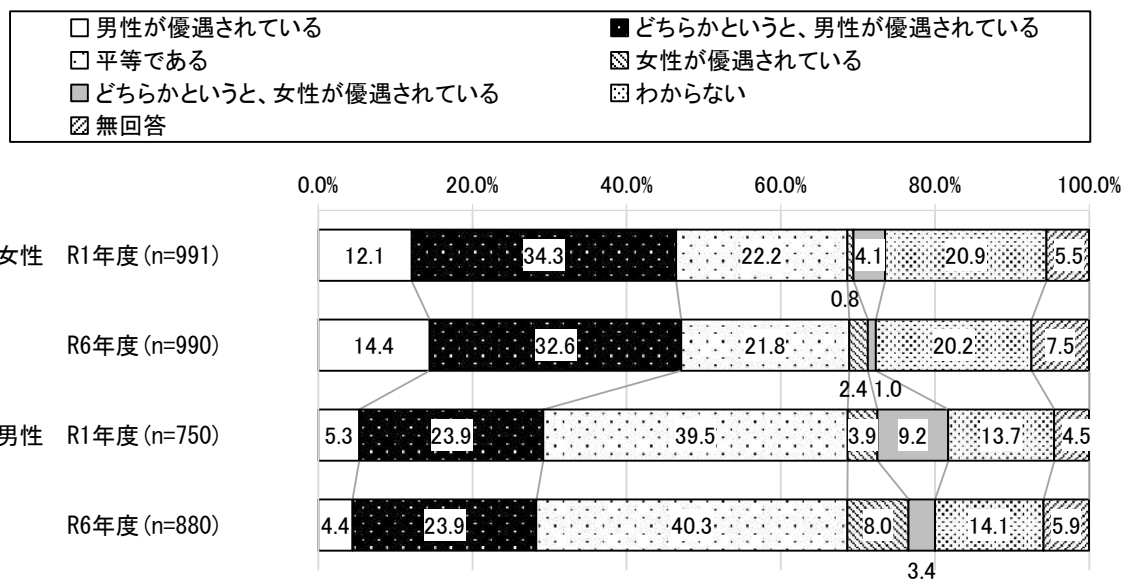
性別でみると、『男性優遇』は、女性が47.1%、男性が28.3%で、女性の方が18.8ポイント高い。「平等である」は、女性が21.8%、男性が40.3%で、男性の方が18.5ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性は60歳代(59.8%)で最も高く、男性は60～64歳(47.4%)で割合が最も高い。「平等である」は、女性は19歳以下(50.0%)、男性は50歳代(45.1%)で割合が最も高い。

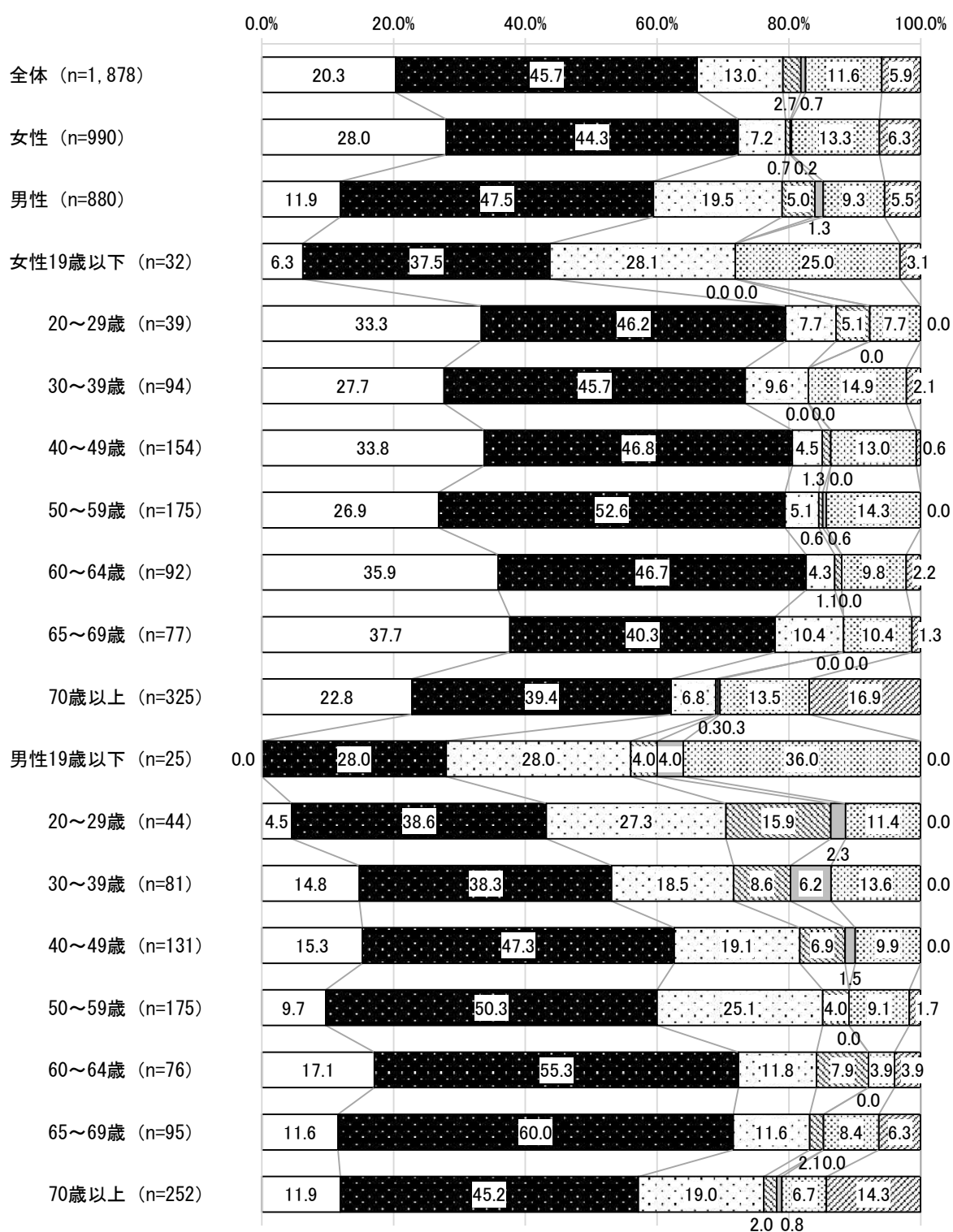
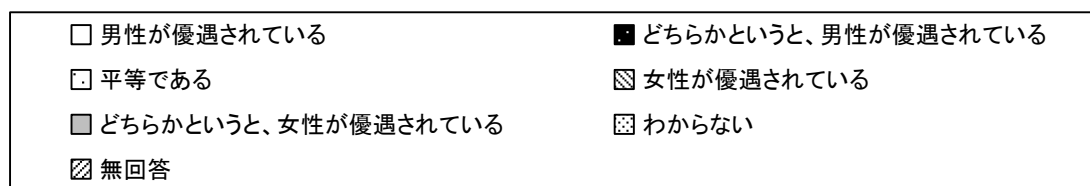
<前回調査との比較>

全体では、「平等である」は前回調査(29.8%)と比べて0.8ポイント増加した。

性別では、前回調査と比べて、『男性優遇』は、女性で0.6ポイント増加した。



カ 社会通念や慣習・しきたりにおける男女の地位の平等感



<全体結果>

社会通念や慣習・しきたりにおける男女の地位の平等感について、『男性優遇』(66.1%)の割合が『女性優遇』(3.4%)の割合より高い。「平等である」(13.0%)は1割強にとどまった。

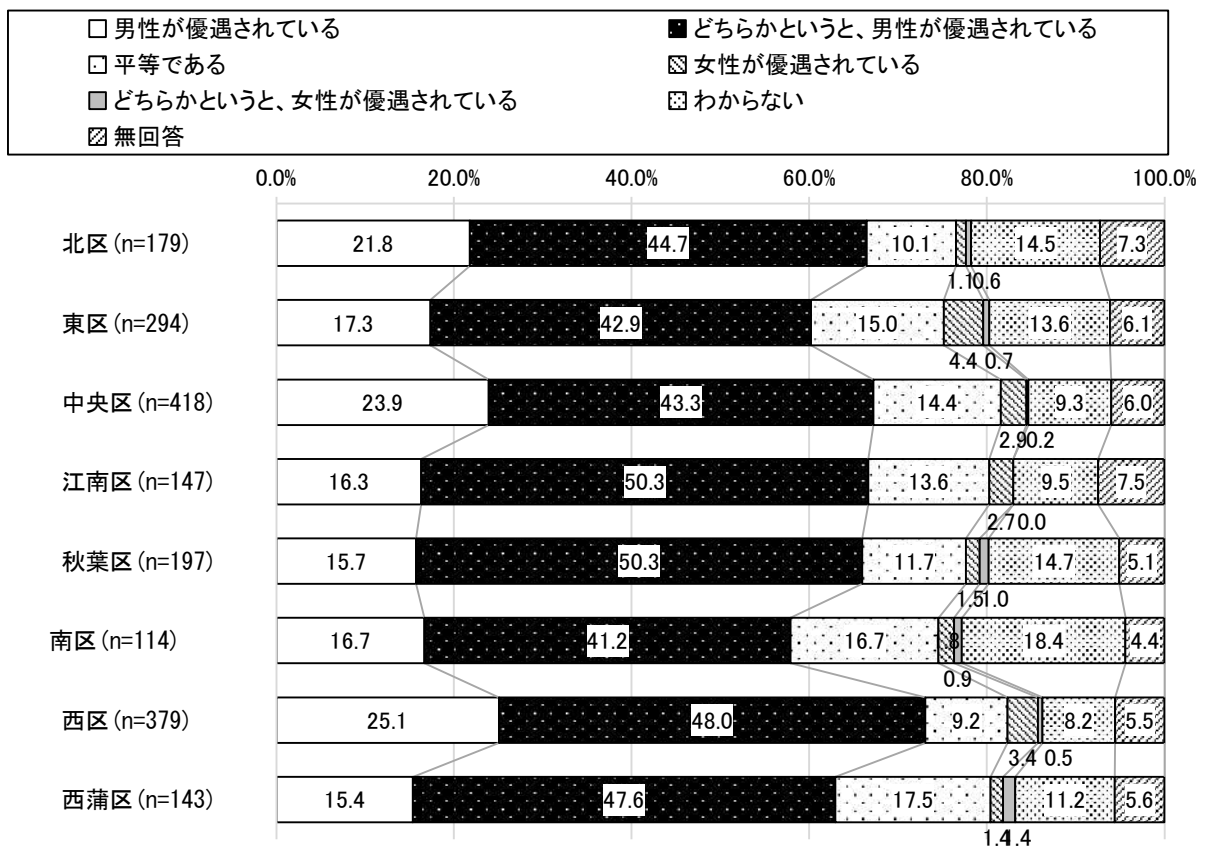
<性別・年齢別>

性別でみると、『男性優遇』は、女性が72.3%、男性が59.4%で、女性の方が12.9ポイント高い。「平等である」は、女性が7.2%、男性が19.5%で、男性の方が12.3ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性は20歳代～60歳代で割合が高く、男性は60歳代で割合が高く、共に7割を超えている。

<その他>

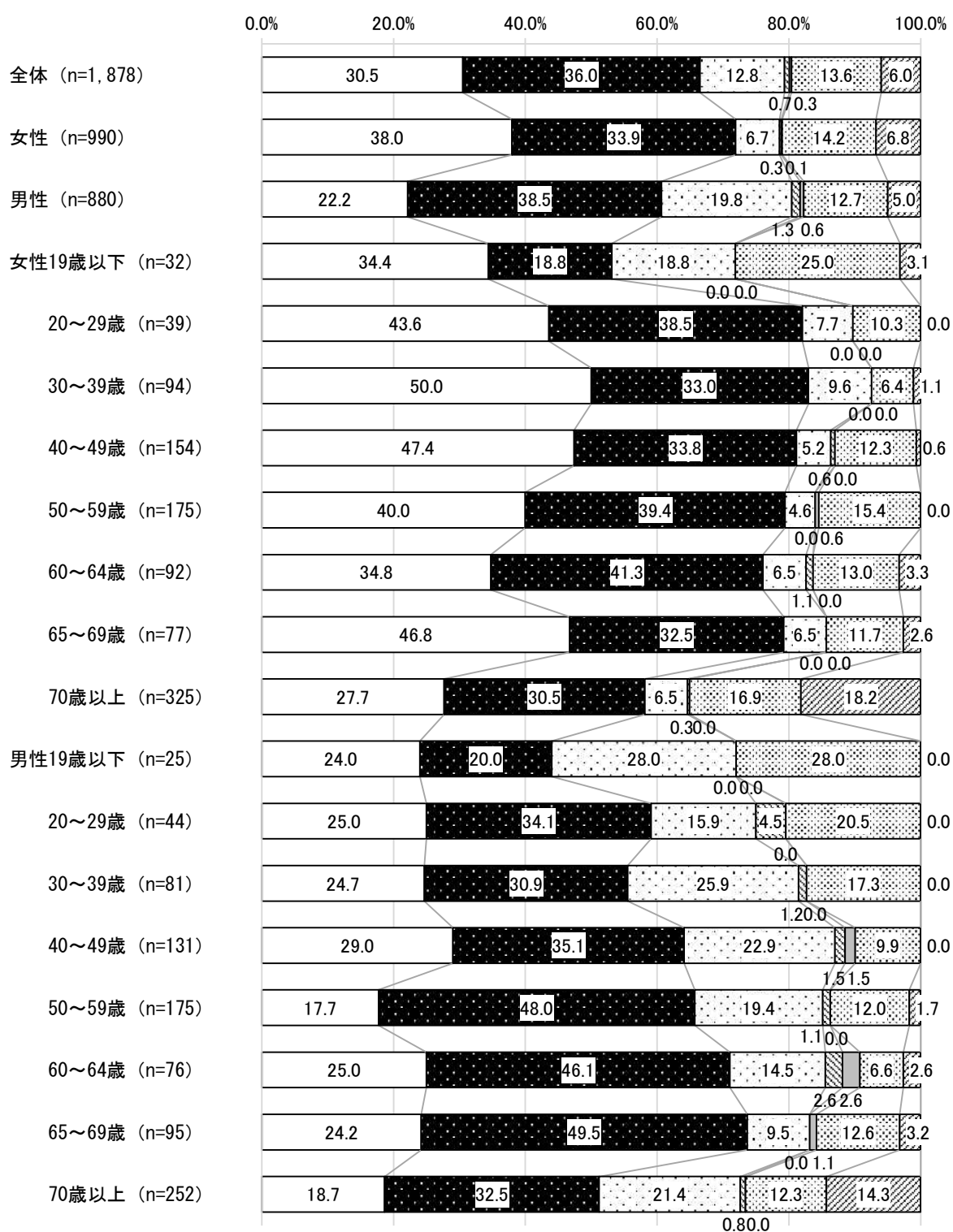
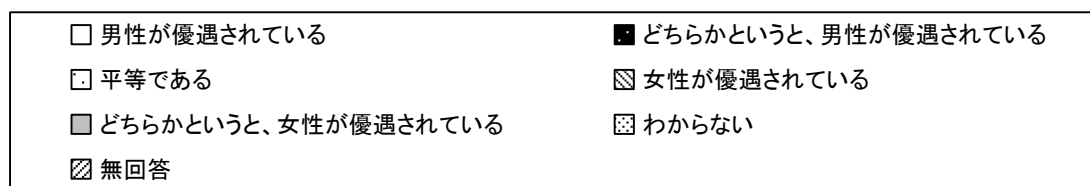
地区別でみると、『男性優遇』が最も高いのは西区(73.1%)で7割を超えた。最も低い南区では57.9%と、地区での差がみられた。



<前回調査との比較>

『男性優遇』の割合は、前回の74.9%から今回66.1%と8.8ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の9.3%から今回13.0%と3.7ポイント増加した。

キ 政治の場における男女の地位の平等感



<全体結果>

政治の場における男女の地位の平等感について、『男性優遇』（66.5%）の割合が『女性優遇』（1.1%）の割合より高い。「平等である」（12.8%）は1割強にとどまった。

<性別・年齢別>

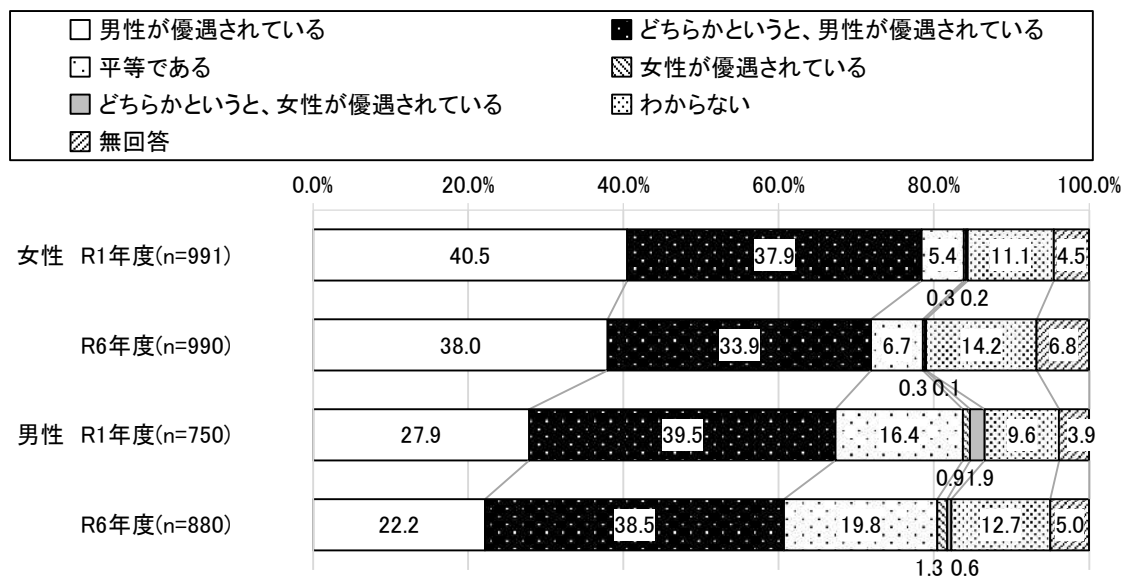
性別でみると、『男性優遇』は、女性が71.9%、男性が60.7%で、女性の方が11.2ポイント高い。「平等である」は、女性が6.7%、男性が19.8%で、男性の方が13.1ポイント高い。

年齢別でみると、『男性優遇』は、女性は20歳代～40歳代で高く8割を超えている。男性は60歳代で割合が高く7割を超えている。

<前回調査との比較>

全体では、『男性優遇』の割合は、前回の73.1%から今回66.5%と6.6ポイント減少し、「平等である」の割合は、前回の10.4%から今回12.8%と2.4ポイント増加した。

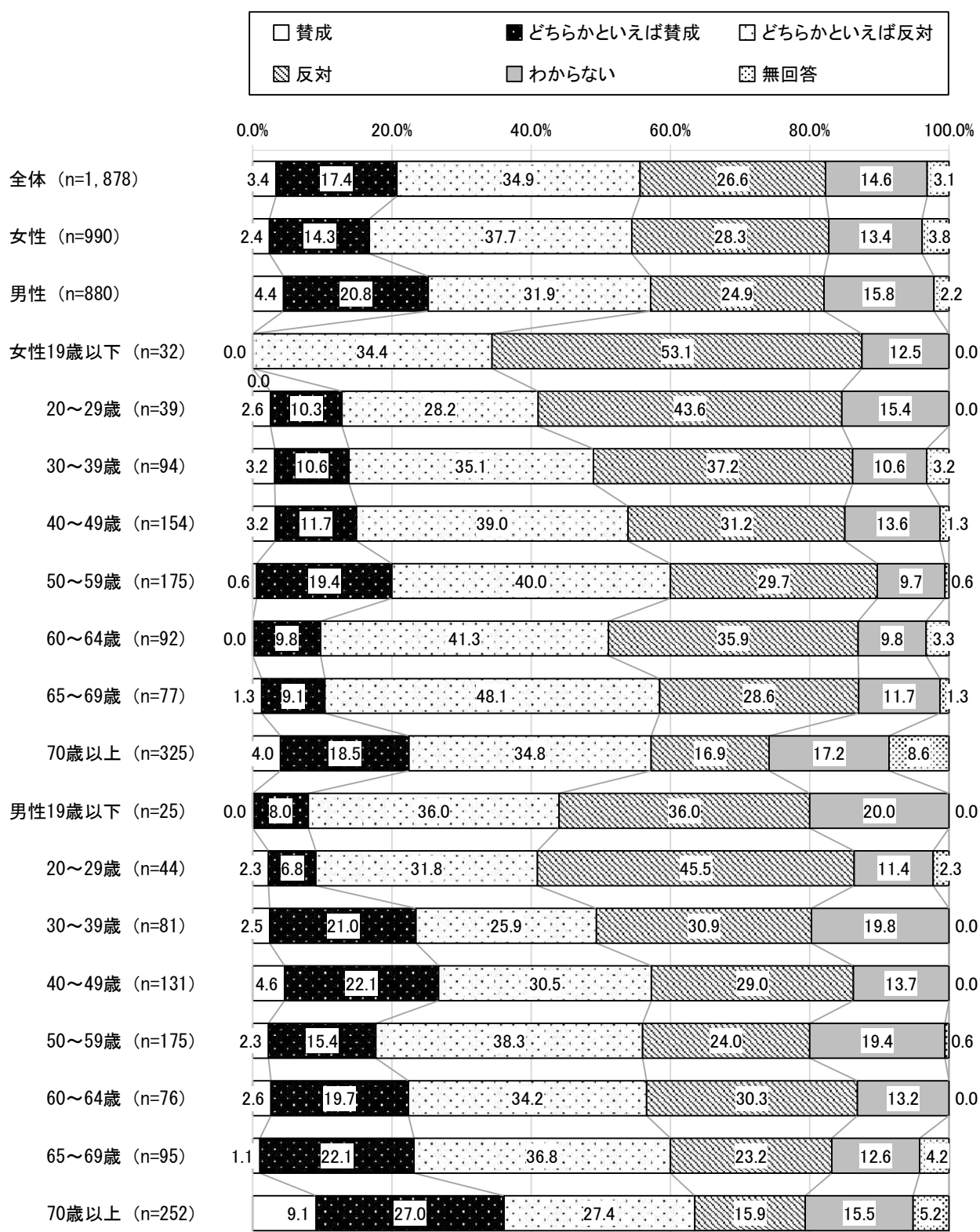
性別では、前回調査と比べて、『男性優遇』は、男性で6.7ポイント、女性で6.5ポイント減少した。



2 男女の役割についての考え方

(1) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方

問 10 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方について
あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。（○は1つだけ）



<全体結果>

全体でみると、「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』（以下同）と答えた割合は 20.7%、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』（以下同）と答えた割合は 61.6%という結果となった。『反対』が『賛成』の約3倍の割合で、大きく上回っている。「わからない」（14.6%）と答えた割合は、1割半ばとなった。

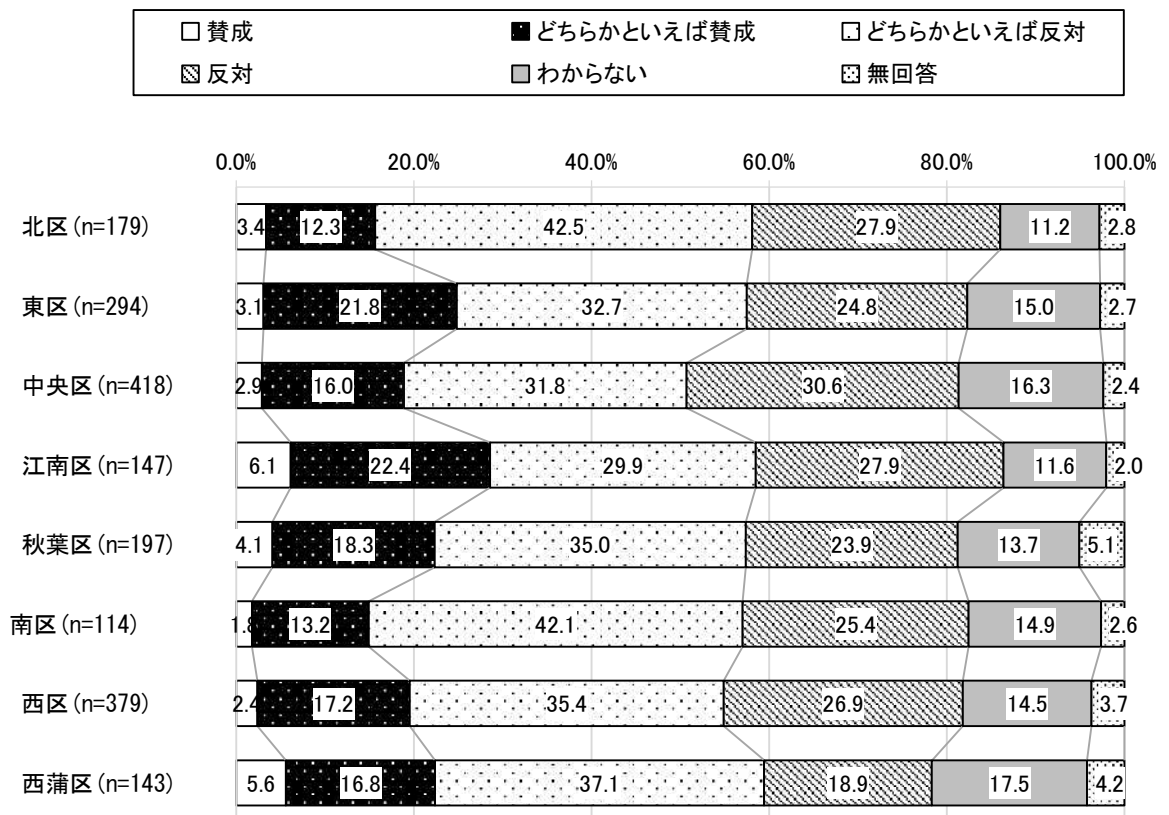
<性別・年齢別>

性別でみると、『賛成』は女性が 16.8%、男性が 25.2%で、男性の方が 8.4 ポイント高い。『反対』は女性が 66.0%、男性が 56.8%で、女性の方が 9.2 ポイント高い。

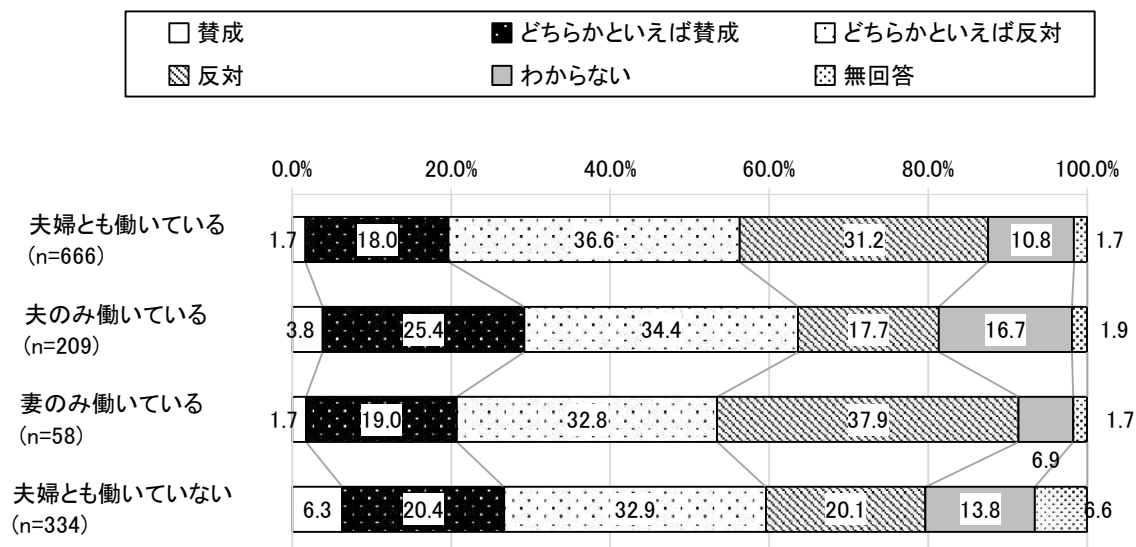
年齢別でみると、『賛成』の割合は、男女とも 70 歳以上（女性：22.5%、男性：36.1%）で最も高い。『反対』の割合は、女性では 19 歳以下（87.5%）、男性では 20 代（77.3%）で最も高い。

<その他>

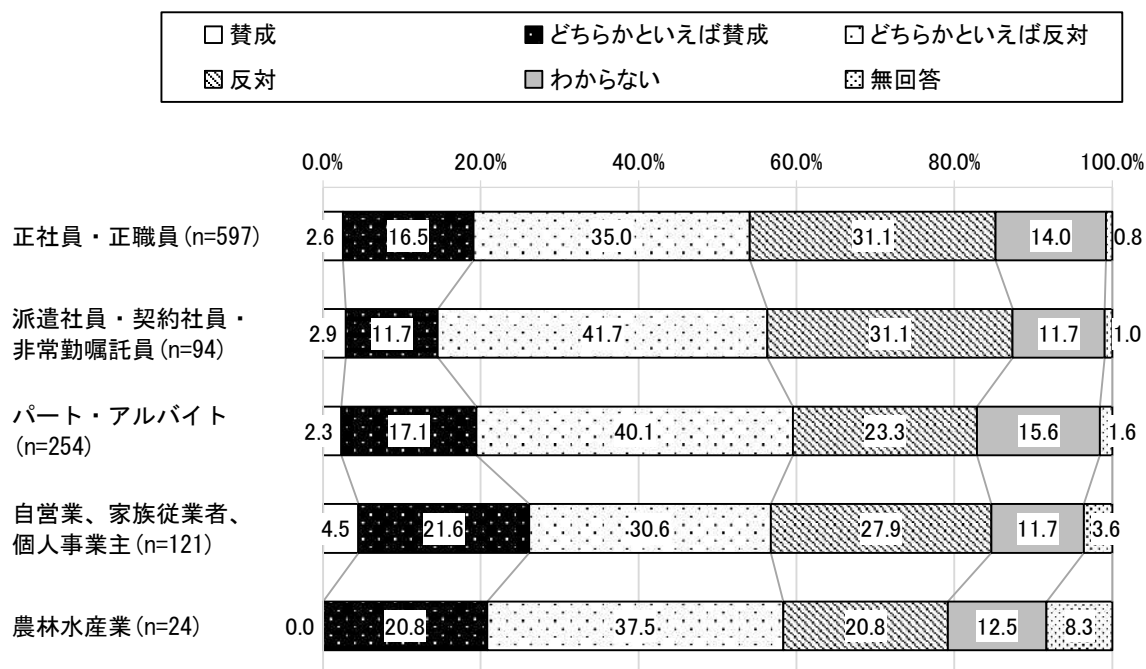
地区別でみると、すべての地区で『反対』が『賛成』を上回っている。反対の割合は「北区」（70.4%）で最も高く約7割となった。「南区」（67.5%）、「中央区」（62.4%）、西区（62.3%）も6割を超えたが、他の区は5割台にとどまり、地区による差がみられた。



就労状況別でみると、すべての勤労状況で『反対』が『賛成』を上回っている。『賛成』の割合が最も高いのは「夫のみ働いている」（29.2％）で約3割となっている。



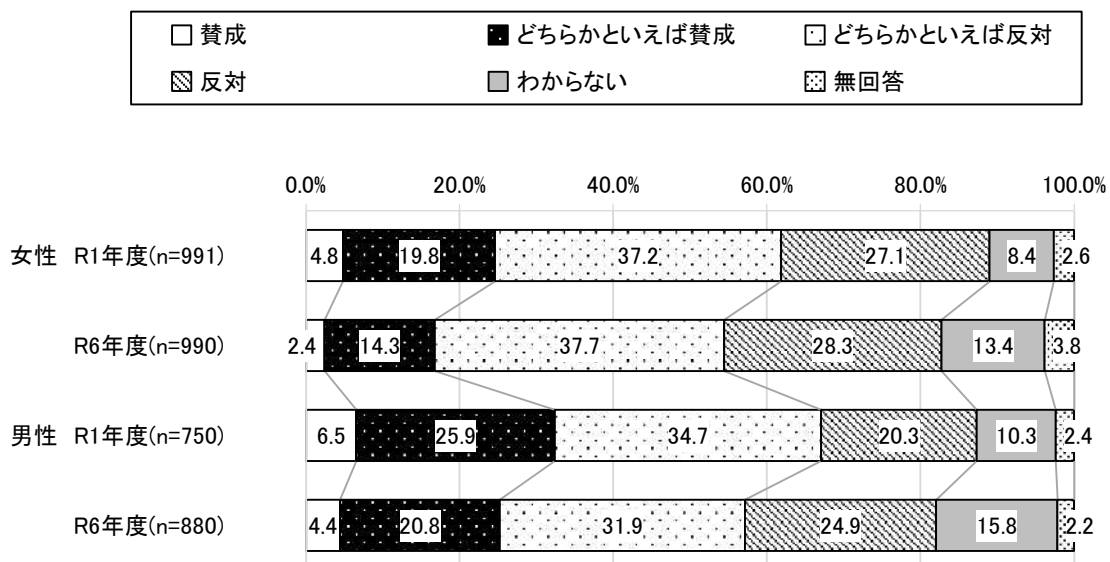
職業別でみると、すべての職業で『反対』が『賛成』を上回っている。『賛成』の割合が最も高いのは「自営業、家族従業者、個人事業主」（26.1％）、最も低いのは「派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員」（14.6％）で、11.5ポイント差と、職業での差がみられた。



<前回調査との比較>

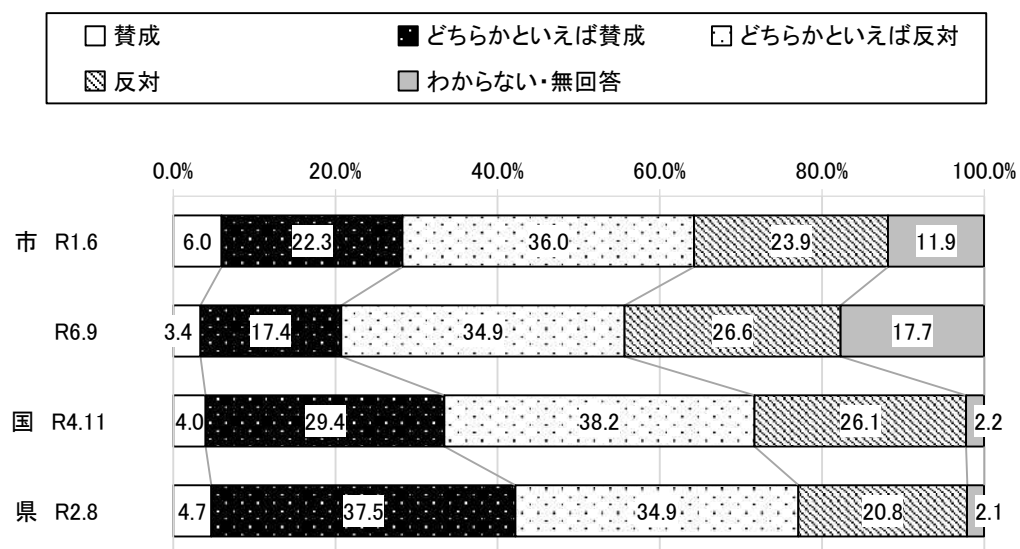
全体では、『賛成』の割合は、前回の 28.3%から今回 20.8%と 7.5 ポイント減少し、『反対』の割合は、前回の 59.9%から今回 61.6%と 1.7 ポイント増加した。

性別では、前回調査に比べて、『賛成』が女性で 7.9 ポイント、男性で 7.2 ポイント減少し、『反対』が女性で 1.7 ポイント、男性で 1.8 ポイント増加した。



<国・県調査との比較>

国・県の同様な調査では、「わからない」という選択肢がないため、一概に比較できないが、参考に図を掲示する。



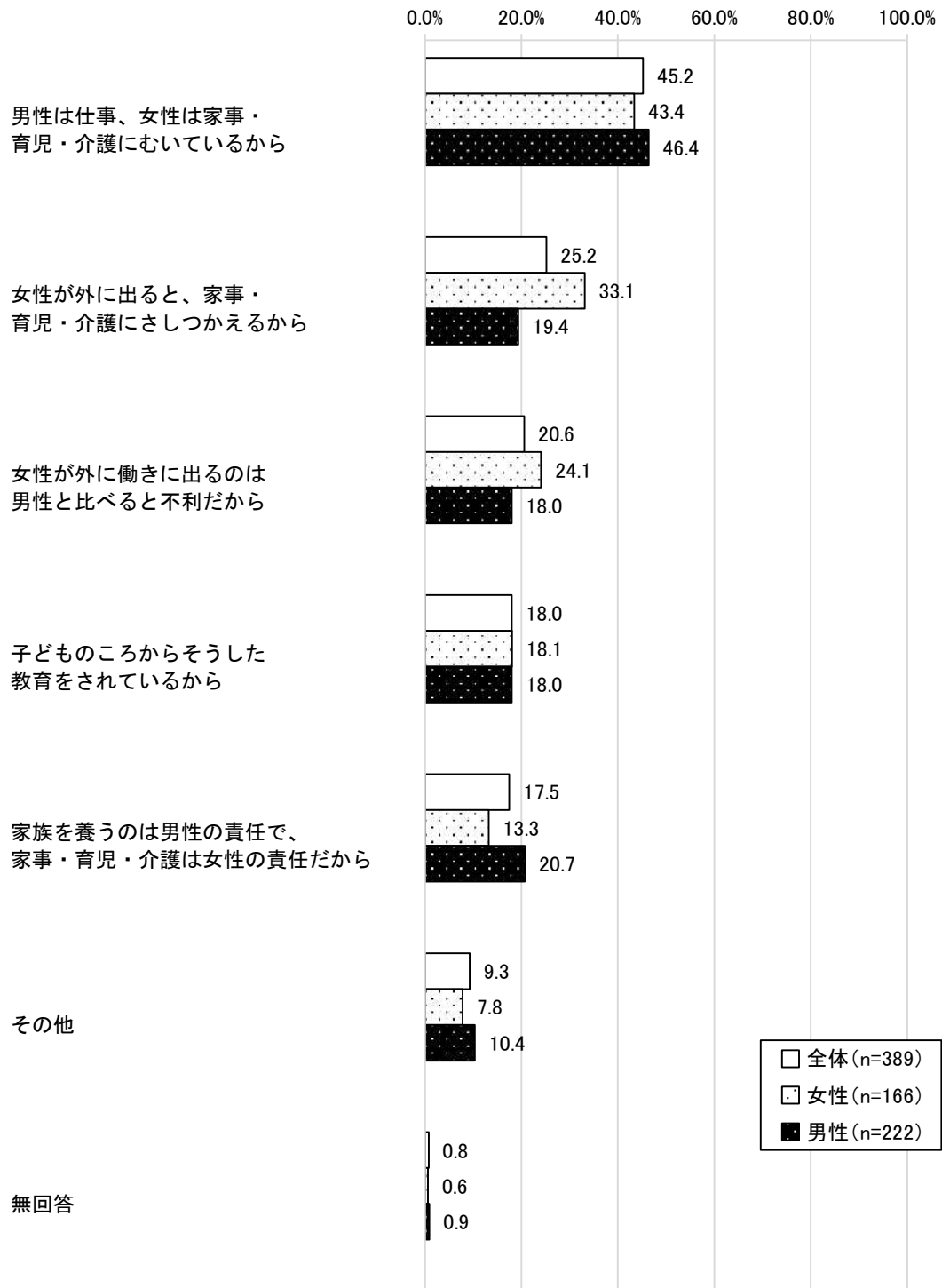
※国 R4.11 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

県 R2.8 新潟県「男女平等社会づくりに向けた県民意識調査」

(2) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に賛成の理由

<問 10 で 1、2 を回答した方だけ>

問 10-1 その理由として、あてはまる番号をお選びください。（○は2つまで）



＜全体結果＞

「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した理由について、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」（45.2%）と答えた割合が最も高く、4割半ばを占めた。以下、「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから」（25.2%）、「女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから」（20.6%）、「子どものころからそうした教育をされているから」（18.0%）、「家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから」（17.5%）、の順で続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」（女性：43.4%、男性：46.4%）の割合が最も高い。次いで、女性は「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから」（33.1%）の割合が高く、男性は「家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから」（20.7%）の割合が高い。「家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから」と答えた割合は、男性（20.7%）が女性（13.3%）を7.4ポイント上回り、「女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから」は、女性（33.1%）が男性（19.4%）を13.7ポイント、「女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから」は、女性（24.1%）が男性（18.0%）を6.1ポイント上回り、男女差がみられる。

＜前回調査との比較＞

全体結果を比較すると、多くの項目が減少している。特に「男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから」「家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから」は、4.8ポイント減少と、減少幅が大きかった。

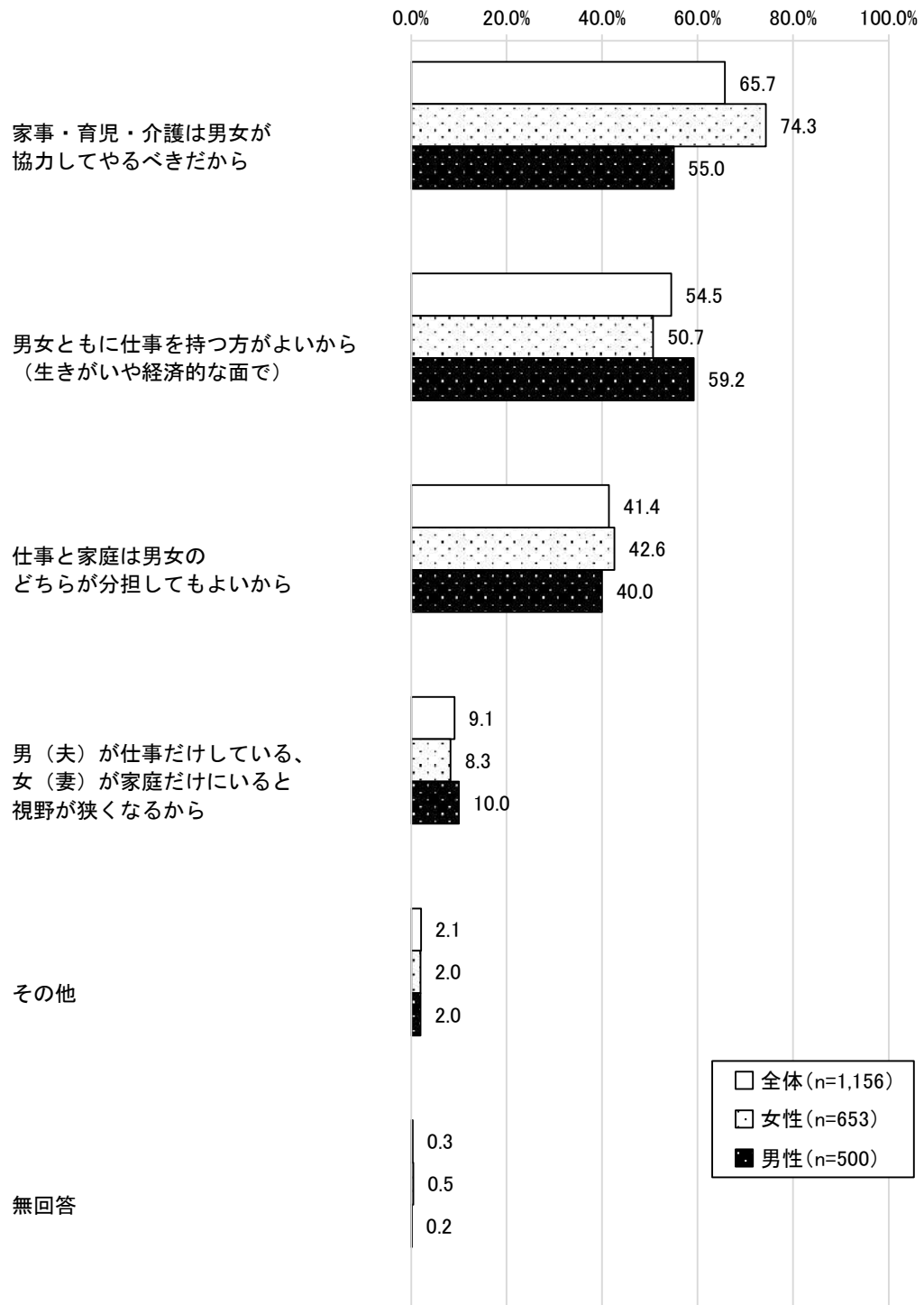
「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に賛成の理由

R1 年調査（n=512）		今回調査（n=389）	
男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから	50.0%	男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから	45.2%
女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから	29.1%	女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから	25.2%
家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから	22.3%	女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから	20.6%
女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから	21.3%	子どものころからそうした教育をされているから	18.0%
子どものころからそうした教育をされているから	18.9%	家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから	17.5%

(3) 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に反対の理由

<問 10 で 3、4 を回答した方だけ>

問 10-2 その理由として、あてはまる番号をお選びください。（○は2つまで）



<全体結果>

「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に「反対」「どちらかといえば反対」と回答した理由について、「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」（65.7%）と回答した割合が最も高く、6割半ばを占めた。以下、「男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」が54.5%、「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」が41.4%で続いている。

<性別>

性別でみると、女性は「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」（74.3%）と答えた割合が最も高く、男性は「男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」（59.2%）が最も高い。「家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから」は女性（74.3%）が男性（55.0%）を19.3ポイントと大きく上回った。「男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）」は男性（59.2%）が女性（50.7%）を8.5ポイント上回り、男女差がみられる。

<前回調査との比較>

前回調査と比較すると、「仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから」が7.6ポイント増加した。

「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に反対の理由

R1 年調査（n=1,085）		今回調査（n=1,156）	
家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから	68.1%	家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから	65.7%
男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）	52.3%	男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）	54.5%
仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから	33.8%	仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから	41.4%
男（夫）が仕事だけしている、女（妻）が家庭だけにいると視野が狭くなるから	13.3%	男（夫）が仕事だけしている、女（妻）が家庭だけにいると視野が狭くなるから	9.1%

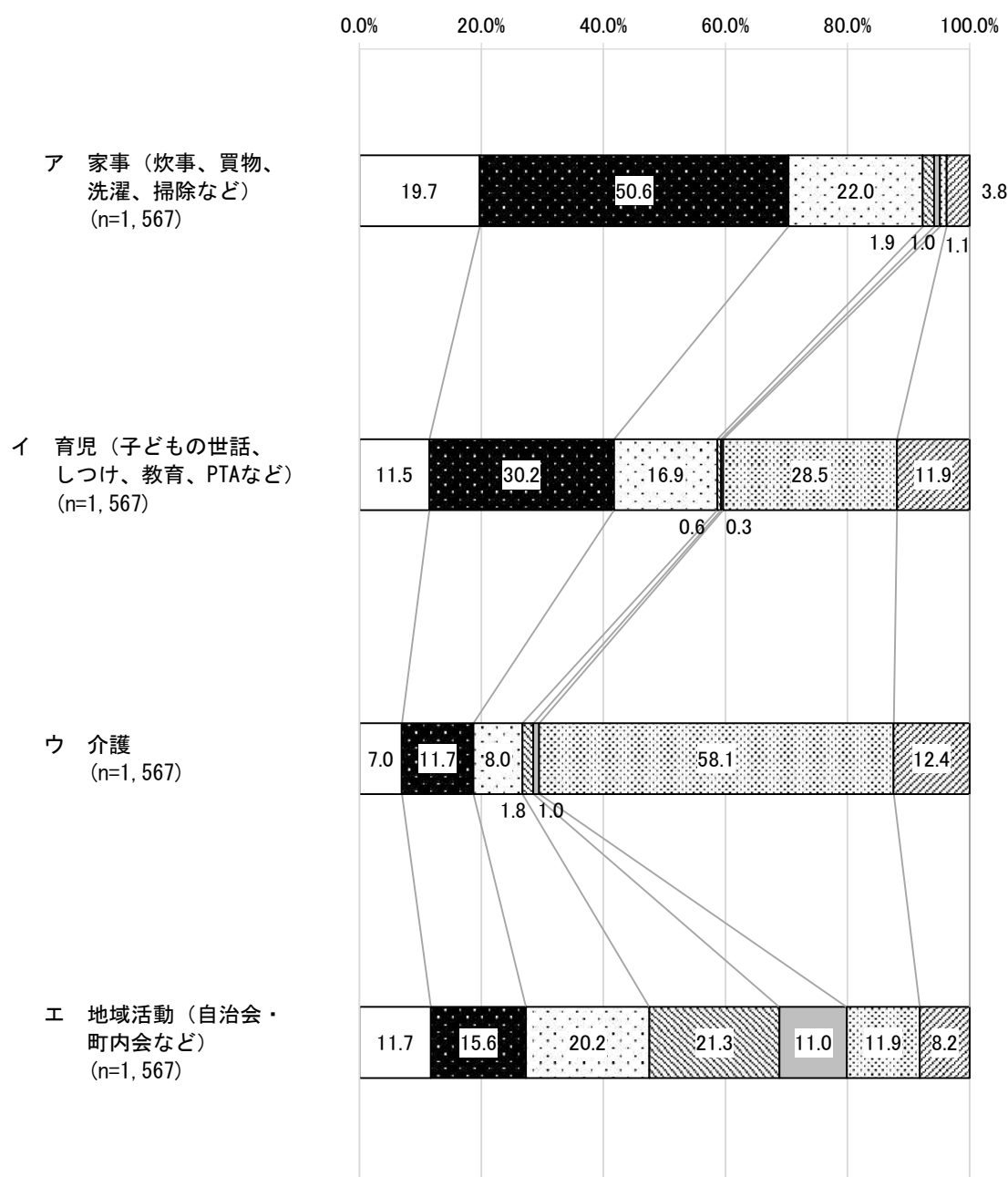
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

(1) 家庭内の役割分担

< 1人世帯の方以外 >

問 11 次の事柄について、あなたの家庭では、だれが担当していますか。ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○はそれぞれ1つずつ）

☐ すべて女性が担当している	☒ おもに女性が担当し、男性は手伝う程度
☐ おおむね平等に分担している	☒ おもに男性が担当し、女性は手伝う程度
☐ すべて男性が担当している	☐ 該当なし
☒ 無回答	



＜全体結果＞

家庭内の役割分担について、4項目中3項目で、「すべて女性が担当している」「おもに女性が担当し、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担当』（以下同）と回答した割合が、「すべて男性が担当している」「おもに男性が担当し、女性は手伝う程度」を合わせた『男性が担当』（以下同）と回答した割合を大きく上回る高い結果となった。

『女性が担当』と答えた割合の方が高い項目は、順に＜家事(70.3%)＞＜育児(41.7%)＞＜介護(18.7%)＞となっている。＜地域活動＞以外の項目では、『男性が担当』と答えた割合は、いずれも3.0%に満たなかった。

『男性が担当』と答えた割合の方が高い項目は、＜地域活動(32.4%)＞だが、『女性が担当』と答えた割合の差は5.1ポイントにとどまっている。

「おおむね平等に分担している」と答えた割合が最も高い項目は、＜家事(22.0%)＞で約2割を占めた。

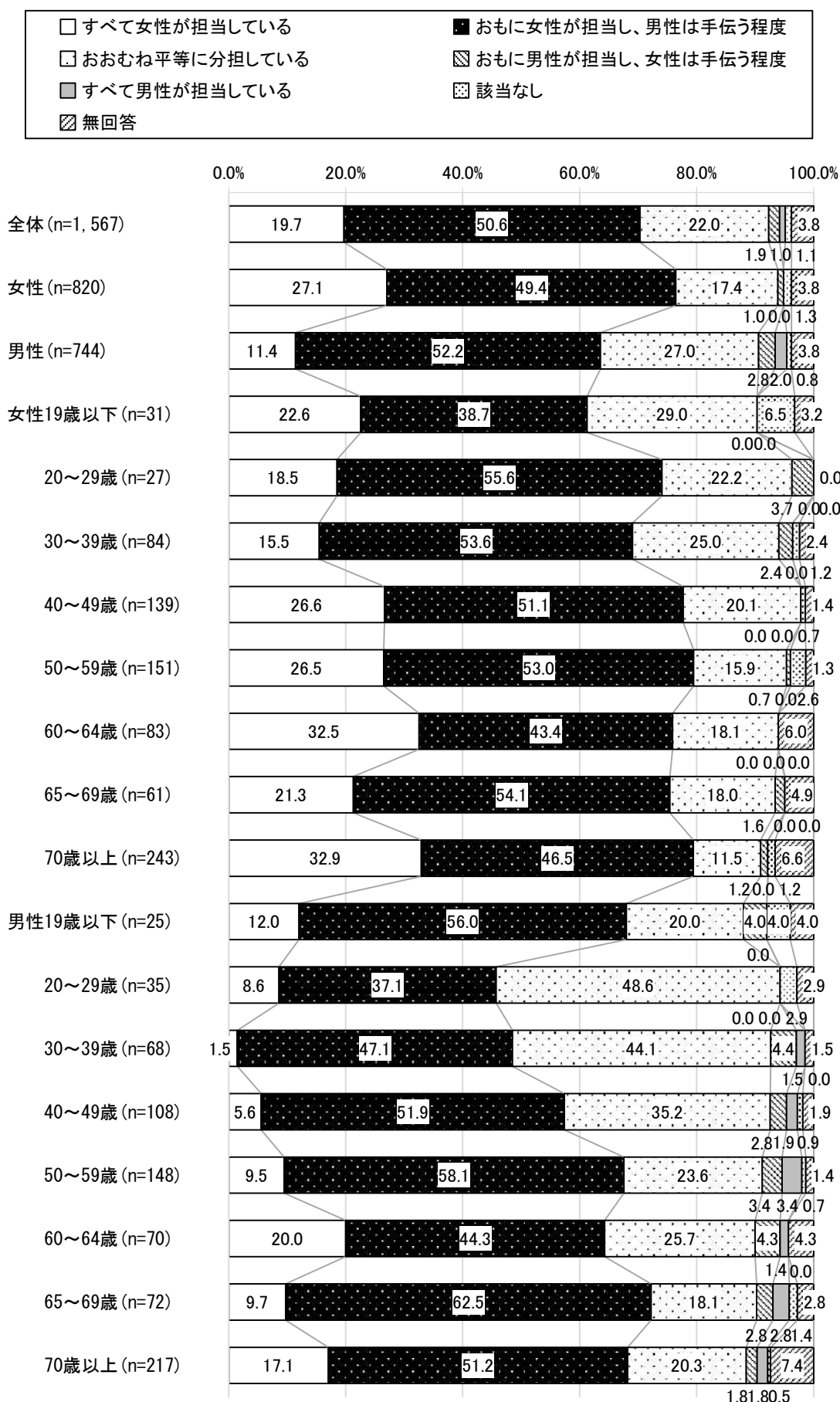
＜前回調査との比較＞

『女性が担当』と回答したものについて、前回調査と比較すると、「家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)」が6.6ポイント、育児(子どもの世話、しつけ、教育、PTAなど)」が8.3ポイント減少した。

女性が担当(「すべて女性が担当」+「おもに女性が担当」)の割合

R1年調査 (n=1,473)		今回調査 (n=1,567)	
家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)	76.9%	家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)	70.3%
育児(子どもの世話、しつけ、教育など)	50.0%	育児(子どもの世話、しつけ、教育、PTAなど)	41.7%
地域活動(自治会・町内会等)	27.7%	地域活動(自治会・町内会等)	27.3%
介護	22.3%	介護	18.7%

ア 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）についての男女の役割分担



<全体結果>

全体でみると、『女性が担当』と答えた割合が圧倒的に高く約7割を占めた。『女性が担当』は70.3%、「おおむね平等に分担している」は22.0%、『男性が担当』は2.8%という結果となった。

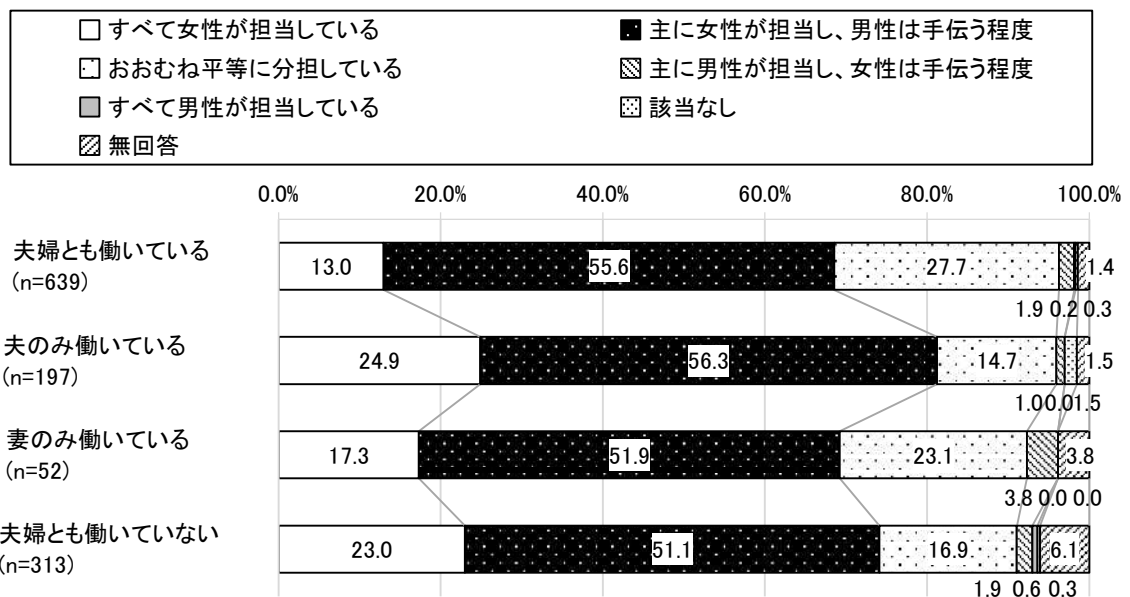
<性別・年齢別>

性別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性が76.5%、男性が63.6%で、女性の方が12.9ポイント高い。

年齢別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性では50歳代（79.5%）で最も高く、男性では65～69歳（72.2%）で最も高い。女性の60～64歳、70歳以上で「すべて女性が担当している」と答えた割合が3割を超え、他の年代と比べて割合が高い。

<その他>

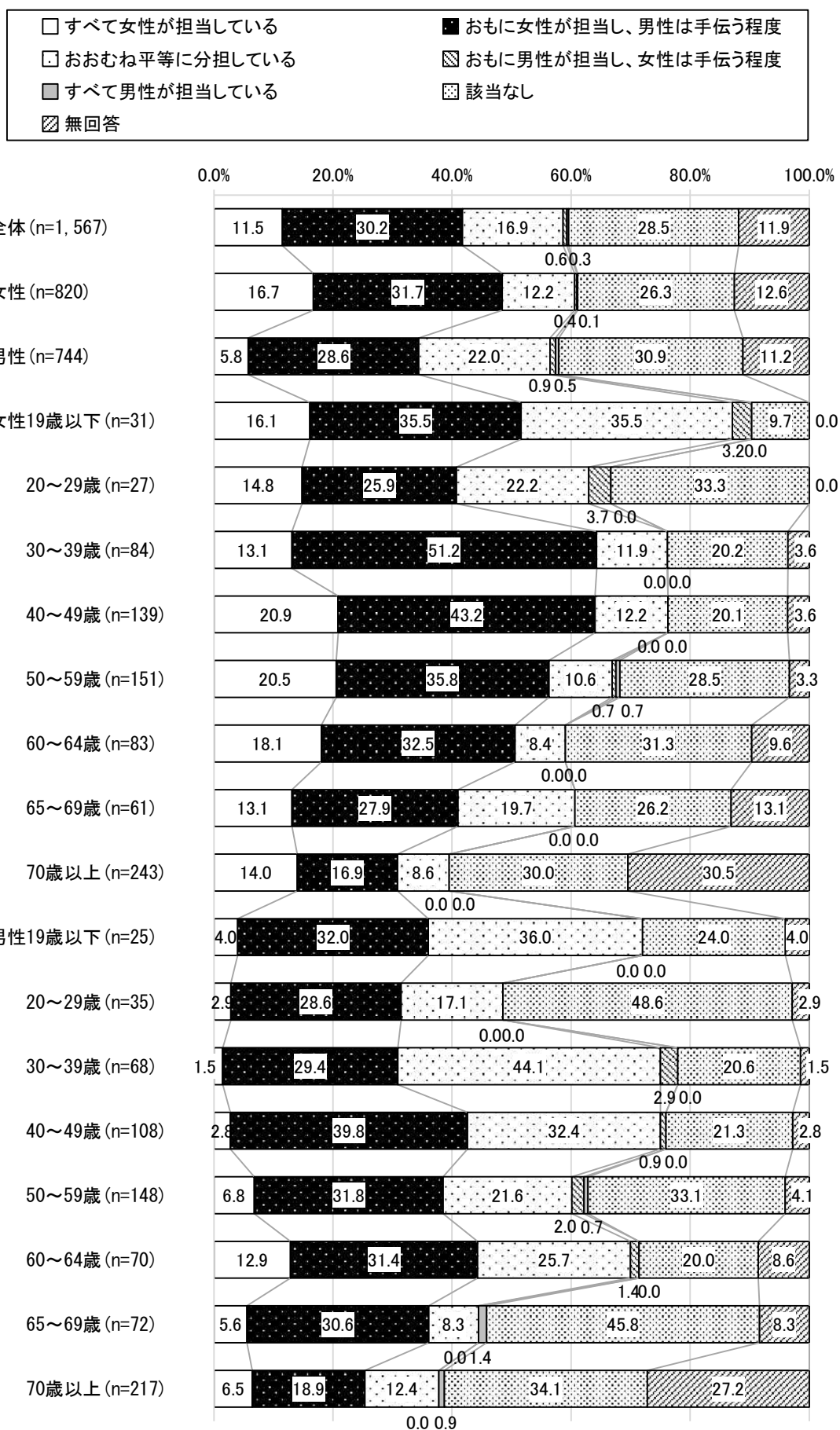
就労状況別でみると、すべての就労状況で『女性が担当』と答えた割合が高い。最も割合が高い「夫のみ働いている」で81.2%、最も割合が低い「夫婦とも働いている」で68.6%という結果となった。



<前回調査との比較>

『女性が担当』の割合は、前回の76.9%から今回70.3%と6.6ポイント減少し、『おおむね平等に分担している』の割合は、前回の15.6%から今回22.0%と6.4ポイント増加した。

イ 育児（子どもの世話、しつけ、教育など）についての男女の役割分担



<全体結果>

全体でみると、『女性が担当』と答えた割合が高く、約4割を占めた。『女性が担当』は41.7%、「おおむね平等に分担している」は16.9%、『男性が担当』は1.0%という結果となった。

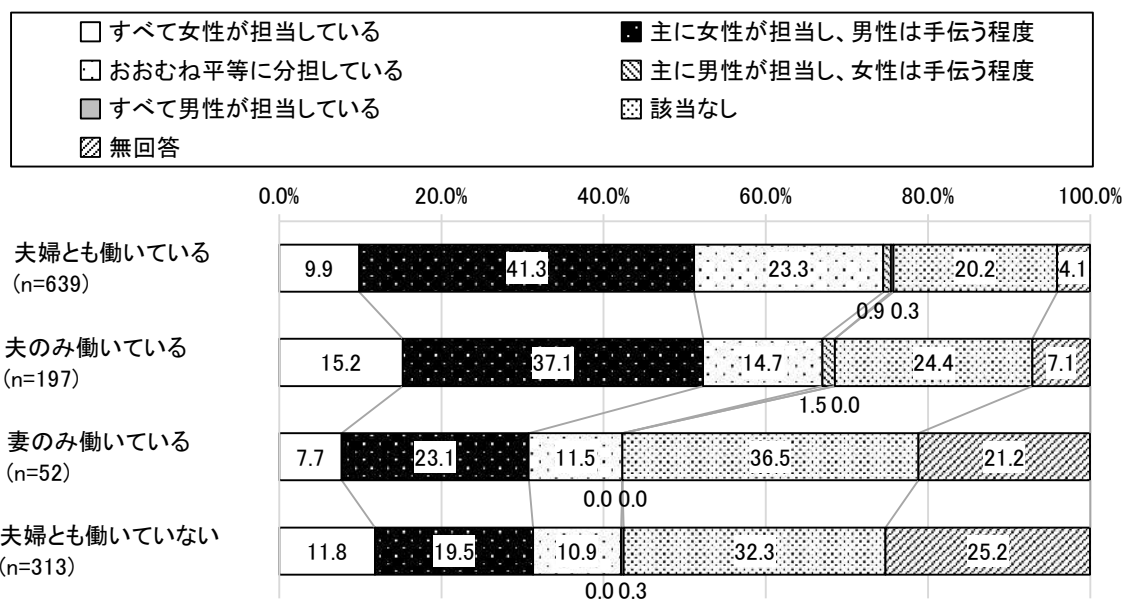
<性別・年齢別>

性別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性が48.4%、男性が34.4%で、女性の方が14.0ポイント高く、男女差がみられる。

年齢別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性では30歳代(64.3%)、40歳代(64.0%)の子育て世代で高く6割半ばを占めた。男性では60～64歳(44.3%)で最も高い。

<その他>

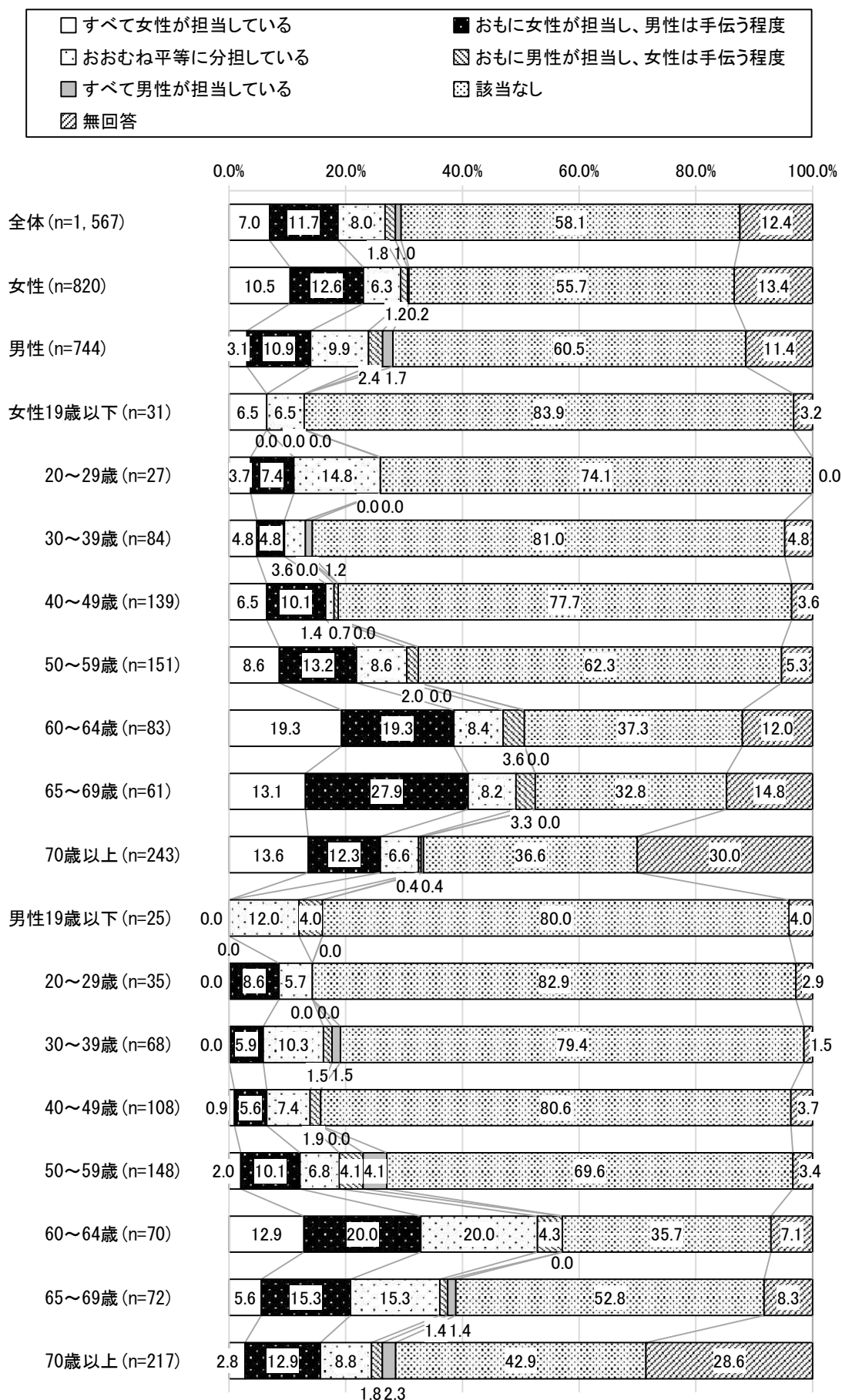
就労状況別でみると、「夫婦とも働いている」(51.2%)、「夫のみ働いている」(52.3%)で『女性が担当』が高く、半数を超えている。



<前回調査との比較>

『女性が担当』の割合は、前回の50.0%から今回41.7%と8.3ポイント減少した。

ウ 介護についての男女の役割分担



<全体結果>

全体でみると、『女性が担当』と答えた割合が高い。『女性が担当』は18.7%、「おおむね平等に分担している」は8.0%、『男性が担当』は2.7%という結果となった。「該当なし」が6割近くを占めた。

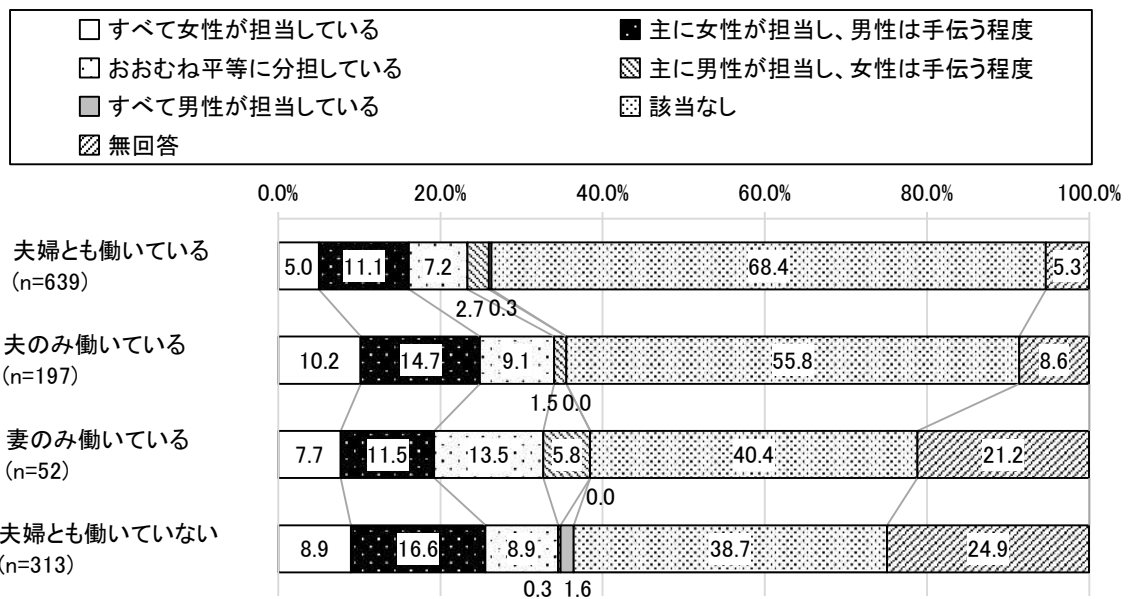
<性別・年齢別>

性別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性が23.0%、男性が14.0%で、女性の方が9.0ポイント高い。

年齢別でみると、『女性が担当』と答えた割合は、女性では65～69歳（41.0%）、60～64歳（38.6%）で割合が高く、約4割を占めた。男性では60～64歳（32.9%）で最も高い。「該当なし」と答えた割合は、男性65～69歳（52.8%）を除いて男女とも60歳代以上で半数を下回り、概ね年齢が高くなるにつれ割合が低い傾向がみられる。

<その他>

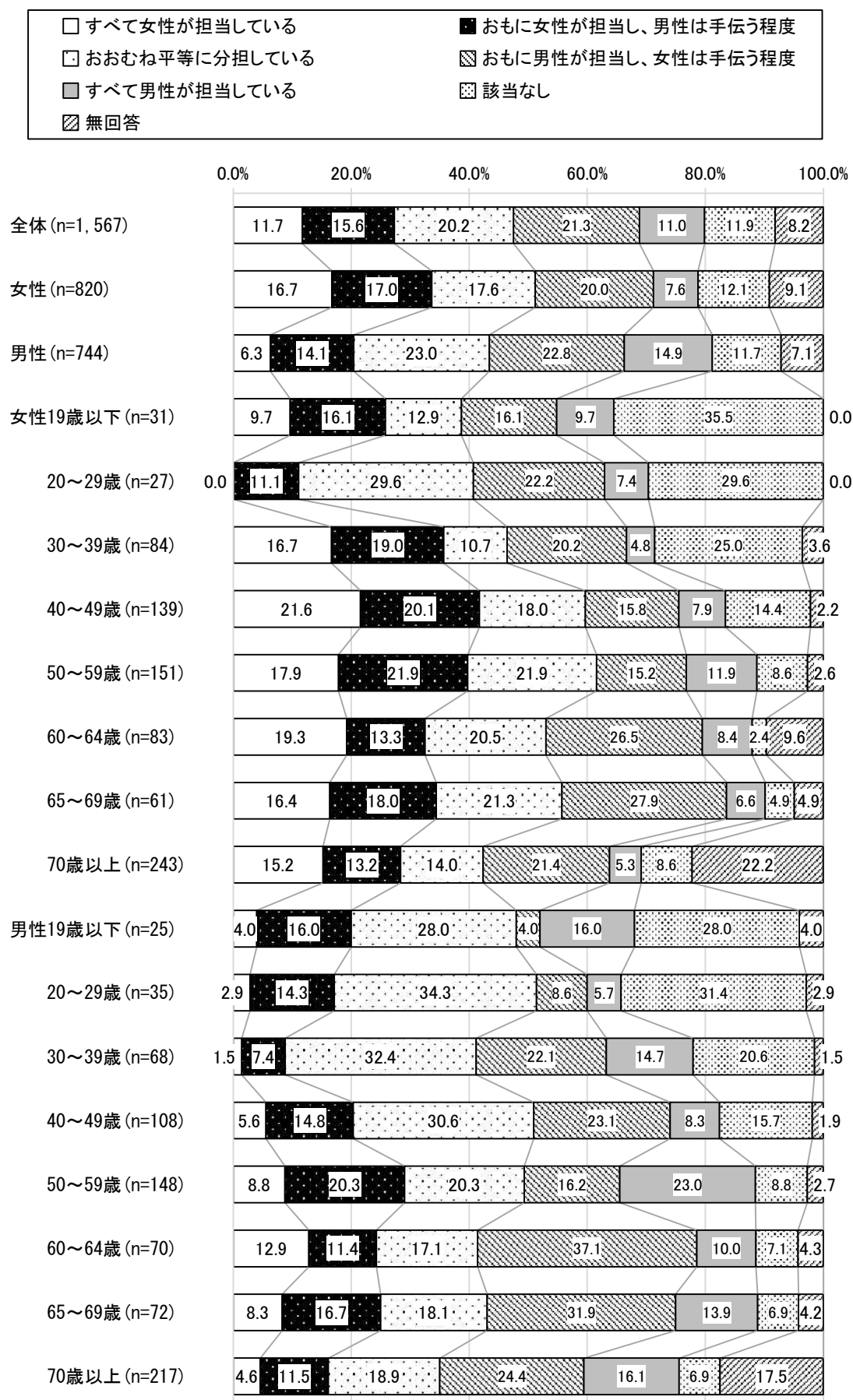
就労状況別でみると、「夫婦とも働いていない」（25.6%）、「夫のみ働いている」（24.9%）で『女性が担当』が高く、2割半ばとなっている。



<前回調査との比較>

『女性が担当』の割合は、前回の22.3%から今回18.7%と3.6ポイント減少した。

エ 地域活動（自治会・町内会等）についての男女の役割分担



<全体結果>

全体でみると、『男性が担当』と答えた割合が高い。『女性が担当』は27.3%、「おおむね平等に分担している」は20.2%、『男性が担当』は32.4%という結果となった。

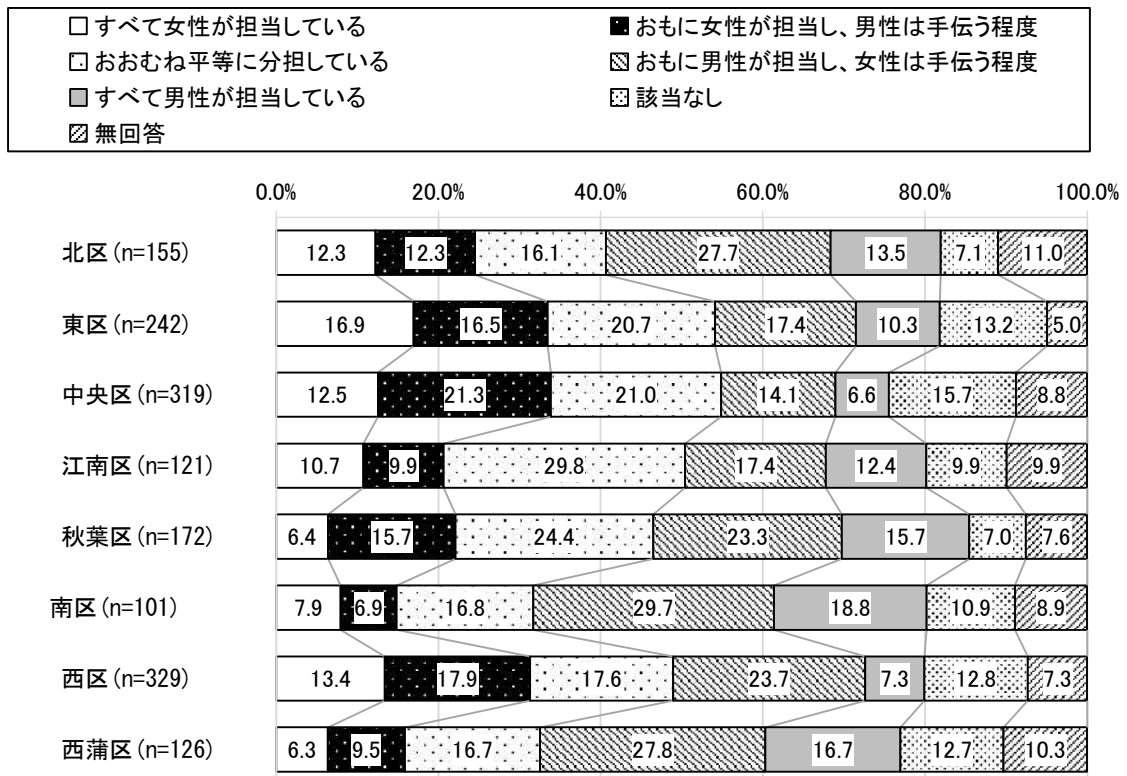
<性別・年齢別>

性別でみると、『男性が担当』と答えた割合は、女性が27.6%、男性が37.8%で、男性の方が10.2ポイント高い。一方、『女性が担当』と答えた割合は、女性が33.7%、男性が20.4%で、女性の方が13.3ポイント高い。女性は『女性が担当』の割合が高く、男性は『男性が担当』の割合が高いことから、回答について男女差がみられる。

年齢別でみると、『男性が担当』と答えた割合は、女性では60～64歳(34.9%)、65～69歳(34.4%)、男性では60～64歳(47.1%)、65～69歳(45.8%)で高い。一方、『女性が担当』と答えた割合は、女性では40歳代(41.7%)で最も高く、男性では50歳代(29.1%)で最も高い。

<その他>

地区別でみると、東区、中央区、西区を除く地区で『女性が担当』よりも『男性が担当』と答えた割合が高い。南区(48.5%)では『男性が担当』が5割弱を占め、他の地区と比べて割合が高い。西区では『女性が担当』(31.3%)の割合が高いものの、『男性が担当』(31.0%)との差は0.3ポイントで、ほぼ差がない。東区、中央区では『男性が担当』より『女性が担当』と答えた割合が高い。

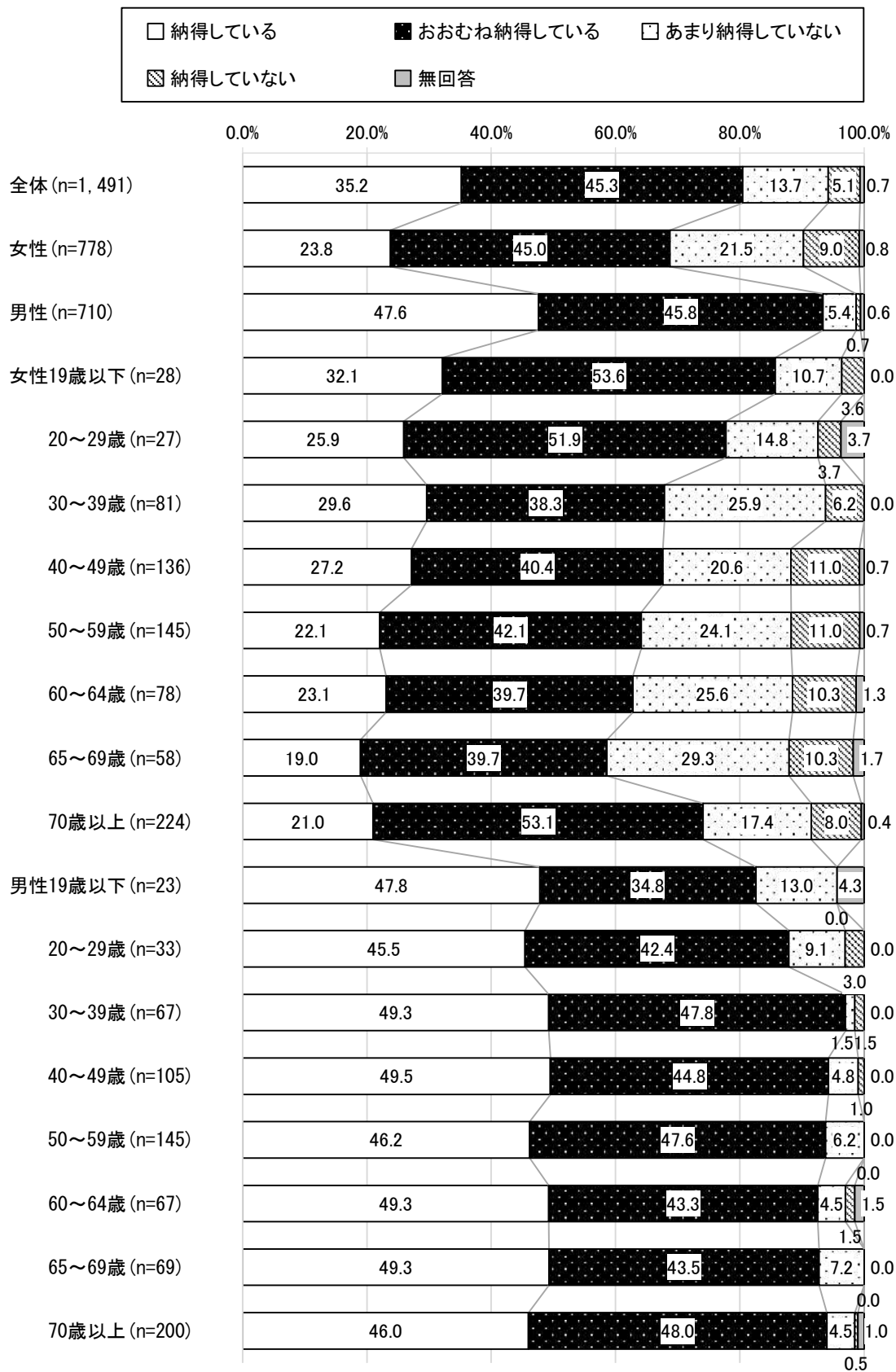


<前回調査との比較>

前回調査との差はあまりみられない。

(2) 役割分担の納得感

問 12 あなたの家庭での問 11 のア「家事」の分担について、あなたは納得していますか。(〇は1つだけ)



＜全体結果＞

家事の役割分担について、「納得している」「おおむね納得している」を合わせた『納得している』（以下同）（80.5%）と回答した割合が約8割で、「あまり納得していない」「納得していない」を合わせた『納得していない』（以下同）（18.8%）を大きく上回った。

＜性別・年齢別＞

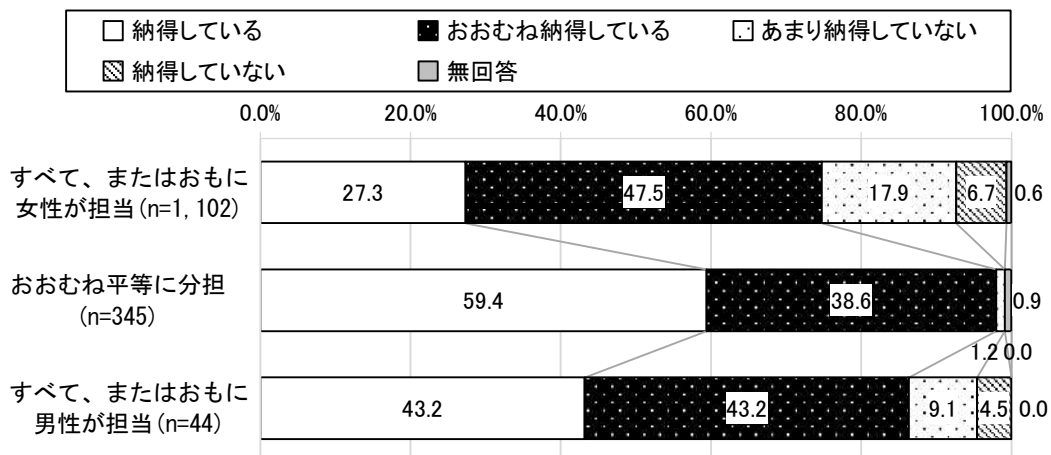
性別でみると、『納得している』と答えた割合は、女性が68.8%、男性が93.4%で、男性の方が24.6ポイント高い。一方、『納得していない』と答えた割合は、女性が30.5%、男性が6.1%で、女性の方が24.4ポイント高い。男性は9割以上が『納得している』が女性の約3割は『納得していない』ことから、男女差がみられる。

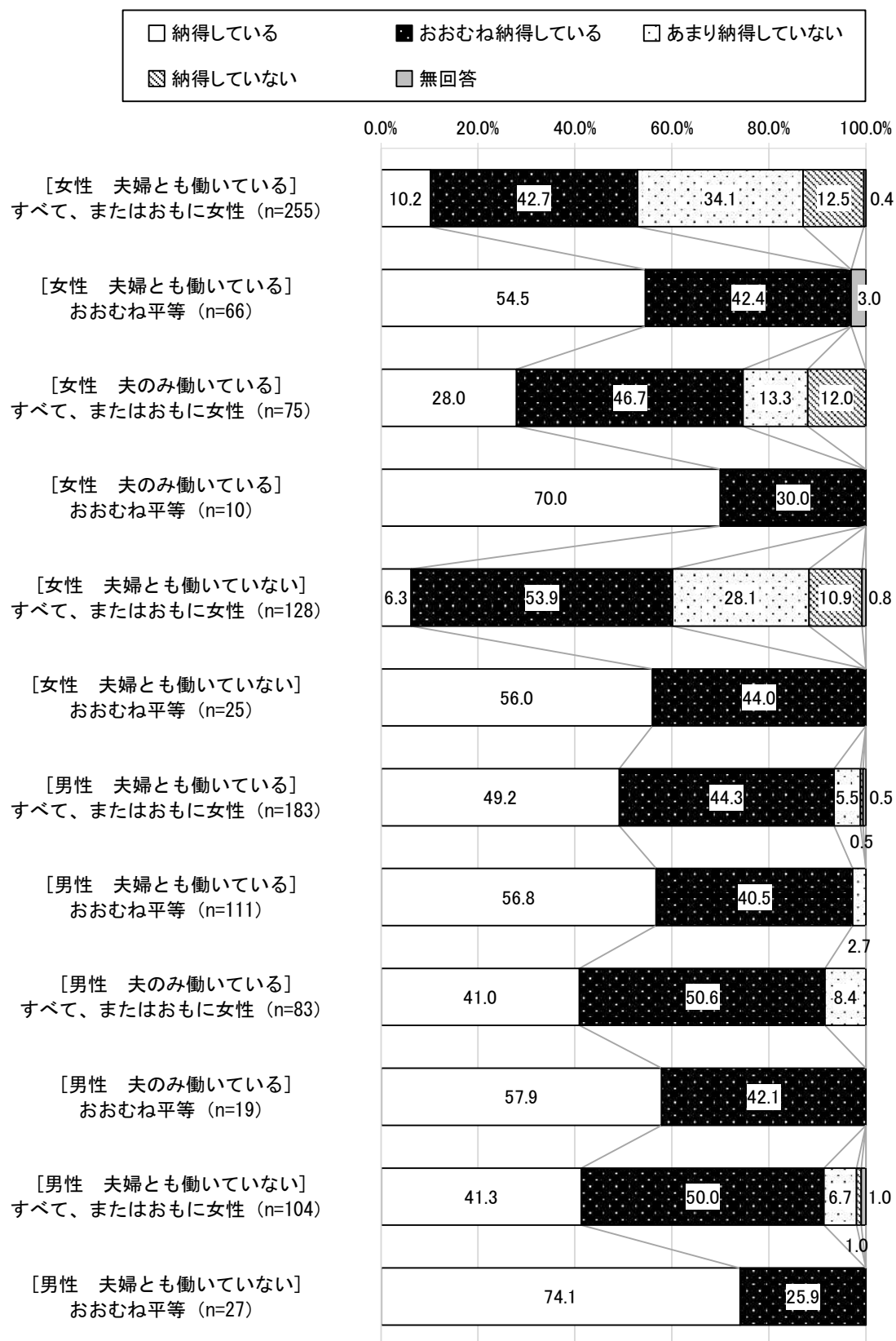
年齢別でみると、『納得していない』と答えた割合は、女性では30歳代～60歳代で3割を超し、最も割合が高い65～69歳（39.7%）では約4割を占めた。女性は概ね年齢が高くなるにつれ『納得していない』割合が高くなる傾向がみられる。

＜その他＞

家事の負担状況でみると、『納得している』と答えた割合は、「おおむね平等に分担」している人（98.0%）で高く、ほぼ全員が納得している。「すべて、またはおもに男性が担当」している人では86.4%、「すべて、またはおもに女性が担当」している人では74.8%となった。

性別、就業状況、家事の負担状況でみると（回答数が少ない、「妻のみ働いている」人、「すべて、またはおもに男性が負担」している人を除く）、「納得している」と答えた割合は、女性では、「おおむね平等に分担」している人よりも、「すべて、またはおもに女性が担当」している人で低く、特に「夫婦ともに働いていない」人（6.3%）、「夫婦ともに働いている」人（10.2%）で低く、「おおむね平等に分担」している人との差が大きい。男性も「おおむね平等に分担」している人より「すべて、またはおもに女性が担当」している人で、「納得している」と答えた割合が低い、女性と比較して差が小さく、男性よりも女性で納得感が低いことが窺える。





※数値が0の場合、グラフ内に数値を表示していない。

< 前回調査との比較 >

前回は調査項目なし。

(3) 家事・育児・介護等に從事する時間について

問 13 あなたは、一日のうちで睡眠時間を除き、ア～オについて、それぞれどの程度の時間を費やしていますか。まったくしていない場合は「0」と記入してください。仕事や学校に行っている人は、平日と休日のそれぞれについて、記入してください。

ア 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

イ 育児（子どもの世話、しつけ、教育、PTAなど）

ウ 介護

エ 仕事・学校（通勤・通学時間を含む）

オ 自由に使える時間（地域活動・ボランティア活動、趣味、読書、テレビなど）

※ 本項については、上記のうち、「1 家事」「2 育児」「3 介護」に從事する時間平均を取り上げるものとする。また、「仕事や学校に行っている人（平日・休日）」、「仕事や学校に行っていない人」の区分を表現する際は、『生活状況』と表現している。

家事・育児・介護に從事する時間平均（全体・性別・年齢別）

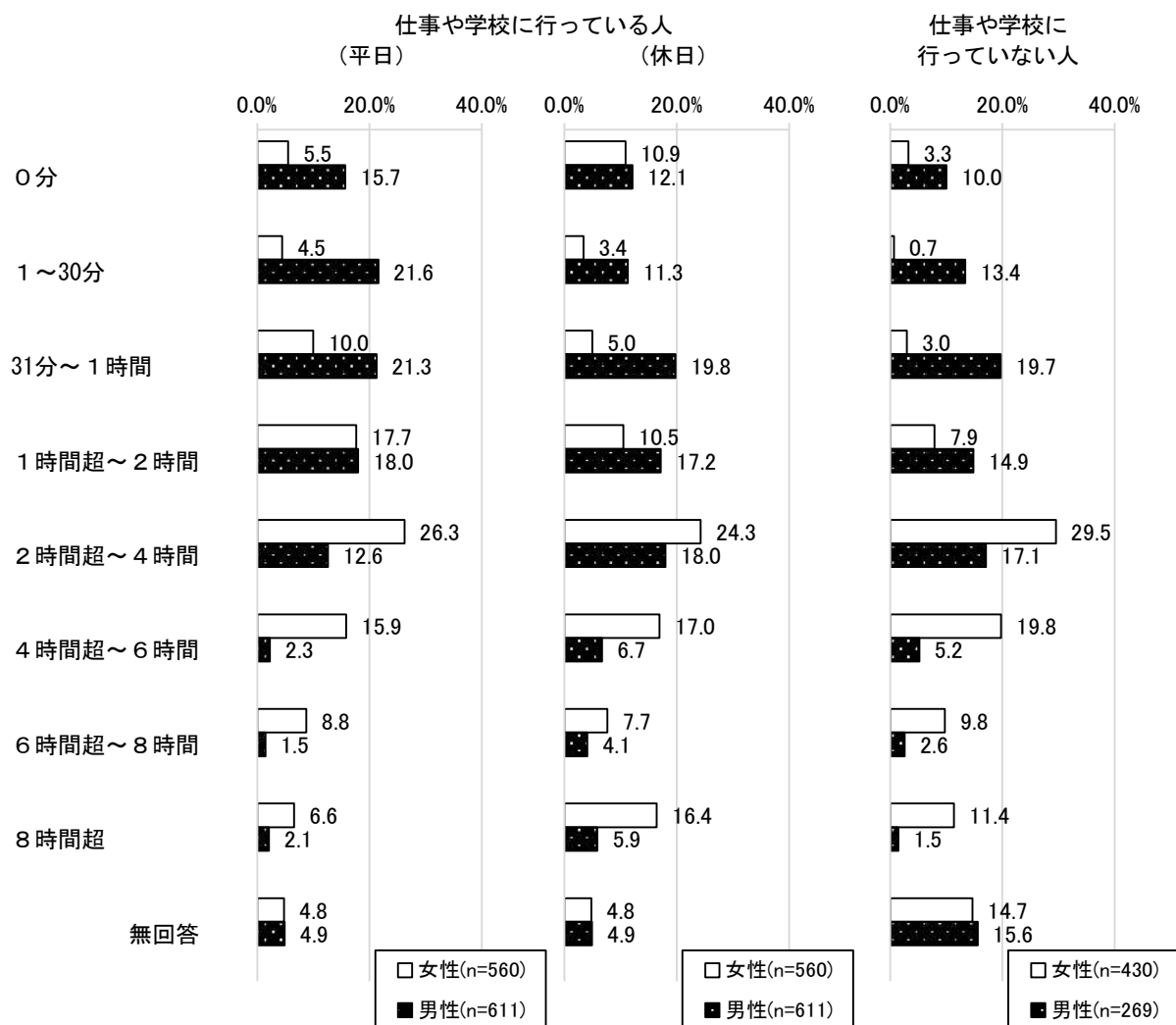
	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
全 体	158 分 (2 時間 38 分)		236 分 (3 時間 56 分)		249 分 (4 時間 09 分)	
性 別	女性	男性	女性	男性	女性	男性
	232 分 (3 時間 52 分)	91 分 (1 時間 31 分)	321 分 (5 時間 21 分)	159 分 (2 時間 39 分)	383 分 (5 時間 23 分)	131 分 (2 時間 11 分)
19 歳以下	38 分	20 分	67 分 (1 時間 07 分)	33 分	—	240 分 (4 時間 00 分)
20～29 歳	140 分 (2 時間 20 分)	95 分 (1 時間 35 分)	183 分 (3 時間 03 分)	128 分 (2 時間 08 分)	457 分 (7 時間 37 分)	240 分 (4 時間 00 分)
30～39 歳	373 分 (6 時間 13 分)	131 分 (2 時間 11 分)	591 分 (9 時間 51 分)	296 分 (4 時間 56 分)	795 分 (13 時間 15 分)	90 分 (1 時間 30 分)
40～49 歳	279 分 (4 時間 39 分)	113 分 (1 時間 53 分)	426 分 (7 時間 05 分)	216 分 (3 時間 36 分)	525 分 (8 時間 45 分)	90 分 (1 時間 30 分)
50～59 歳	206 分 (3 時間 26 分)	86 分 (1 時間 26 分)	259 分 (4 時間 19 分)	150 分 (2 時間 30 分)	400 分 (6 時間 40 分)	237 分 (3 時間 57 分)
60～64 歳	207 分 (3 時間 27 分)	72 分 (1 時間 12 分)	267 分 (4 時間 27 分)	94 分 (1 時間 34 分)	372 分 (6 時間 12 分)	140 分 (2 時間 20 分)
65～69 歳	217 分 (3 時間 37 分)	86 分 (1 時間 26 分)	233 分 (3 時間 53 分)	101 分 (1 時間 41 分)	352 分 (5 時間 52 分)	100 分 (1 時間 40 分)
70 歳以上	183 分 (3 時間 03 分)	54 分	159 分 (2 時間 39 分)	65 分 (1 時間 05 分)	248 分 (4 時間 08 分)	123 分 (2 時間 03 分)

※回答者による解釈の違いも考慮し、回答をそのまま集計している（以降も同様）。

<全体結果>

全体でみると、「仕事や学校に行っている人（平日）」で 158 分（2 時間 38 分）、「仕事や学校に行っている人（休日）」で 236 分（3 時間 56 分）となっている。一方、「仕事や学校に行っていない人」の時間平均は、249 分（4 時間 09 分）となっている。

一日の家事・育児・介護に従事する時間



<性別・年齢別>

性別でみると、時間平均では『生活状況』によらず男性より女性で長い。「仕事や学校に行っている人（平日）」では、女性が232分（3時間52分）で男性の2.5倍、「仕事や学校に行っている人（休日）」では、女性が321分（5時間21分）で男性の2.0倍、「仕事や学校に行っていない人」では、女性が383分（5時間23分）で男性の2.9倍という結果となった。時間範囲では女性は『生活状況』によらず、「2時間超～4時間」（各26.3%、24.3%、29.5%）と答えた割合が最も高い。男性は「仕事や学校に行っている人（平日）」では「1～30分」（21.6%）、「仕事や学校に行っている人（休日）」「仕事や学校に行っていない人」では「31分～1時間」（各19.8%、19.7%）と答えた割合が最も高い。

年齢別でみると、「仕事や学校に行っている人（平日）」では、女性は30歳代が373分（6時間13分）で最も長く、次いで40歳代が279分（4時間39分）、65～69歳が217分（3時間37分）の順で続いている。男性は30歳代が131分（2時間11分）で最も長い。「仕事や学校に行っている人（休日）」では、女性は30歳代が591分（9時間51分）で最も長く、次いで40歳代が426分（7時間05分）、60～64歳が267分（4時間27分）の順で続いている。男性は30歳代が296分（4時間56分）で最も長い。「仕事や学校に行っていない人」では、女性は30歳代が795分（13時間15分）で最も長く、次いで40歳代が525分（8時間45分）、20歳代が457分（7時間37分）の順で続いている。男性は20歳代と30歳代が240分（4時間00分）で最も長い。

＜子ども（末子）の状況別＞

子ども（末子）の状況別でみると、『生活状況』・性別によらず、概ね「乳幼児」で時間平均が最も長い。男性は乳幼児から中学生で、平日と比べ休日で2倍程度平均時間が長くなっている。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
乳幼児	529 分 (8 時間 49 分)	199 分 (3 時間 19 分)	869 分 (14 時間 29 分)	472 分 (7 時間 52 分)	1014 分 (16 時間 54 分)	—
小学生	395 分 (6 時間 35 分)	142 分 (2 時間 22 分)	587 分 (9 時間 47 分)	280 分 (4 時間 40 分)	526 分 (8 時間 46 分)	180 分 (3 時間 00 分)
中学生	279 分 (4 時間 39 分)	93 分 (1 時間 33 分)	391 分 (6 時間 31 分)	218 分 (3 時間 38 分)	622 分 (10 時間 22 分)	—
高校生	285 分 (4 時間 45 分)	86 分 (1 時間 26 分)	326 分 (5 時間 26 分)	142 分 (2 時間 22 分)	450 分 (7 時間 30 分)	—
専門学校・ 短大・大学生	182 分 (3 時間 02 分)	107 分 (1 時間 47 分)	242 分 (4 時間 02 分)	119 分 (1 時間 59 分)	392 分 (6 時間 32 分)	300 分 (5 時間 00 分)
それ以外	193 分 (3 時間 13 分)	61 分 (1 時間 01 分)	227 分 (3 時間 47 分)	79 分 (1 時間 19 分)	284 分 (4 時間 44 分)	119 分 (1 時間 59 分)
子どもはいない	116 分 (1 時間 56 分)	71 分 (1 時間 11 分)	170 分 (2 時間 50 分)	106 分 (1 時間 46 分)	262 分 (4 時間 22 分)	168 分 (2 時間 48 分)

＜介護の状況別＞

介護の状況別でみると、『生活状況』・性別によらず、「介護が必要な人がいる」で時間平均が最も長い。仕事や学校に行っている女性では平日、休日ともに「介護が必要な人がいる」で時間平均が長く、「近い将来に可能性がある」、「介護が必要な人はいない」と比較して差が大きい。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
介護が必要な 人がいる	310 分 (5 時間 10 分)	109 分 (1 時間 49 分)	411 分 (6 時間 51 分)	166 分 (2 時間 46 分)	489 分 (8 時間 09 分)	272 分 (4 時間 32 分)
近い将来に可 能性がある	227 分 (3 時間 47 分)	89 分 (1 時間 29 分)	326 分 (5 時間 26 分)	163 分 (2 時間 43 分)	309 分 (5 時間 09 分)	102 分 (1 時間 42 分)
介護が必要な 人はいない	203 分 (3 時間 23 分)	88 分 (1 時間 28 分)	258 分 (4 時間 18 分)	141 分 (2 時間 21 分)	288 分 (4 時間 48 分)	110 分 (1 時間 50 分)

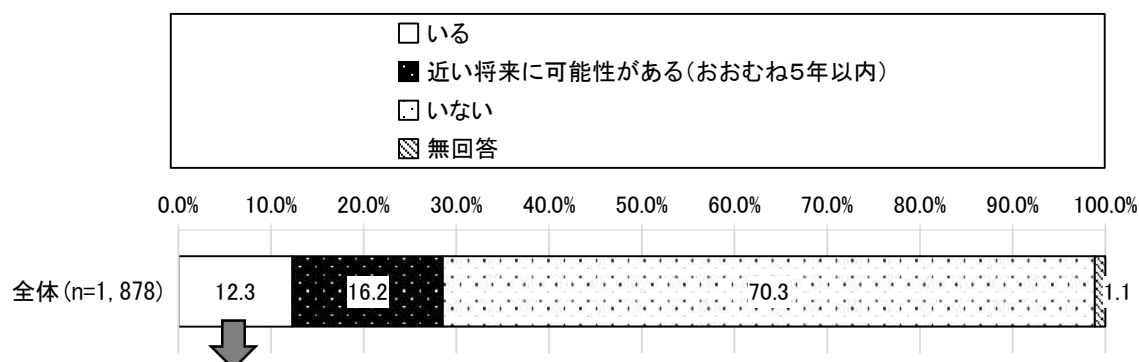
<介護あり×子ども（末子）の状況別>

「介護が必要な人がいる」人の子ども（末子）の状況別でみると、『生活状況』によらず、女性は「小学生」で時間平均が最も長く、男性は「乳幼児」で時間平均が最も長い。

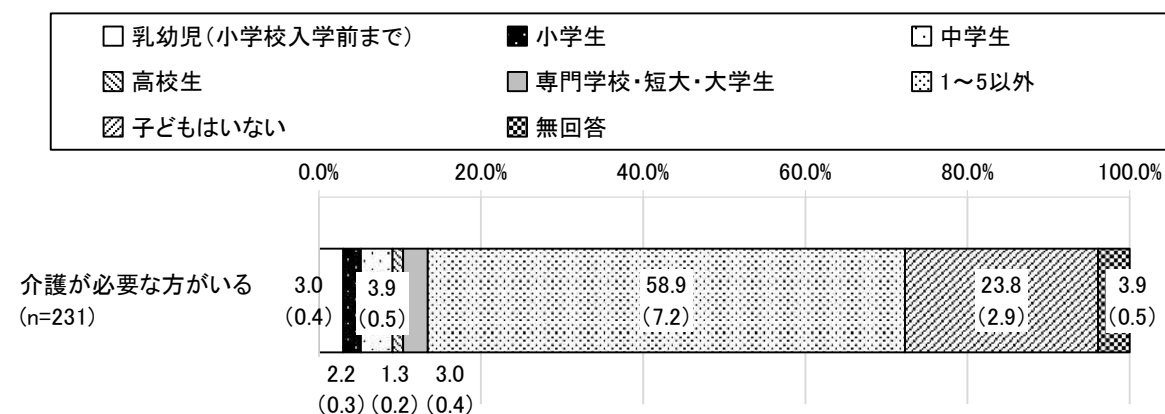
	仕事や学校に行っている人 (平日)		仕事や学校に行っている人 (休日)		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
乳幼児	532 分 (8 時間 52 分)	375 分 (6 時間 15 分)	937 分 (15 時間 37 分)	600 分 (10 時間 00 分)	1380 分 (23 時間 00 分)	
小学生	690 分 (11 時間 30 分)	77 分 (1 時間 17 分)	1130 分 (18 時間 50 分)	395 分 (6 時間 35 分)		
中学生	320 分 (5 時間 20 分)	43 分	140 分 (2 時間 20 分)	183 分 (3 時間 03 分)	720 分 (12 時間 00 分)	
高校生	480 分 (8 時間 00 分)	50 分	480 分 (8 時間 00 分)	120 分 (2 時間 00 分)		
専門学校・ 短大・大学生	315 分 (5 時間 15 分)	120 分 (2 時間 00 分)	375 分 (6 時間 15 分)	220 分 (3 時間 40 分)		
それ以外	257 分 (4 時間 17 分)	104 分 (1 時間 44 分)	338 分 (5 時間 38 分)	94 分 (1 時間 34 分)	477 分 (7 時間 57 分)	267 分 (4 時間 27 分)
子どもはいない	264 分 (4 時間 24 分)	105 分 (1 時間 45 分)	390 分 (6 時間 30 分)	220 分 (3 時間 40 分)	412 分 (6 時間 52 分)	289 分 (4 時間 49 分)

<参考>

①回答者全体での介護の状況



②「介護が必要な人がいる」と回答した人の子ども（末子）の状況



()内は、回答者全体 (n=1, 878) での割合

<未既婚別>

未既婚別でみると、『生活状況』によらず、女性は「配偶者あり（内縁を含む）」で時間平均が最も長い。特に、「仕事や学校に行っている人（平日）」では、女性の時間平均が289分（4時間49分）で、男性の3倍以上と近くという結果となった。「配偶者あり（内縁を含む）」の男性は、平日と比べ休日で2倍程度平均時間が長くなっている。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
配偶者あり （内縁を含む）	289 分 （4 時間 49 分）	99 分 （1 時間 39 分）	392 分 （6 時間 32 分）	185 分 （3 時間 05 分）	427 分 （6 時間 07 分）	112 分 （1 時間 52 分）
配偶者なし （離別・死別）	193 分 （3 時間 13 分）	90 分 （1 時間 30 分）	287 分 （4 時間 47 分）	111 分 （1 時間 51 分）	224 分 （3 時間 44 分）	204 分 （3 時間 24 分）
未婚	98 分 （1 時間 38 分）	66 分 （1 時間 06 分）	149 分 （2 時間 29 分）	93 分 （1 時間 33 分）	174 分 （2 時間 54 分）	164 分 （2 時間 44 分）

<配偶者ありの就労状況別>

配偶者ありの就労状況別でみると、『生活状況』・就労状況別によらず、男性より女性の時間平均が長い。「仕事や学校に行っていない人」で「夫婦ともに働いていない」でも、男性より女性の時間平均が2倍以上長い。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
夫婦とも 働いている	294 分 （4 時間 54 分）	110 分 （1 時間 50 分）	403 分 （6 時間 43 分）	207 分 （3 時間 27 分）	602 分 （10 時間 02 分）	103 分 （1 時間 43 分）
夫のみ 働いている	-	69 分 （1 時間 09 分）	120 分 （2 時間 00 分）	125 分 （2 時間 05 分）	451 分 （7 時間 31 分）	272 分 （4 時間 32 分）
妻のみ 働いている	225 分 （3 時間 45 分）	60 分 （1 時間 00 分）	262 分 （4 時間 22 分）	180 分 （1 時間 30 分）	280 分 （4 時間 40 分）	93 分 （1 時間 33 分）
夫婦とも 働いていない	-	-	-	-	294 分 （4 時間 54 分）	112 分 （1 時間 52 分）

<性別役割分担意識別>

性別役割分担意識別でみると、男性は、『賛成』より『反対』で時間平均が長くなっている。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
「男は仕事、女は家庭」の考え方に『賛成』	244 分 （4 時間 04 分）	76 分 （1 時間 16 分）	324 分 （5 時間 24 分）	146 分 （2 時間 26 分）	305 分 （5 時間 05 分）	107 分 （1 時間 47 分）
「男は仕事、女は家庭」の考え方に『反対』	228 分 （3 時間 48 分）	100 分 （1 時間 40 分）	320 分 （5 時間 20 分）	173 分 （2 時間 53 分）	334 分 （5 時間 34 分）	140 分 （2 時間 20 分）

＜地区別＞

地区別でみると、『生活状況』によらず、男性より女性の時間平均が長い。時間平均の男女差は、「仕事や学校に行っている人（平日）」では、他の地区と比べて北区、西区で差が大きく、「仕事や学校に行っている人（休日）」では、東区、南区で差が大きい。「仕事や学校に行っていない人」では、他の地区と比べて南区で差が大きい。

	仕事や学校に行っている人 （平日）		仕事や学校に行っている人 （休日）		仕事や学校に行っていない人	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
北区	298 分 (4 時間 58 分)	98 分 (1 時間 38 分)	328 分 (5 時間 28 分)	164 分 (2 時間 44 分)	307 分 (5 時間 07 分)	112 分 (1 時間 52 分)
東区	234 分 (3 時間 54 分)	95 分 (1 時間 35 分)	348 分 (5 時間 48 分)	145 分 (2 時間 25 分)	322 分 (5 時間 22 分)	153 分 (2 時間 33 分)
中央区	210 分 (3 時間 30 分)	112 分 (1 時間 52 分)	282 分 (4 時間 42 分)	200 分 (3 時間 20 分)	321 分 (5 時間 21 分)	124 分 (2 時間 04 分)
江南区	210 分 (3 時間 30 分)	88 分 (1 時間 28 分)	315 分 (5 時間 15 分)	152 分 (2 時間 32 分)	288 分 (4 時間 28 分)	136 分 (2 時間 16 分)
秋葉区	207 分 (3 時間 27 分)	93 分 (1 時間 33 分)	299 分 (4 時間 59 分)	180 分 (3 時間 00 分)	281 分 (4 時間 41 分)	117 分 (1 時間 57 分)
南区	236 分 (3 時間 56 分)	109 分 (1 時間 49 分)	388 分 (6 時間 28 分)	179 分 (2 時間 59 分)	474 分 (7 時間 54 分)	140 分 (2 時間 20 分)
西区	250 分 (4 時間 10 分)	70 分 (1 時間 10 分)	297 分 (5 時間 57 分)	157 分 (2 時間 17 分)	333 分 (5 時間 33 分)	104 分 (1 時間 44 分)
西蒲区	189 分 (3 時間 09 分)	59 分	240 分 (4 時間 00 分)	90 分 (1 時間 30 分)	330 分 (5 時間 30 分)	201 分 (3 時間 21 分)

＜前回調査との比較＞

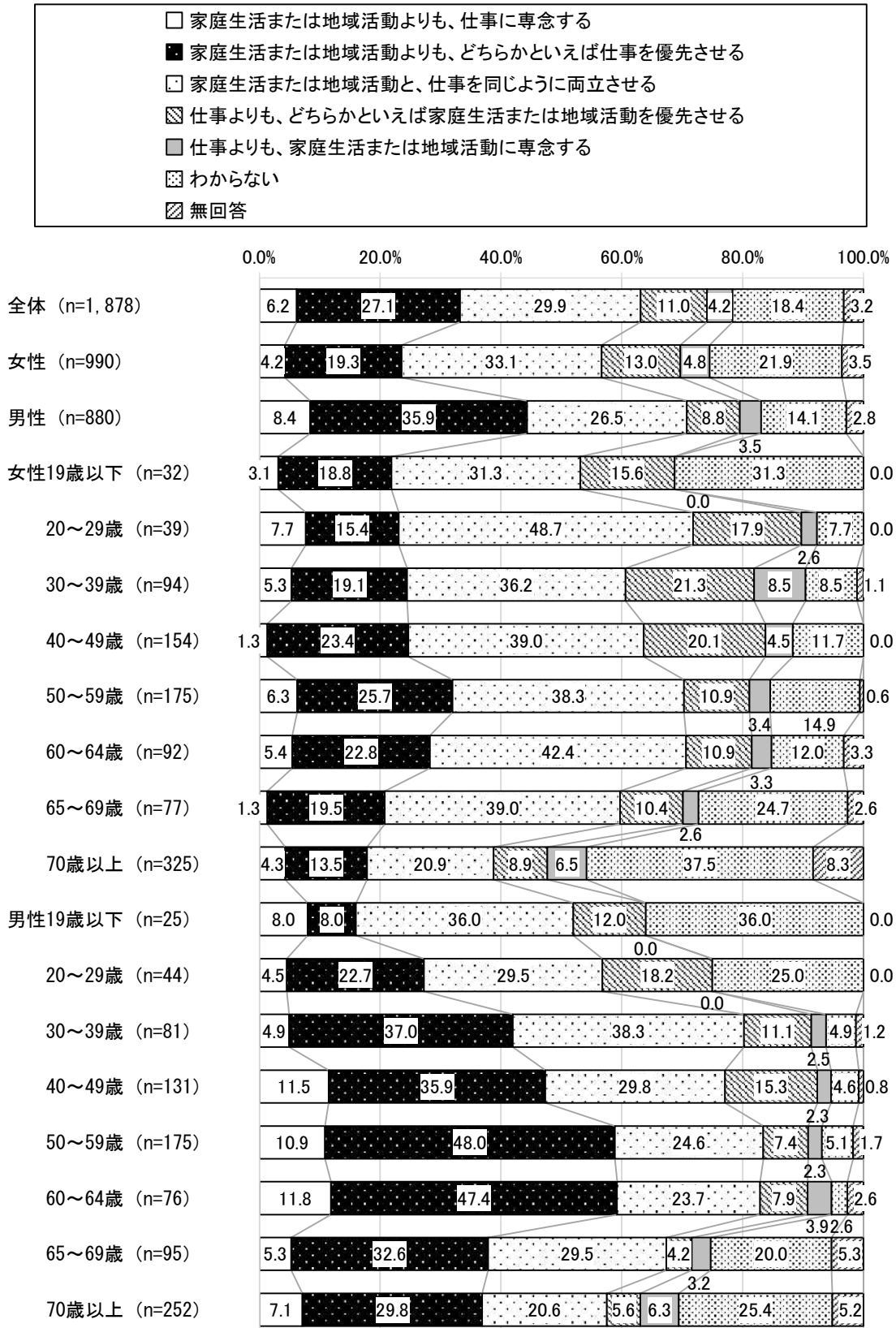
全体で見ると、仕事や学校に行っている男性で、平日の平均時間が長くなった（前回 71 分、今回 91 分）。特に末子が乳幼児（前回 116 分、今回 199 分）と小学生（前回 80 分、今回 142 分）の男性で長くなっており、1.7～1.8 倍となっている。

仕事や学校に行っている女性は、平日の平均時間はほとんど変化がない（前回 236 分、今回 232 分）が、男性と女性の平日の平均時間の差は前回よりも小さくなっている（前回 165 分、今回 141 分）。また、仕事や学校に行っている男性と女性の休日の平均時間の差も前回よりも小さくなっている（前回 210 分、今回 162 分）。

配偶者ありの就労別状況で見ると、夫婦とも働いている世帯で仕事や学校に行っている女性の平日の平均時間はほとんど変化がないが（前回 293 分、今回 294 分）、男性は平均時間が長くなっており（前回 75 分、今回 110 分）、夫婦とも働いている世帯で仕事や学校に行っている男性と女性の平日の平均時間の差は前回よりも小さくなっている（前回 218 分、今回 184 分）。

(4) 仕事と家庭生活や地域活動などの位置付け

問 14 仕事と、家庭生活（家事・育児・介護等）または地域活動（自治会・町内会やボランティアなど）との関係について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。（○は1つだけ）



＜全体結果＞

全体でみると、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」(29.9%)と答えた割合が最も高い。次いで「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」(27.1%)、「わからない」(18.4%)、「仕事よりも、どちらかといえば家庭生活または地域活動を優先させる」(11.0%)の順が続いている。

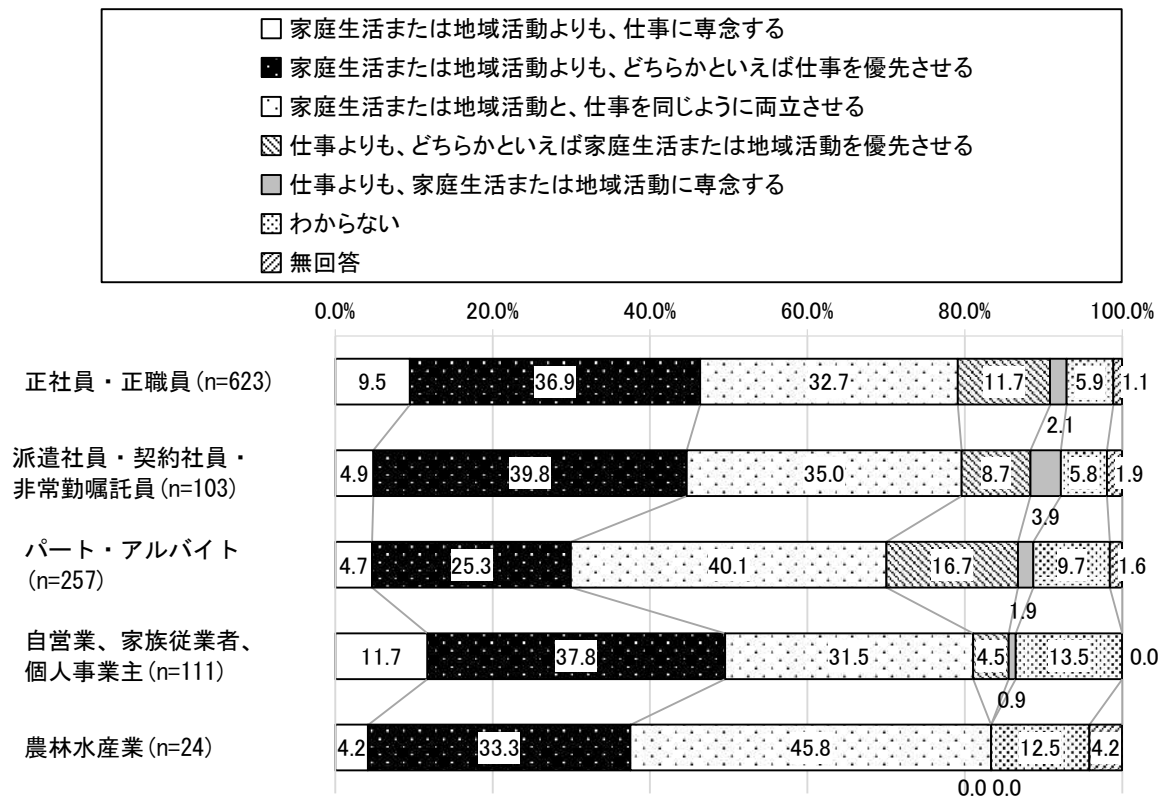
＜性別・年齢別＞

性別でみると、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」は男性(26.5%)より女性(33.1%)で割合が高く、3割を超えた。男性は「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」(35.9%)と答えた割合が最も高い。「家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する」「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」は女性より男性で割合が高く、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」「仕事よりも、どちらかといえば家庭生活または地域活動を優先させる」は男性より女性で割合が高い。

年齢別でみると、女性は70歳以上を除く年代で「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」と答えた割合が最も高く、女性の20歳代(48.7%)では約半数を占めた。一方、男性は30歳代以下で「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」が最も高くなっているが、40歳代以上では「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」と答えた割合が最も高く、年代による違いがみられた。

＜その他＞

職業別でみると、パート・アルバイトでは、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」と答えた割合が最も高いが、他では、「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」と答えた割合が最も高い。



＜前回調査との比較＞

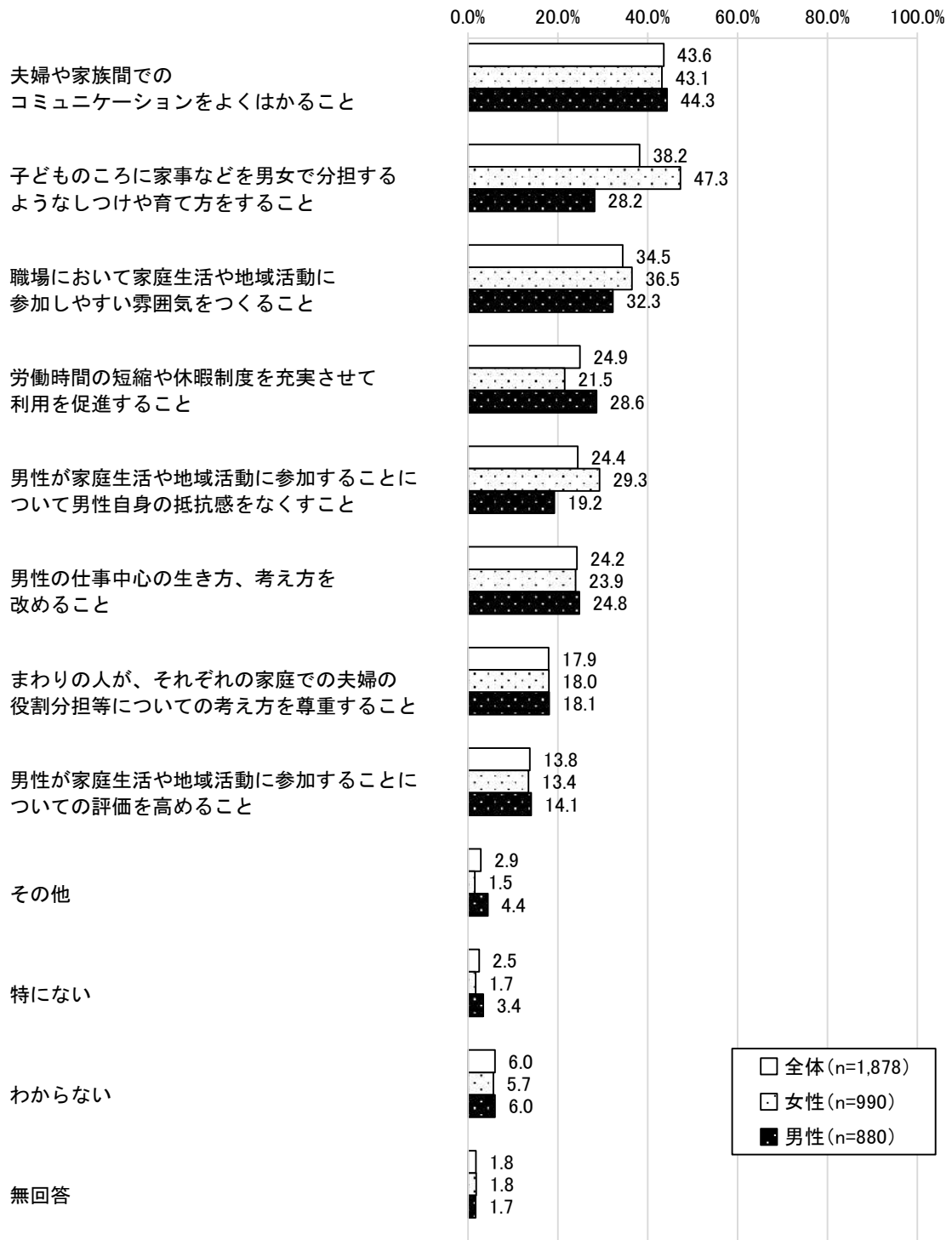
全体では、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」と答えた割合は、前回の 37.0% から今回 29.9% と 7.1 ポイント減少した。特に女性で減少幅が大きく女性では、前回の 43.0% から今回 33.1% と 9.9 ポイント減少した。

職業別で前回調査と比較すると、「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」と答えた割合は、正社員・正職員（前回 38.4%、今回 32.7%）で 5.7 ポイント、派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員（前回 38.3%、今回 35.0%）で 3.3 ポイント、自営業、家族従業者、個人事業主で（前回 40.5%、今回 31.5%）で 9.0 ポイント減少した。

前回調査ではすべての職業で「家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる」と答えた割合が最も高かったが、今回調査では「パート・アルバイト」を除く職業で「家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」が最も高い結果となった。

(5) 男性が家庭生活や地域活動等に積極的に参加していくために必要なこと

問 15 あなたは、男性が家庭生活（家事・育児・介護等）や地域活動（自治会・町内会やボランティアなど）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）



＜全体結果＞

全体でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(43.6%)と答えた割合が最も高い。以下「子どものころに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」(38.2%)、「職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること」(34.5%)、「労働時間の短縮や休暇制度を充実させて利用を促進すること」(24.9%)、「男性が家庭生活や地域活動に参加することについて男性自身の抵抗感をなくすこと」(24.4%)、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」(24.2%)で続いている。

＜性別＞

性別でみると、女性は「子どものころに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」(47.3%)と答えた割合が最も高く、男性は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(44.3%)と答えた割合が最も高い。「子どものころに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」(女性 47.3%、男性 28.2%)、「男性が家庭生活や地域活動に参加することについて男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性 29.3%、男性 19.2%)はいずれも男性より女性で10ポイント以上高く男女での差がみられた。

＜前回調査との比較＞

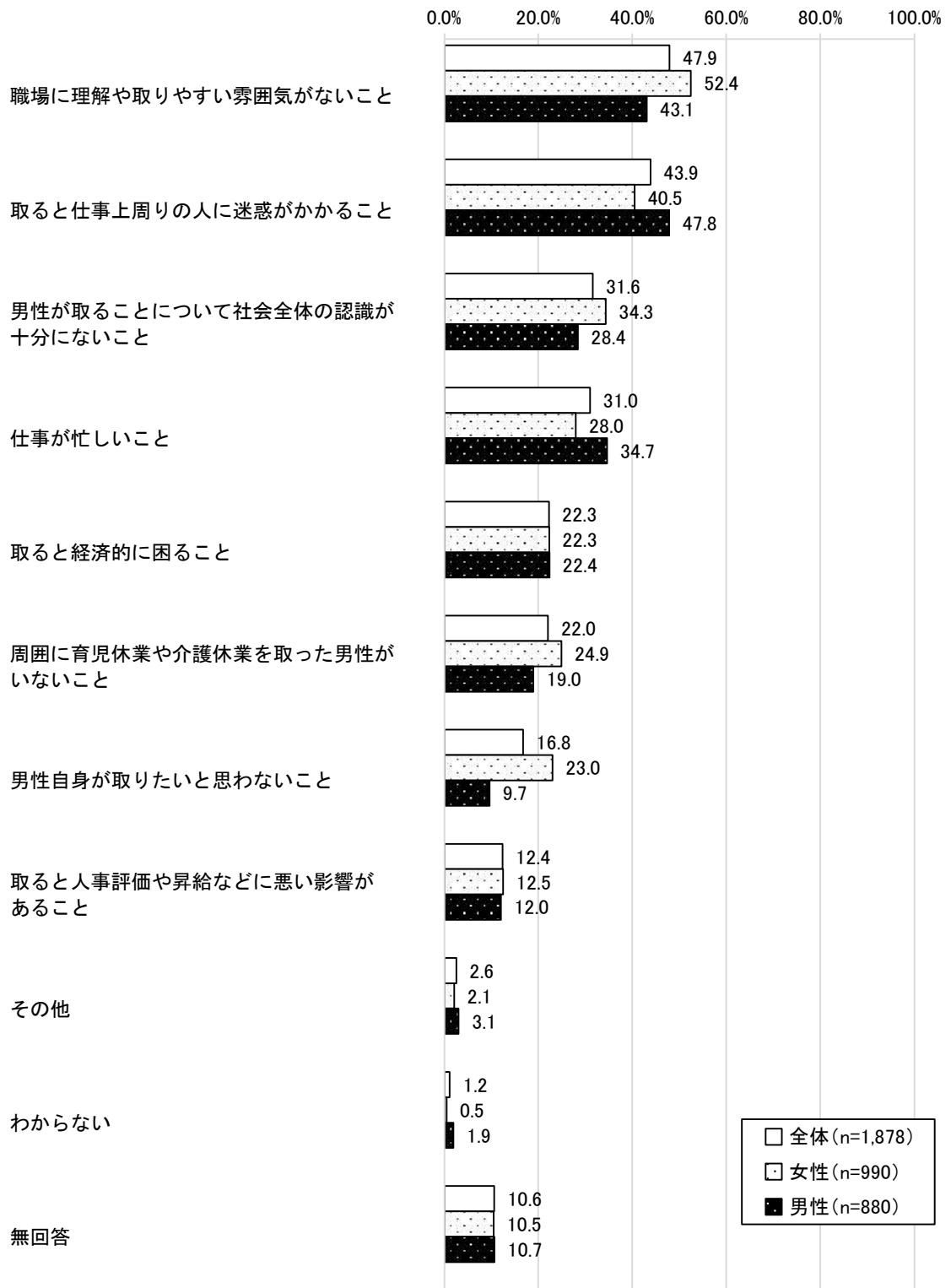
前回調査と比較すると、選択肢の内容が違っているが、子育て・教育（前回「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」、今回「子どものころに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」)についての必要性を感じている人が増えていることが窺える。

「男性が女性とともに家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なこと」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	46.3%	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	43.6%
職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること	42.4%	子どものころに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	38.2%
家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	29.0%	職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること	34.5%
労働時間の短縮や休暇制度を充実させて利用を促進すること	28.8%	労働時間の短縮や休暇制度を充実させて利用を促進すること	24.9%
男性が家庭生活や地域活動に参加することについて男性自身の抵抗感をなくすこと	25.4%	男性が家庭生活や地域活動に参加することについて男性自身の抵抗感をなくすこと	24.4%

(6) 男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するためのさまたげとなっているもの

問 16 あなたは、男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するためのさまたげとなっているものは何だと思いますか。(〇は3つまで)



＜全体結果＞

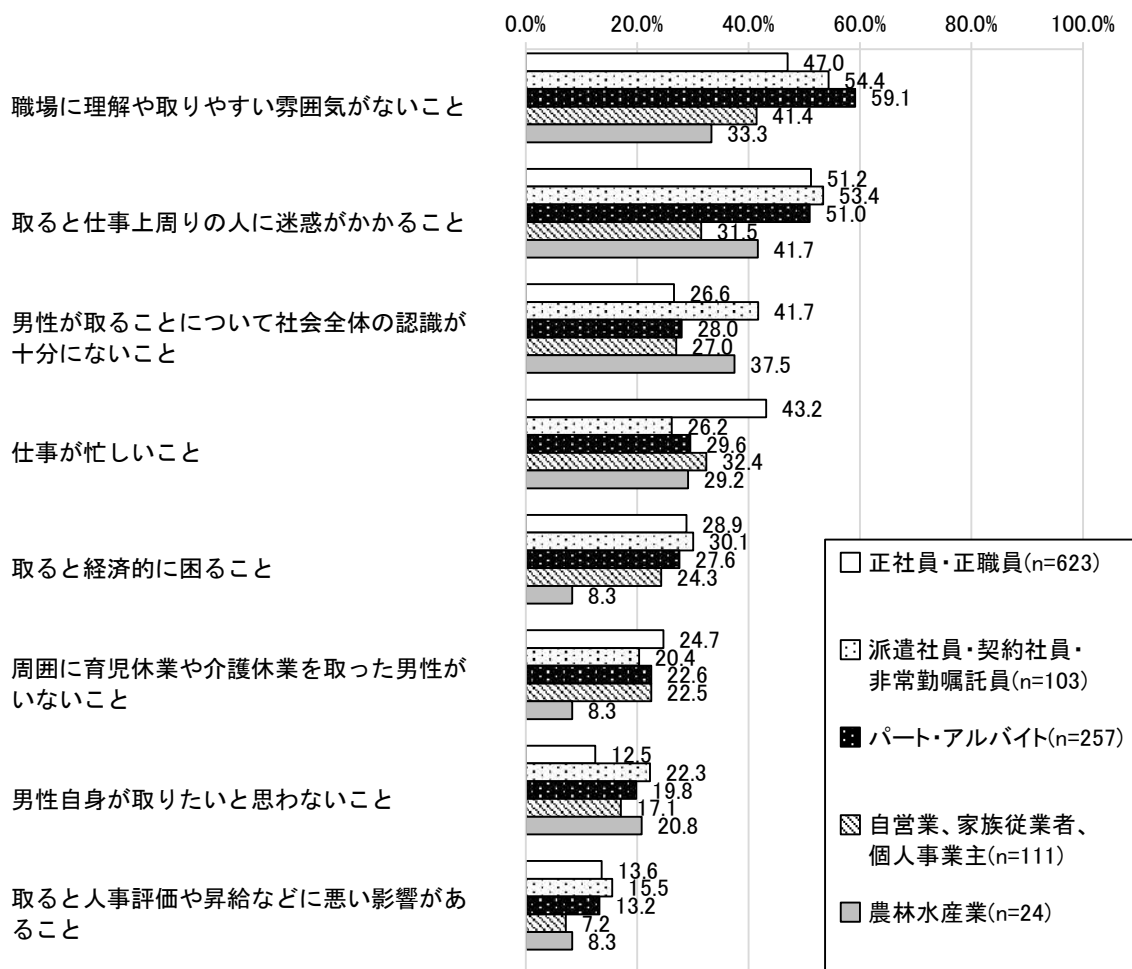
全体でみると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」(47.9%)と答えた割合が最も高かった。以下「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」(43.9%)、「男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないこと」(31.6%)、「仕事が忙しいこと」(31.0%)、「取ると経済的に困ること」(22.3%)、「周囲に育児休業や介護休業を取った男性がいないこと」(22.0%)と続いている。

＜性別＞

性別でみると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」の割合は、男性(43.1%)より女性(52.4%)で9.3ポイント高く差がみられる。「男性が取りたいと思わないこと」の割合も、男性(9.7%)より女性(23.0%)で13.3ポイント高く差がみられる

＜その他＞

職業別でみると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」の割合は、正社員・正職員を除く職業で割合が最も高い。正社員・正職員は「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」の割合が最も高かった。「男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないこと」は、派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員(41.7%)、で、「仕事が忙しい」は、正社員・正職員(43.2%)で答えた割合が高く、他の職業との差がみられた。



＜前回調査との比較＞

前回調査と比較すると、「職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと」、「男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないこと」、「周囲に育児休業や介護休業を取った男性がいないこと」の割合は減少しており、社会や職場の環境の変化が窺えるが、「取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること」、「仕事が忙しい」という本人の仕事の環境についてはあまり変化がなかった。

「男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するためのさまたげとなっているもの」の割合が高い領域

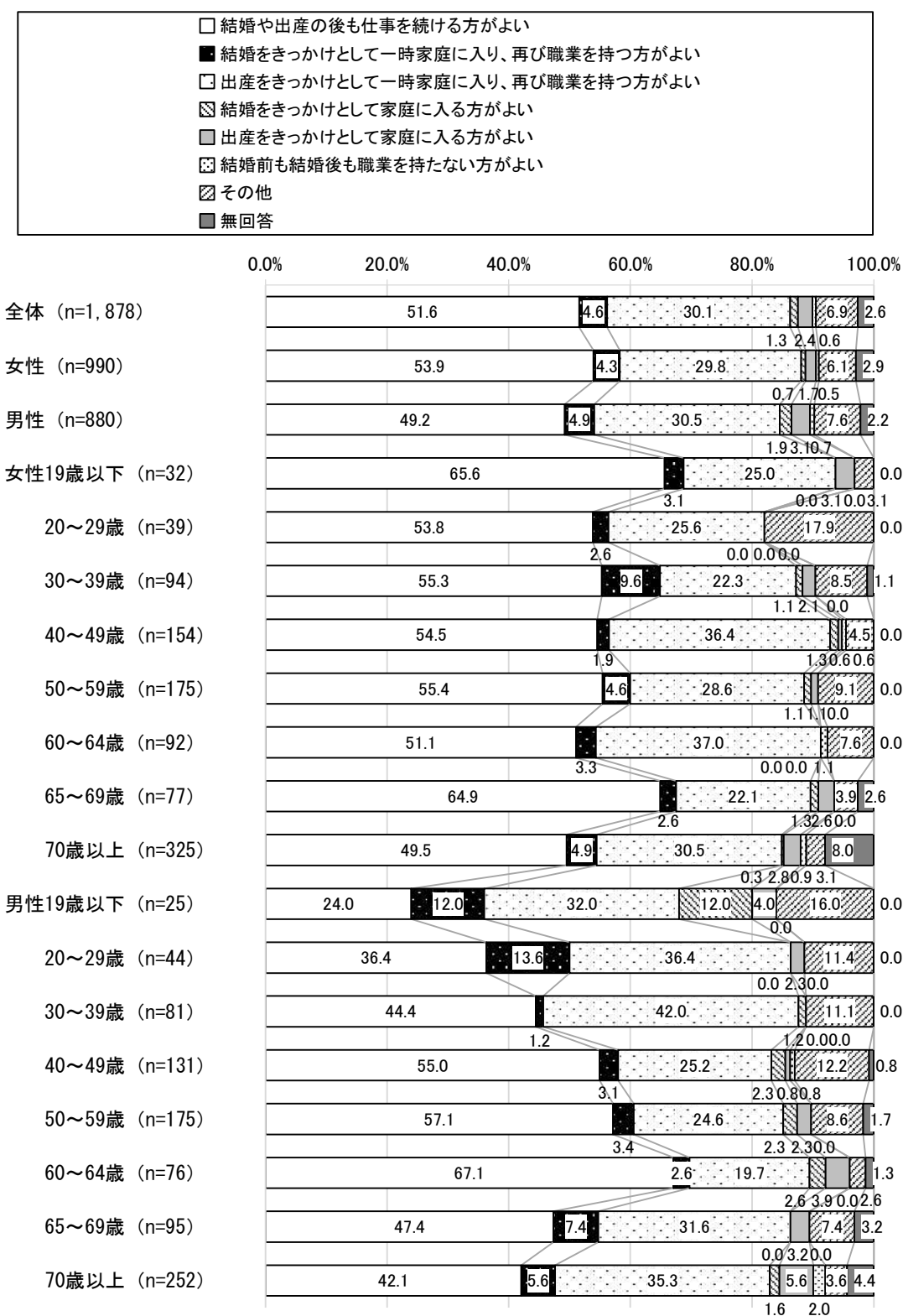
R1 年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと	52.6%	職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと	47.9%
取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること	43.8%	取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること	43.9%
男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないこと	41.3%	男性が取ることにについて社会全体の認識が十分でないこと	31.6%
周囲に育児休業や介護休業を取った男性がいないこと	33.9%	仕事が忙しいこと	31.0%
仕事が忙しいこと	30.5%	周囲に育児休業や介護休業を取った男性がいないこと	22.0%

4 女性の活躍推進

(1) 女性の職業と生活設計についての考え方

問 17 あなたは、女性の職業と生活設計についてどのように考えますか。

(○は1つだけ)



＜全体結果＞

全体でみると、「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」（51.6%）と答えた割合が最も高く約5割を占めた。次いで「出産をきっかけとして一時家庭に入り、再び職業を持つ方がよい」（30.1%）が約3割という結果となった。この2項目で約8割を占めている。

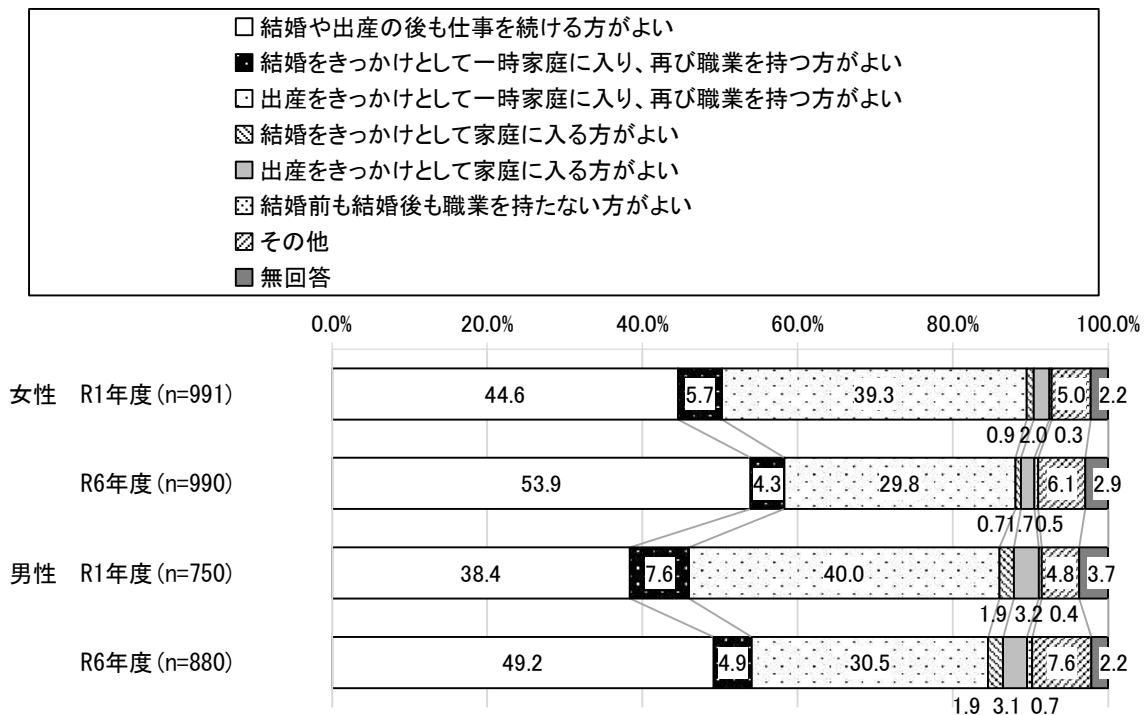
＜性別・年齢別＞

性別でみると、「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」は、男性（49.2%）より女性（53.9%）で割合が高い。

年齢別でみると、「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」の割合が高かったのは、女性では19歳以下（65.6%）、65～69歳（64.9%）、男性では60～64歳（67.1%）で6割を超えた。「出産をきっかけとして一時家庭に入り、再び職業を持つ方がよい」と答えた割合が最も高かったのは、男性19歳以下のみであった（男性20歳代は「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」と同率）。

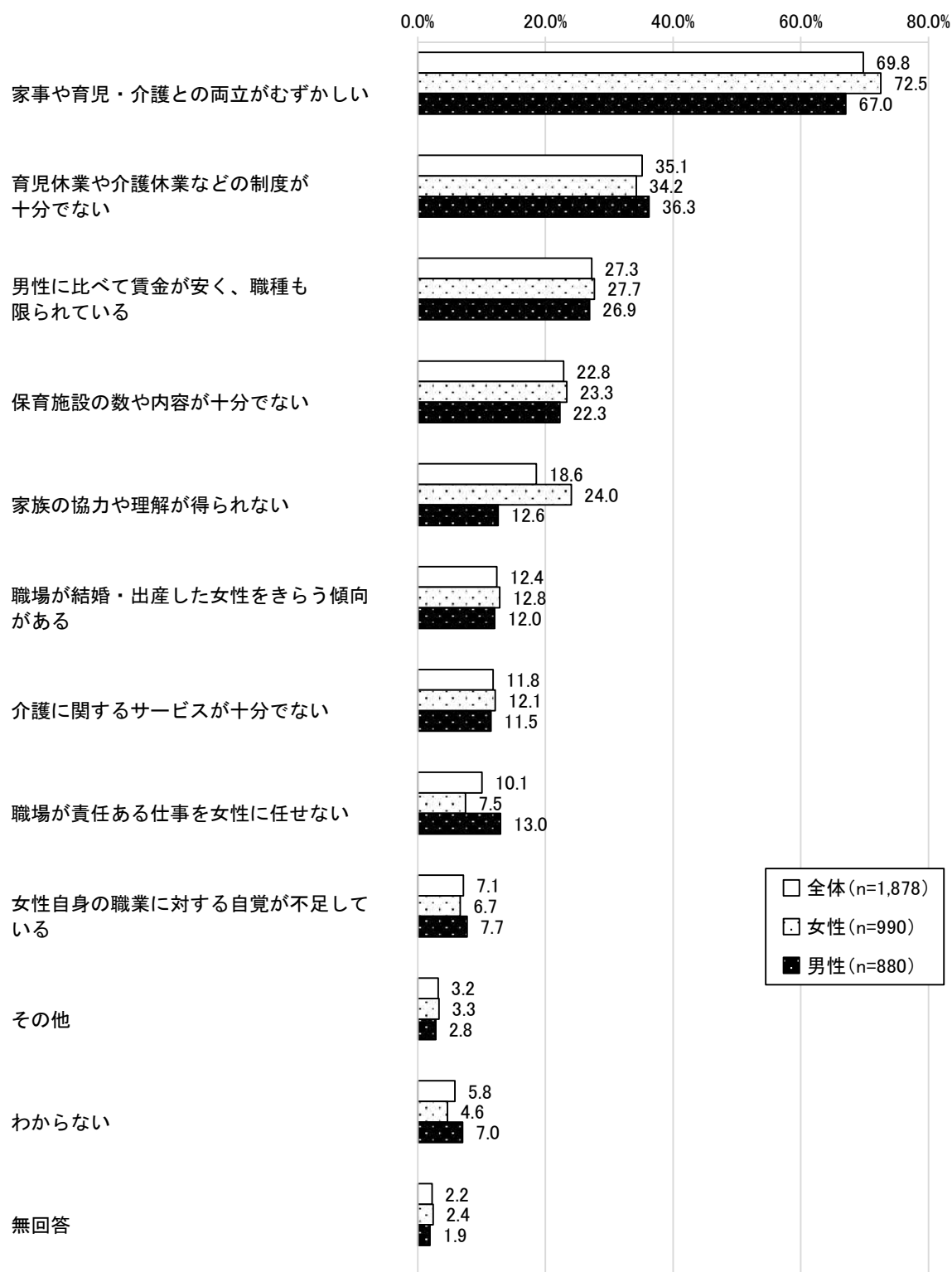
＜前回調査との比較＞

男女とも「結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい」と答えた割合が大きく増加している。



(2) 女性が職業を持ち続けていくうえで課題になること

問 18 女性が職業を持ち続けていくうえで、あなたが課題だと思うことは何ですか。(○は3つまで)



＜全体結果＞

全体でみると、「家事や育児・介護との両立がむずかしい」（69.8％）と答えた割合が約7割で、最も高い。以下「育児休業や介護休業などの制度が十分でない」（35.1％）、
「男性に比べて賃金が安く、職種も限られている」（27.3％）、「保育施設の数や内容が十分でない」（22.8％）、「家族の協力や理解が得られない」（18.6％）、「職場が結婚・出産した女性をきらい傾向がある」（12.4％）の順に続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女とも「家事や育児・介護との両立がむずかしい」と答えた割合が最も高く、男性（67.0％）より女性（72.5％）で割合が高い。「育児休業や介護休業などの制度が十分でない」は女性（34.2％）より男性（36.3％）で割合が高い。「家族の協力や理解が得られない」と答えた割合では、女性（24.0％）が男性（12.6％）の2倍近くとなっている。

＜前回調査との比較＞

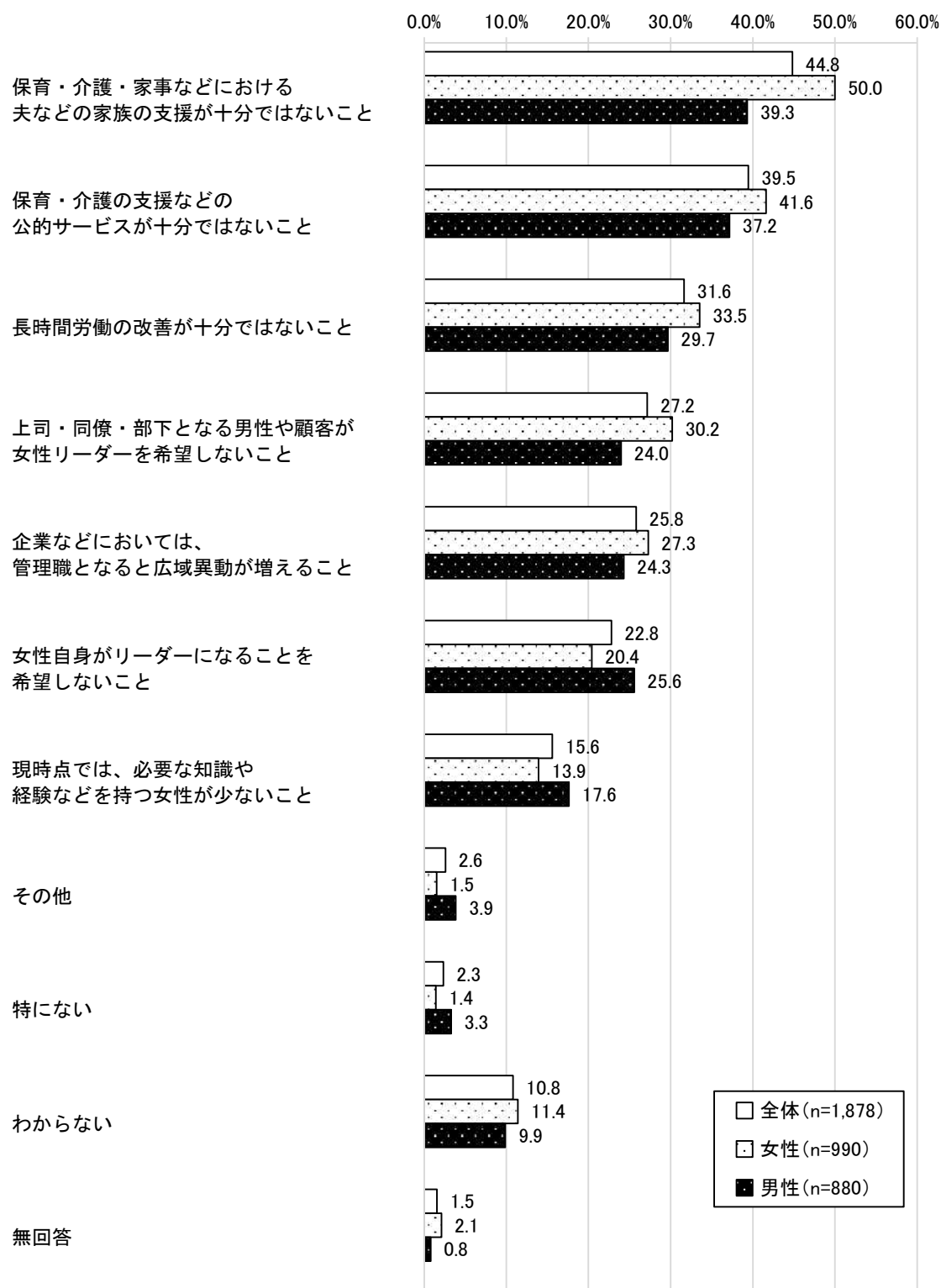
前回調査と比較すると、「保育施設の数や内容が十分でない」が10.8ポイント、「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が4.7ポイント、「男性に比べて賃金が安く、職種も限られている」が6.3ポイント減少している。

「女性が職業を持ち続けていくうえで課題だと思われること」の割合が高い領域

R1 年調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
家事や育児・介護との両立がむずかしい	70.3％	家事や育児・介護との両立がむずかしい	69.8％
育児休業や介護休業などの制度が不十分である	39.8％	育児休業や介護休業などの制度が不十分である	35.1％
保育施設の数や内容が十分でない	33.6％	男性に比べて賃金が安く、職種も限られている	27.3％
男性に比べて賃金が安く、職種も限られている	24.6％	保育施設の数や内容が十分でない	22.8％
家族の協力や理解が得られない	17.7％	家族の協力や理解が得られない	18.6％

(3) 女性のリーダーを増やすときにさまたげとなっているもの

問 19 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに
さまたげとなっているものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)



＜全体結果＞

全体でみると、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(44.8%)と答えた割合が最も高い。以下「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(39.5%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(31.6%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(27.2%)、「企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること」(25.8%)の順が続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女とも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高く、男性(39.3%)より女性(50.0%)で10.7ポイント高く差がみられた。女性よりも男性で割合が高いのは「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(女性13.9%、男性17.6%)、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(女性20.4%、男性25.6%)で、他はすべて男性よりも女性で割合が高い。

＜前回調査との比較＞

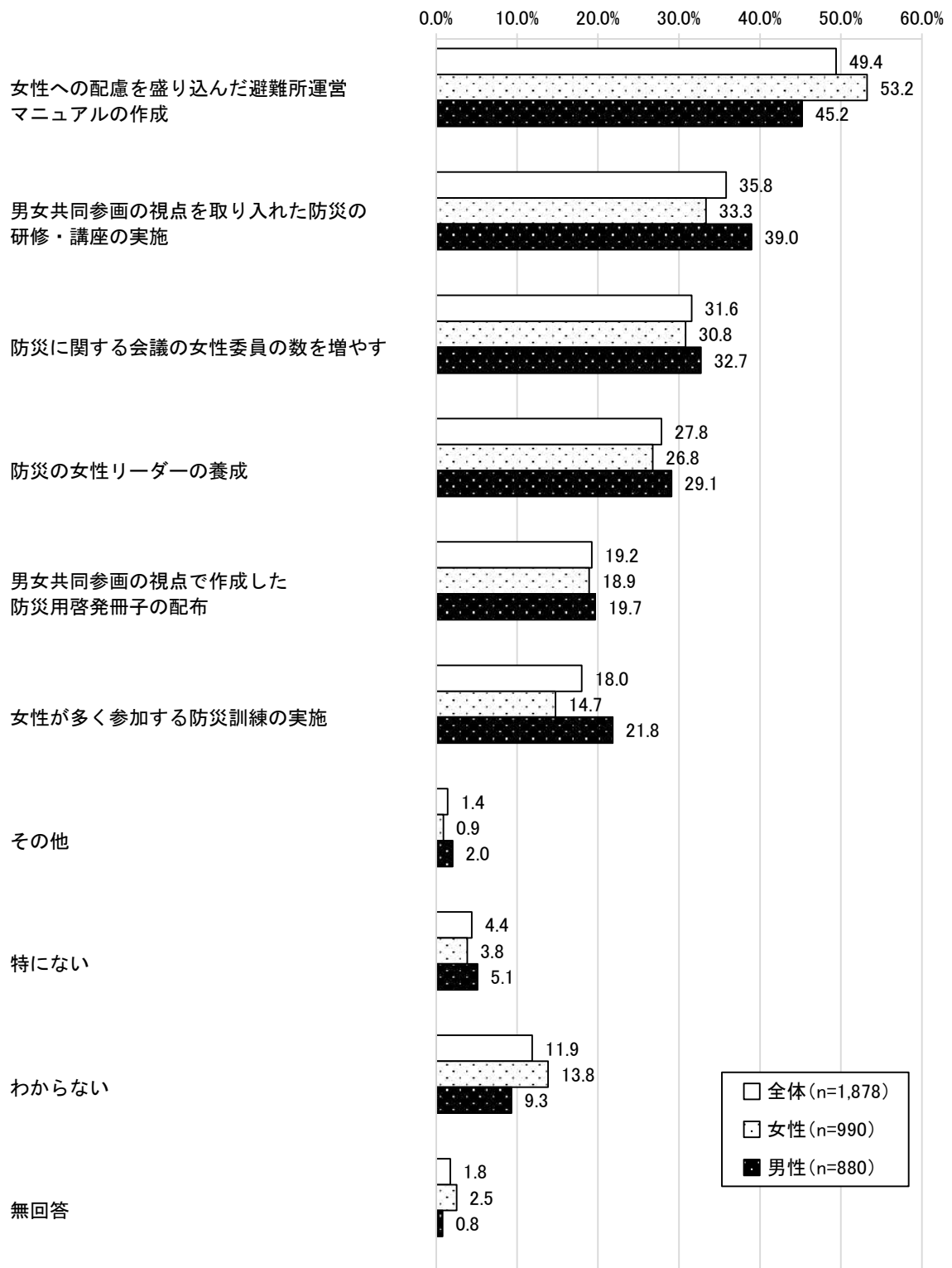
前回調査と比較すると、「企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること」以外は減少している。特に「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の減少幅が大きく、7.1ポイント減少した。

「女性のリーダーを増やすときにさまたげとなるもの」の割合が高い領域

R1年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	46.6%	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	44.8%
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	45.9%	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	39.5%
長時間労働の改善が十分ではないこと	35.2%	長時間労働の改善が十分ではないこと	31.6%
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	27.3%	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	27.2%
企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること	22.8%	企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること	25.8%

(4) 災害対応として必要なこと

問 20 あなたは、男女共同参画の視点で考えたときの災害対応として、日頃から、どのようなことを行っていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)



＜全体結果＞

全体でみると、「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」（49.4％）と答えた割合が最も高い。以下「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」（35.8％）、「防災に関する会議の女性委員の数を増やす」（31.6％）、「防災の女性リーダーの養成」（27.8％）、「男女共同参画の視点で作成した防災用啓発冊子の配布」（19.2％）、「女性が多く参加する防災訓練の実施」（18.0％）の順が続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女とも「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」の割合が最も高く、男性（45.2％）より女性（53.2％）で8.0ポイント高い。男性よりも女性で割合が高いのは「女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成」のみ（「わからない」を除く）で、他はすべて女性よりも男性で割合が高い。

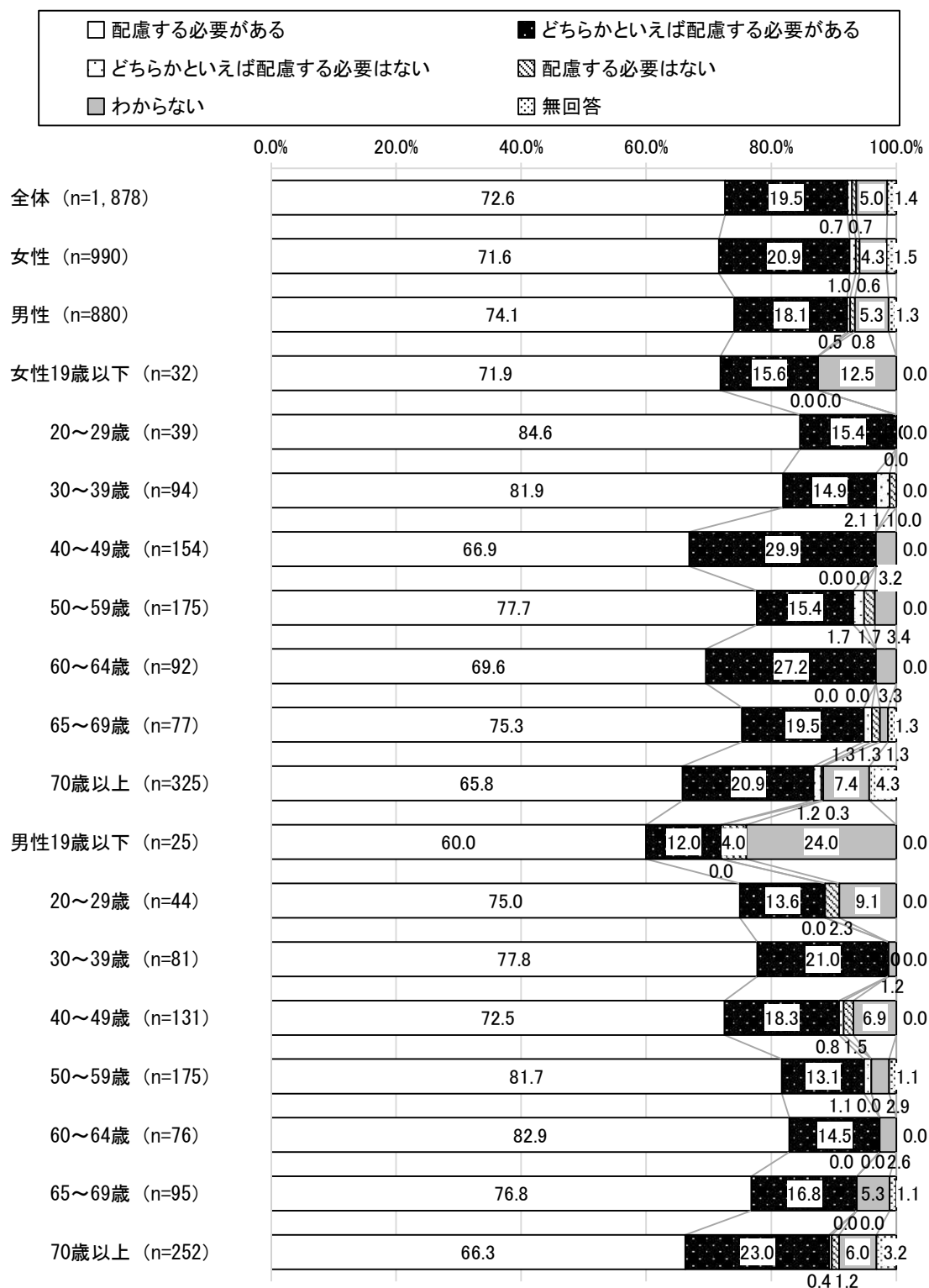
＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

5 女性の健康と権利

(1) 女性の健康と権利についての配慮

問 21 あなたは、妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、乳がん等の検査、性感染症など女性の健康と権利について、職場、地域、学校、家庭などで配慮する必要があると思いますか。(○は1つだけ)



<全体結果>

女性の健康と権利について、「配慮する必要がある」「どちらかといえば配慮する必要がある」を合わせた『配慮する必要がある』(以下同)(92.2%)と回答した割合が9割以上で、「どちらかといえば配慮する必要はない」「配慮する必要はない」を合わせた『配慮する必要はない』(以下同)(1.4%)を大きく上回った。

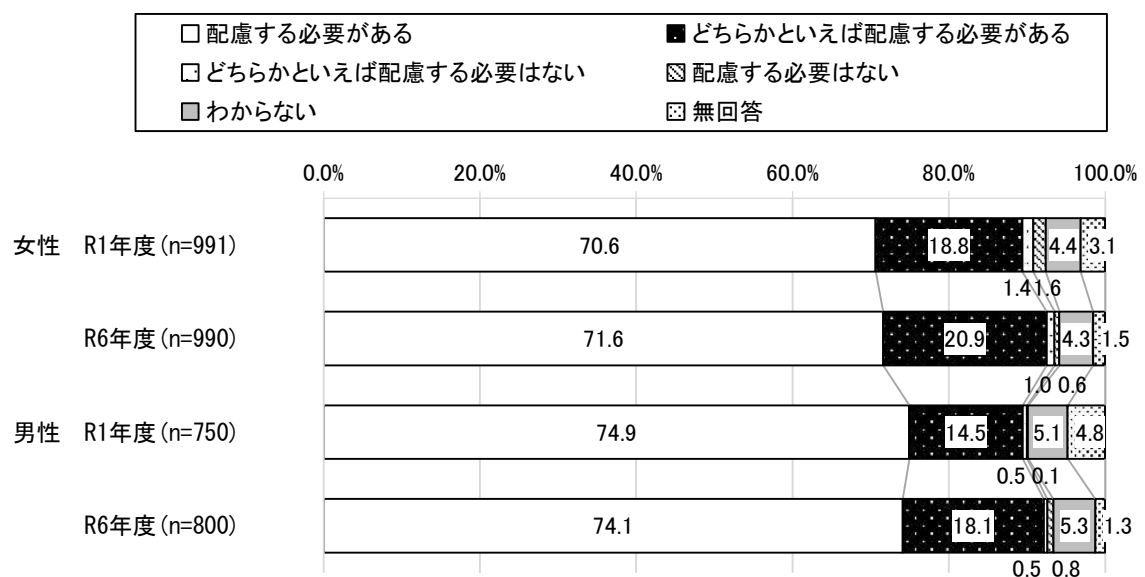
<性別・年齢別>

性別でみると、男女ともに『配慮する必要がある』が9割を超えている。

年齢別でみると、男女とも若い世代で「わからない」と答えた割合が高いが、どの年齢層でも、『配慮する必要はない』と答えた割合は5%以下とわずかであった。

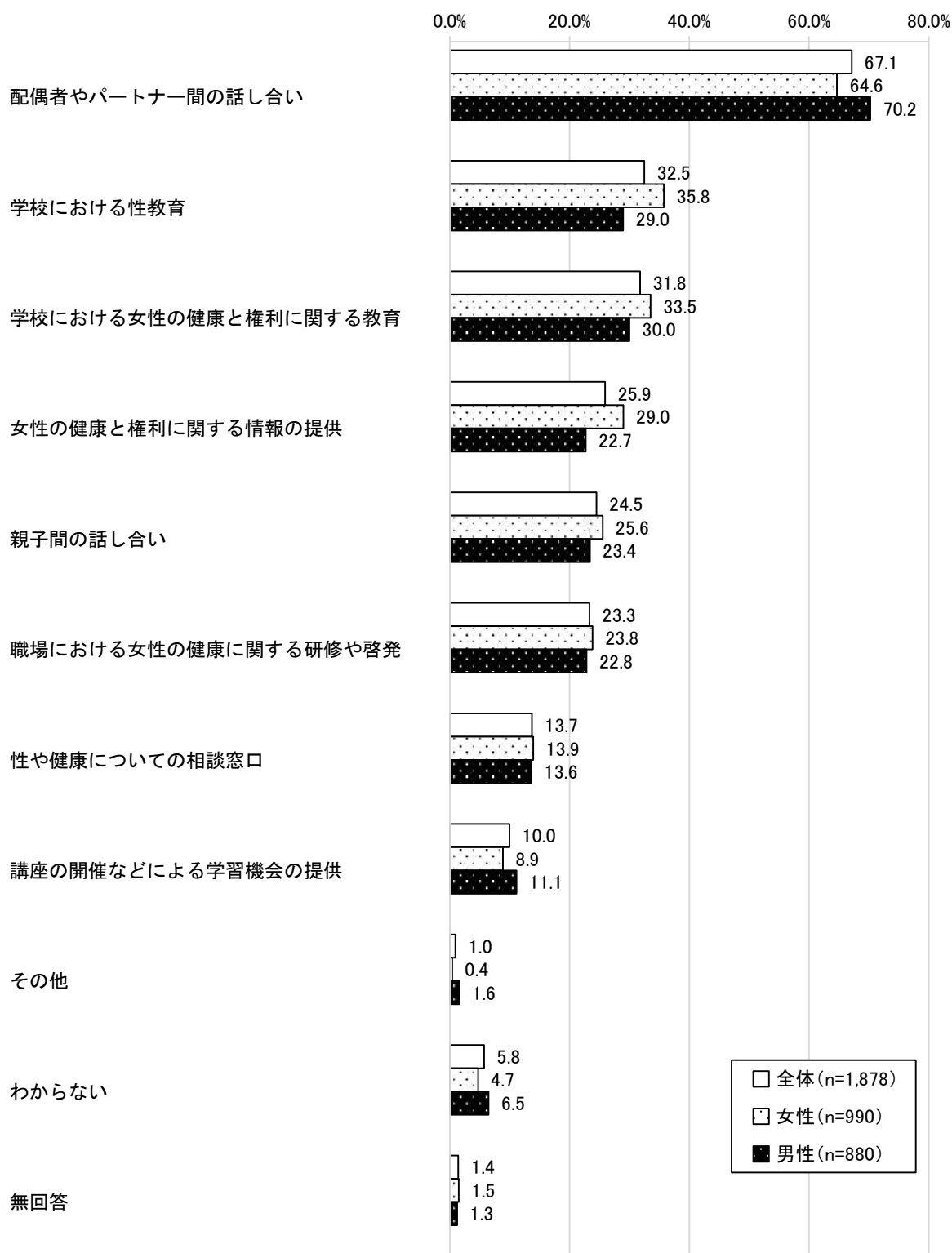
<前回調査との比較>

前回調査と比較すると、「配慮する必要がある」と答えた割合は、女性では1.0ポイント増加したが、男性では0.8ポイント減少した。



(2) 女性の健康と権利について、男女が理解し合うために必要なこと

問 22 あなたは、妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、乳がん等の検査、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。(〇は3つまで)



＜全体結果＞

全体でみると、「配偶者やパートナー間の話し合い」（67.1％）と答えた割合が最も高い。次いで「学校における性教育」（32.5％）、「学校における女性の健康と権利に関する教育」（31.8％）、の学校での教育に関する項目が3割台で続き、以下「女性の健康と権利に関する情報の提供」（25.9％）、「親子間の話し合い」（24.5％）、「職場における女性の健康に関する研修や啓発」（23.3％）の順に続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女とも「配偶者やパートナー間の話し合い」の割合が最も高く、女性（64.6％）より男性（70.2％）で高い。女性よりも男性で割合が高いのは「配偶者やパートナー間の話し合い」、「講座の開催などによる学習機会の提供」のみで、他はすべて女性よりも男性で割合が高い。

＜前回調査との比較＞

前回調査にはなかった、「女性の健康と権利に関する情報の提供」が25.9％を占めたため、他の項目の割合が減少したが、順位に大きな変化はない。

「女性の健康と権利について、男女が理解し合うために必要なこと」の割合が高い領域

R1 年調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
配偶者やパートナー間の話し合い	74.9％	配偶者やパートナー間の話し合い	67.1％
学校における性教育	41.1％	学校における性教育	32.5％
学校における女性の健康と権利に関する教育	36.3％	学校における女性の健康と権利に関する教育	31.8％
親子間の話し合い	29.4％	女性の健康と権利に関する情報の提供	25.9％
性や健康についての相談窓口	13.9％	親子間の話し合い	24.5％

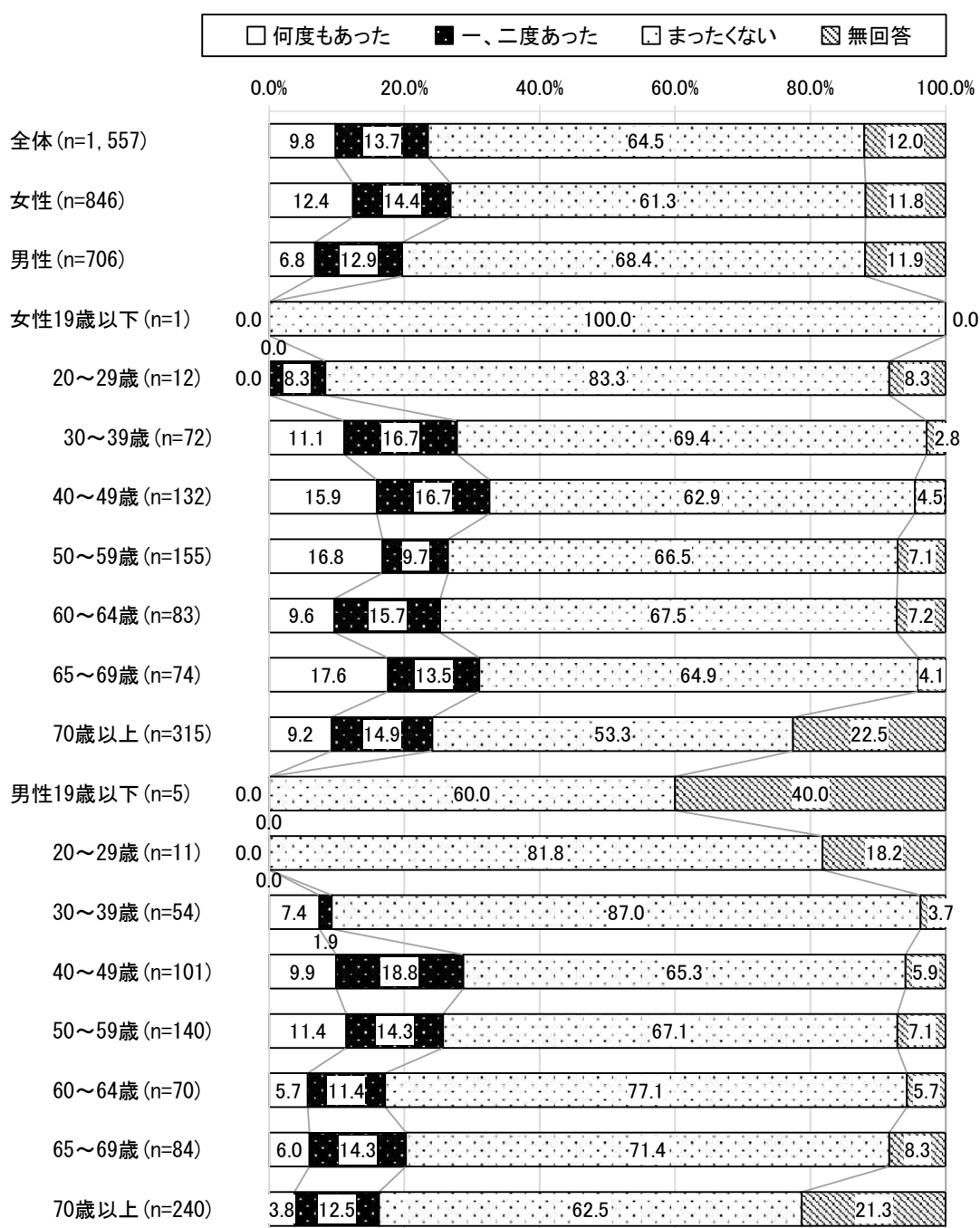
6 配偶者からの暴力（DV）

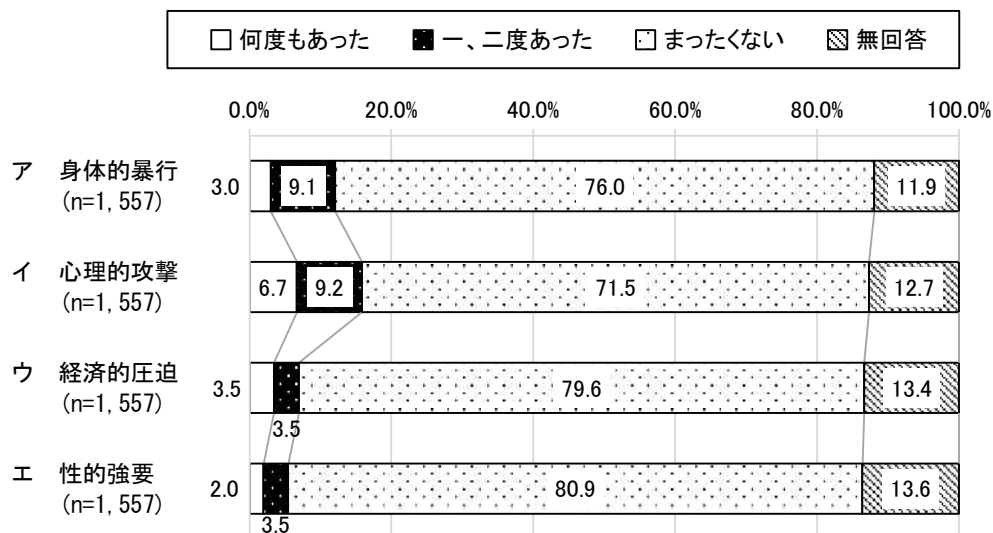
<配偶者がいる（いた）方のみ>

(1) 配偶者からの暴力（DV）を受けた体験の有無

問 23 あなたは、配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
（○はそれぞれ1つつ）

※ア～エのいずれかに「何度もあった」と回答があった場合「何度もあった」、それ以外でいずれかに「一、二度あった」と回答があった場合「一、二度あった」として集計。





- ※ 身体的暴行＝なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行
- 心理的攻撃＝人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分または自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫
- 経済的圧迫＝生活費を渡さない、外で働くことを妨害される、給料や貯金を勝手に使われるなど
- 性的強要＝嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

<全体結果>

「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかについて配偶者からの被害体験の有無を全体でみると、「何度もあった」(9.8%)が約1割、「一、二度あった」が13.7%、「何度もあった」「一、二度あった」と答えた割合を合わせた『あった』(以下同)(23.5%)は、およそ4人に1人の割合となった。

項目別では、すべての項目で「まったくない」と答えた割合が最も高く、7割を超えた。『あった』の割合は、「心理的攻撃」(15.9%)で最も高く、合わせると約1割半ばを占めている。次いで「身体的暴行」(12.1%)、「経済的圧迫」(7.0%)、「性的強要」(5.5%)の順となった。

<性別・年齢別>

性別でみると、『あった』と答えた割合は、男性（19.7%）より女性（26.8%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を7.1ポイント上回った。

年齢別でみると、『あった』の割合は、女性は40歳代（32.6%）で最も高く、男性も同様に40歳代（28.7%）で最も高い。女性の40歳代と65～69歳で『あった』が3割を超えた。

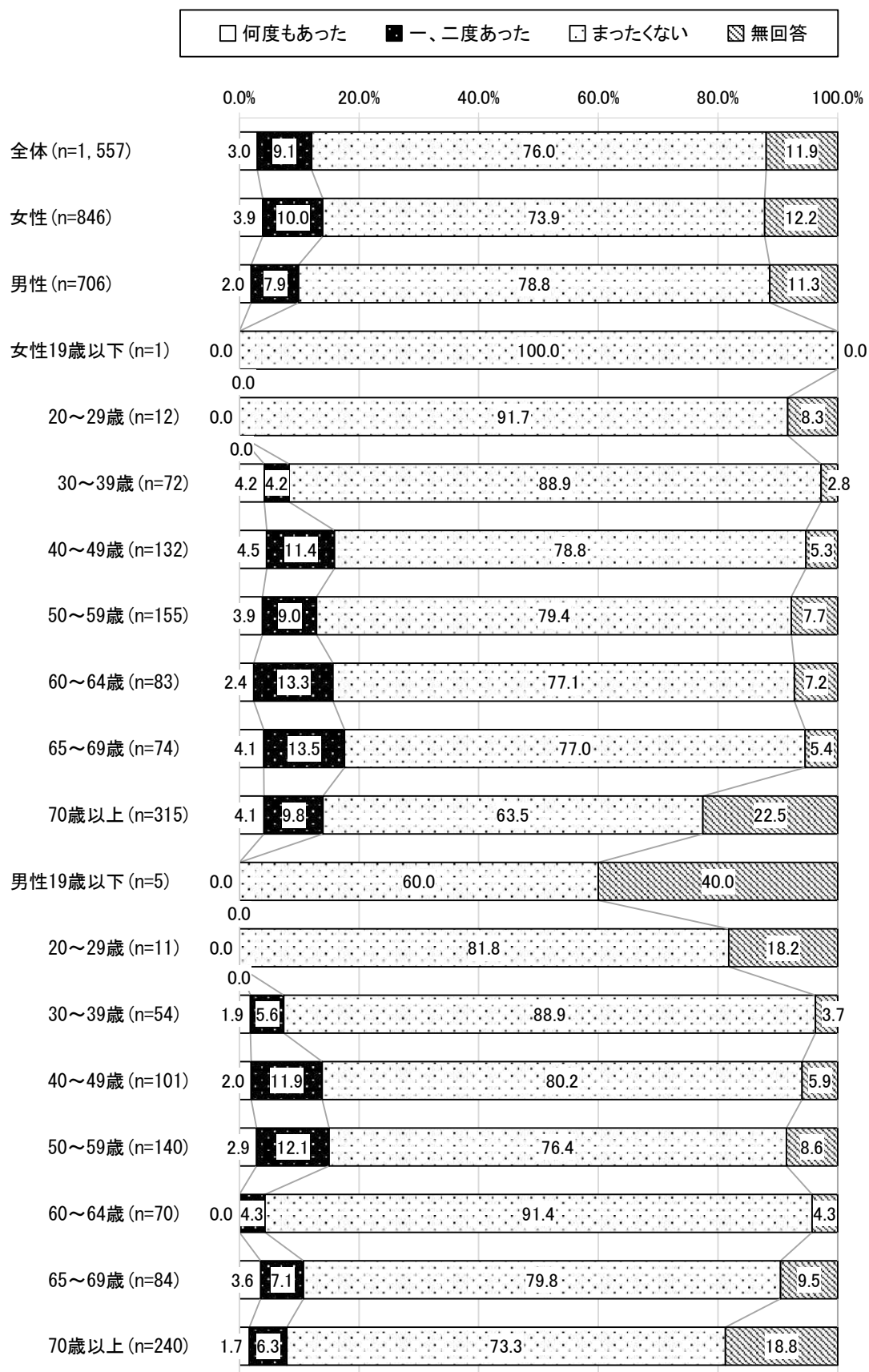
<前回調査との比較>

前回調査との差は、あまりみられない。

「何度もあった」「一、二度あった」を合わせた割合が高い領域

R1 調査（n=1,445）		今回調査（n=1,557）	
心理的攻撃	14.7%	心理的攻撃	15.9%
身体的暴行	11.4%	身体的暴行	12.1%
経済的圧迫	7.8%	経済的圧迫	7.0%
性的強要	5.4%	性的強要	5.5%

ア 配偶者から「身体的暴行」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「何度もあった」が3.0%、「一、二度あった」が9.1%、「まったくない」が76.0%。『あった』(12.1%)は1割強という結果となった。

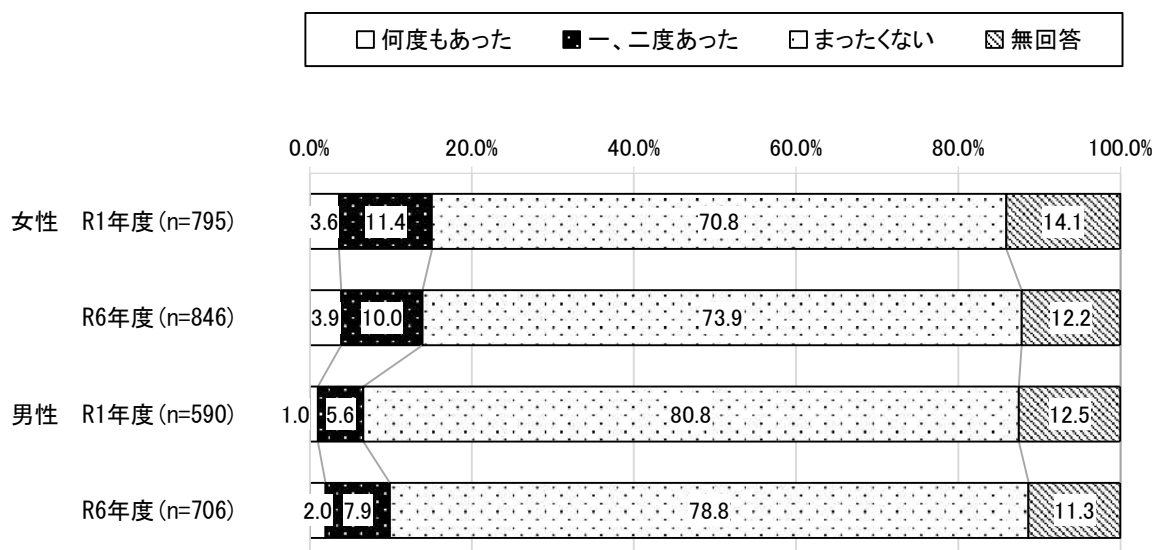
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった』と答えた割合は、男性(9.9%)より女性(13.9%)で割合が高く、女性の割合が男性の割合を4.0ポイント上回った。

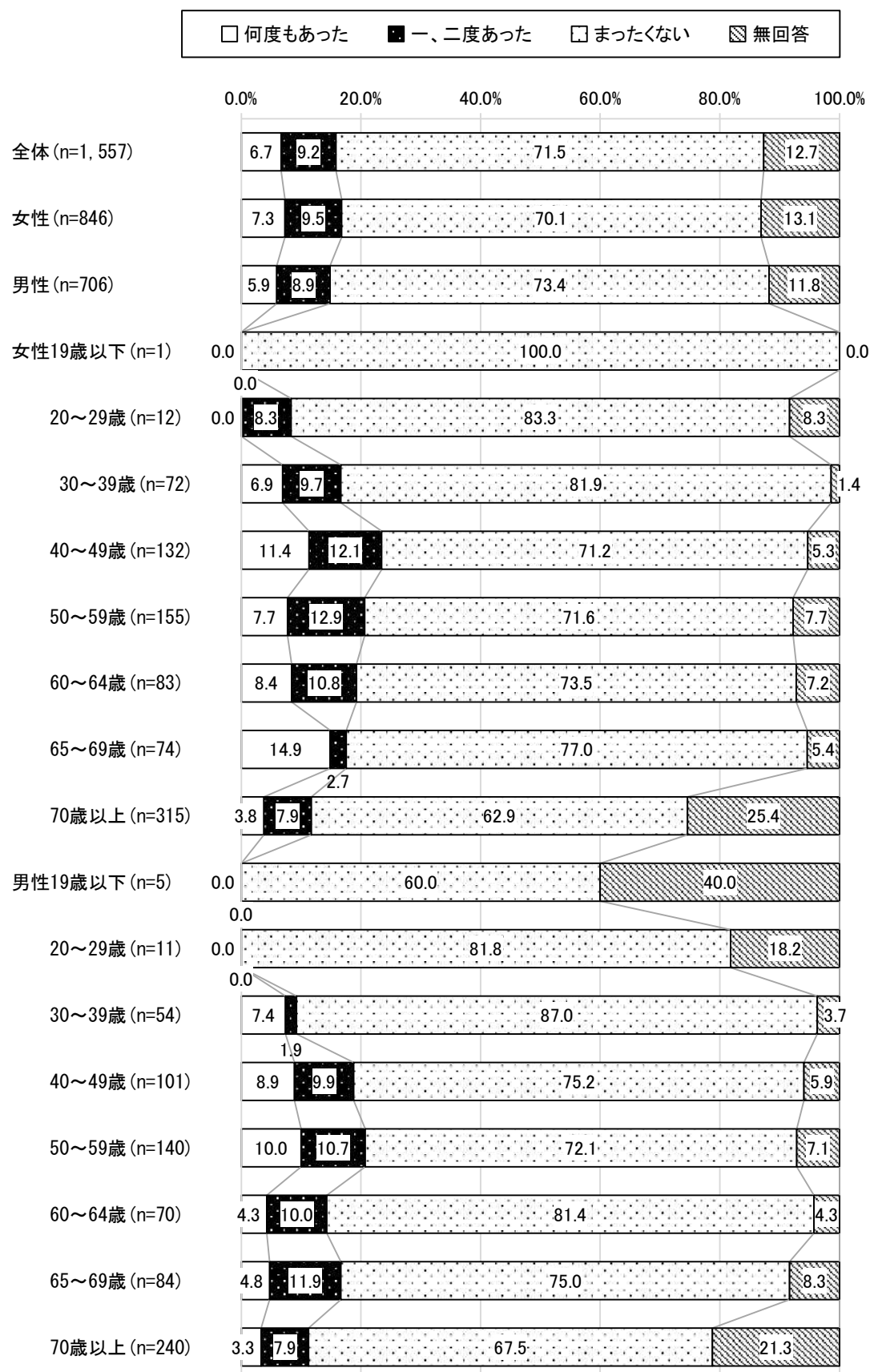
年齢別でみると、『あった』の割合は、女性は65～69歳(17.6%)で最も高く、男性は50歳代(15.0%)で最も高い。女性の40歳代以上で『あった』が約1割半ばを占め、30歳代以下と比べて割合がやや高い。

<前回調査との比較>

前回調査と比較して、女性では差はあまりみられないが、男性では『あった』が3.3ポイント増加した。



イ 配偶者から「心理的攻撃」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「何度もあった」が6.7%、「一、二度あった」が9.2%、「まったくない」が71.5%。『あった』(15.9%)は約1割半ばという結果となった。

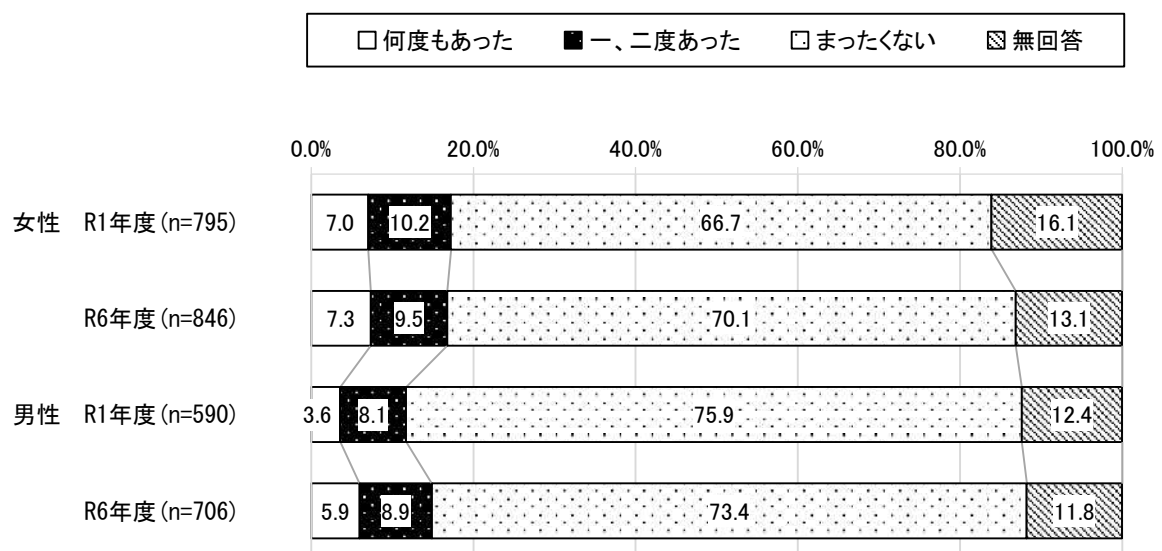
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった』と答えた割合は、男性(14.9%)より女性(16.8%)で割合が高い。

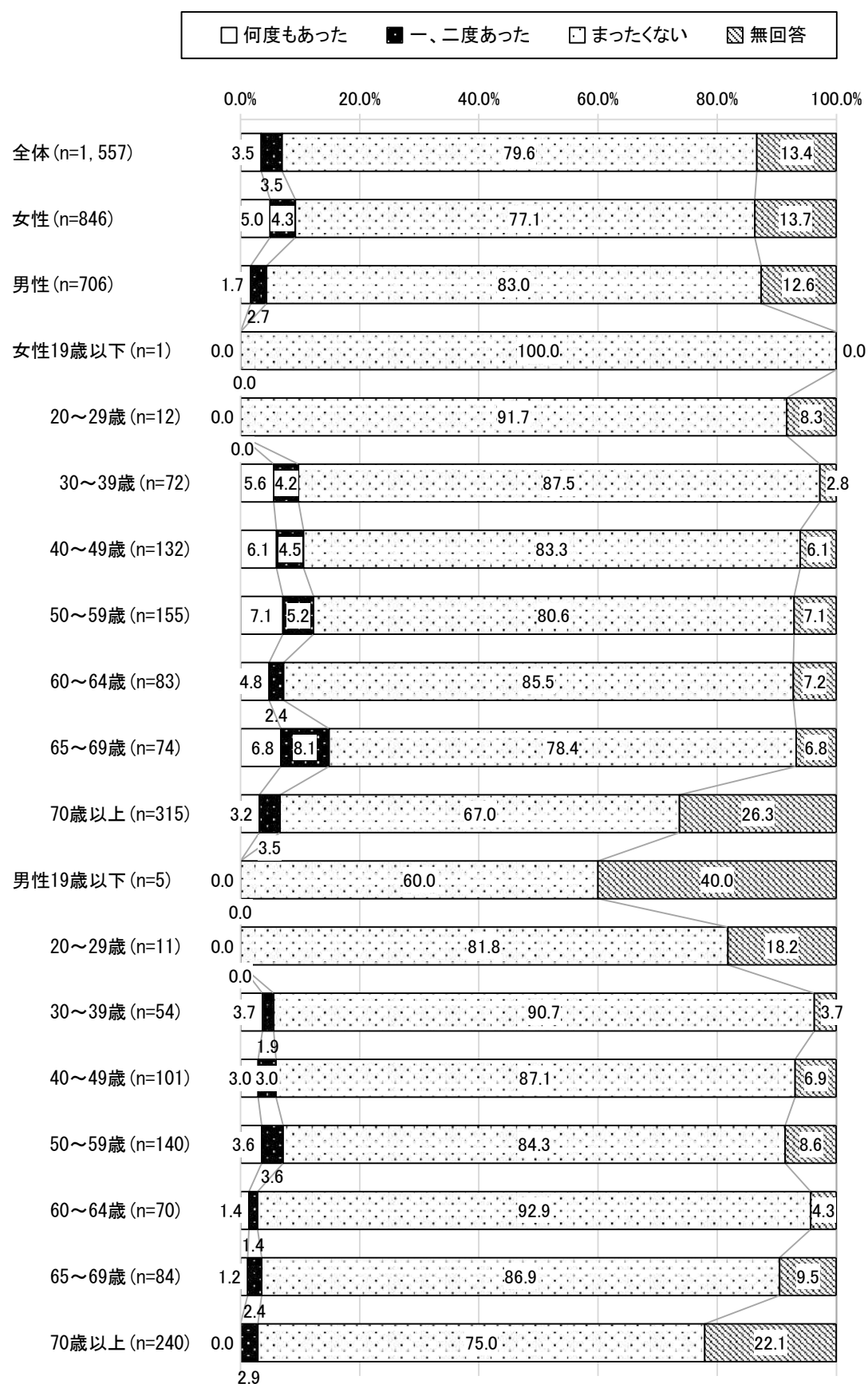
年齢別でみると、『あった』の割合は、女性は40歳代(23.5%)で最も高く、次いで50歳代(20.6%)で割合が高い。男性は50歳代(20.7%)で最も高く、次いで40歳代(18.8%)で割合が高い。「何度もあった」は女性の65～69歳で最も高く、1割半ばとなっている。

<前回調査との比較>

前回調査と比較して、女性では差はあまりみられないが、男性では『あった』が3.1ポイント増加した。



ウ 配偶者から「経済的圧迫」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「何度もあった」が 3.5%、「一、二度あった」が 3.5%、「まったくない」が 79.6%。『あった』(7.0%) は 1 割弱という結果となった。

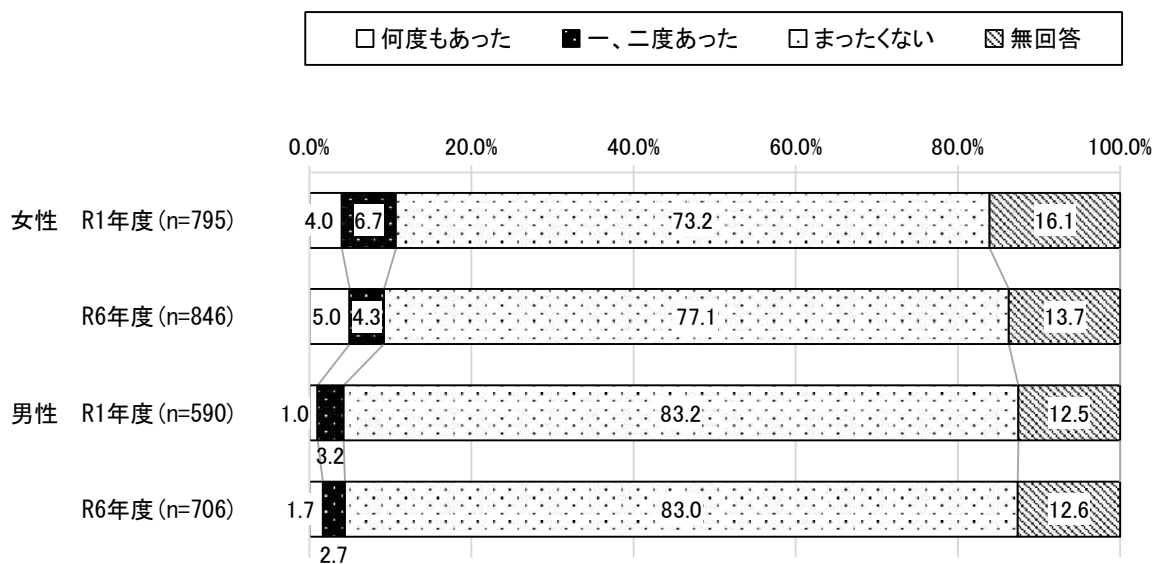
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった』と答えた割合は、男性(4.4%)より女性(9.2%)で割合が高く、女性の割合が男性の割合を 4.8 ポイント上回っている。

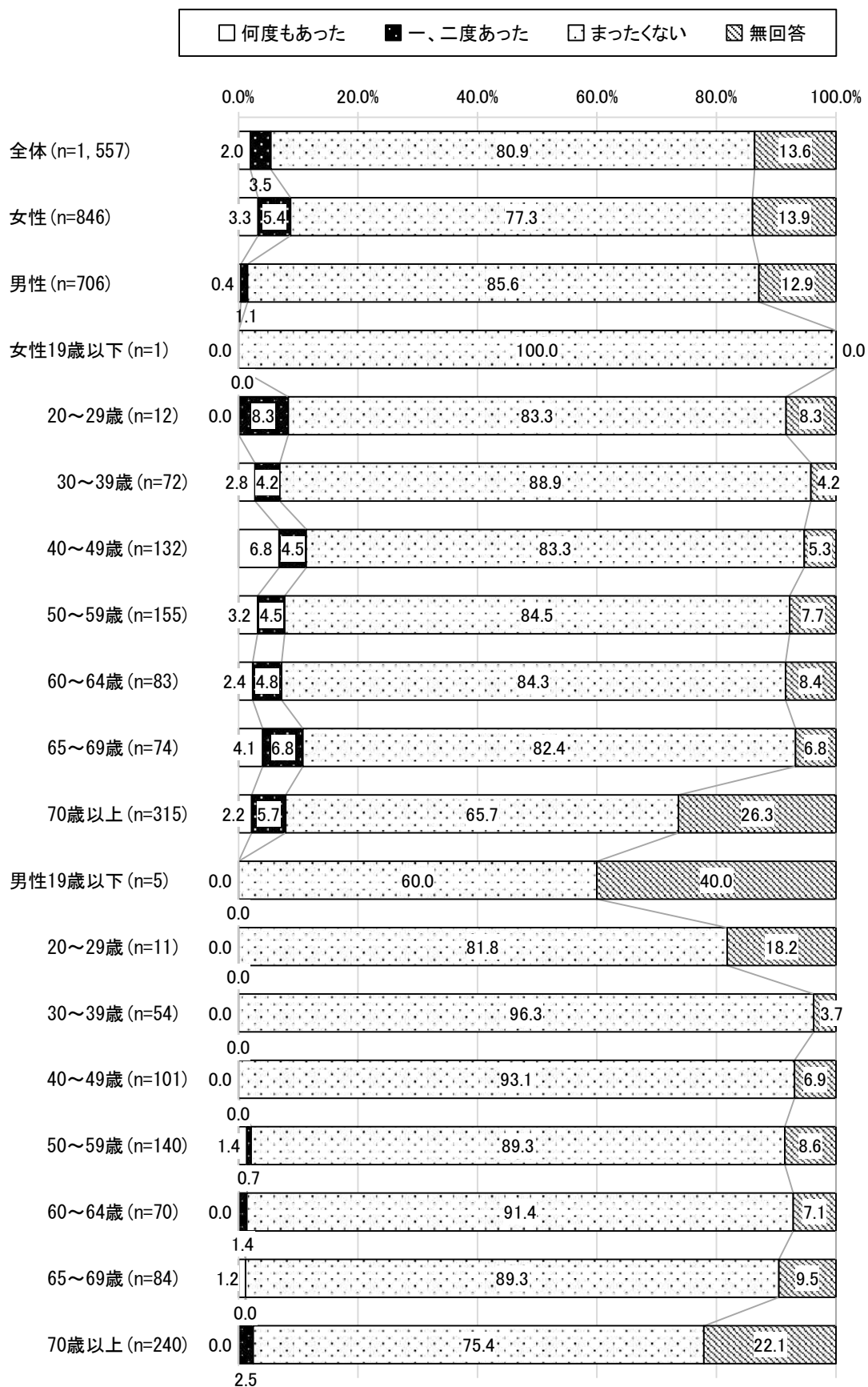
年齢別でみると、『あった』の割合は、女性は 65～69 歳(14.9%)で最も高く、男性は 50 歳代(7.1%)で最も高い。女性の 40 歳代(10.6%)、50 歳代(12.3%)も割合が高く、1 割を超えた。

<前回調査との比較>

前回調査との差はあまりみられない。



エ 配偶者から「性的強要」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「何度もあった」が2.0%、「一、二度あった」が3.5%、「まったくない」が80.9%。『あった』(5.5%)は5%強という結果となった。

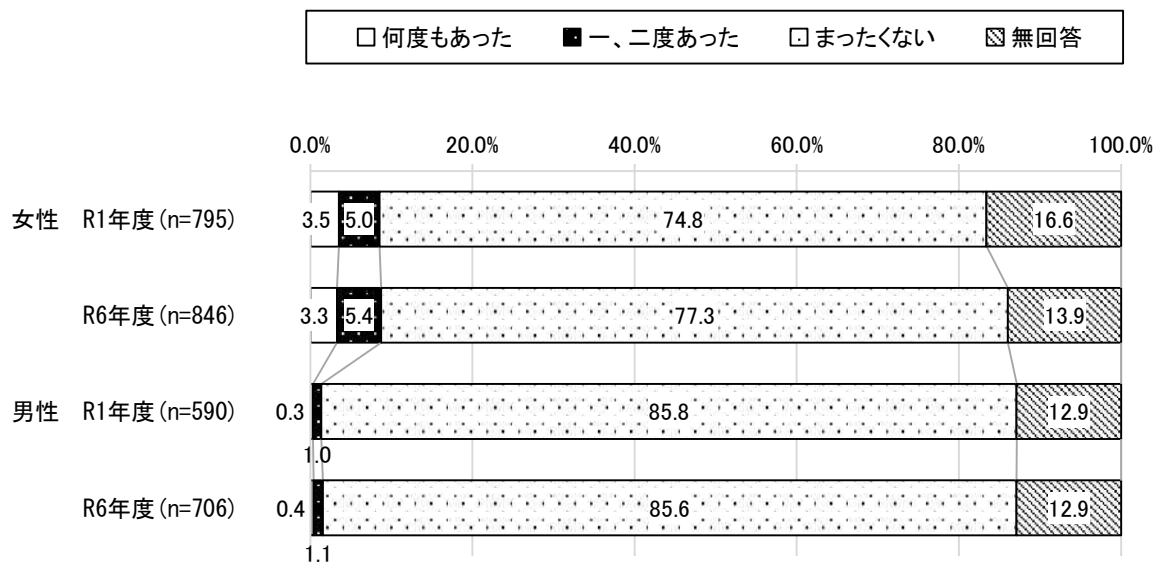
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった』と答えた割合は、男性(1.6%)より女性(8.7%)で割合が高く、女性の割合が男性の割合を7.1ポイント上回っている。

年齢別でみると、『あった』の割合は、女性は40歳代(11.1%)で最も高く、65～69歳(10.8%)と共に、1割を超えている。男性は70歳以上(2.5%)で最も高い。

<前回調査との比較>

前回調査との差は、あまりみられない。

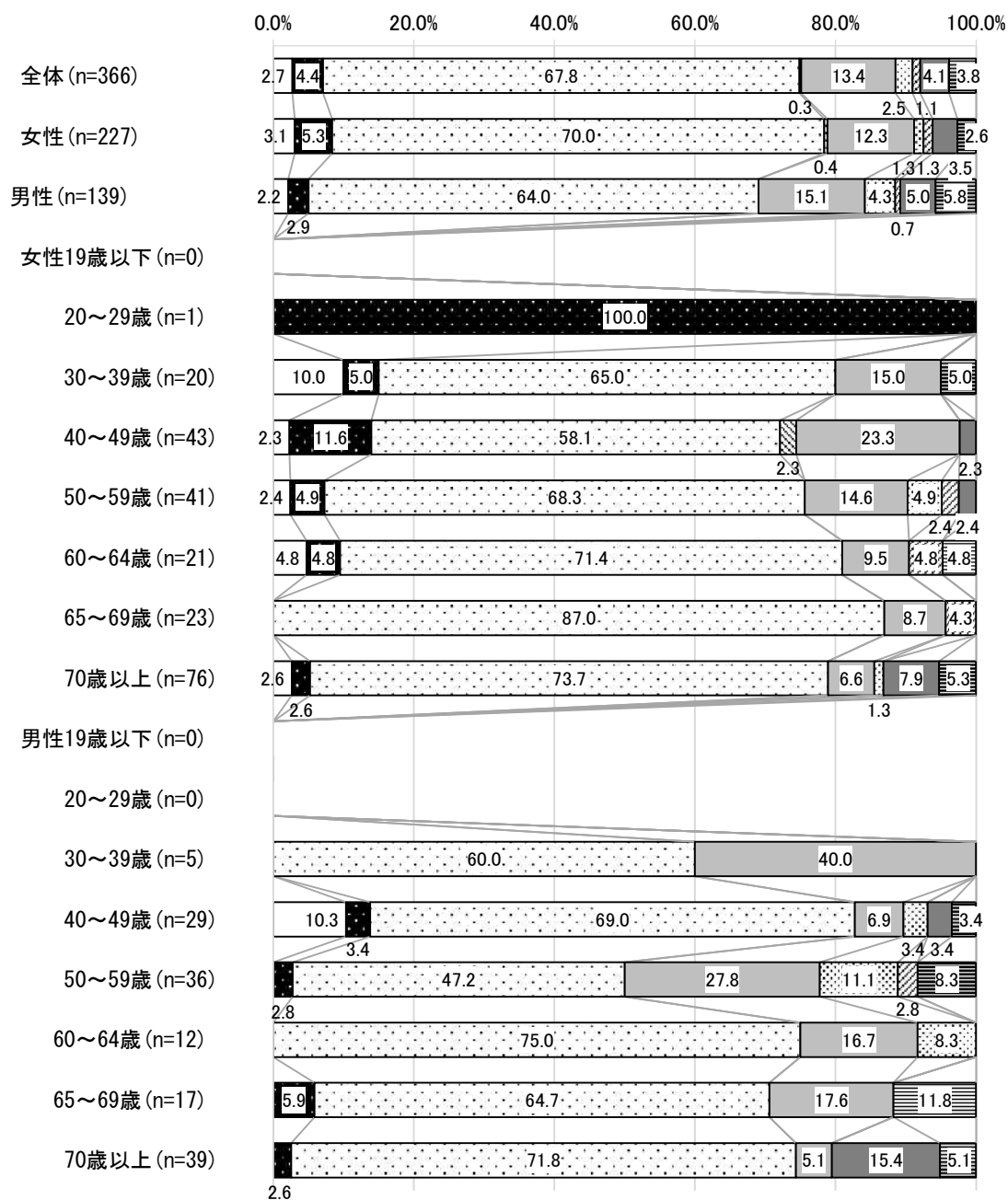
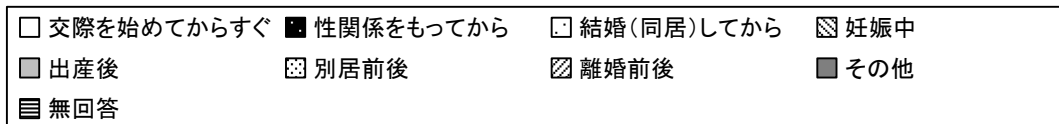


(2) 配偶者からの暴力（DV）を最初に受けた時期

<問 23 で、ア～エのいずれかの行為について「何度もあった」または「一、二度あった」に 1 つでも○をつけた方だけ>

問 23-1 あなたがそのような暴力を最初に受けたのは、いつですか。

(○は 1 つだけ)



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「結婚（同居）してから」（67.8%）と答えた割合が最も高く、7割弱占めた。次いで「出産後」（13.4%）の割合が1割台で続き、他の項目は5%に満たない。

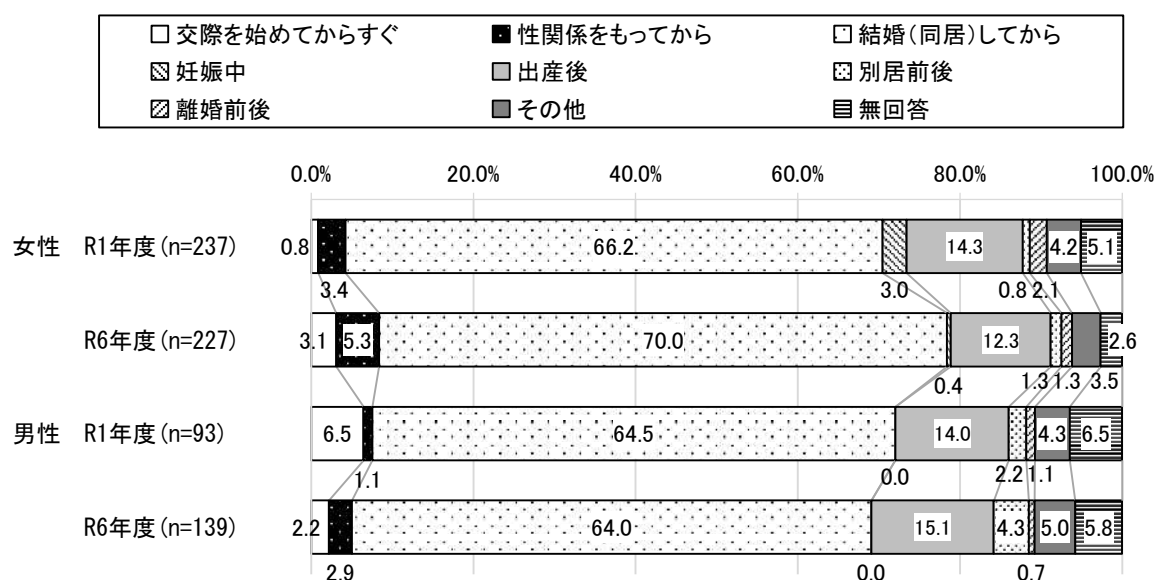
<性別・年齢別>

性別でみると、「結婚（同居）してから」と答えた割合は、男性（64.0%）より女性（70.0%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を6.0ポイント上回っている。

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

<前回調査との比較>

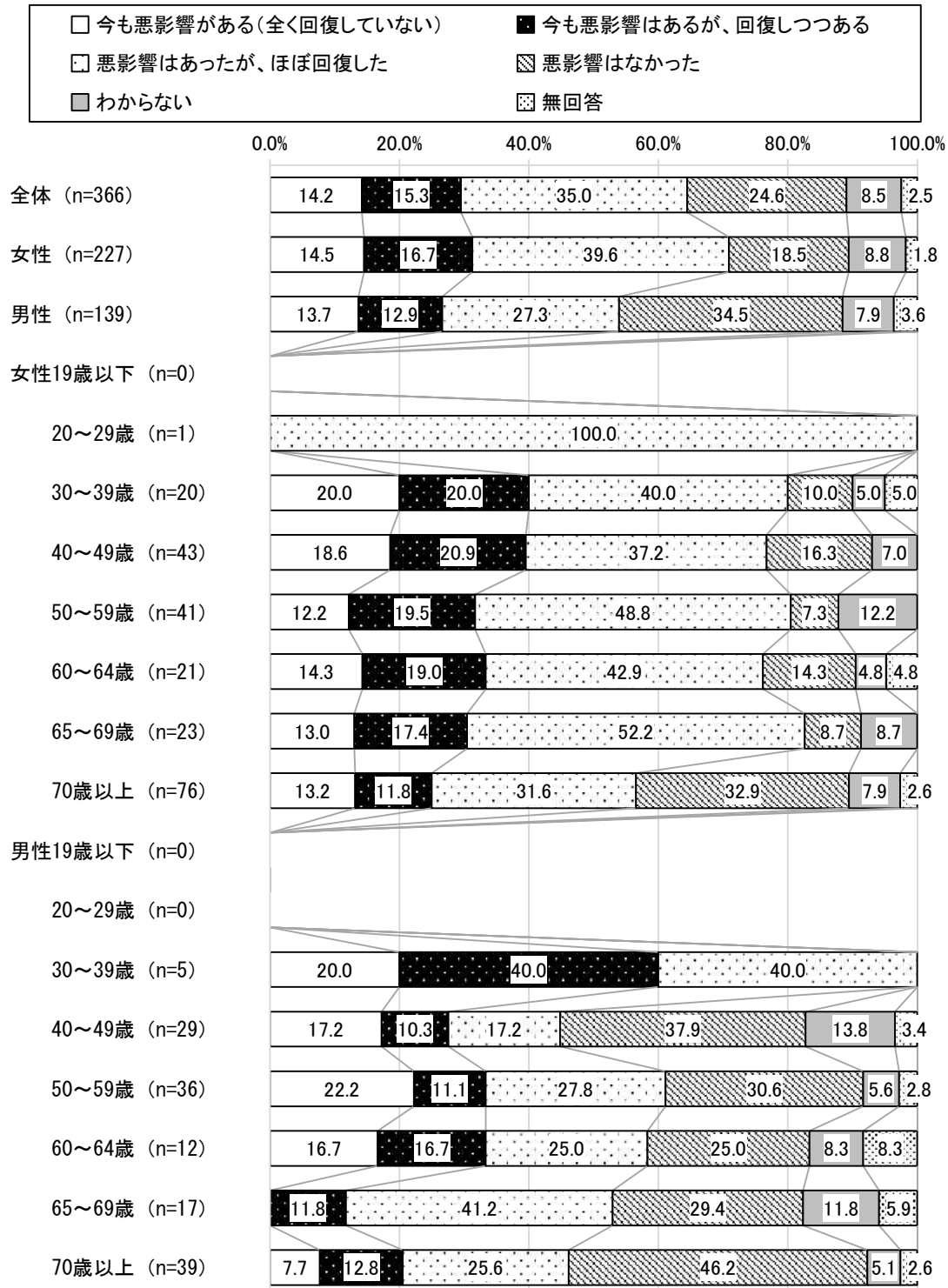
前回調査と比較して2ポイント以上増加したのは、女性で「結婚（同居）してから」が3.8ポイント、「交際を始めてからすぐ」が2.3ポイント増加した。



(3) 配偶者からの暴力（DV）を受けたことの悪影響（生きづらさ）

＜問 23 でア～エのいずれかの行為について、「何度もあった」または「一、二度あった」に1つでも○をつけた方だけ＞

問 23-2 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。（○は1つだけ）



※数値が0の場合、グラフ内に数値を表示していない。

＜全体結果＞

全体でみると、「今も悪影響がある（全く回復していない）」（14.2%）と「今も悪影響はあるが、回復しつつある」（15.3%）が1割半ば、2つを合わせた『今も悪影響はある』（以下同）（29.5%）が約3割、「悪影響はあったが、ほぼ回復した」（35.0%）が3割半ば、「悪影響はなかった」（24.6%）が2割半ば、「わからない」（8.5%）が1割弱となった。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、『今も悪影響はある』は男性（26.6%）より女性（31.3%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を4.7ポイント上回っている。「悪影響はあったが、ほぼ回復した」と答えた割合は、男性（27.3%）よりも女性（39.6%）で高く、「悪影響はなかった」と答えた割合は、女性（18.5%）よりも男性（34.5%）で高く差が大きい。

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

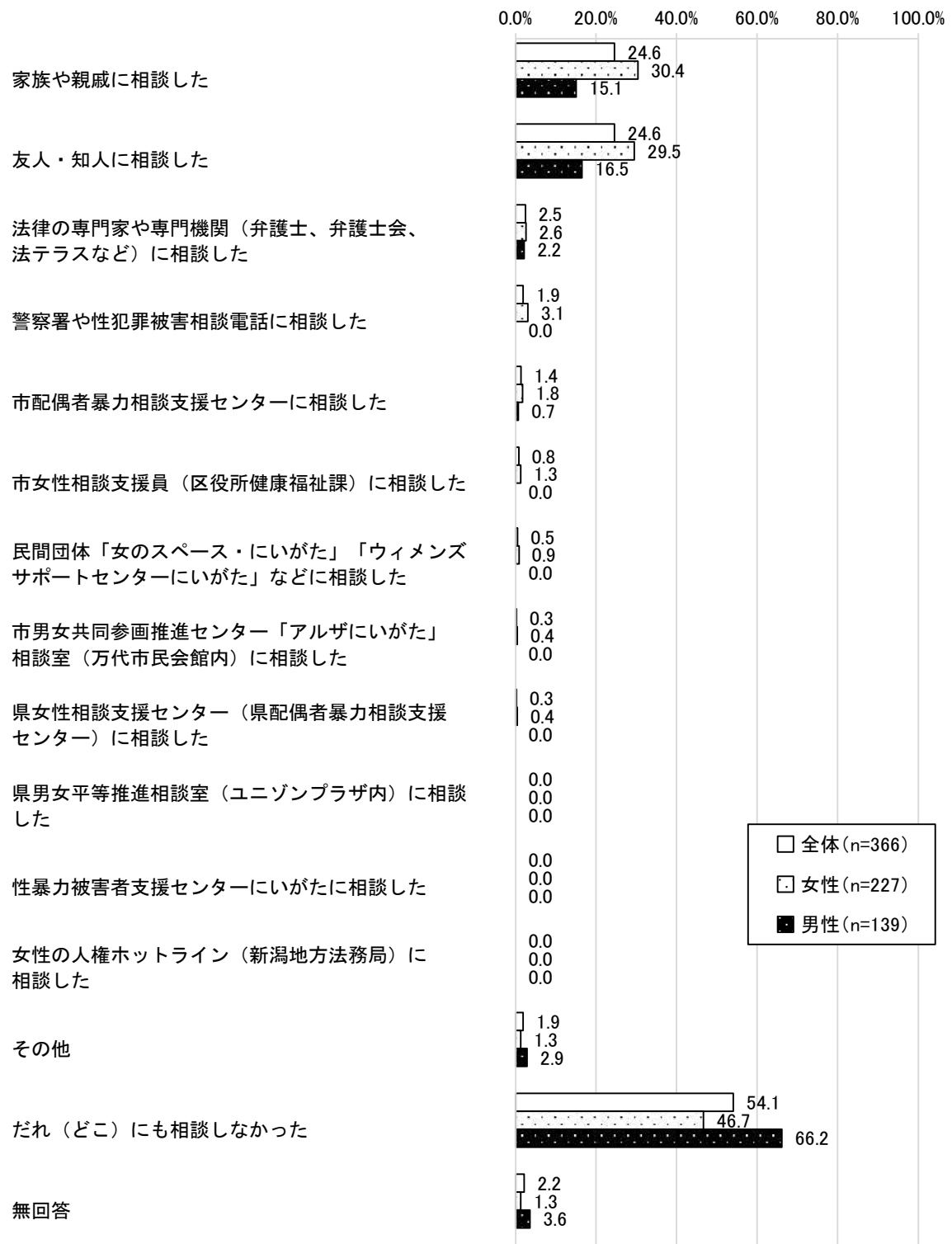
＜前回調査との比較＞

前は調査項目なし。

(4) 配偶者からの暴力（DV）に関する相談先

＜問 23 でア～エのいずれかの行為について、「何度もあった」または「一、二度あった」に1 つでも○をつけた方だけ＞

問 23-3 あなたは今までに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）



<全体結果>

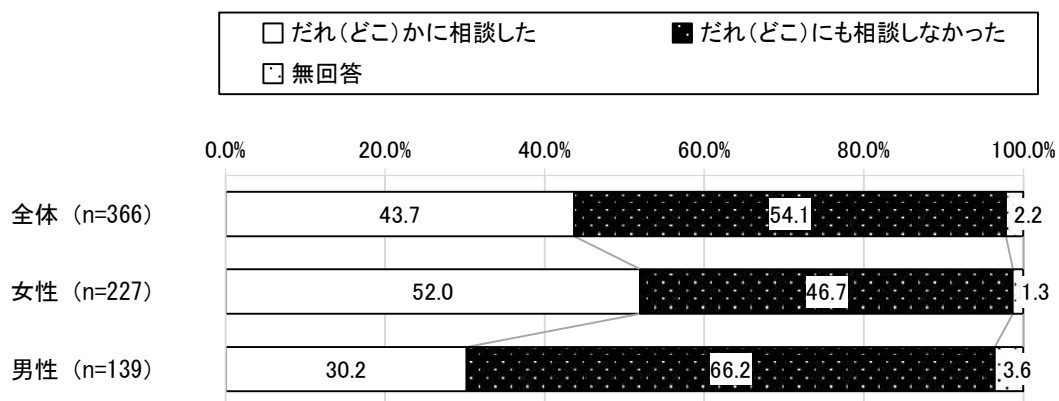
全体でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（54.1%）と答えた割合が5割半ばで最も高い。次いで「友人・知人」、「家族や親戚」（いずれも24.6%）が2割台で続いている。他の項目は3%以下という結果となった。

<性別>

性別でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、女性（46.7%）より男性（66.2%）で割合が高い。「家族や親戚」、「友人・知人」は、男性（各15.1%、16.5%）より女性（各30.4%、29.5%）で割合が高い。

<その他>

『だれ（どこ）かに相談した』と答えた合計の割合は、全体では43.7%となった。男性（30.2%）よりも女性（52.0%）で高く5割を超えた。



<前回調査との比較>

前回調査と比較すると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が5.1ポイント増加した。一方、「友人・知人」は3.7ポイント減少した。

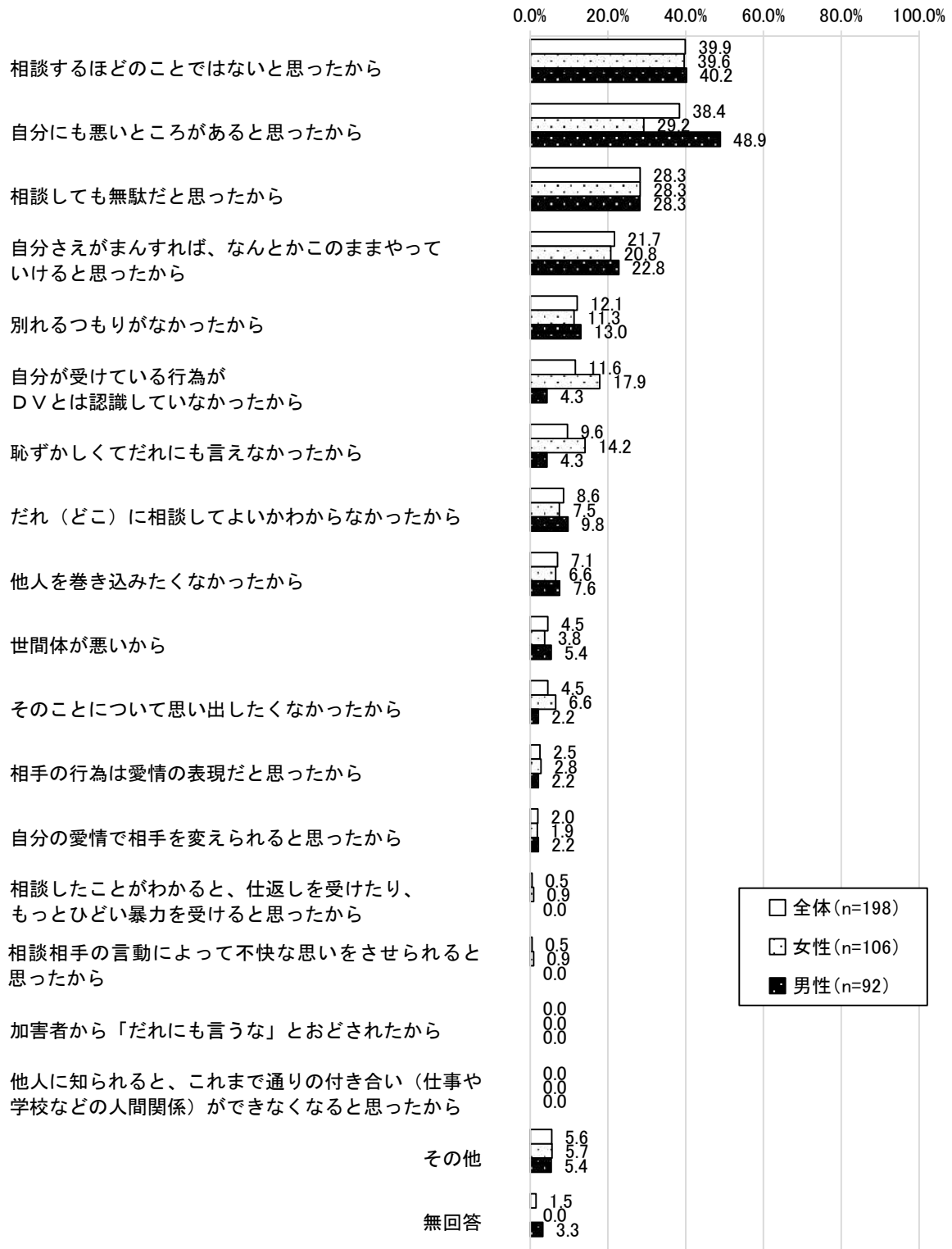
「配偶者からの暴力(DV)に関する相談先」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=339)		今回調査 (n=366)	
どこ（だれ）にも相談しなかった	49.0%	どこ（だれ）にも相談しなかった	54.1%
友人・知人	28.3%	家族や親戚	24.6%
家族や親戚	24.2%	友人・知人	24.6%
法律の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、法テラスなど）に相談した	2.1%	法律の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、法テラスなど）に相談した	2.5%
警察署や性犯罪被害相談電話に相談した	1.8%	警察署や性犯罪被害相談電話に相談した	1.9%

(5) 配偶者からの暴力（DV）に関する相談をしなかった理由

<問 23-3 で「14 だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方だけ>

問 23-4 その理由としてあてはまる番号をお選びください。（○は3つまで）



<全体結果>

全体でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」(39.9%)と答えた割合が約4割で最も高い。次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(38.4%)が差がなく続き、以下「相談しても無駄だと思ったから」(28.3%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(21.7%)の順が続いている。

<性別>

性別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」(39.6%)の割合が最も高い。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」(48.9%)の割合が最も高く約5割となった。「自分にも悪いところがあると思ったから」は女性よりも男性で、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は男性より女性で割合が高い。

<前回調査との比較>

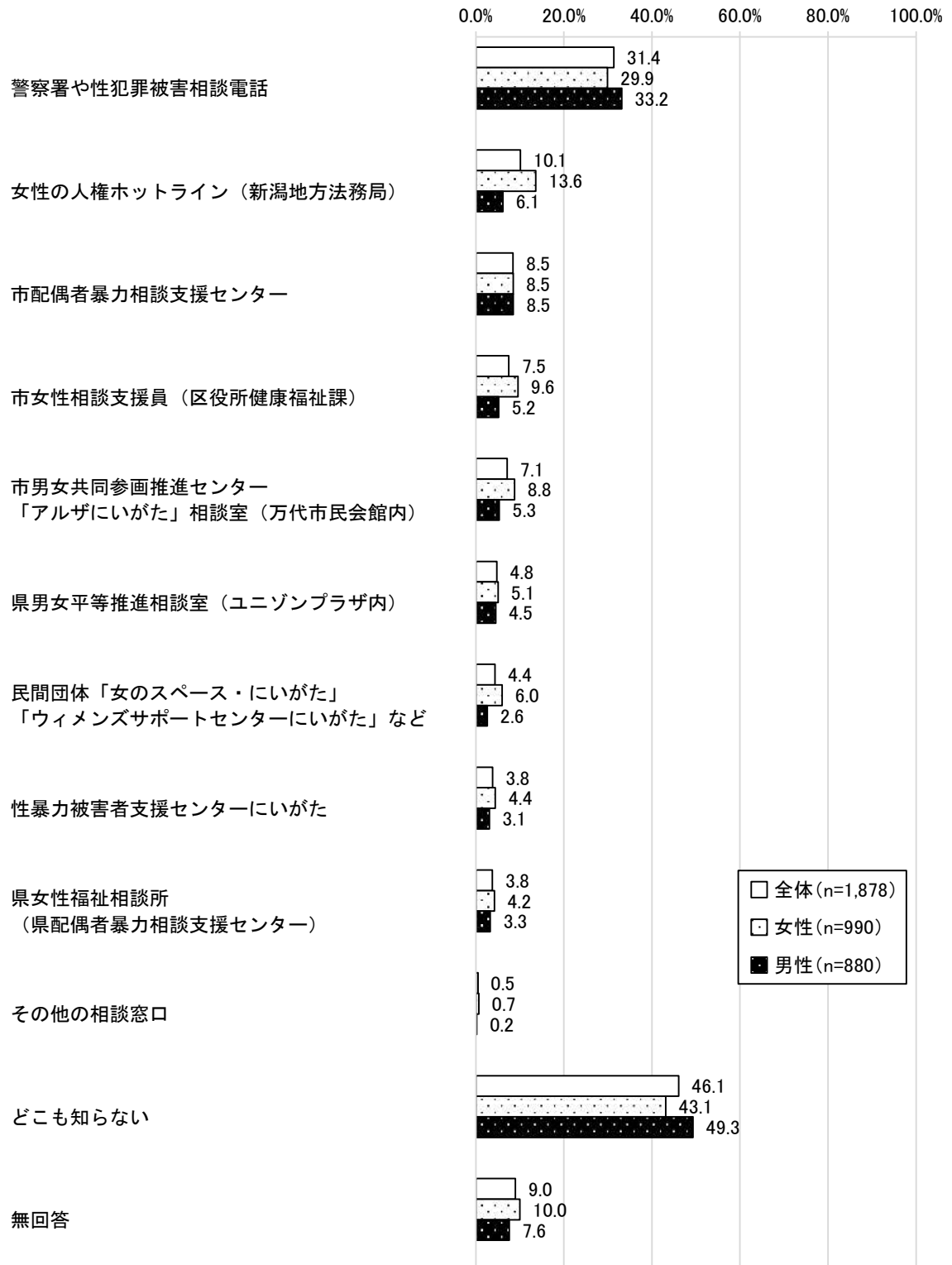
前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思ったから」が10.7ポイント増加した(「相談するほどのことではないと思ったから」は前回選択肢になかった)。

「配偶者からの暴力(DV)に関する相談をしなかった理由」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=166)		今回調査 (n=198)	
自分にも悪いところがあると思ったから	27.7%	相談するほどのことではないと思ったから	39.9%
相談しても無駄だと思ったから	26.5%	自分にも悪いところがあると思ったから	38.4%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	22.3%	相談しても無駄だと思ったから	28.3%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	19.3%	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	21.7%
別れるつもりがなかったから	16.9%	別れるつもりがなかったから	12.1%

(6) DVに関する相談窓口の認知度

問 24 あなたはDVについて相談するところを知っていますか。(〇はいくつでも)



<全体結果>

全体でみると、「どこも知らない」（46.1％）と答えた割合が最も高く、4割半ばとなった。

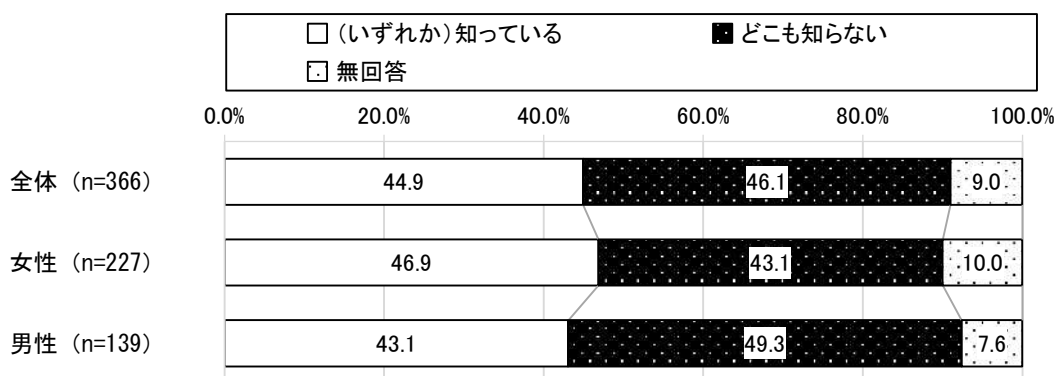
知っていると回答された相談窓口では、「警察署や性犯罪被害相談電話」（31.4％）が約3割で、他の項目と比べて突出している。以下、「女性の人権ホットライン（新潟地方法務局）」（10.1％）、「市配偶者暴力相談支援センター」（8.5％）、「市女性相談支援員（区役所健康福祉課）」（7.5％）が続く。

<性別>

性別でみると、男女とも「どこも知らない」と答えた割合が最も高く、女性（43.1％）よりも男性（49.3％）で高い。男女差が5.0ポイント以上あるものは、「女性の人権ホットライン（新潟地方法務局）」（女性13.6％、男性6.1％）で男性より女性で割合が高い。

<その他>

『（いずれか）知っている』と答えた合計の割合は、全体では44.9％となった。男性（43.1％）よりも女性（46.9％）でやや高い。



<前回調査との比較>

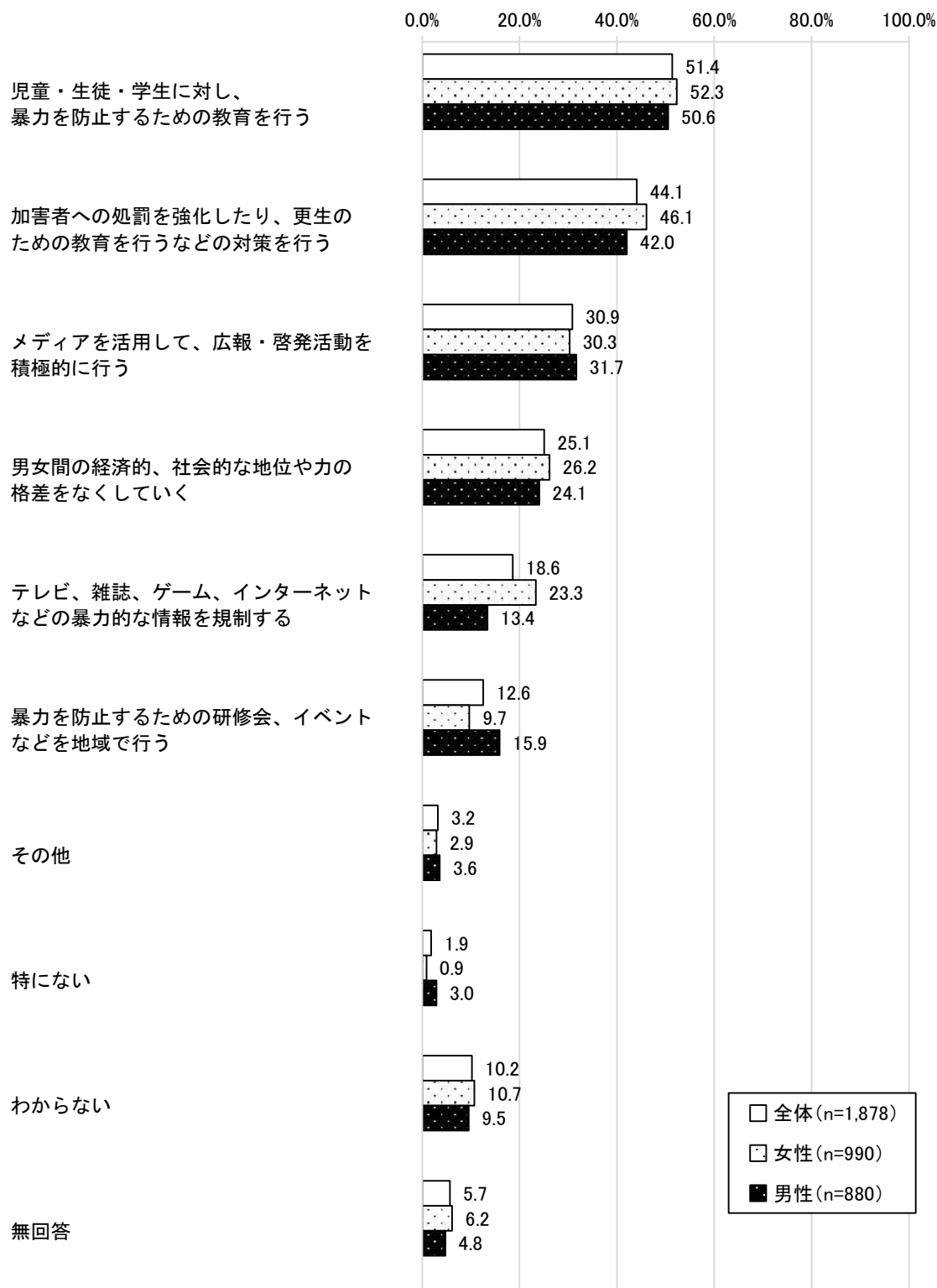
前回調査と比較すると、「どこも知らない」が3.2ポイント増加し、認知度は向上していない結果となった。

「DVに関する相談窓口の認知度」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
どこも知らない	42.9%	どこも知らない	46.1%
警察署や性犯罪被害相談電話	35.3%	警察署や性犯罪被害相談電話	31.4%
女性の人権ホットライン (新潟地方法務局)	12.3%	女性の人権ホットライン (新潟地方法務局)	10.1%
市配偶者暴力相談支援センター	11.1%	市配偶者暴力相談支援センター	8.5%
市男女共同参画推進センター「アルザ にいがた」相談室 (万代市民会館内)	10.5%	市女性相談支援員 (区役所健康福祉課)	7.5%

(7) DV防止のために必要なこと

問 25 あなたはDVを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)



＜全体結果＞

全体でみると、「児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(51.4%)が約5割で、割合が最も高い。次いで「加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う」(44.1%)が4割半ば、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」(30.9%)が約3割、「男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく」(25.1%)が2割半ば、「テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する」(18.6%)が2割弱で続いている。

＜性別＞

性別でみると、男女差が5.0ポイント以上あるものは、「テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する」で、男性(13.4%)より女性(23.3%)で割合が高い。一方、「暴力を防止するための研修会、イベントなどを地域で行う」で、女性(9.7%)より男性(15.9%)で割合が高い。

＜前回調査との比較＞

前回調査と比較すると、全体に割合が減少している。特に「加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う」は11.2ポイント減少し、減少幅が大きかった。

「DV防止のために必要なこと」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	58.3%	児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	51.4%
加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う	55.3%	加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う	44.1%
メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	33.3%	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	30.9%
男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく	30.4%	男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく	25.1%
テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する	26.1%	テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する	18.6%

7 子ども時代の暴力（DV）

(1) 子どもの頃の暴力（DV）に関する体験の有無

問 26 あなたが子ども時代（概ね17歳まで）を過ごした家庭で、次のような体験をしたことがありますか。（○はいくつでも）

割合（％）	親・家族からの虐待 （ネグレクト、過干渉、行動制	親・家族からの性暴力	両親間のDVの目撃	あてはまるものはない	無回答
全体（n=1,878）	6.0	0.4	6.0	82.4	7.0
女性（n=990）	6.3	0.7	6.5	81.1	7.6
男性（n=880）	5.8	0.1	5.5	84.0	6.3
女性19歳以下（n=32）	6.3	0.0	0.0	87.5	6.3
女性20～29歳（n=39）	12.8	2.6	7.7	82.1	0.0
女性30～39歳（n=94）	5.3	1.1	4.3	89.4	2.1
女性40～49歳（n=154）	10.4	1.3	7.1	79.9	3.9
女性50～59歳（n=175）	9.7	0.6	11.4	79.4	3.4
女性60～64歳（n=92）	5.4	1.1	9.8	82.6	2.2
女性65～69歳（n=77）	7.8	0.0	11.7	79.2	5.2
女性70歳以上（n=325）	1.8	0.3	2.5	79.4	16.3
男性19歳以下（n=25）	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
男性20～29歳（n=44）	6.8	0.0	6.8	84.1	4.5
男性30～39歳（n=81）	11.1	0.0	4.9	82.7	3.7
男性40～49歳（n=131）	8.4	0.8	6.1	84.0	3.1
男性50～59歳（n=175）	6.3	0.0	8.0	84.0	4.6
男性60～64歳（n=76）	5.3	0.0	7.9	84.2	3.9
男性65～69歳（n=95）	3.2	0.0	6.3	88.4	3.2
男性70歳以上（n=252）	4.0	0.0	2.8	81.0	12.7

＜全体結果＞

子ども時代に家庭で受けたことがある体験は、「親・家族からの虐待（ネグレクト、過干渉、行動制限を含む）」（6.0%）、「両親間のDVの目撃」（6.0%）が6%、「親・家族からの性暴力」（0.4%）は1%未満、いずれかの体験をしたことがあるのは、合計で10.5%と約1割、「あてはまるものはない」（82.4%）が8割強となった。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、「あてはまるものはない」と答えたのは、女性（81.1%）よりも男性（84.0%）で高いが、大きな差はみられない。

年齢別で1割を超えるのは、「親・家族からの虐待（ネグレクト、過干渉、行動制限を含む）」は男性30歳代（11.1%）、女性20歳代（12.8%）、40歳代（10.4%）、「両親間のDVの目撃」は女性50歳代（11.4%）、女性65～69歳（11.7%）であった。

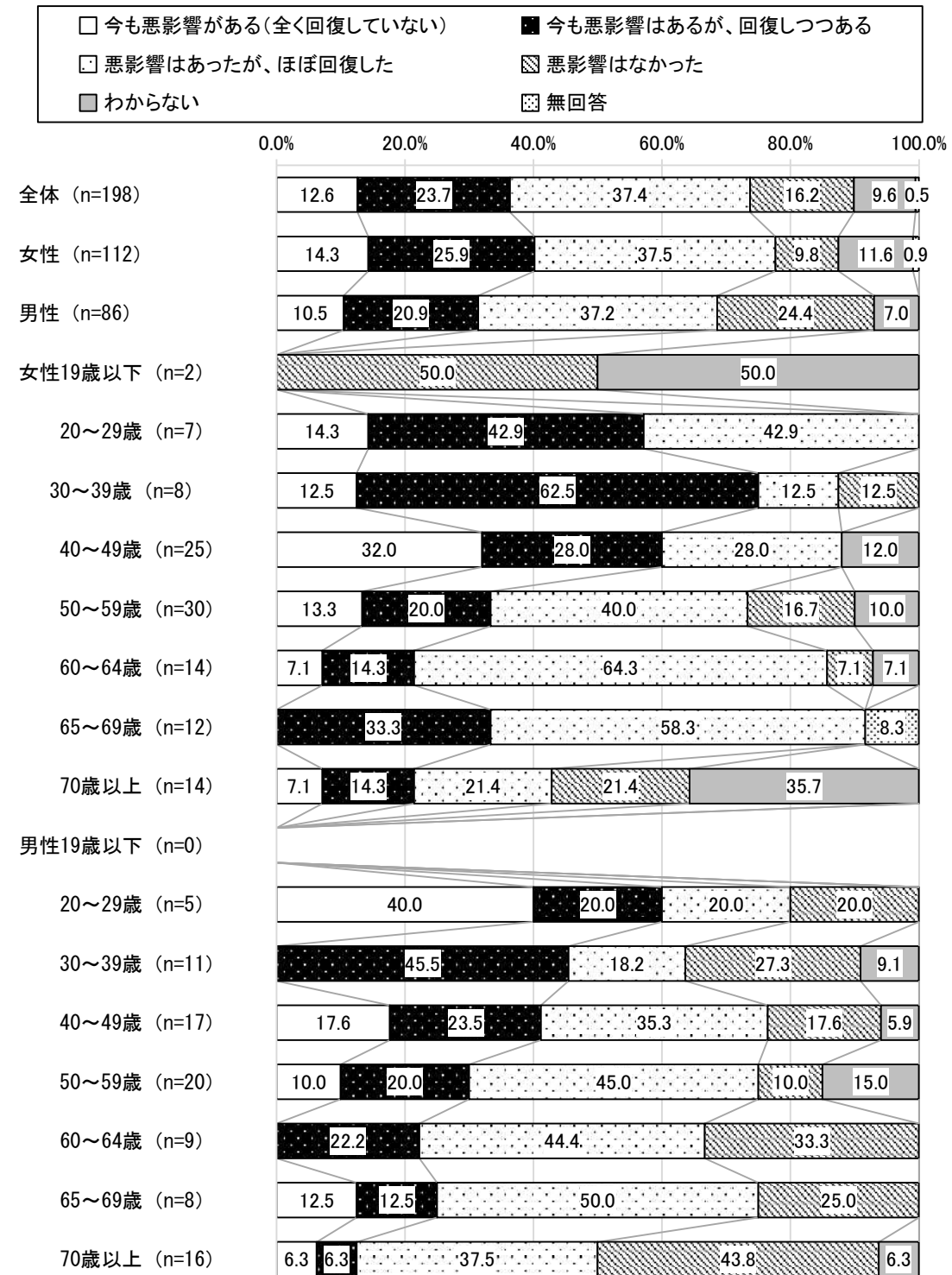
＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

(2) 子どもの頃の暴力（DV）に関する体験の悪影響（生きづらさ）

<問 26 で 1 ～ 3 のいずれかの行為について 1 つでも○をつけた方だけ>

問 26-1 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。（○は 1 つだけ）



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「今も悪影響がある（全く回復していない）」（12.6%）が1割強、「今も悪影響はあるが、回復しつつある」（23.7%）が2割強、2つを合わせた『今も悪影響はある』（以下同）（36.4%）が3割半ば、「悪影響はあったが、ほぼ回復した」（37.4%）が3割半ば、「悪影響はなかった」（16.2%）が1割半ば、「わからない」（9.6%）が約1割となった。

<性別・年齢別>

性別でみると、『今も悪影響はある』は男性（31.4%）より女性（40.2%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を8.8ポイント上回っている。「悪影響はなかった」と答えた割合は、女性（9.8%）よりも男性（24.4%）で高く差が大きい。

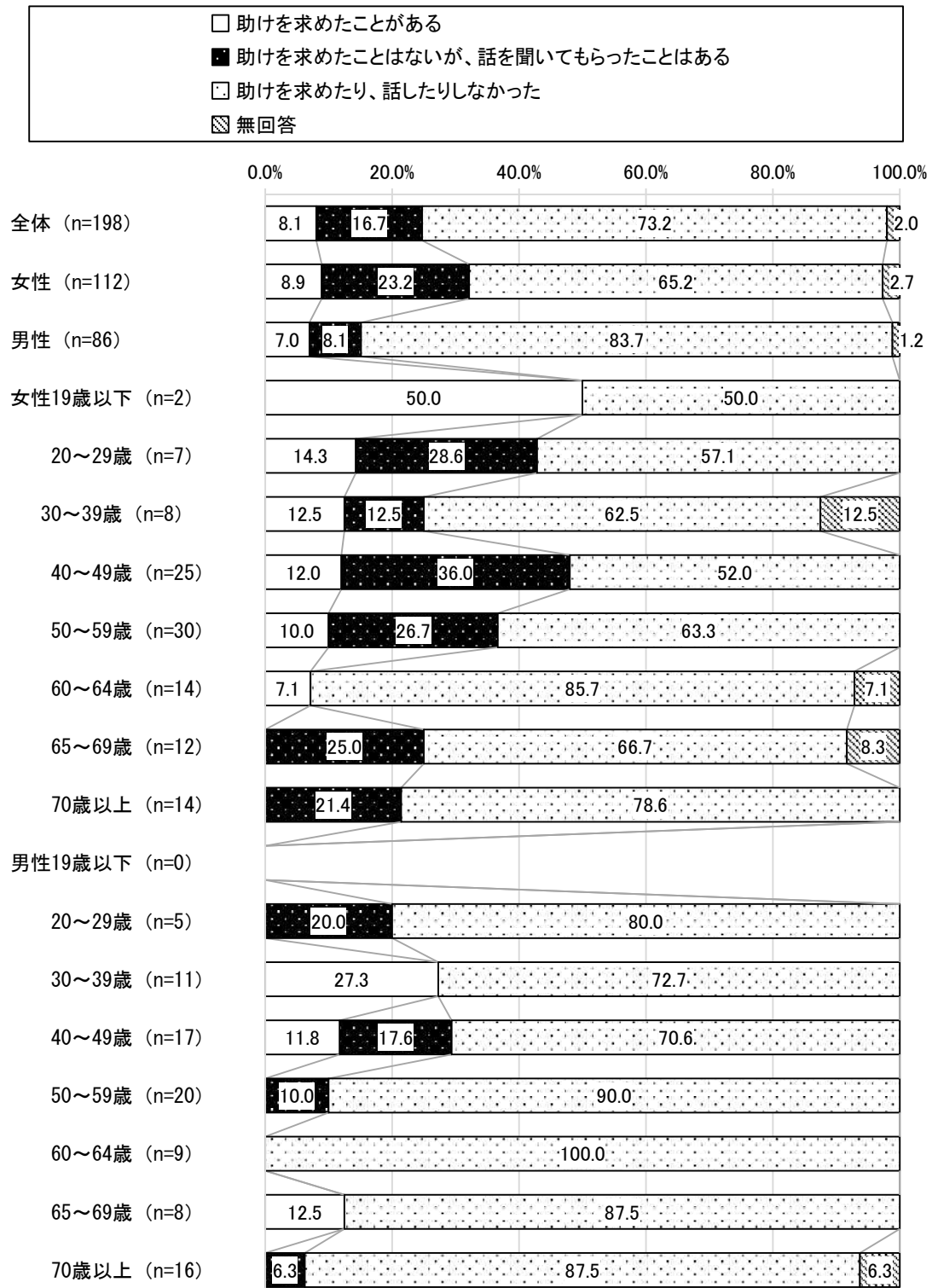
年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

(3) その状況を変えるために、だれかに助けを求めたことの有無

＜問 26 で 1 ～ 3 のいずれかの行為について 1 つでも○をつけた方だけ＞
 問 26-2 その状況を変えるために、だれかに助けを求めたことはありますか。
 (○は 1 つだけ)



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

＜全体結果＞

全体でみると、「助けを求めたことがある」(8.1%)が1割弱、「助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある」(16.7%)が1割半ば、「助けを求めたり、話したりしなかった」(73.2%)が7割強となった。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、「助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある」は男性(8.1%)より女性(23.2%)で割合が高く、女性の割合が男性の割合を15.1ポイント上回っている。「助けを求めたり、話したりしなかった」と答えた割合は、女性(65.2%)よりも男性(83.7%)で高く差が大きい。

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

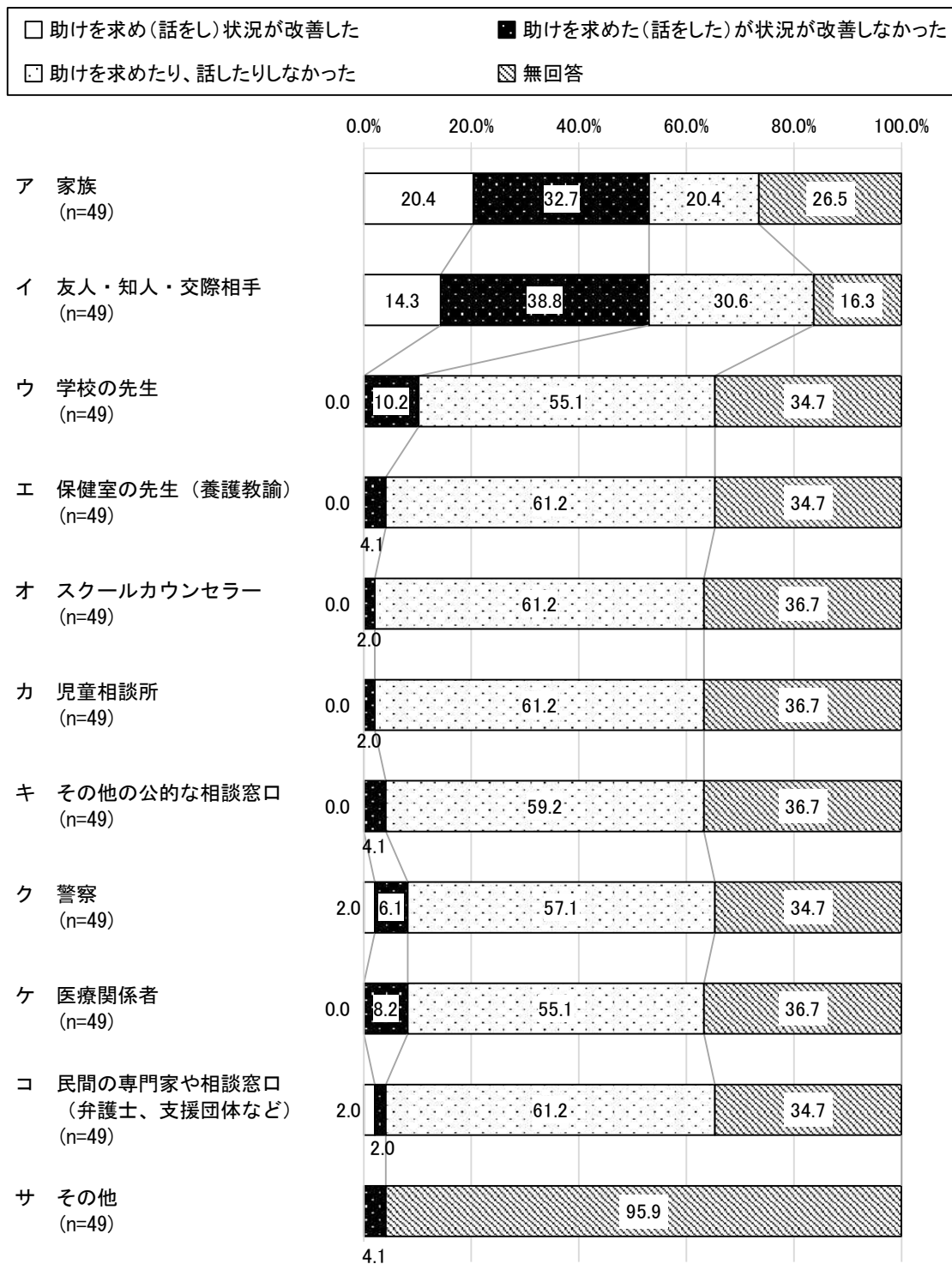
＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

(4) 子どもの頃の暴力（DV）に関する相談相手

<問 26-2 で 1、2 と回答した方だけ>

問 26-3 助けを求めたり、話を聞いてもらったりした相手はだれですか。また、それによって状況は改善しましたか。ア～サについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○はそれぞれ 1 つずつ）



＜全体結果＞

全体でみると、「助けを求め(話をし)状況が改善した」と答えた割合は、「家族」(20.4%)、「友人・知人・交際相手」(14.3%)で1割を超えた。「助けを求めた(話をした)が、状況が改善しなかった」と答えた割合は、「友人・知人・交際相手」(38.8%)、「家族」(32.7%)で3割を超し、「学校の先生」(10.2%)で1割を超した。他は1割未満となった。

性別、年齢別は、サンプル数が少ないため割愛する。

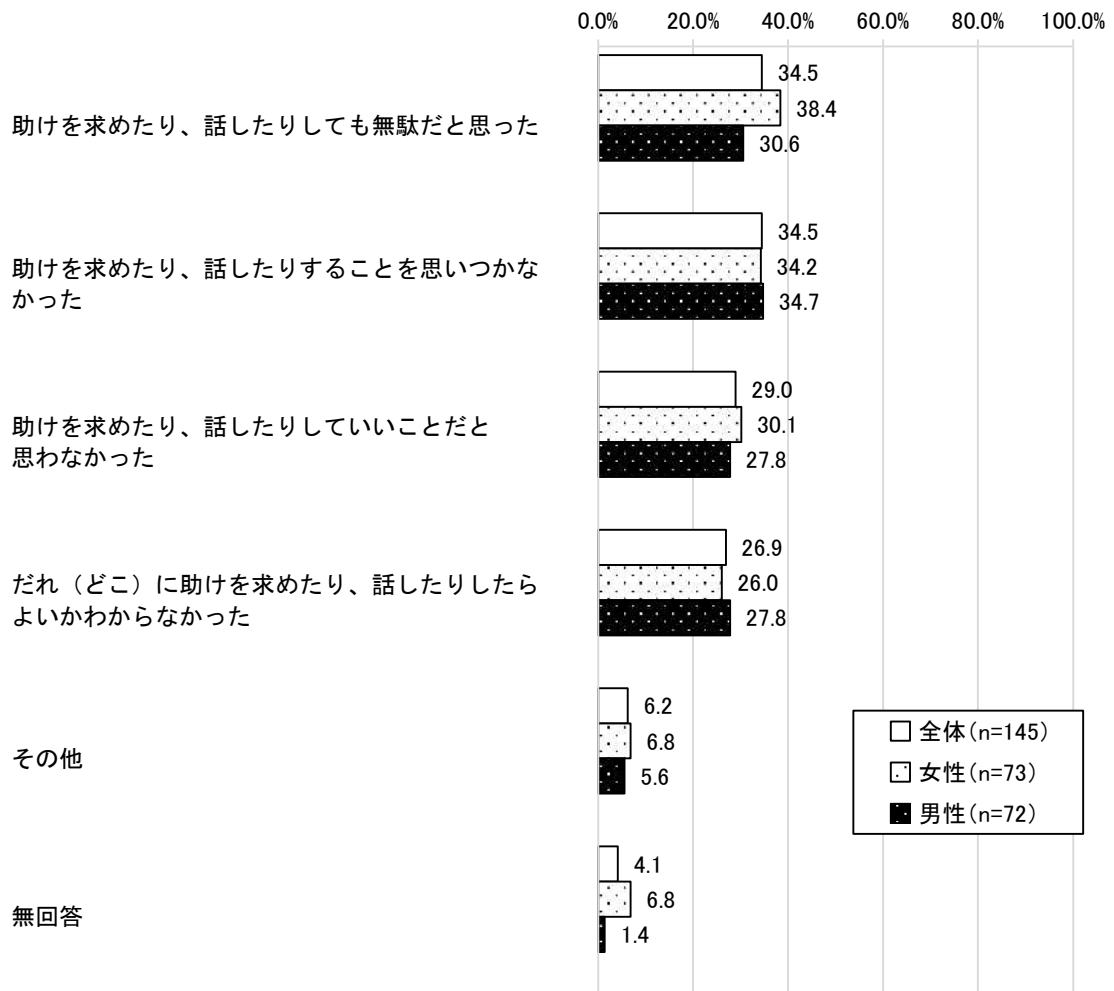
＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

(5) 子どもの頃の暴力（DV）に関する相談をしなかった理由

＜問 26-2 で 3 と回答した方だけ＞

問 26-4 その理由としてあてはまる番号をお選びください。（○はいくつでも）



＜全体結果＞

全体でみると、「助けを求めたり、話したりしても無駄だと思った」と「助けを求めたり、話したりすることを思いつかなかった」（いずれも 34.5%）の割合が最も高く、「助けを求めたり、話したりしていいことだと思わなかった」（29.0%）、「だれ（どこ）に助けを求めたり、話したりしたらよいかわからなかった」（26.9%）が 2 割台で続く。

＜性別＞

性別でみると、「助けを求めたり、話したりしても無駄だと思った」と答えた割合は、男性（30.6%）よりも女性（38.4%）で高く、女性の割合が男性の割合を 7.8 ポイント上回っている。

＜前回調査との比較＞

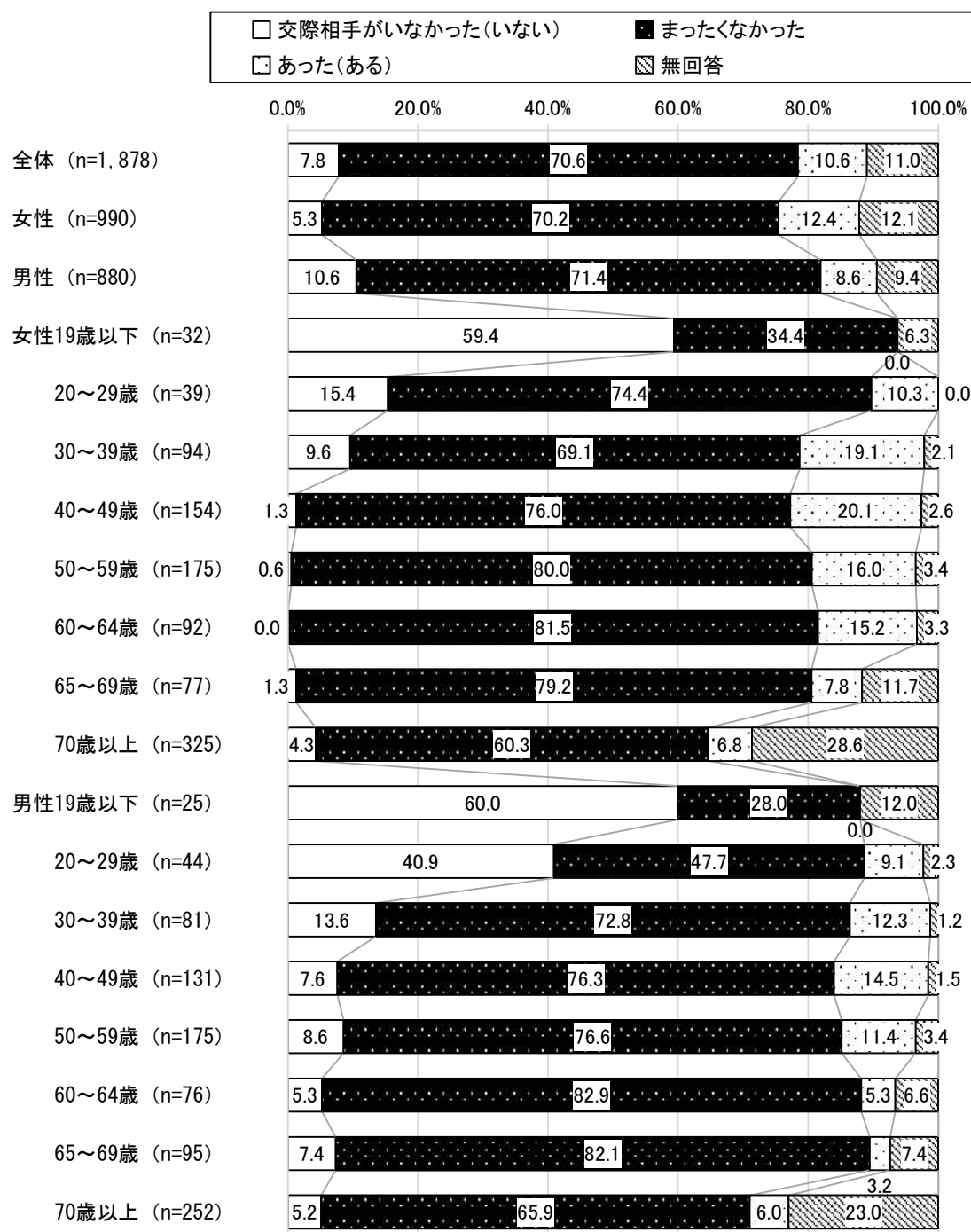
前回は調査項目なし。

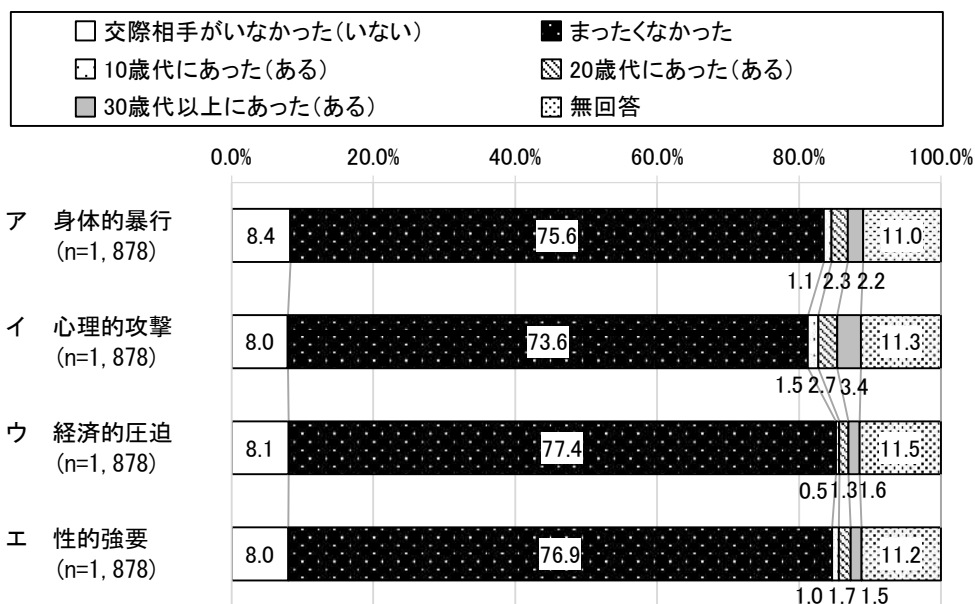
8 交際相手からの暴力（デートDV）

(1) 交際相手からの暴力を受けた体験の有無

問 27 あなたは、これまでに、交際相手から次のア～エのようなことをされたことがありますか。ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はあてはまるものすべて)

※ア～エのいずれかに「10 歳代にあった（ある）」、「20 歳代にあった（ある）」、「30 歳代にあった（ある）」と回答があった場合『あった（ある）』として集計。





※ 身体的暴行＝なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行

心理的攻撃＝人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分または自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫

経済的圧迫＝デート代や生活費を無理やり払わされる、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

性的強要＝嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

<全体結果>

「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかについて交際相手からの被害体験の有無を全体でみると、「10 歳代にあった（ある）」、「20 歳代にあった（ある）」、「30 歳代にあった（ある）」を合わせた『あった（ある）』（以下同）（10.6%）と約 1 割が答えている。

項目別では、すべての項目で「まったくなかった」と答えた割合が最も高く、7 割強～8 割弱となった。「性的強要」について『あった（ある）』と答えた割合が男性より女性で高いこと以外に、内容による違いはほとんどない。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、『あった（ある）』と答えた割合は、男性（8.6%）より女性（12.4%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を3.8ポイント上回った。

年齢別でみると、『あった（ある）』の割合は、女性は40歳代（20.1%）で最も高く、男性も同様に40歳代（14.5%）で最も高い。

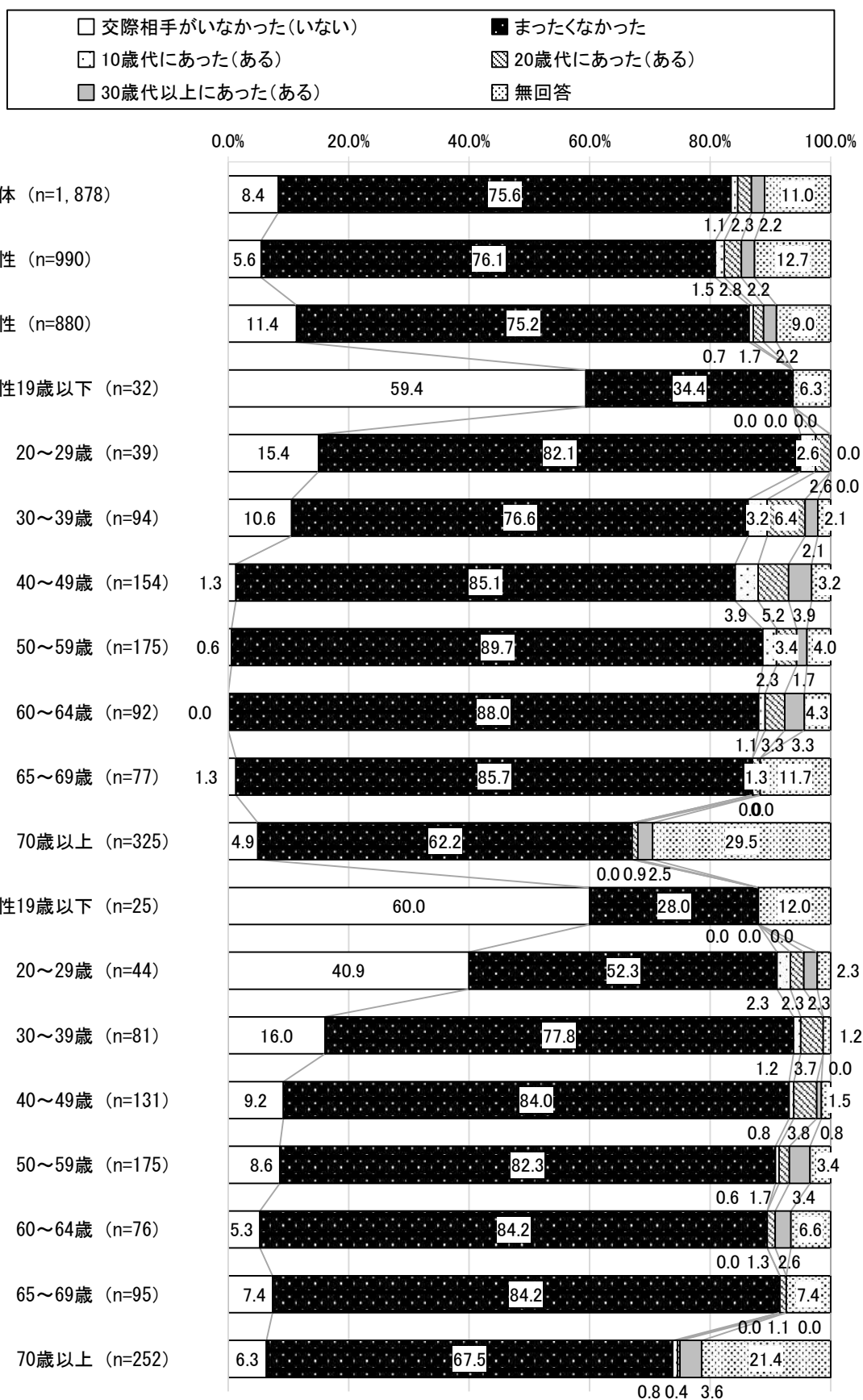
＜前回調査との比較＞

前回調査と比較し、全体にわずかに減少している。

「10歳代にあった（ある）」「20歳代にあった（ある）」「30歳以上にあった（ある）」を合わせた割合

R1 調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
心理的攻撃	8.1%	心理的攻撃	7.5%
身体的暴行	5.8%	身体的暴行	5.6%
経済的圧迫	4.6%	経済的圧迫	3.4%
性的強要	4.4%	性的強要	4.2%

ア 交際相手から「身体的暴行」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「10 歳代にあった(ある)」が 1.1%、「20 歳代にあった(ある)」が 2.3%、「30 歳代以上にあった(ある)」が 2.2%、「まったくなかった」が 75.6%。『あった(ある)』は 5.6%という結果となった。

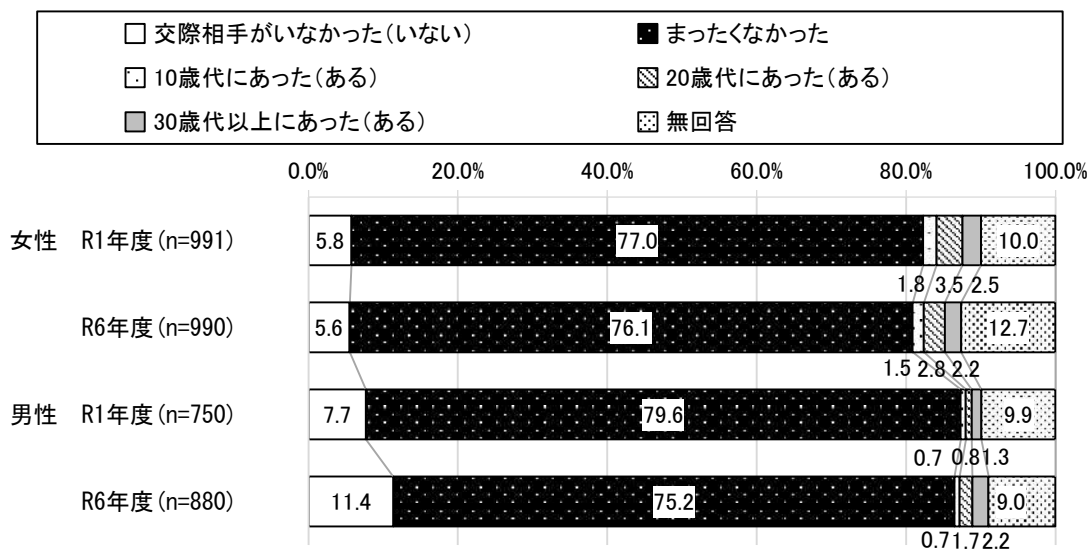
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった(ある)』と答えた割合は、男性(4.5%)より女性(6.6%)でやや高い。

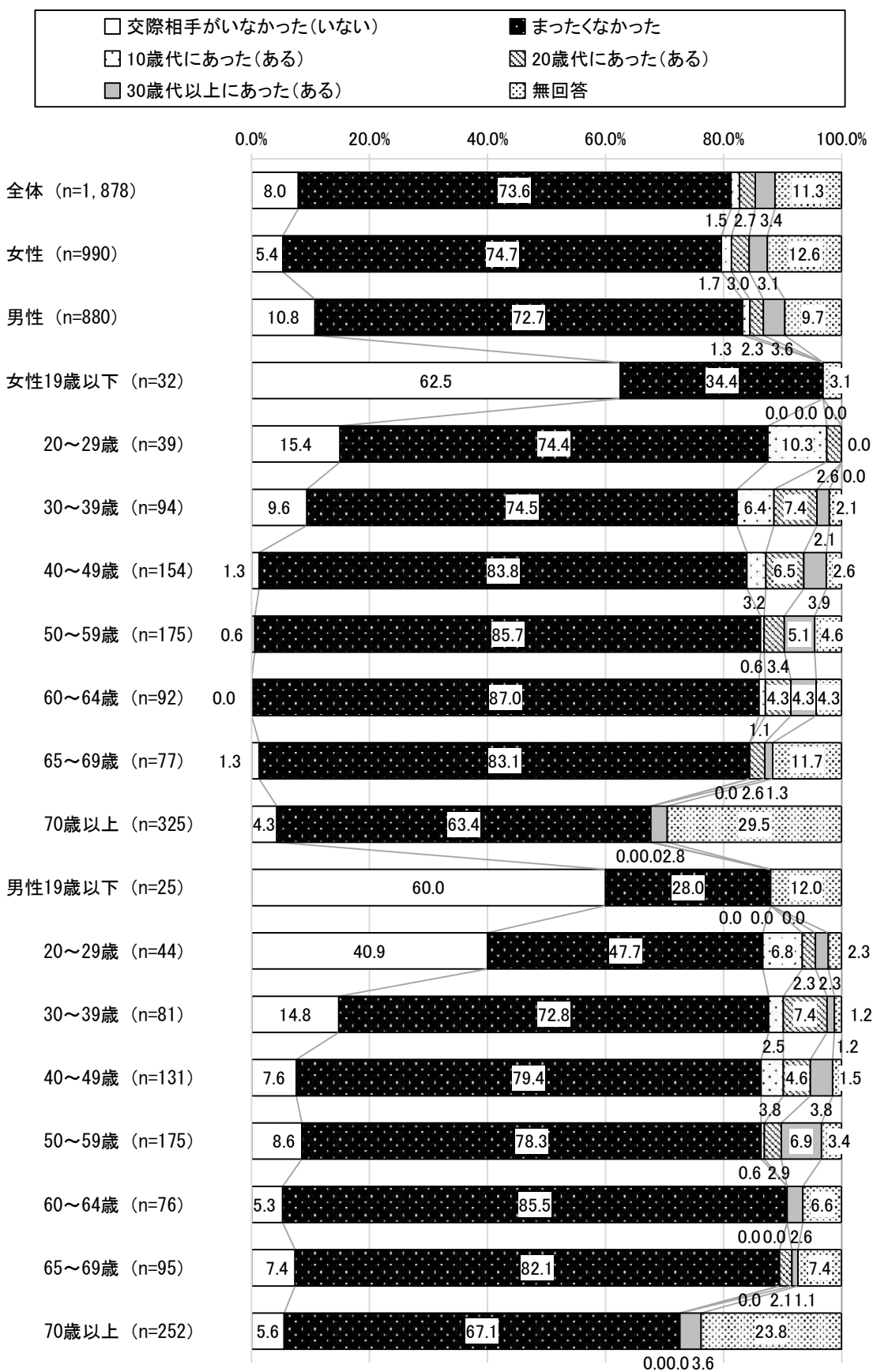
年齢別でみると、『あった(ある)』の割合は、女性の 40 歳代(13.0%)、30 歳代(11.7%)で 1 割を超えた。

<前回調査との比較>

前回との差はあまりない。



イ 交際相手から「心理的攻撃」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「10 歳代にあった(ある)」が 1.5%、「20 歳代にあった(ある)」が 2.7%、「30 歳代以上にあった(ある)」が 3.4%、「まったくなかった」が 73.6%。『あった(ある)』は 7.5%という結果となった。

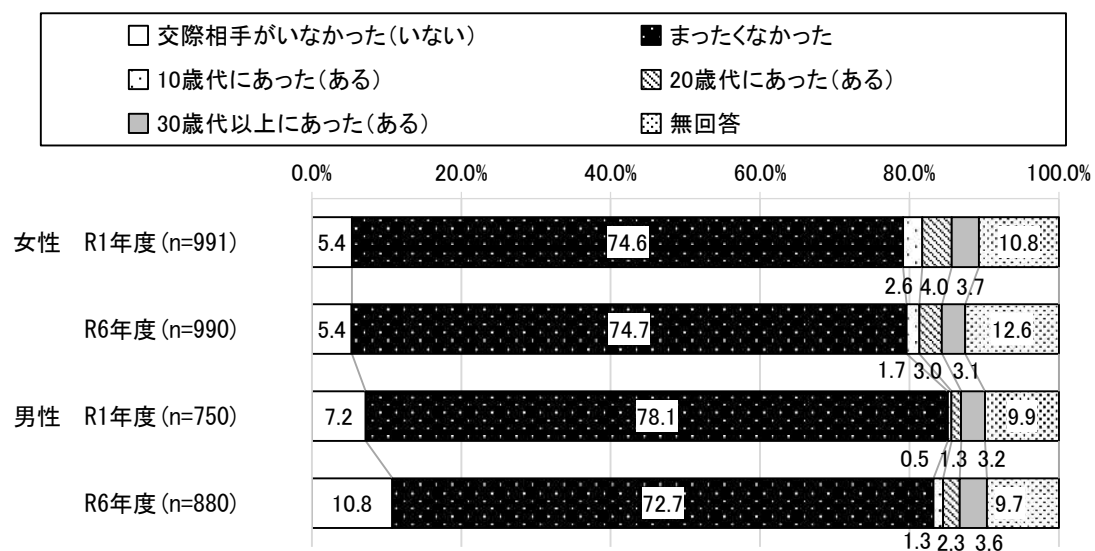
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった(ある)』と答えた割合は、男性(7.2%)、女性(7.9%)でほとんど差がない。

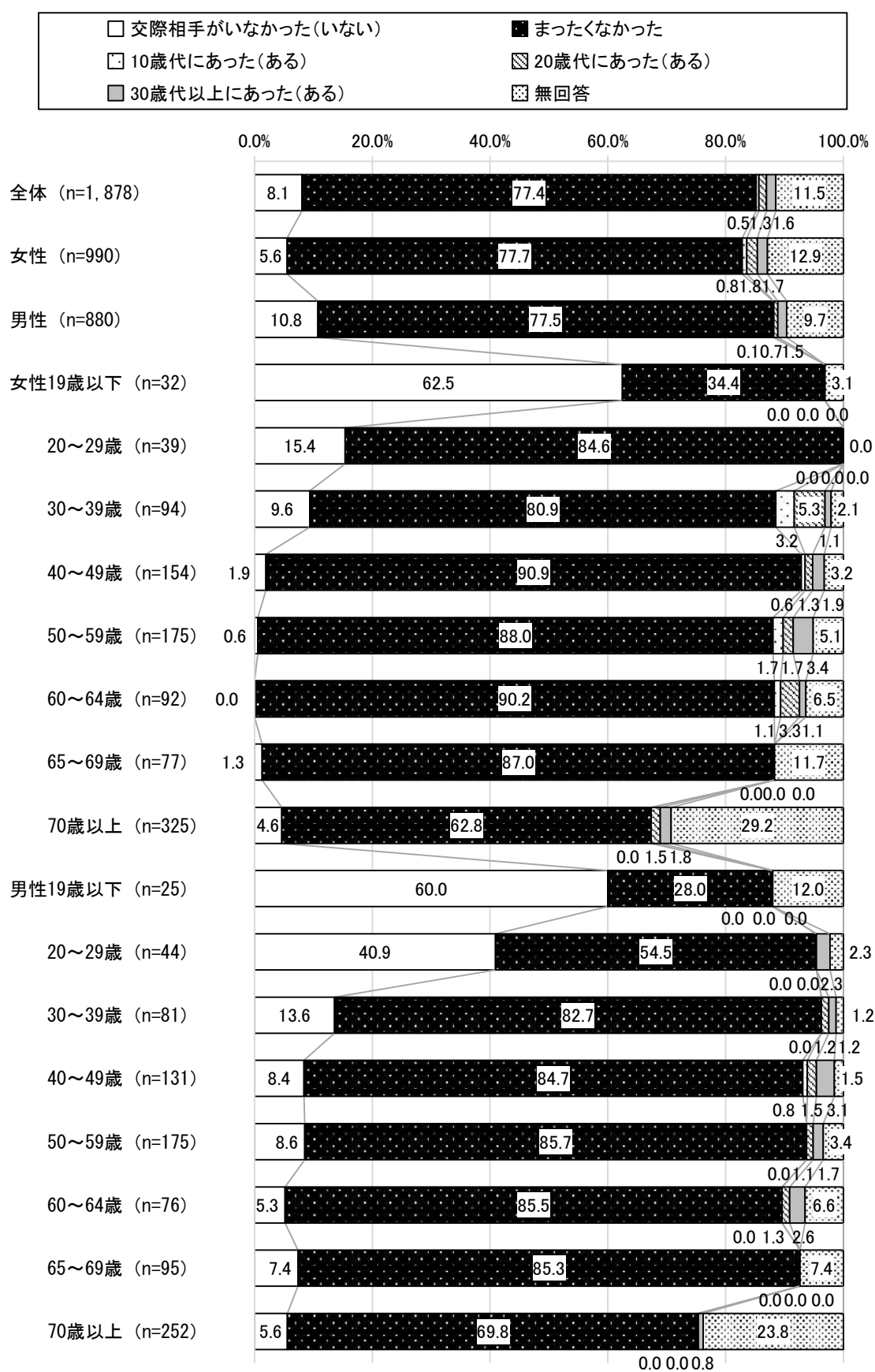
年齢別でみると、『あった(ある)』の割合は、女性の 30 歳代(16.0%)、40 歳代(13.6%)、20 歳代(12.8%)で他の年齢と比べて割合が高く、1 割を超えている。男性では 40 歳代(12.2%)、20 歳代(11.4%)、30 歳代(11.1%)、50 歳代(10.3%)で割合が高く、1 割を超えている。

<前回調査との比較>

前回との差はあまりない。



ウ 交際相手から「経済的圧迫」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「10 歳代にあった(ある)」が 0.5%、「20 歳代にあった(ある)」が 1.3%、「30 歳代以上にあった(ある)」が 1.6%、「まったくなかった」が 77.4%。『あった(ある)』は 3.4%という結果となった。

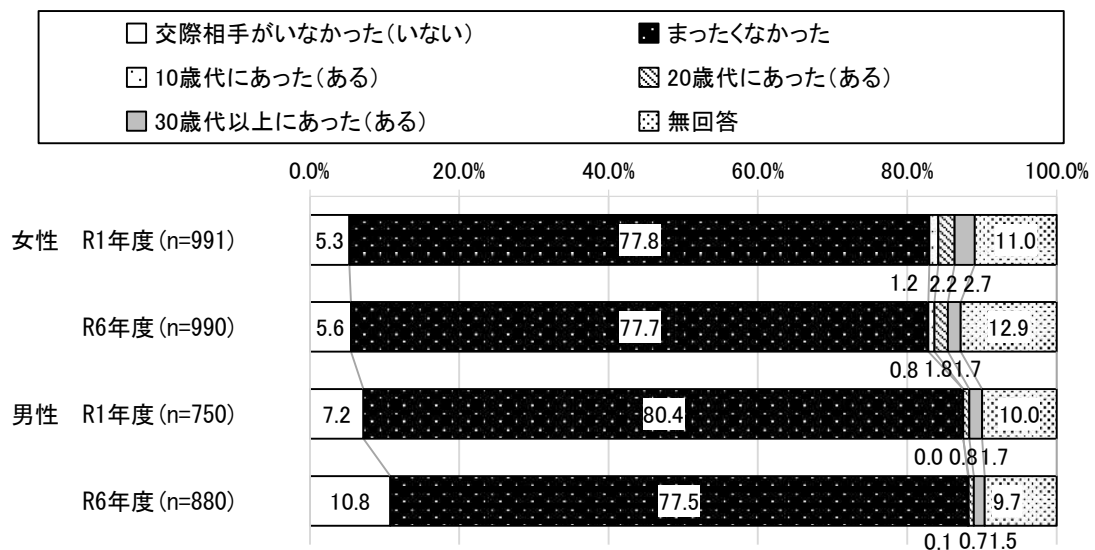
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった(ある)』と答えた割合は、男性(2.3%)より女性(4.3%)でやや高い。

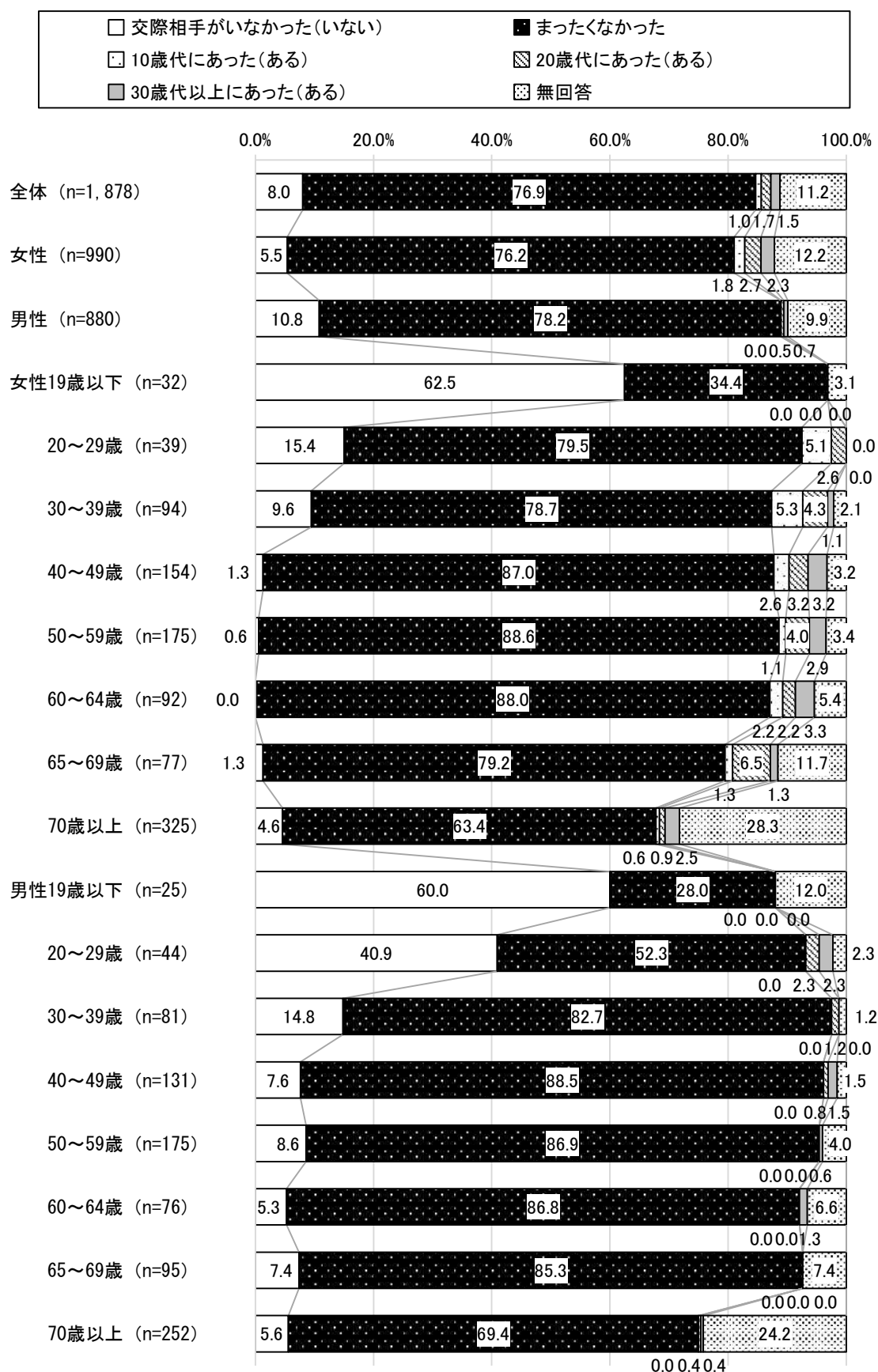
年齢別でみると、『あった(ある)』の割合は、女性では 30 歳代(9.6%)で最も割合が高く、男性では 40 歳代(5.3%)で最も割合が高い。

<前回調査との比較>

前回との差はあまりない。



エ 交際相手から「性的強要」を受けた体験の有無



<全体結果>

全体でみると、「10 歳代にあった(ある)」が 1.0%、「20 歳代にあった(ある)」が 1.7%、「30 歳代以上にあった(ある)」が 1.5%、「まったくなかった」が 76.9%、『あった(ある)』は 4.2%という結果となった。

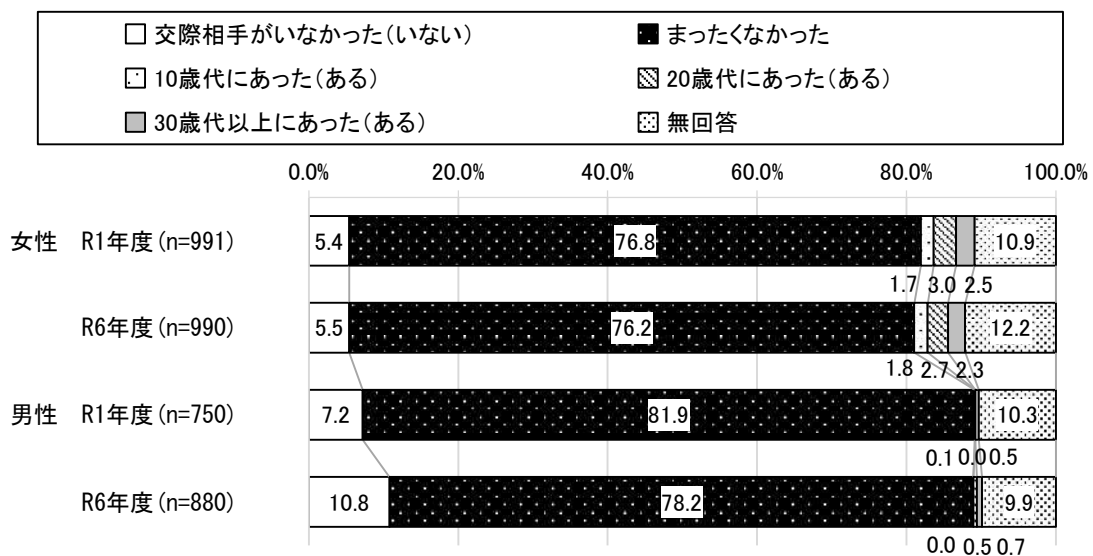
<性別・年齢別>

性別でみると、『あった(ある)』と答えた割合は、男性(1.1%)より女性(6.9%)で高い。

年齢別でみると、『あった(ある)』の割合は、女性では 30 歳代(10.6%)で最も割合が高く、男性では 20 歳代(4.5%)で最も割合が高い。

<前回調査との比較>

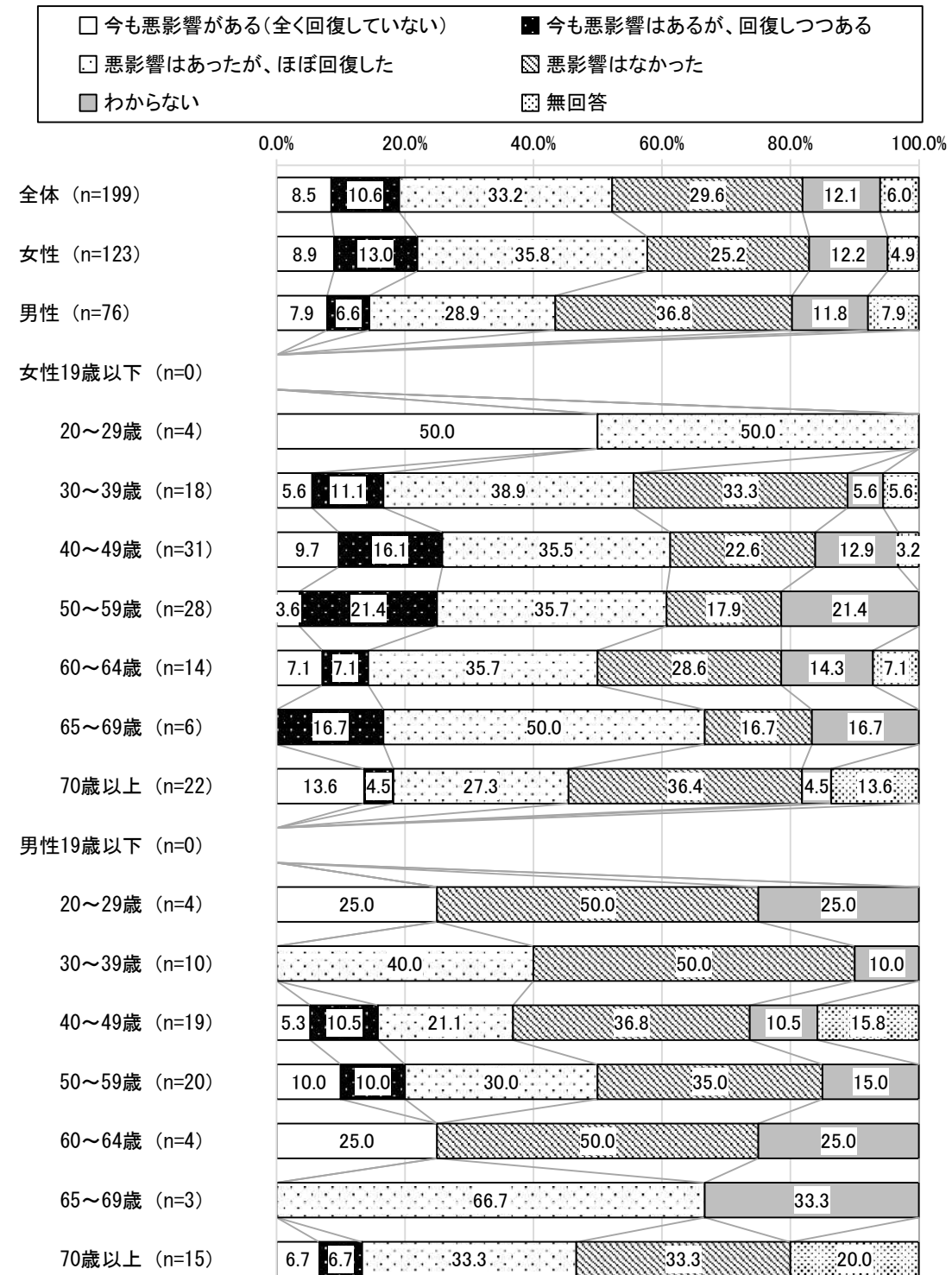
前回との差はあまりない。



(2) 交際相手からの暴力を受けたことの悪影響（生きづらさ）

<問 27 でア～エのうち 1 つでも「あった（ある）」と回答した方だけ>

問 27-1 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。（○は 1 つだけ）



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「今も悪影響がある（全く回復していない）」（8.5%）が1割弱、「今も悪影響はあるが、回復しつつある」（10.6%）が約1割、2つを合わせた『今も悪影響はある』（以下同）（19.1%）が約2割、「悪影響はあったが、ほぼ回復した」（33.2%）が3割強、「悪影響はなかった」（29.6%）が約3割、「わからない」（12.1%）が1割強となった。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、『今も悪影響はある』は男性（14.5%）より女性（22.0%）で割合が高く、女性の割合が男性の割合を7.7ポイント上回っている。「悪影響はあったが、ほぼ回復したと」答えた割合は、男性（28.9%）よりも女性（35.8%）で高く、「悪影響はなかった」と答えた割合は、女性（25.2%）よりも男性（36.8%）で高い。

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

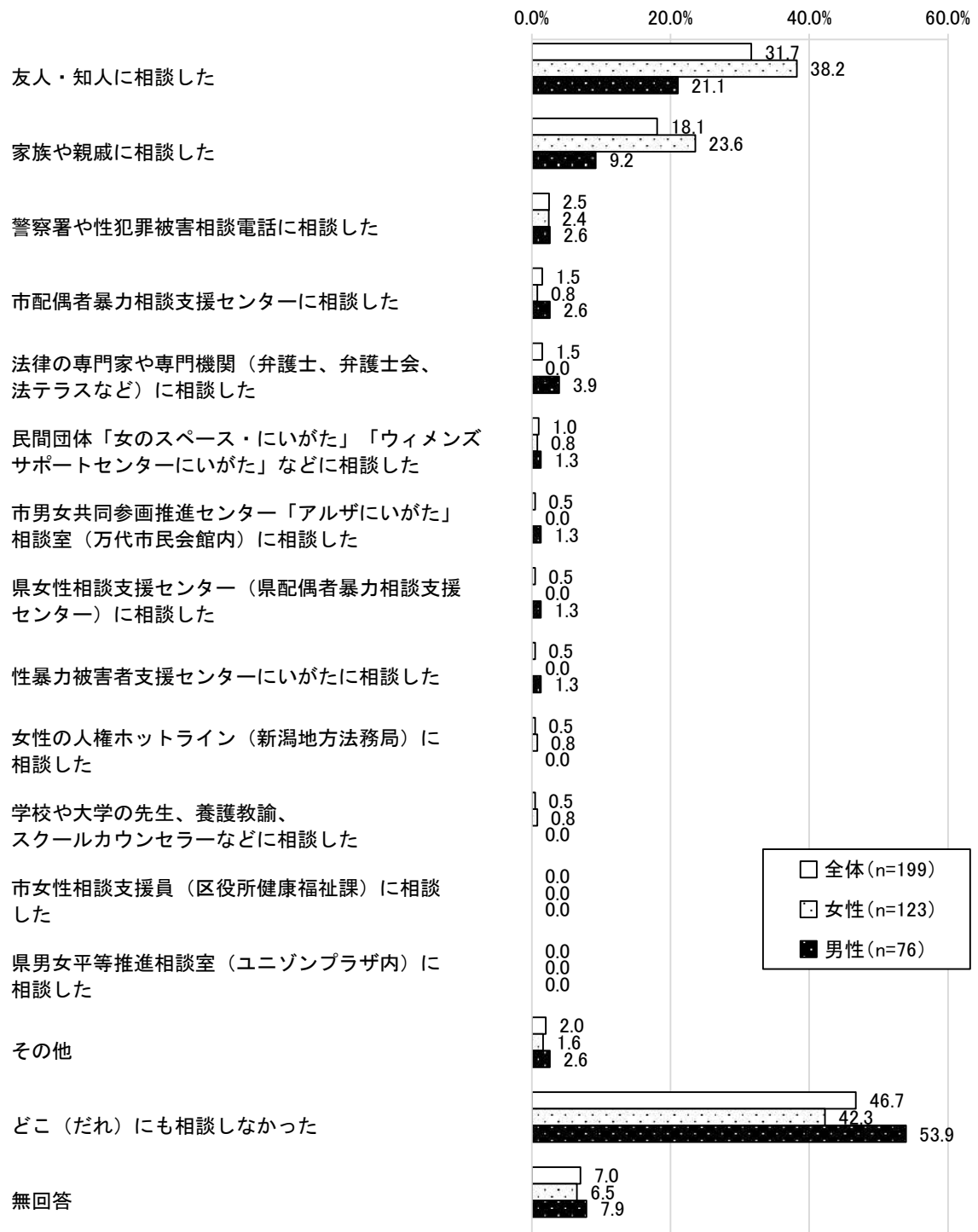
＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

(3) 交際相手からの暴力に関する相談先

＜問 27 でア～エのうち 1 つでも「あった（ある）」と回答した方だけ＞

問 27-2 あなたは、問 27 の行為を受けたあと、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。相談先としてあてはまる番号をお選びください。
(○はいくつでも)



<全体結果>

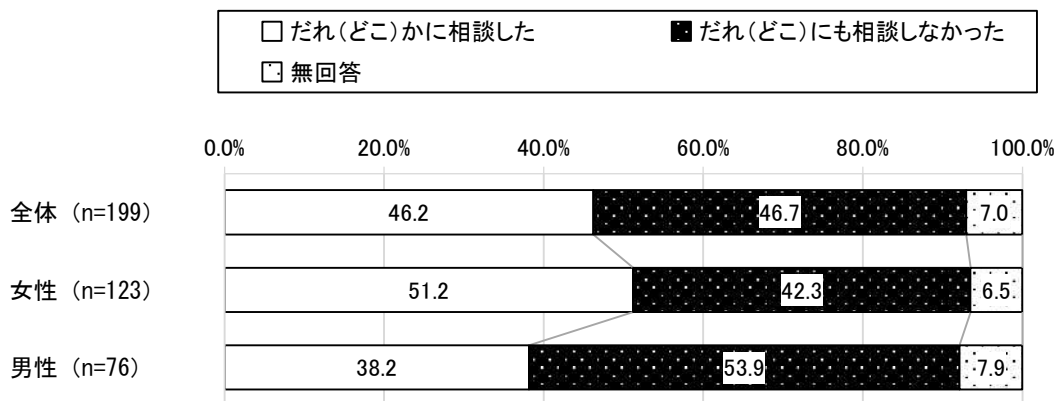
全体でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（46.7%）と答えた割合が4割半ばで最も高い。次いで「友人・知人」（31.7%）が約3割、「家族や親戚」（18.1%）が約2割で続いている。他の項目は無回答を除き3%以下という結果となった。

<性別>

性別でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、女性（42.3%）より男性（53.9%）で割合が高い。「友人・知人」、「家族や親戚」は、男性（各21.1%、9.2%）より女性（各38.2%、23.6%）で割合が高い。

<その他>

『だれ（どこ）かに相談した』と答えた合計の割合は、全体では46.2%となった。男性（38.2%）よりも女性（51.2%）で高く5割を超えた。



<前回調査との比較>

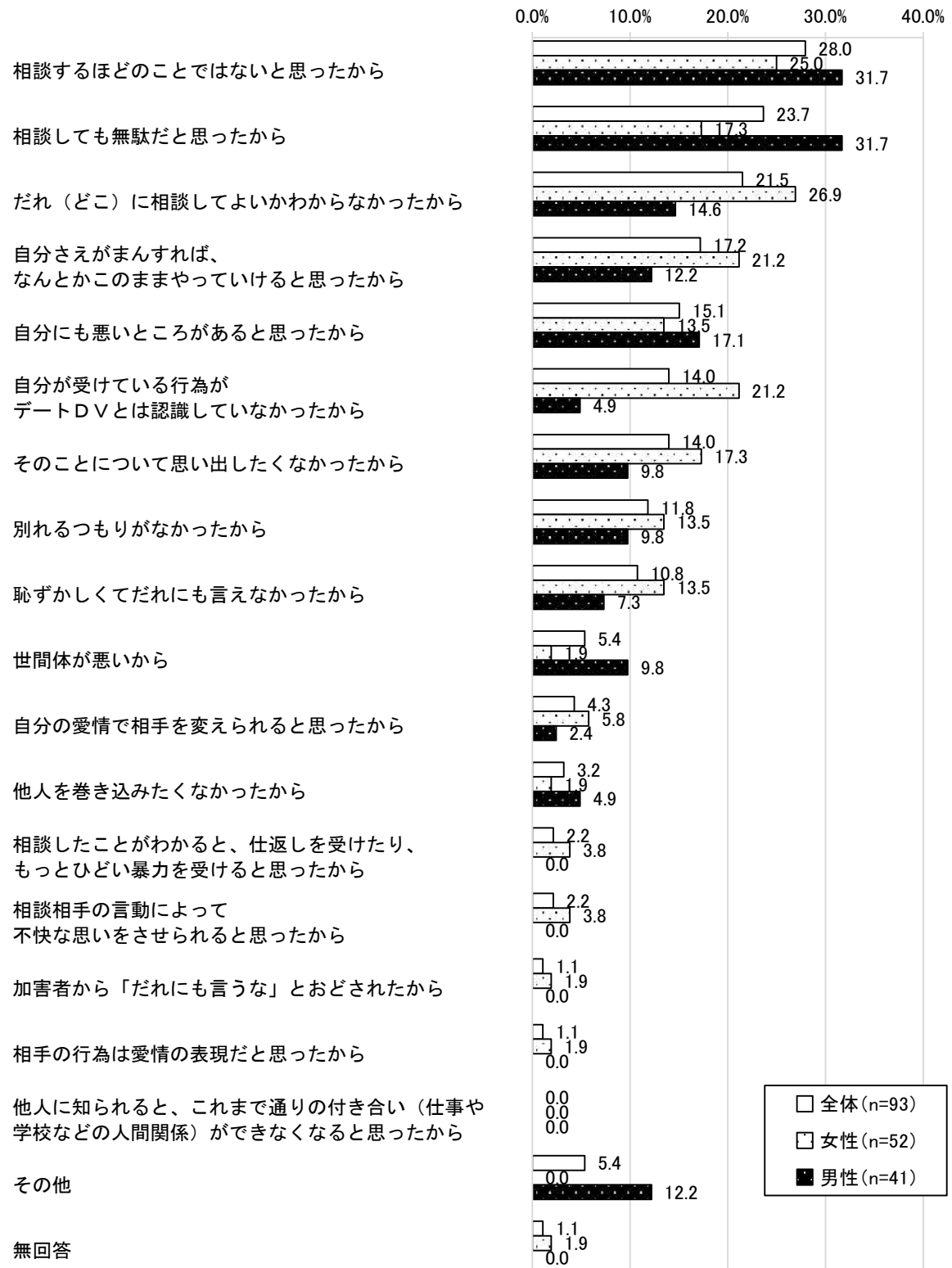
前回調査と比較し、「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が4.1ポイント増加し、「友人・知人」が7.3ポイント減少した。

「交際相手からの暴力に関する相談先」の割合が高い領域

R1 調査 (n=223)		今回調査 (n=199)	
どこ（だれ）にも相談しなかった	42.6%	どこ（だれ）にも相談しなかった	46.7%
友人・知人	39.0%	友人・知人	31.7%
家族や親戚	20.6%	家族や親戚	18.1%

(4) 交際相手からの暴力に関する相談をしなかった理由

＜問 27-2 で「15 だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方だけ＞
問 27-3 その理由としてあてはまる番号をお選びください。（○は3つまで）



<全体結果>

全体でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」(28.0%)と答えた割合が最も高い。次いで「相談しても無駄だと思ったから」(23.7%)、「だれ(どこ)に相談してよいかわからなかったから」(21.5%)が2割台、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(17.2%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(15.1%)、「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」、「そのことについて思い出したくなかったから」(いずれも14.0%)、「別れるつもりがなかったから」(11.8%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(10.8%)が1割台で続いている。

<性別>

性別でみると、女性は「だれ(どこ)に相談してよいかわからなかったから」(26.9%)の割合が最も高く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」と「相談しても無駄だと思ったから」の割合が同率(31.7%)で最も高い。男女で割合の差が5.0ポイント以上あった項目でみると、「だれ(どこ)に相談してよいかわからなかったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから」、「そのことについて思い出したくなかったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は男性より女性で割合が高く、「相談するほどのことではないと思ったから」、「相談しても無駄だと思ったから」、「世間体が悪いから」は女性より男性で割合が高い。

<前回調査との比較>

前回調査と項目が異なるため、参考として掲載する。

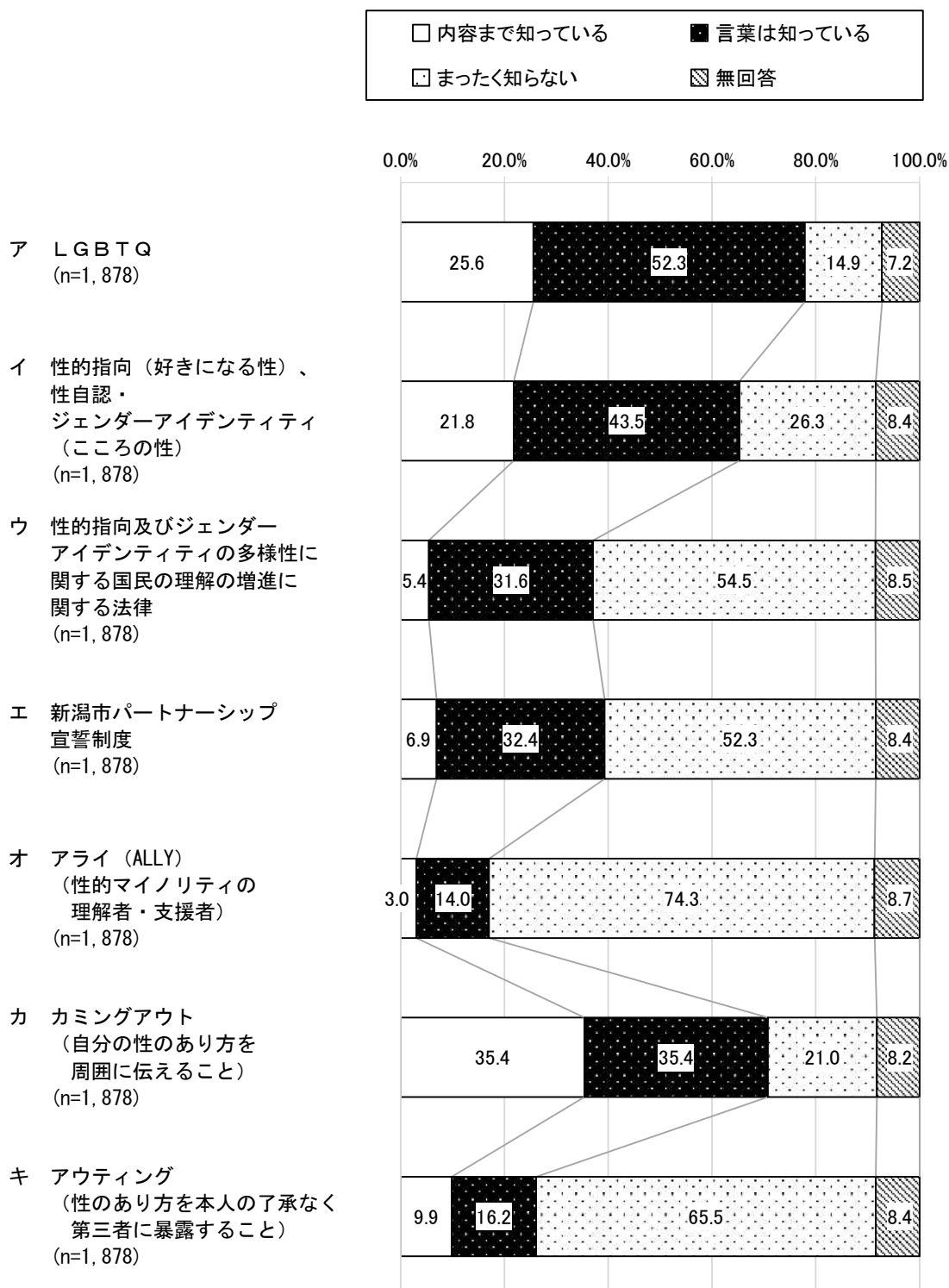
「交際相手からの暴力に関する相談をしなかった理由」の割合が高い領域

R1 調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
相談しても無駄だと思ったから	26.3%	相談するほどのことではないと思ったから	28.0%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	25.3%	相談しても無駄だと思ったから	23.7%
自分にも悪いところがあると思ったから	21.1%	だれ(どこ)に相談してよいかわからなかったから	21.5%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	17.9%	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	17.2%
別れるつもりがなかったから	14.7%	自分にも悪いところがあると思ったから	15.1%
相談するほどのことではないと思った、または自分の愛情で相手を変えられると思ったから	12.6%	自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから	14.0%
どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	11.6%	そのことについて思い出したくなかったから	14.0%

9 性の多様性

(1) ことばや法律の認知度

問 28 あなたは、L G B T Q※など性的マイノリティ（性のあり方が少数派とされる人々）に関する言葉や法律を知っていますか。ア～キについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○はそれぞれ1つずつ）



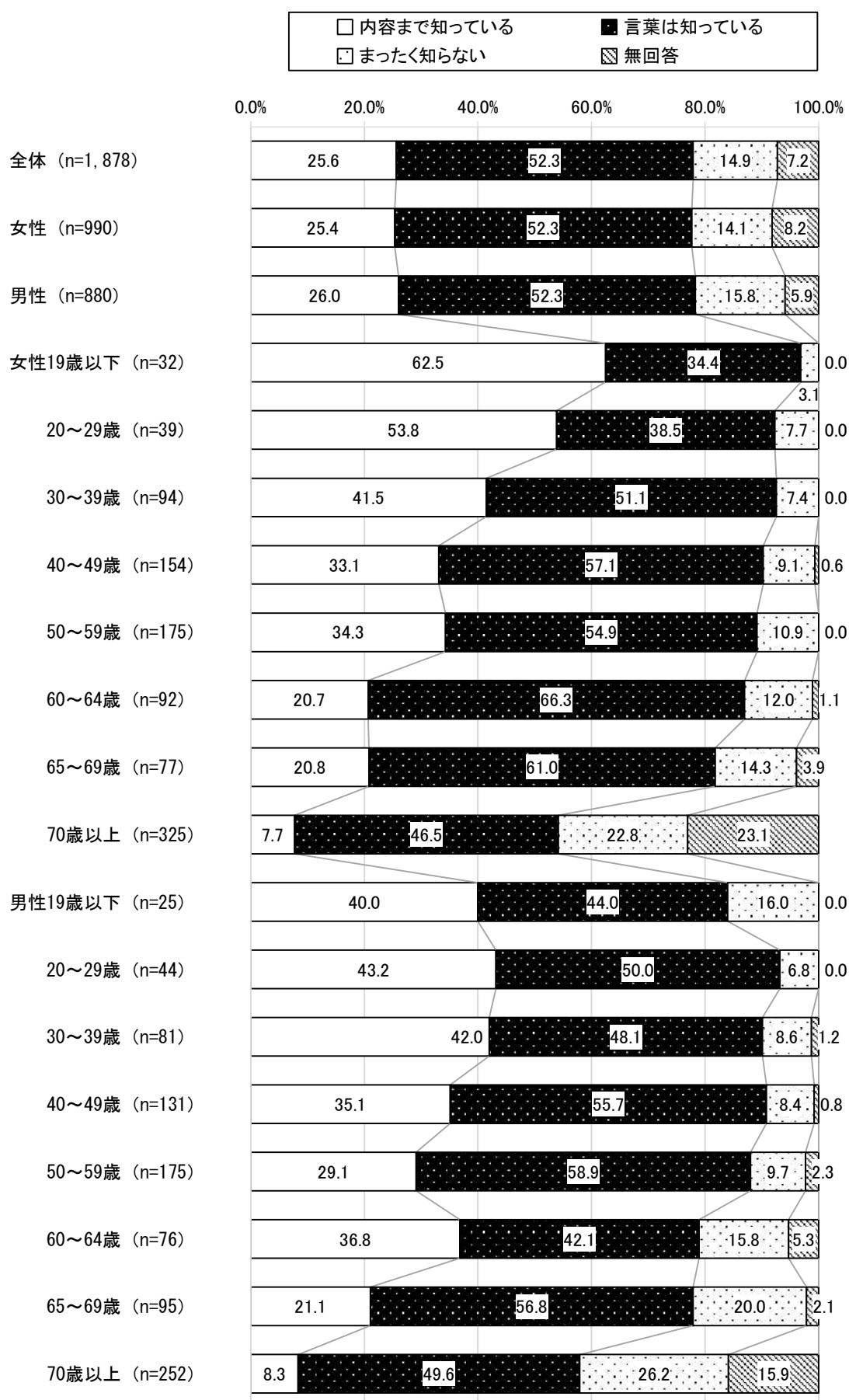
＜全体結果＞

「内容まで知っている」と答えた割合は、「カミングアウト（自分の性のあり方を周囲に伝えること）」（35.4%）、「L G B T Q」（25.6%）、「性的指向（好きになる性）、性自認・ジェンダーアイデンティティ（こころの性）」（21.8%）の順に高く、他は1割未満となった。「内容まで知っている」と「言葉は知っている」の2つを合わせた『知っている』（以下同）の割合は、「L G B T Q」（77.9%）と「カミングアウト（自分の性のあり方を周囲に伝えること）」（70.8%）が7割台で高く、次いで「性的指向（好きになる性）、性自認・ジェンダーアイデンティティ（こころの性）」（65.3%）、「新潟市パートナーシップ宣誓制度」（39.3%）、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」（37.1%）、「アウティング（性のあり方を本人の了承なく第三者に暴露すること）」（26.1%）、「アライ（ALLY）（性的マイノリティの理解者・支援者）」（17.0%）と続いている。

＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

ア LGBTQ



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」(25.6%)と「言葉は知っている」(52.3%)を合わせた『知っている』が77.9%、「まったく知らない」が14.9%という結果となった。

＜性別・年齢別＞

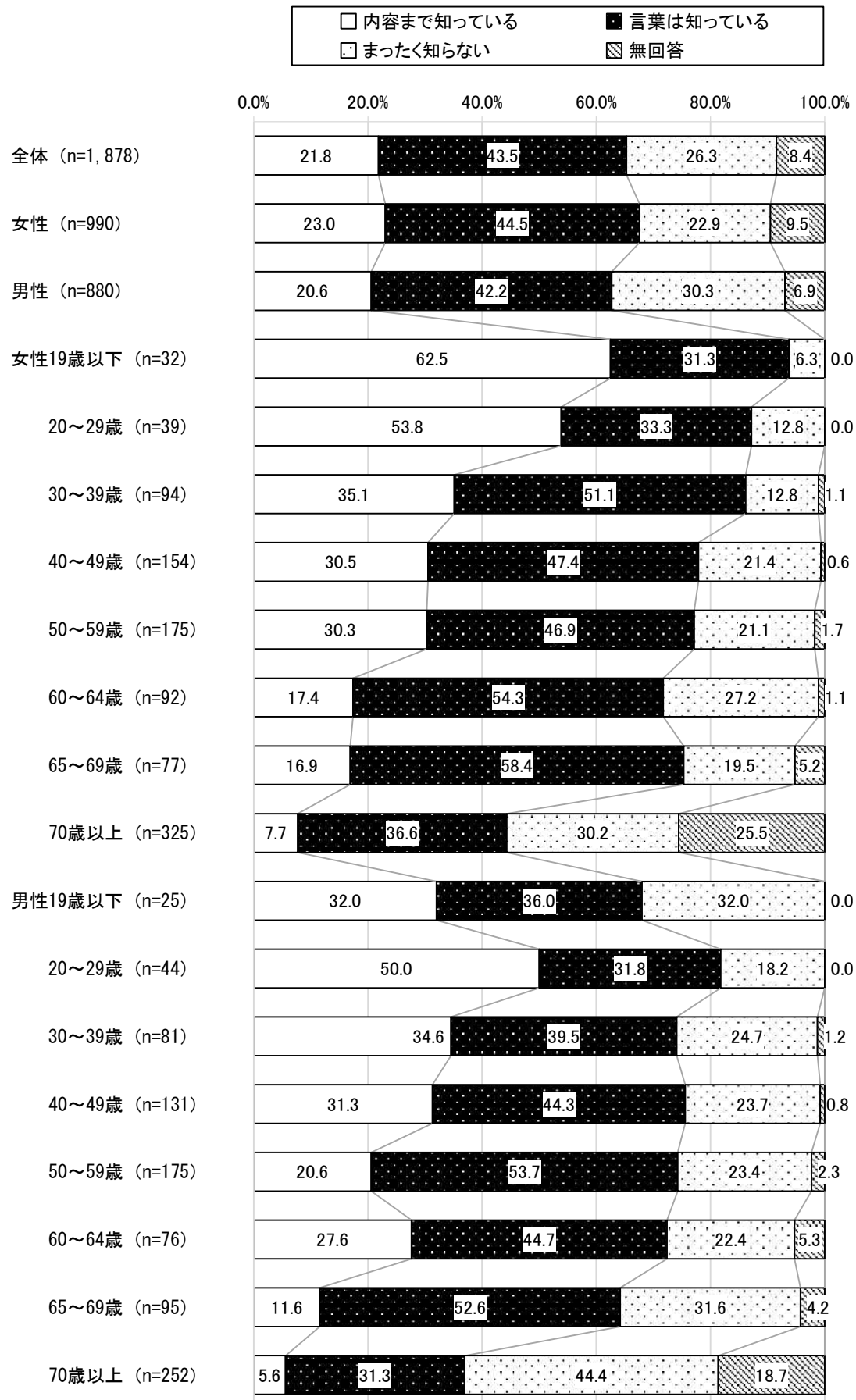
性別での大きな差はみられない。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では19歳以下(62.5%)で最も高く、男性では20歳代(43.2%)で最も高い。男女ともに年齢が若いほど割合が高くなる傾向がみられる。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

イ 性的指向（好きになる性）、性自認・ジェンダーアイデンティティ（こころの性）



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（21.8％）と「言葉は知っている」（43.5％）を合わせた『知っている』が 65.3％、「まったく知らない」が 26.3％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

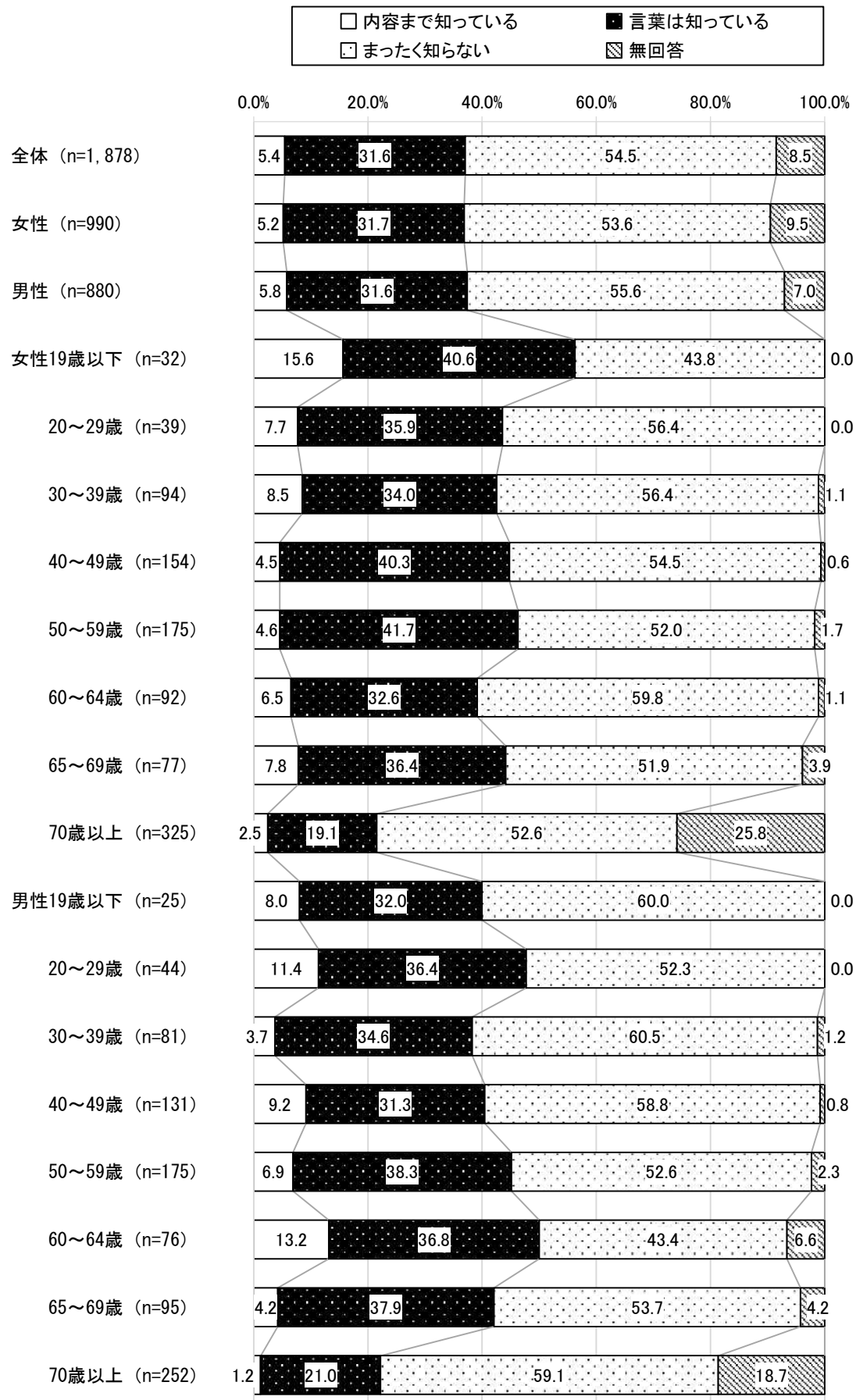
性別でみると、「まったく知らない」と答えた割合は、女性（22.9％）よりも男性（30.3％）で高い。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では 19 歳以下（62.5％）で最も高く、男性では 20 歳代（50.0％）で最も高い。男女ともに年齢が若いほど割合が高くなる傾向がみられる。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

ウ 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（5.4％）と「言葉は知っている」（31.6％）を合わせた『知っている』が 37.1％、「まったく知らない」が 54.5％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

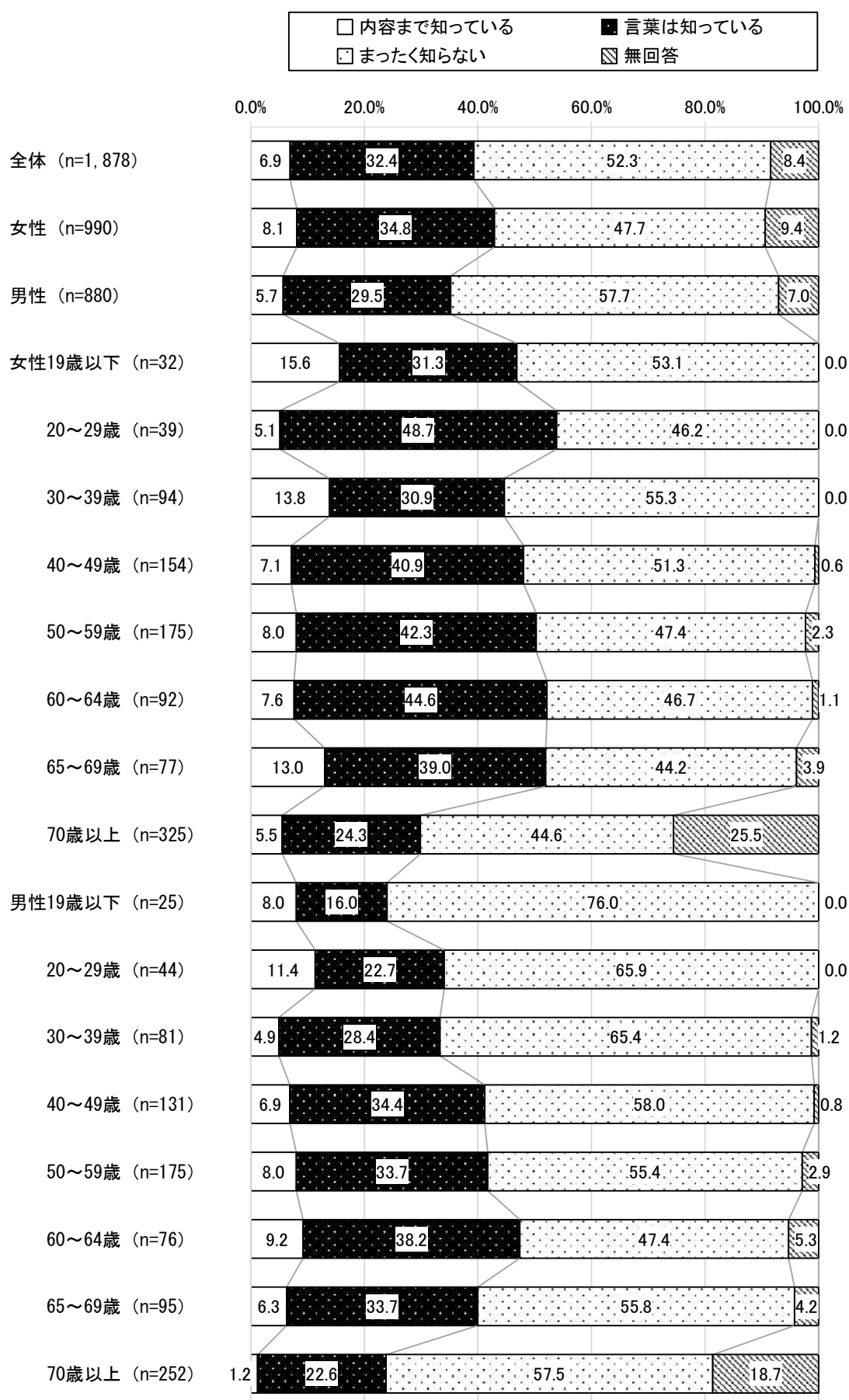
性別での大きな差はみられない。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では 19 歳以下（15.6％）で最も高く、男性では 60～64 歳（13.2％）で最も高い。

＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

エ 新潟市パートナーシップ宣誓制度



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（6.9％）と「言葉は知っている」（32.4％）を合わせた『知っている』が 39.3％、「まったく知らない」が 52.3％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

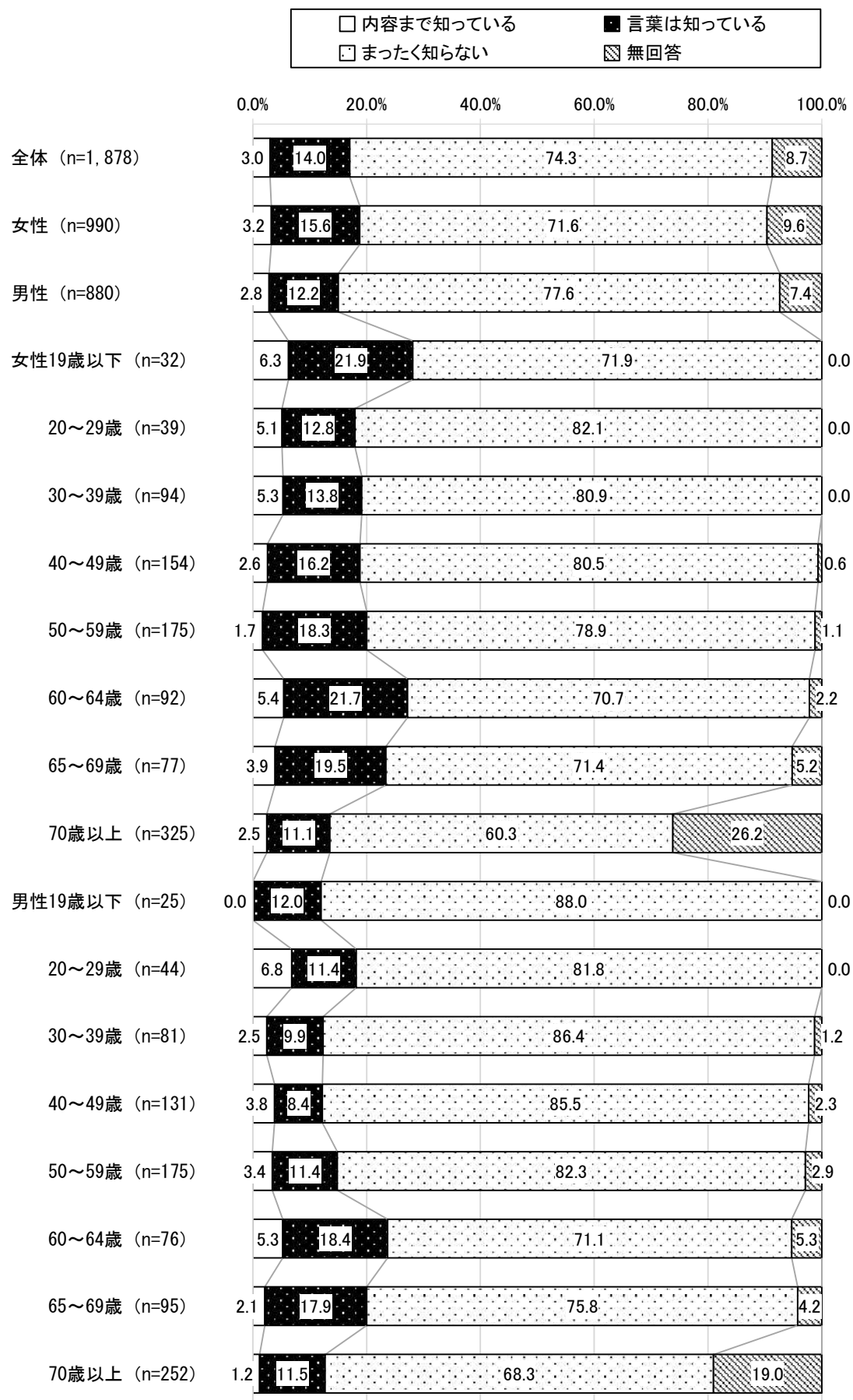
性別でみると、「まったく知らない」と答えた割合は、女性（47.7％）よりも男性（57.7％）で高い。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では 19 歳以下（15.6％）で最も高く、男性では 20 歳代（11.4％）で最も高い。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

オ アライ (ALLY) (性的マイノリティの理解者・支援者)



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（3.0％）と「言葉は知っている」（14.0％）を合わせた『知っている』が17.0％、「まったく知らない」が74.3％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

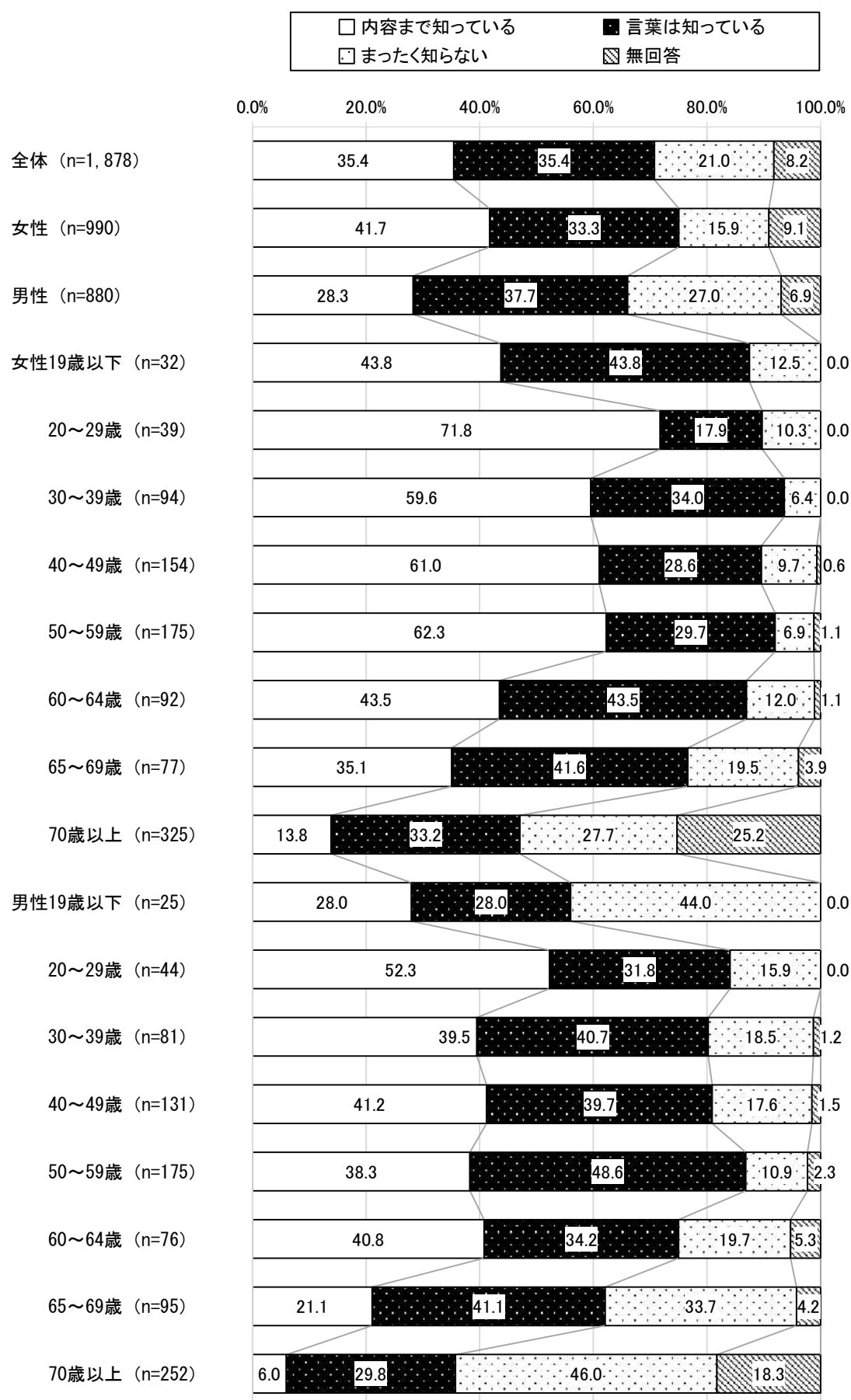
性別でみると、「まったく知らない」と答えた割合は、女性（71.6％）よりも男性（77.6％）で高い。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では19歳以下（6.3％）で最も高く、男性では20歳代（6.8％）で最も高い。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

カ カミングアウト（自分の性のあり方を周囲に伝えること）



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（35.4％）と「言葉は知っている」（35.4％）を合わせた『知っている』が70.8％、「まったく知らない」が21.0％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

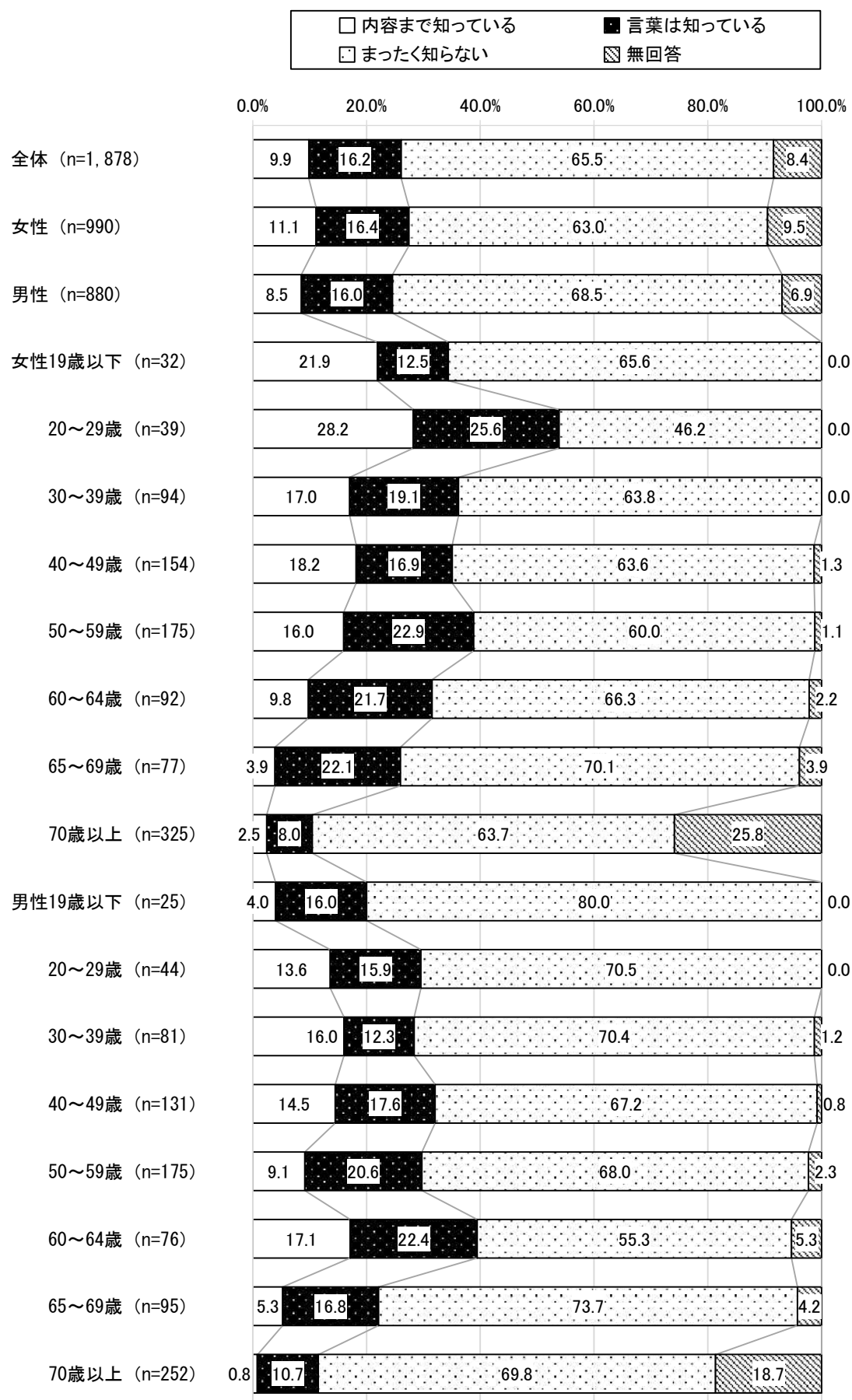
性別でみると、「まったく知らない」と答えた割合は、女性（15.9％）よりも男性（27.0％）で高い。

年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、男女ともに20歳代（女性71.8％、男性52.3％）で最も高い。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

キ アウティング（性のあり方を本人の了承なく第三者に暴露すること）



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」（9.9％）と「言葉は知っている」（16.2％）を合わせた『知っている』が26.1％、「まったく知らない」が65.5％という結果となった。

＜性別・年齢別＞

性別でみると、「まったく知らない」と答えた割合は、女性（63.0％）よりも男性（68.5％）で高い。

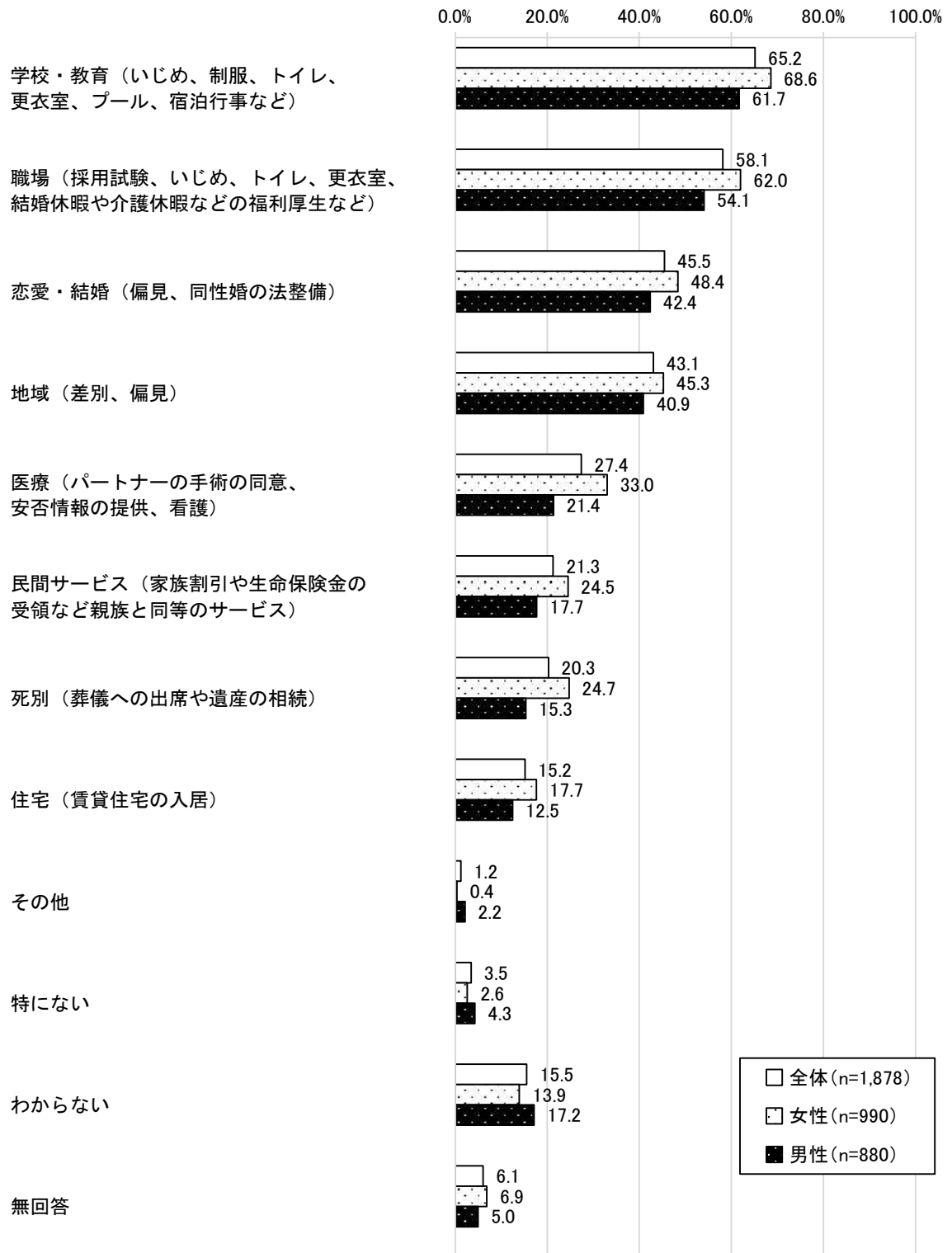
年齢別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、女性では20歳代（28.2％）で最も高く、男性では30歳代（16.0％）で最も高い。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

(2) L G B T Q等性的マイノリティが日常生活を営むうえで直面している課題

問 29 あなたは、L G B T Qなど性的マイノリティが日常生活を送るうえで直面している課題にはどのようなものがあると思いますか。(〇はいくつでも)



＜全体結果＞

全体でみると、「学校・教育（いじめ、制服、トイレ、更衣室、プール、宿泊行事など）」（65.2%）と答えた割合が最も高く、6割を超えた。次いで「職場（採用試験、いじめ、トイレ、更衣室、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生など）」（58.1%）、「恋愛・結婚（偏見、同性婚の法整備）」（45.5%）、「地域（差別、偏見）」（43.1%）、「医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）」（27.4%）、「民間サービス（家族割引や生命保険金の受領など親族と同等のサービス）」（21.3%）、「死別（葬儀への出席や遺産の相続）」（20.3%）の順に続いている。

＜性別＞

性別でみると、すべての項目で、女性の割合が男性の割合より高くなっている。特に、「医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）」では、10.0ポイント以上高く、男女差がみられる。

＜前回調査との比較＞

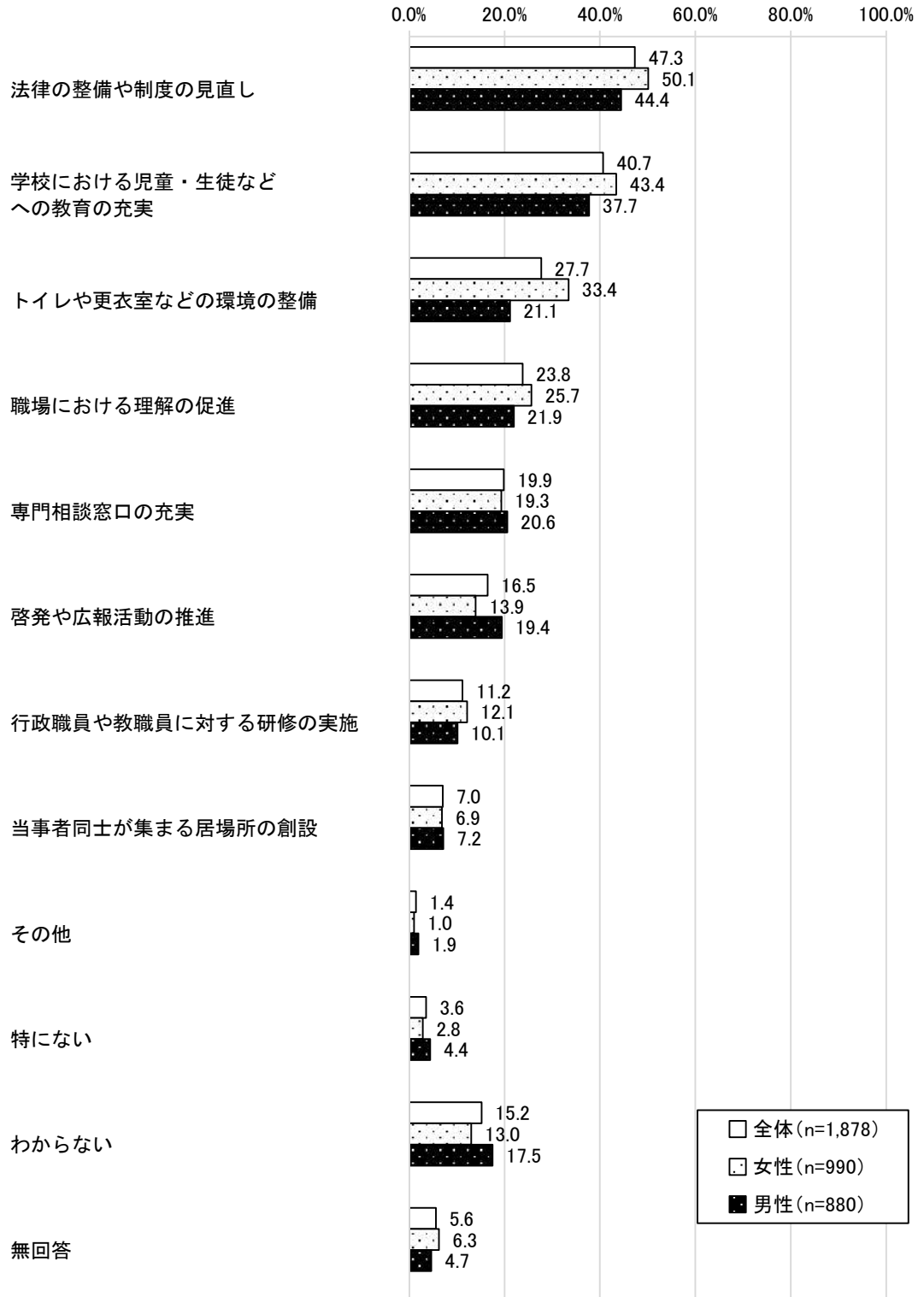
前回調査と比較すると、「恋愛・結婚（偏見、同性婚の法整備）」と「地域（差別、偏見）」の順位が入れ替わったが、大きな変化はみられない。

「LGBTQ等性的マイノリティが日常生活を営むうえで直面している課題」の割合が高い領域

R1 年調査（n=1,812）		今回調査（n=1,878）	
学校・教育（いじめ、制服、トイレ、更衣室、プール、宿泊行事）	66.4%	学校・教育（いじめ、制服、トイレ、更衣室、プール、宿泊行事など）	65.2%
職場（採用試験、いじめ、トイレ、更衣室、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生）	56.5%	職場（採用試験、いじめ、トイレ、更衣室、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生など）	58.1%
地域（差別、偏見）	49.7%	恋愛・結婚（偏見、同性婚の法整備）	45.5%
恋愛・結婚（偏見、同性婚の法未整備）	46.6%	地域（差別、偏見）	43.1%
医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）	21.1%	医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護）	27.4%
民間サービス（家族割引や生命保険金の受領など家族と同等のサービス）	17.4%	民間サービス（家族割引や生命保険金の受領など親族と同等のサービス）	21.3%

(3) L G B T Q等性的マイノリティに対する理解の促進や支援に必要だと思うもの

問 30 あなたは、L G B T Qなど性的マイノリティに対する理解の促進や支援にはどのようなものが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



＜全体結果＞

全体でみると、「法律の整備や制度の見直し」（47.3％）と答えた割合が最も高く、5割弱となった。次いで「学校における児童・生徒などへの教育の充実」（40.7％）、「トイレや更衣室などの環境の整備」（27.7％）、「職場における理解の促進」（23.8％）の順に続いている。

＜性別＞

性別で 5.0 ポイント以上差があるのは、「法律の整備や制度の見直し」（男性 44.4％、女性 50.1％）、「学校における児童・生徒などへの教育の充実」（男性 37.7％、女性 43.4％）、「トイレや更衣室などの環境の整備」（男性 21.1％、女性 33.4％）が男性より女性で高く、「啓発や広報活動の推進」（男性 19.4％、女性 13.9％）が女性より男性で高くなっている。

＜前回調査との比較＞

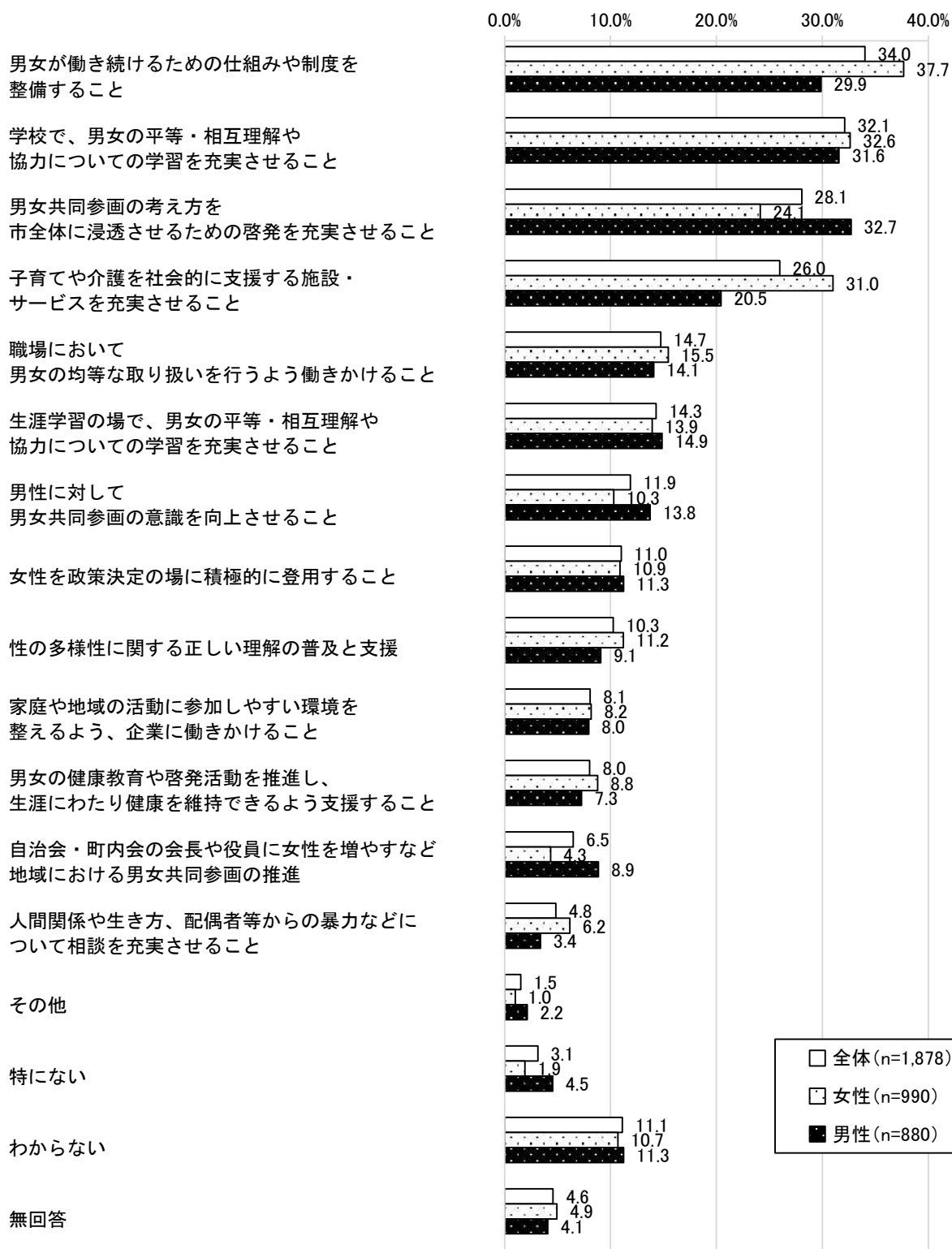
前回調査と項目内容が若干異なるため単純に比較できないが、「法律の整備・制度の見直し」に関する項目の割合が増加した。

「LGBTQ等性的マイノリティに対する理解の促進や支援に必要なもの」の割合が高い領域

R1 年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
児童・生徒などへの学校における教育の充実	41.8％	法律の整備や制度の見直し	47.3％
いじめや差別を禁止する法律の整備や制度の見直し	36.5％	学校における児童・生徒などへの教育の充実	40.7％
職場における理解の促進	29.1％	トイレや更衣室などの環境の整備	27.7％
トイレや更衣室などの環境の整備	24.4％	職場における理解の促進	23.8％
専門相談窓口の充実	22.6％	専門相談窓口の充実	19.9％
啓発や広報活動の推進	20.1％	啓発や広報活動の推進	16.5％

10 男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと

問 31 新潟市では平成 17 年に、男女共同参画社会の実現に向けて、「新潟市男女共同参画推進条例」を制定し、さまざまな施策を実施しています。あなたは、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は3つまで）



＜全体結果＞

全体でみると、「男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること」(34.0%)と答えた割合が3割半ばで最も高い。以下、「学校で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること」(32.1%)、「男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発を充実させること」(28.1%)、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実させること」(26.0%)、「職場において男女の均等な取り扱いを行うよう働きかけること」(14.7%)、「生涯学習の場で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること」(14.3%)と続いている。

＜性別＞

性別でみると、「男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること」は、男性(29.9%)より女性(37.7%)で割合が7.8ポイント、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実させること」は、男性(20.5%)より女性(31.0%)で割合が10.5ポイント高く、「男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発を充実させること」は、女性(24.1%)より男性(32.7%)で割合が8.6ポイント高く差がみられた。

＜前回調査との比較＞

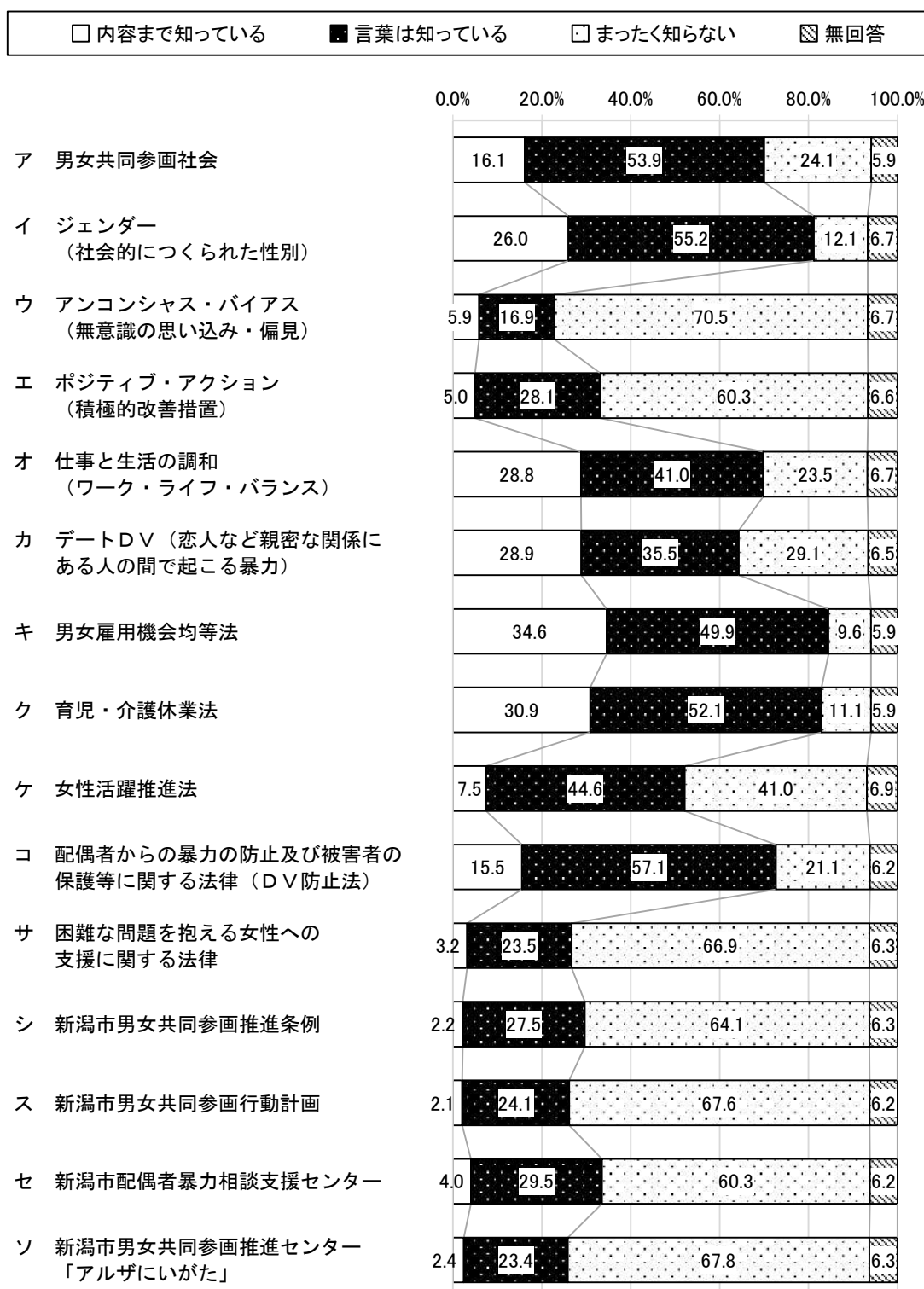
前回調査と比較すると、「子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実させること」が9.4ポイント減少している。

「男女共同参画社会実現のために市が力を入れるべきこと」の割合が高い領域

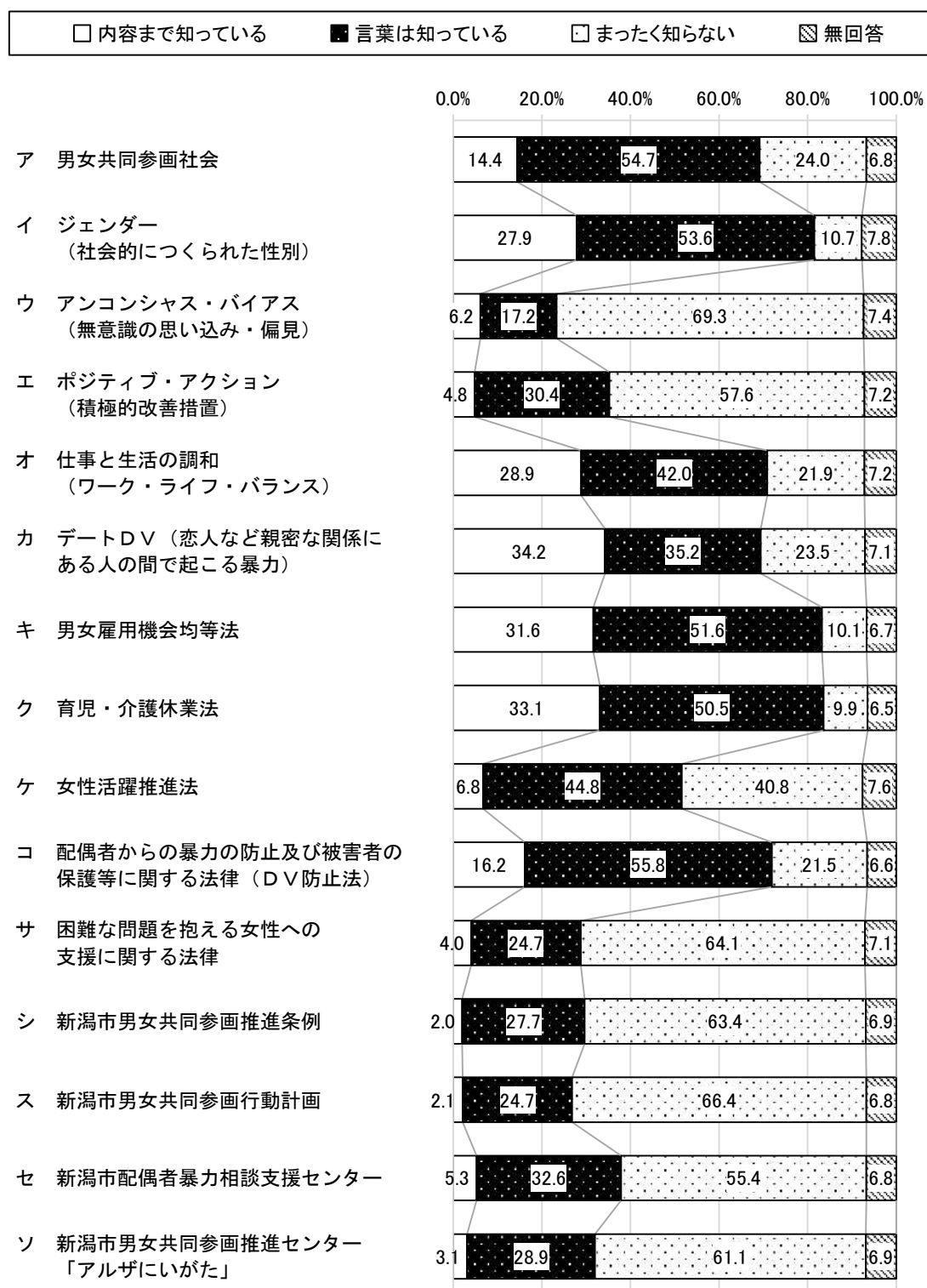
R1年調査 (n=1,812)		今回調査 (n=1,878)	
男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること	39.4%	男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること	34.0%
子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実すること	35.4%	学校で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること	32.1%
学校で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実すること	31.6%	男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること	28.1%
男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発を充実させること	27.0%	子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実させること	26.0%
生涯学習の場で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実すること	14.1%	職場において男女の均等な取り扱いを行うよう働きかけること	14.7%
職場において男女の均等な取り扱いを行うよう働きかけること	14.1%	生涯学習の場で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること	14.3%

11 男女共同参画社会に関することばの認知度

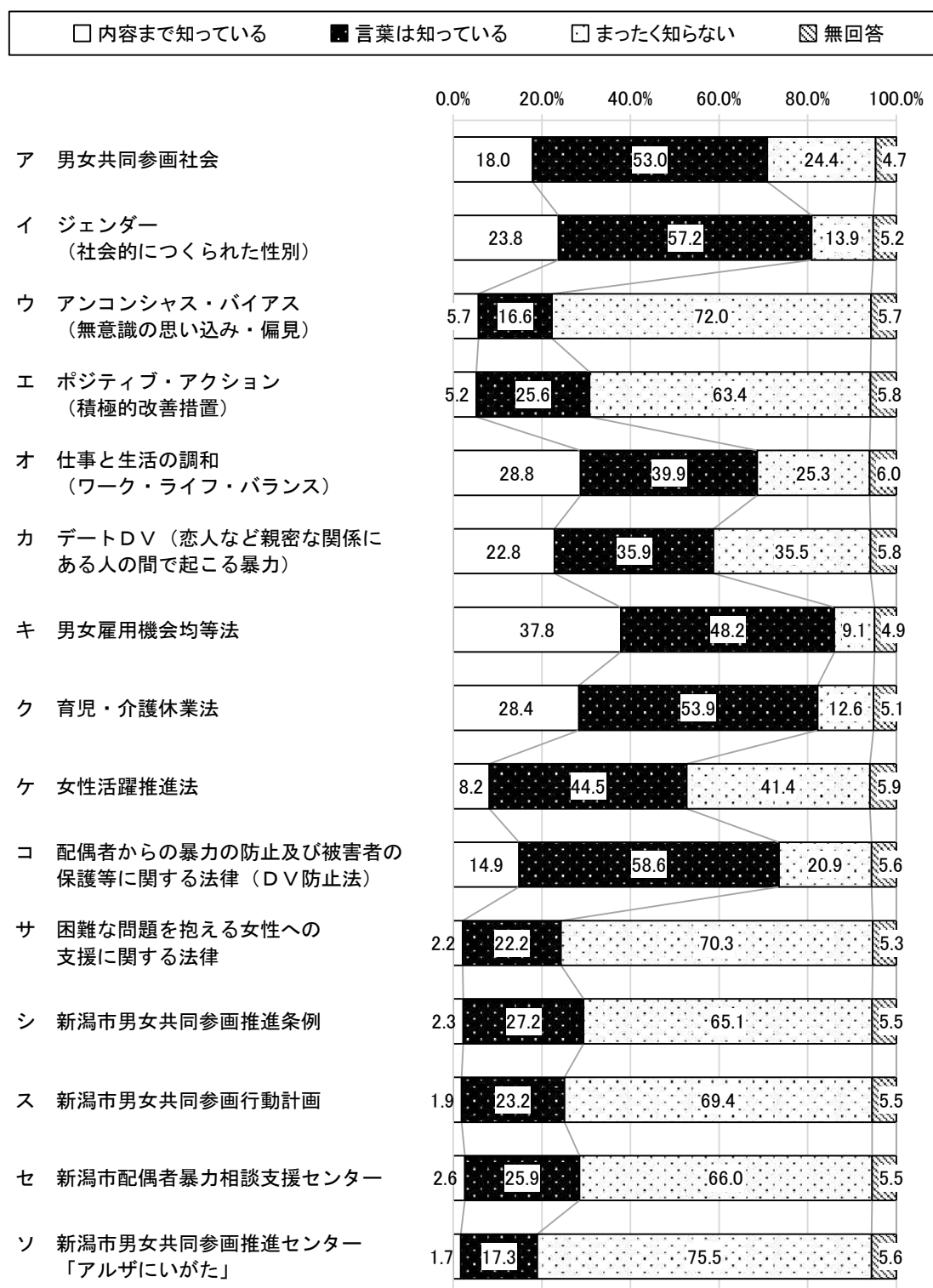
問 32 あなたは、次のような言葉や法律、名称について知っていますか。
ア～ソについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)



男女共同参画社会に関することばの認知度（性別：女性）



男女共同参画社会に関することばの認知度（性別：男性）



＜全体結果＞

全体でみると、「内容まで知っている」と答えた割合が最も高かったのは、「男女雇用機会均等法」(34.6%)で3割半ばとなった。次いで「育児・介護休業法」(30.9%)、「デートＤＶ（恋人など親密な関係にある人の間で起こる暴力）」(28.9%)、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」(28.8%)と続いた。

「内容まで知っている」「言葉は知っている」を合わせた『知っている』（以下同）と答えた割合は、「男女雇用機会均等法」(84.5%)、「育児・介護休業法」(83.0%)、「ジェンダー（社会的につくられた性別）」(81.2%)が8割台、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（ＤＶ防止法）」(72.7%)、「男女共同参画社会」(70.0%)が7割台、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」(69.8%)、「デートＤＶ（恋人など親密な関係にある人の間で起こる暴力）」(64.3%)が6割台で続いた。

一方、「まったく知らない」と答えた割合が高かったのは、「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）」(70.5%)、「新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」」(67.8%)、「新潟市男女共同参画行動計画」(67.6%)、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」(66.9%)、「新潟市男女共同参画推進条例」(64.1%)、「新潟市配偶者暴力相談支援センター」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」(いずれも 60.3%)の順となった。

	「内容まで知っている」＋ 「言葉は知っている」		「内容まで知っている」	
	R1 年調査	今回調査	R1 年調査	今回調査
男女共同参画社会	65.0%	70.0%	15.0%	16.1%
ジェンダー （社会的につくられた性別）	62.4%	81.2%	18.2%	26.0%
アンコンシャス・バイアス（無意識の 思い込み・偏見）		22.8%		5.9%
ポジティブ・アクション （積極的改善措置）	35.6%	33.1%	5.1%	5.0%
仕事と生活の調和 （ワーク・ライフ・バランス）	72.2%	69.8%	27.3%	28.8%
デートＤＶ（恋人など親密な関係に ある人の間で起こる暴力）	67.6%	64.3%	35.5%	28.9%
男女雇用機会均等法	86.5%	84.5%	41.8%	34.6%
育児・介護休業法	85.8%	83.0%	36.8%	30.9%
女性活躍推進法	49.6%	52.1%	6.7%	7.5%
配偶者からの暴力の防止及び被害者 の保護等に関する法律（ＤＶ防止法）	73.3%	72.7%	15.7%	15.5%
困難な問題を抱える女性への支援に 関する法律		26.7%		3.2%
新潟市男女共同参画推進条例	27.2%	29.7%	1.9%	2.2%
新潟市男女共同参画行動計画	23.1%	26.1%	1.7%	2.1%
新潟市配偶者暴力相談支援センター	33.3%	33.5%	2.9%	4.0%
新潟市男女共同参画推進センター 「アルザにいがた」	30.2%	25.9%	2.8%	2.4%

※R1は「言葉は知っている」ではなく「見た・聞いたことがある」

<性別>

性別でみると、「内容まで知っている」と答えた割合は、「デートDV」（男性 22.8%、女性 34.2%）では、男性より女性で高く、「男女雇用機会均等法」（女性 31.6%、男性 37.8%）では、女性よりも男性で高い。

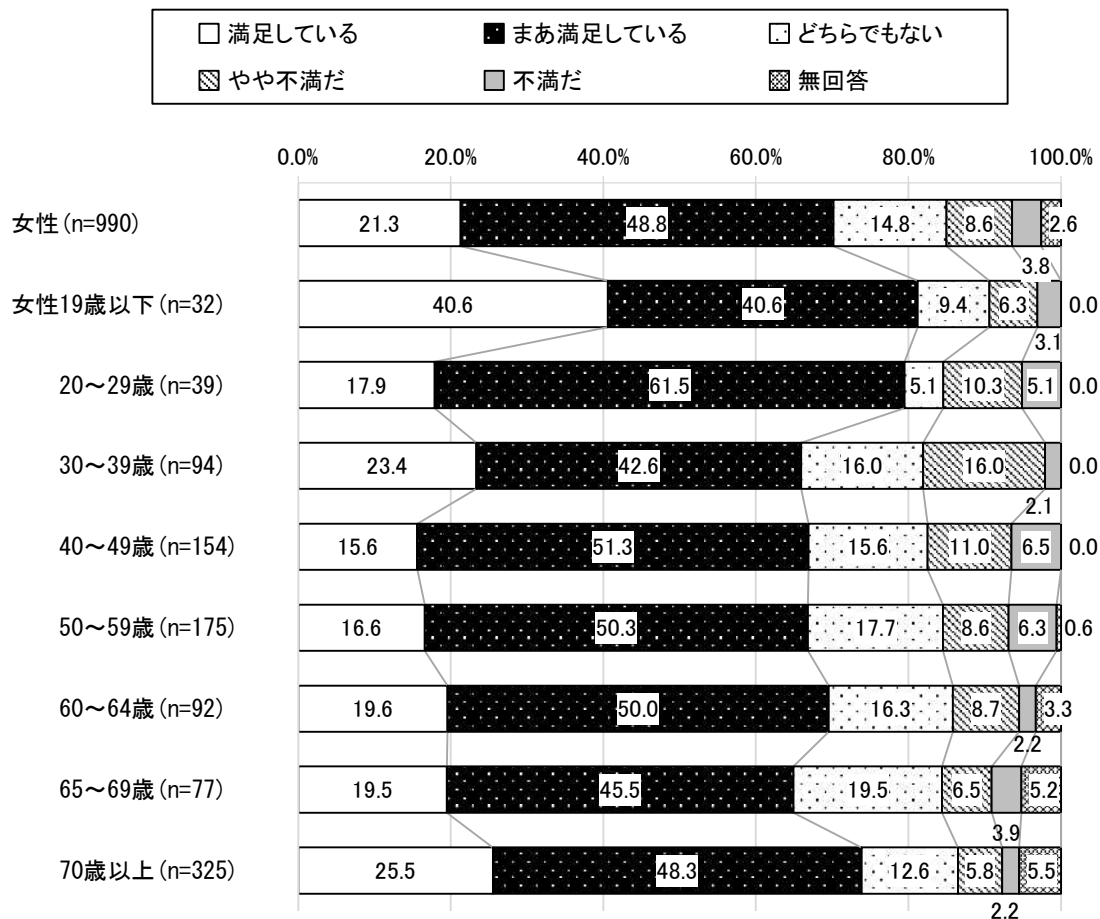
<前回調査との比較>

前回調査と比較すると、『知っている』は「ジェンダー」（前回：62.4%、今回：81.2%）が 18.8 ポイント増、「男女共同参画社会」（前回：65.0%、今回：70.0%）が 5.0 ポイント増と割合が大きく増加した。

12 女性の現在の暮らし

(1) 現在の暮らしの満足度

問 34 あなたは、現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)



<全体結果>

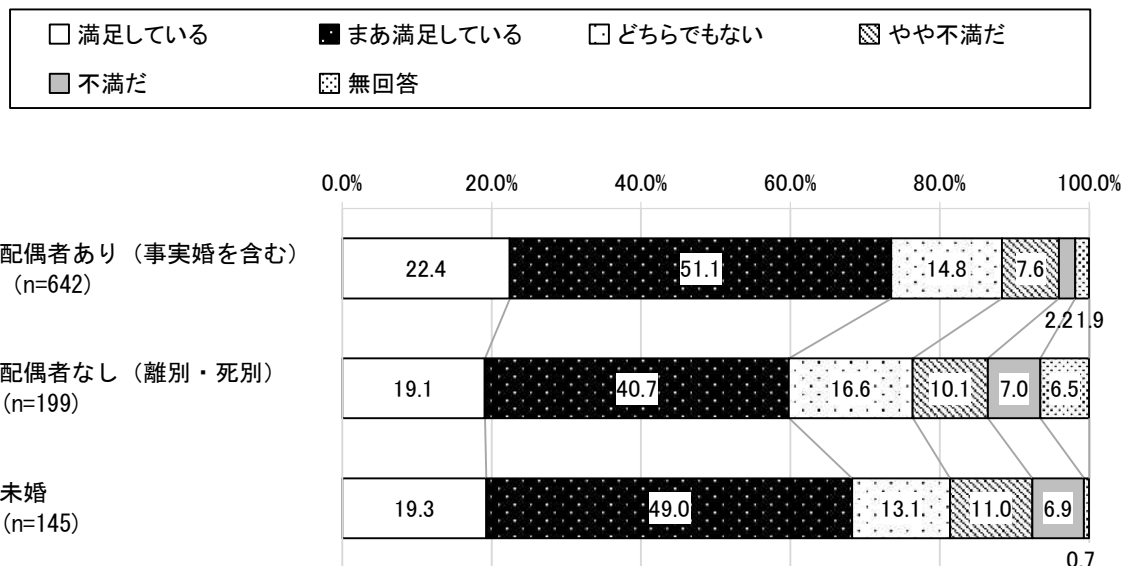
全体でみると、「満足している」「まあ満足している」を合わせた『満足』(以下同)と答えた割合は70.1%、「どちらでもない」が14.8%、「やや不満だ」「不満だ」を合わせた『不満』(以下同)と答えた割合は12.4%という結果となった。

<年齢別>

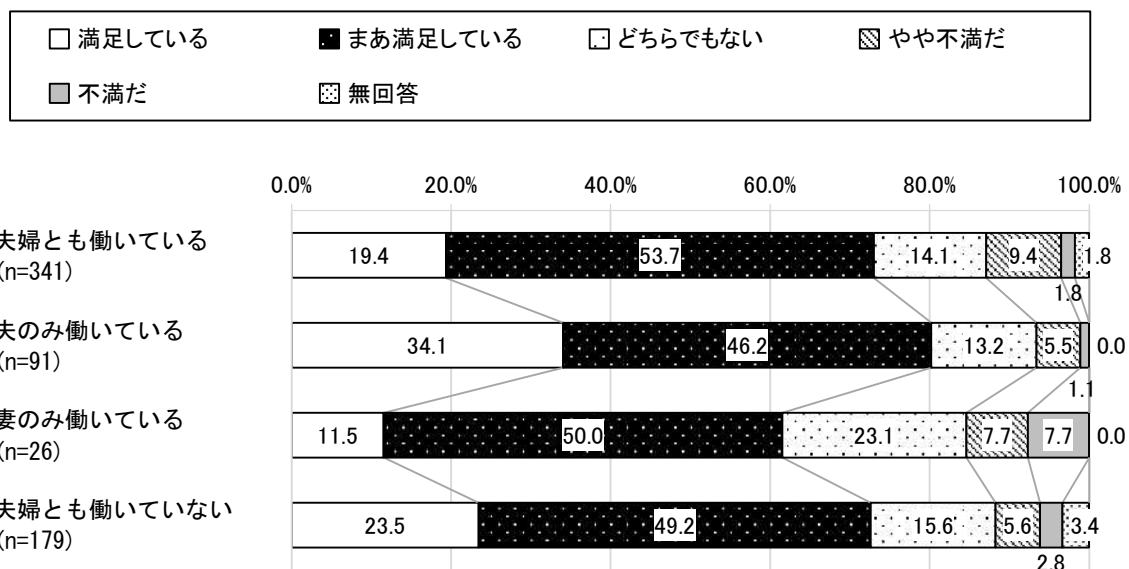
年齢別でみると、『満足』の割合は、19歳以下(81.3%)、20歳代(79.5%)の若い世代で高く、約8割となっている。30歳代から60歳代は6割半ば、70歳以上では、7割強となった。

<その他>

婚姻状況でみると、『満足』の割合が高いのは、配偶者あり（事実婚を含む）（73.5%）、未婚（68.3%）、配偶者なし（離別・死別）（59.8%）の順となっている。



就労状況でみると、『満足』の割合が高いのは、夫のみ働いている（80.2%）、夫婦とも働いている（73.0%）、夫婦とも働いていない（72.6%）、妻のみ働いている（61.5%）の順となっている。



<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(2) 現在困っていること

問 35 あなたが現在困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

割合 (%)	将来に対する不安がある	家計が苦しい	健康（メンタルヘルス以外）に問題を抱えている	家事・育児・介護の負担が大きい	非正規雇用のため不安がある（雇止め、勤務時間の減少による収入減、待遇格差など）	人間関係がうまく築けない	メンタルヘルスの問題を抱えている（うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など）	転職先を探している、見つからない
女性（n=990）	47.3	24.3	14.3	10.0	6.1	5.4	3.5	2.7
女性19歳以下（n=32）	34.4	6.3	3.1	0.0	0.0	12.5	6.3	0.0
女性20～29歳（n=39）	51.3	35.9	12.8	0.0	5.1	7.7	23.1	10.3
女性30～39歳（n=94）	55.3	43.6	12.8	29.8	8.5	8.5	6.4	4.3
女性40～49歳（n=154）	54.5	35.7	14.9	20.1	12.3	8.4	5.8	4.5
女性50～59歳（n=175）	56.6	26.3	11.4	9.7	10.9	3.4	1.1	4.6
女性60～64歳（n=92）	46.7	15.2	21.7	13.0	9.8	2.2	2.2	3.3
女性65～69歳（n=77）	48.1	18.2	14.3	2.6	3.9	6.5	1.3	0.0
女性70歳以上（n=325）	37.2	16.9	15.4	2.8	0.0	3.7	1.2	0.3

割合 (%)	仕事を探している (失業している)	配偶者や交際相手からDV・精神的・経済的暴力を含む	いじめ・嫌がらせを受けている	引きこもっている	配偶者や交際相手以外からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)がある	その他	困っていることはな	無回答
女性 (n=990)	1.5	0.8	0.8	0.5	0.0	4.7	26.5	4.5
女性19歳以下 (n=32)	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	50.0	3.1
女性20～29歳 (n=39)	5.1	2.6	0.0	2.6	0.0	10.3	28.2	0.0
女性30～39歳 (n=94)	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	6.4	14.9	1.1
女性40～49歳 (n=154)	1.9	3.2	1.3	0.0	0.0	3.2	19.5	1.3
女性50～59歳 (n=175)	2.9	0.6	1.7	0.6	0.0	6.3	21.1	1.1
女性60～64歳 (n=92)	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	27.2	1.1
女性65～69歳 (n=77)	2.6	0.0	1.3	0.0	0.0	10.4	26.0	6.5
女性70歳以上 (n=325)	0.3	0.3	0.6	0.3	0.0	2.5	33.5	10.2

＜全体結果＞

全体でみると、「将来に対する不安がある」(47.3%)の割合が最も高く、次いで「家計が苦しい」(24.3%)、「健康（メンタルヘルス以外）に問題を抱えている」(14.3%)、「家事・育児・介護の負担が大きい」(10.0%)の順に続く。「困っていることはない」(26.5%)は約4人に一人の割合となった。

＜年齢別＞

年齢別でみると、「将来に対する不安がある」と答えた割合は、20歳代～50歳代で高く5割を超えた。「家計が苦しい」と答えた割合は、20歳代～40歳代で高く3割を超えた。特に30歳代で高く4割を超えた。「メンタルヘルスの問題を抱えている（うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など）」は20歳代(23.1%)で高く2割を超え、他の年代との差が大きい。「家事・育児・介護の負担が大きい」と答えた割合は、30歳代～40歳代で高く2割を超えた。

＜その他＞

婚姻状況別でみると、「将来に対する不安がある」と答えた割合は、「未婚」(57.9%)で高く5割を超えた。「家事・育児・介護の負担が大きい」と答えた割合は、「配偶者あり」(13.4%)で高く1割を超え、「配偶者なし」(5.0%)や「未婚」(2.1%)と比較して差が大きい。

割合 (%)	将来に対する不安がある	家計が苦しい	健康（メンタルヘルス以外）に問題を抱えている	家事・育児・介護の負担が大きい	格差による収入減、待遇減少など	不安が正規雇用のため、非正規雇用への移行による勤務時間の減少など	人間関係がうまく築けない	うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など	メンタルヘルスの問題を抱えている	転職先を探していない
女性 (n=990)	47.3	24.3	14.3	10.0	6.1	5.4	3.5	2.7		
配偶者あり (n=642)	44.7	23.4	14.6	13.4	6.5	5.0	3.0	1.9		
配偶者なし (n=199)	48.7	29.6	12.6	5.0	2.5	4.0	1.5	4.5		
未婚 (n=145)	57.9	22.1	15.2	2.1	9.0	9.0	9.0	4.1		

割合 (%)	（仕事の見つけられない、失業）	配偶者の精神的・経済的虐待、DV、性的暴力、交際相手からの暴力など	受けにくい・嫌がらせを受ける	引きこもっている	配偶者からの性的暴力、虐待、ハラスメントなど	その他	困っていることはない	無回答
女性 (n=990)	1.5	0.8	0.8	0.5	0.0	4.7	26.5	4.5
配偶者あり (n=642)	1.1	0.9	0.8	0.3	0.0	5.0	27.7	4.2
配偶者なし (n=199)	3.0	0.5	1.5	0.0	0.0	4.0	20.6	8.0
未婚 (n=145)	1.4	0.7	0.0	2.1	0.0	4.1	28.3	1.4

配偶者ありの就労状況別でみると、「家事・育児・介護の負担が大きい」と答えた割合は、「夫婦とも働いている」（19.9％）で高く約２割となり、他の就労状況と比較して差が大きい。

割合（％）	将来に対する不安がある	家計が苦しい	健康（メンタル）以外に問題を抱えている	家事・育児・介護の負担が大きい	非正規雇用のため不安がある（雇い止による収入減、待遇差など）	人間関係がうまく築けない	メンタルヘルスの問題を抱えている（うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など）	転職先を探していない
女性（n=990）	47.3	24.3	14.3	10.0	6.1	5.4	3.5	2.7
夫婦とも働いている（n=341）	47.5	27.6	11.1	19.9	11.4	4.7	3.5	2.6
夫のみ働いている（n=91）	46.2	18.7	16.5	12.1	0.0	4.4	3.3	2.2
妻のみ働いている（n=26）	53.8	26.9	15.4	7.7	7.7	15.4	3.8	3.8
夫婦とも働いていない（n=179）	37.4	16.8	20.7	2.8	0.6	4.5	1.7	0.0

割合（％）	仕事を見失っている（失業している）	V（性的暴力を含む） D（精神的・経済的虐待を含む）	配偶者や交際相手からDVを受ける	いじめ・嫌がらせを受けている	引きこもっている	外からの性暴力（セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む）	その他	困っていることはない	無回答
女性（n=990）	1.5	0.8	0.8	0.8	0.5	0.0	4.7	26.5	4.5
夫婦とも働いている（n=341）	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	5.6	24.3	2.1
夫のみ働いている（n=91）	7.7	0.0	1.1	2.2	0.0	0.0	6.6	31.9	1.1
妻のみ働いている（n=26）	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	15.4	7.7
夫婦とも働いていない（n=179）	0.0	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	3.4	34.6	8.9

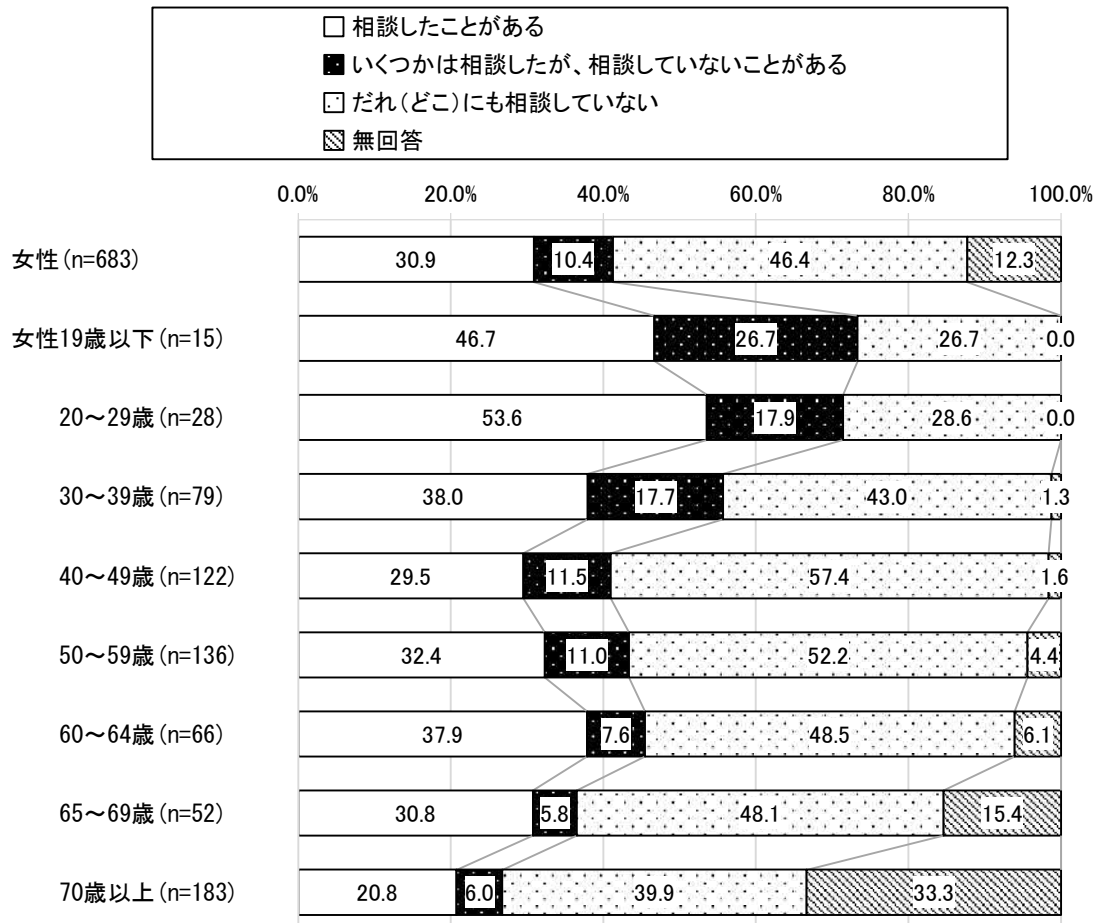
<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

(3) 困っていることの相談状況

<問 35 で 1～14（現在困っていることがある）と回答した方だけ>

問 35-1 困っていることについて、だれかに相談しましたか。（○は 1 つだけ）



<全体結果>

困っていることについて、「相談したことがある」（30.9％）が約 3 割、「いくつかは相談したが、相談していないことがある」（10.4％）が約 1 割、「だれ（どこ）にも相談していない」（46.4％）が 4 割半ばとなった。

<年齢別>

若い年代の回答数が少なく、高齢者は無回答が多いため、参考ではあるが、「相談したことがある」と答えた割合は、30歳代以下で年齢が低いほど高い傾向がみられる。

<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(4) 相談していない理由

<問 35-1 で 2、3 と回答した方だけ>

問 35-2 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○はいくつでも)

割合 (%)	相談しても無駄だと思っ ている	だれ(どこ)に相談したら よいかわからない	相談しなくても解決 できる	相談するか迷ってい る	これから相談しよう と思っ ている	その他	無回 答
女性 (n=388)	50.8	18.3	16.2	10.3	6.7	5.2	3.4
女性19歳以下 (n=8)	50.0	0.0	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0
女性20～29歳 (n=13)	30.8	30.8	23.1	38.5	0.0	7.7	0.0
女性30～39歳 (n=48)	45.8	25.0	14.6	6.3	12.5	8.3	4.2
女性40～49歳 (n=84)	63.1	14.3	13.1	6.0	2.4	3.6	6.0
女性50～59歳 (n=86)	54.7	25.6	12.8	3.5	5.8	5.8	2.3
女性60～64歳 (n=37)	43.2	21.6	24.3	21.6	2.7	2.7	2.7
女性65～69歳 (n=28)	53.6	7.1	21.4	3.6	7.1	7.1	0.0
女性70歳以上 (n=84)	42.9	13.1	16.7	15.5	10.7	4.8	3.6

<全体結果>

全体でみると、「相談しても無駄だと思っている」(50.8%)の割合が約5割と最も高く他との差が大きい。次いで「だれ(どこ)に相談したらよいかわからない」(18.3%)、「相談しなくても解決できる」(16.2%)、「相談するか迷っている」(10.3%)が1割台で続く。

<性別・年齢別>

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

<前回調査との比較>

今回は調査項目なし。

<問 35-1 で 3 と回答した方だけ>

問 35-2 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○はいくつでも)

割合 (%)	相談しても無駄だと思っ ている	相談しなくても解決 できる	だれ(どこ)に相談 したらよいかわから ない	相談するか迷って いる	これから相談し ようと思っ ている	その他	無 回 答
女性 (n=317)	54.3	18.6	16.7	5.4	5.4	5.4	3.2
女性19歳以下 (n=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
女性20～29歳 (n=8)	25.0	12.5	37.5	25.0	0.0	12.5	0.0
女性30～39歳 (n=34)	55.9	17.6	23.5	2.9	8.8	8.8	2.9
女性40～49歳 (n=70)	65.7	15.7	14.3	4.3	1.4	4.3	4.3
女性50～59歳 (n=71)	56.3	14.1	22.5	0.0	4.2	5.6	2.8
女性60～64歳 (n=32)	43.8	28.1	18.8	15.6	3.1	3.1	3.1
女性65～69歳 (n=25)	60.0	24.0	4.0	0.0	4.0	8.0	0.0
女性70歳以上 (n=73)	47.9	19.2	12.3	8.2	9.6	4.1	4.1

<全体結果>

全体でみると、「相談しても無駄だと思っている」(54.3%)の割合が5割半ばで最も高く他との差が大きい。次いで「相談しなくても解決できる」(18.6%)、「だれ(どこ)に相談したらよいかわからない」(16.7%)が1割台で続く。

<年齢別>

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

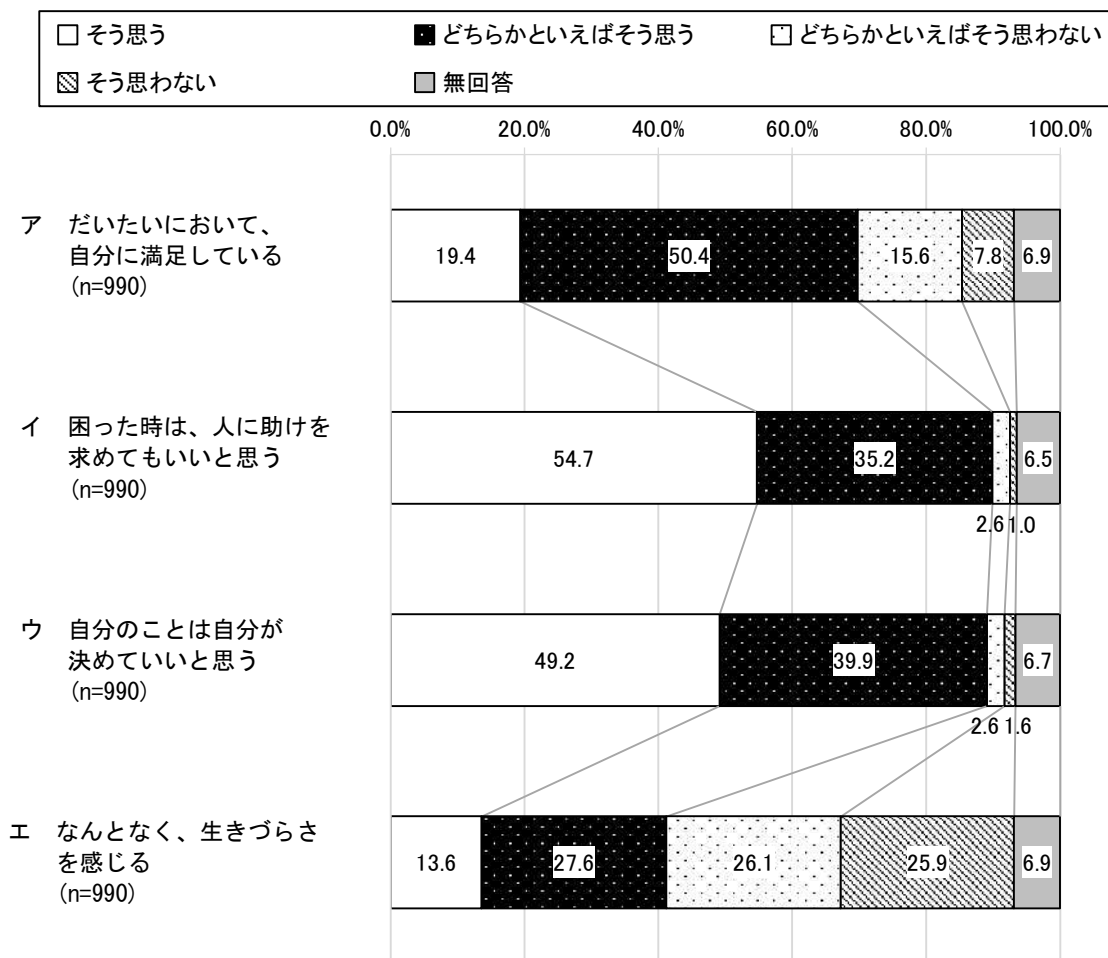
<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

13 女性の心の状態や人間関係

(1) 普段感じていることの度合

問 36 次のことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。
ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)



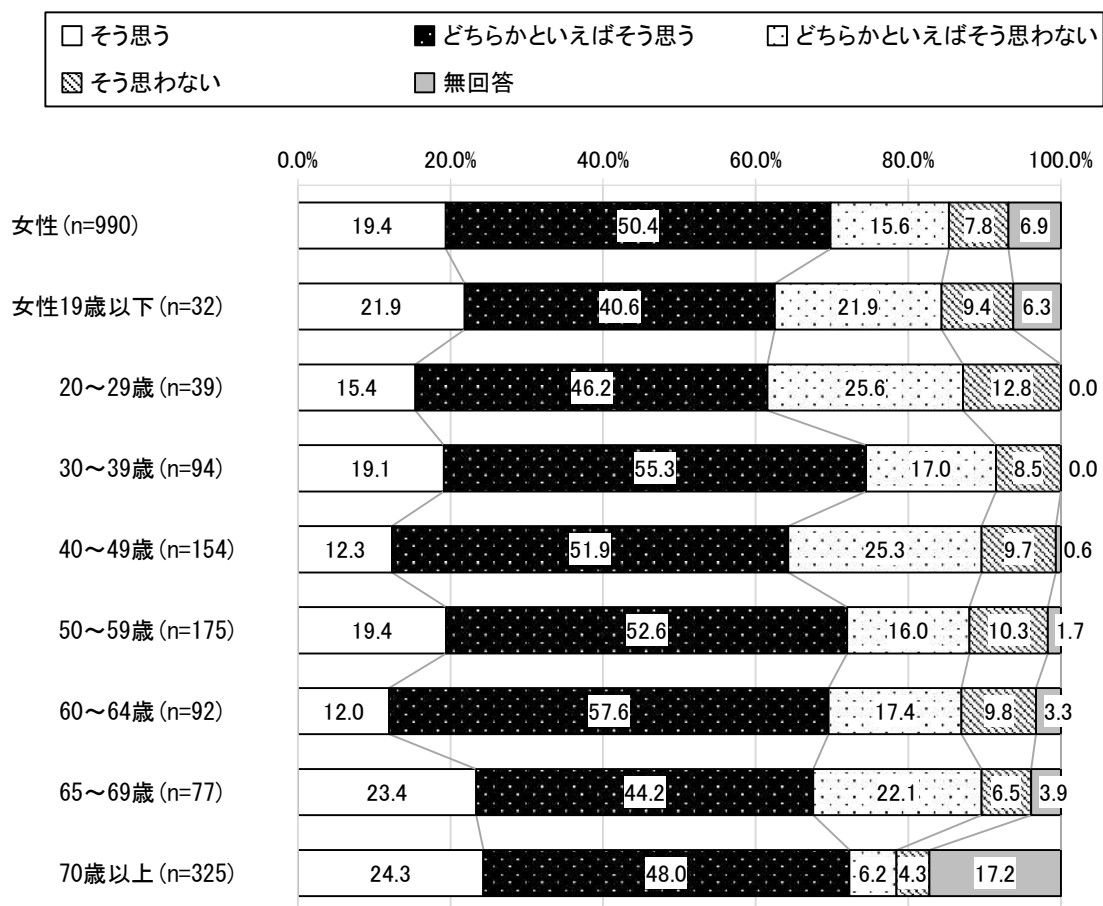
<全体結果>

ア～エの4項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』(以下同)と答えた割合は、「イ 困った時は、人に助けを求めてもいいと思う」(89.9%)、「ウ 自分のことは自分が決めていいと思う」(89.1%)が約9割と高く、「ア だいたいにおいて、自分に満足している」(69.8%)が約7割、「エ なんとなく、生きづらさを感じる」(41.2%)が約4割となった。

<前回調査との比較>

今回は調査項目なし。

ア だいたいにおいて、自分に満足している



<全体結果>

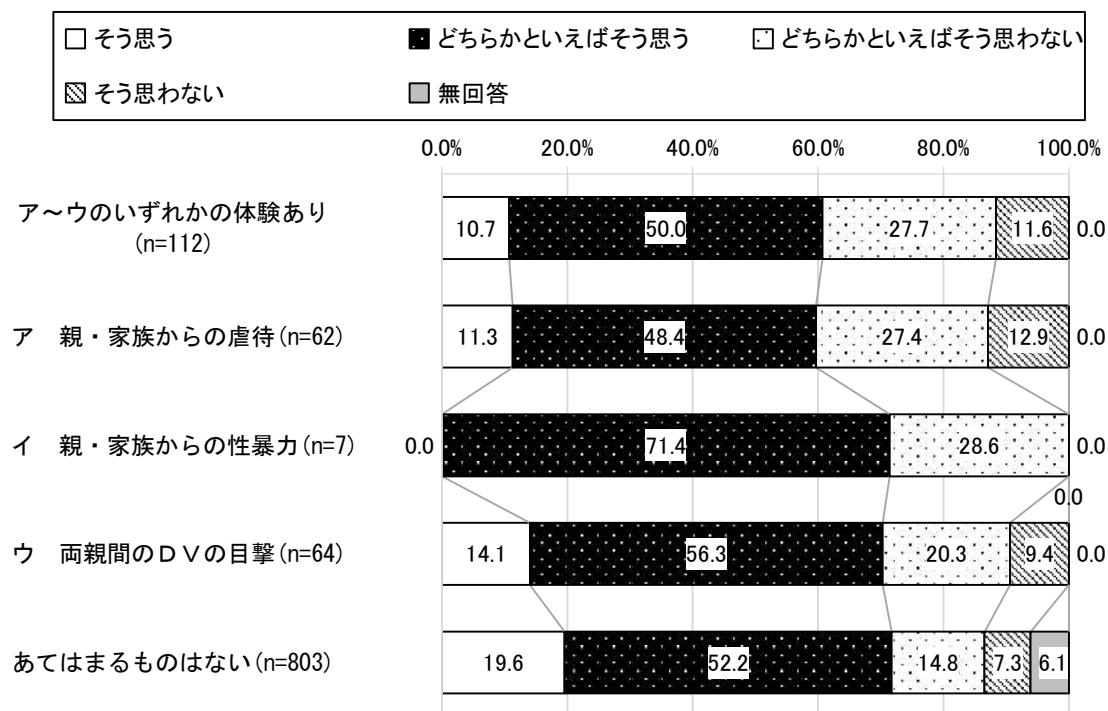
全体でみると、『そう思う』と答えた割合は 69.8%、「そう思わない」「どちらかといえ
 ばそう思わない」を合わせた『そう思わない』（以下同）と答えた割合は 23.3%という結
 果となった。『そう思う』が『そう思わない』の約3倍の割合で、大きく上回っている。

<年齢別>

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、30歳代(74.5%)で最も高く、20歳代(61.5%)、
 19歳以下(62.5%)の若い年代で低くなっている。

<その他>

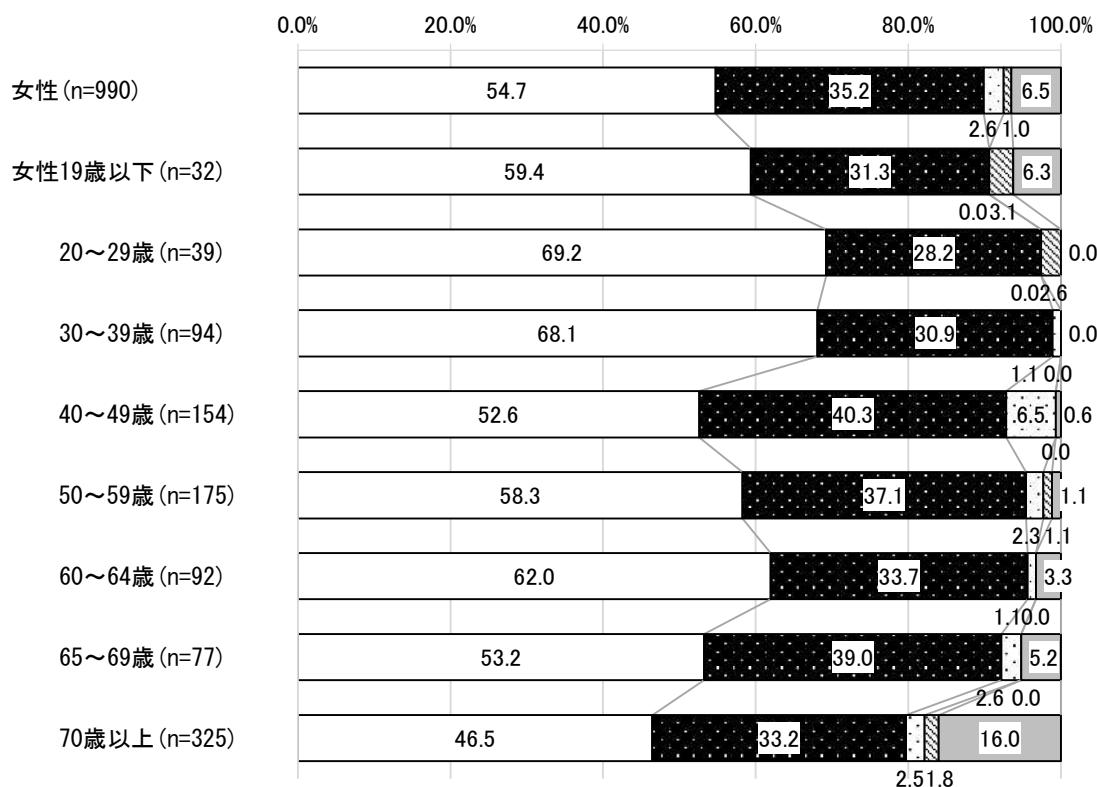
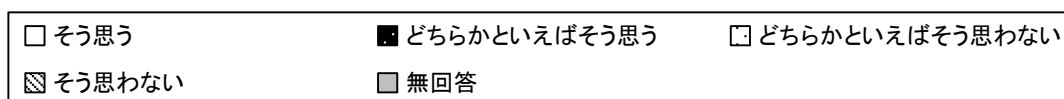
子ども時代の体験別でみると、「そう思う」の割合は、「ア 親・家族からの虐待」、「イ 親・家族からの性暴力」、「ウ 両親間のDVの目撃」のいずれかの体験がある人では10.7%と、「あてはまるものはない」(19.6%)と比べ低くなっている。



<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

イ 困った時は、人に助けを求めてもいいと思う



<全体結果>

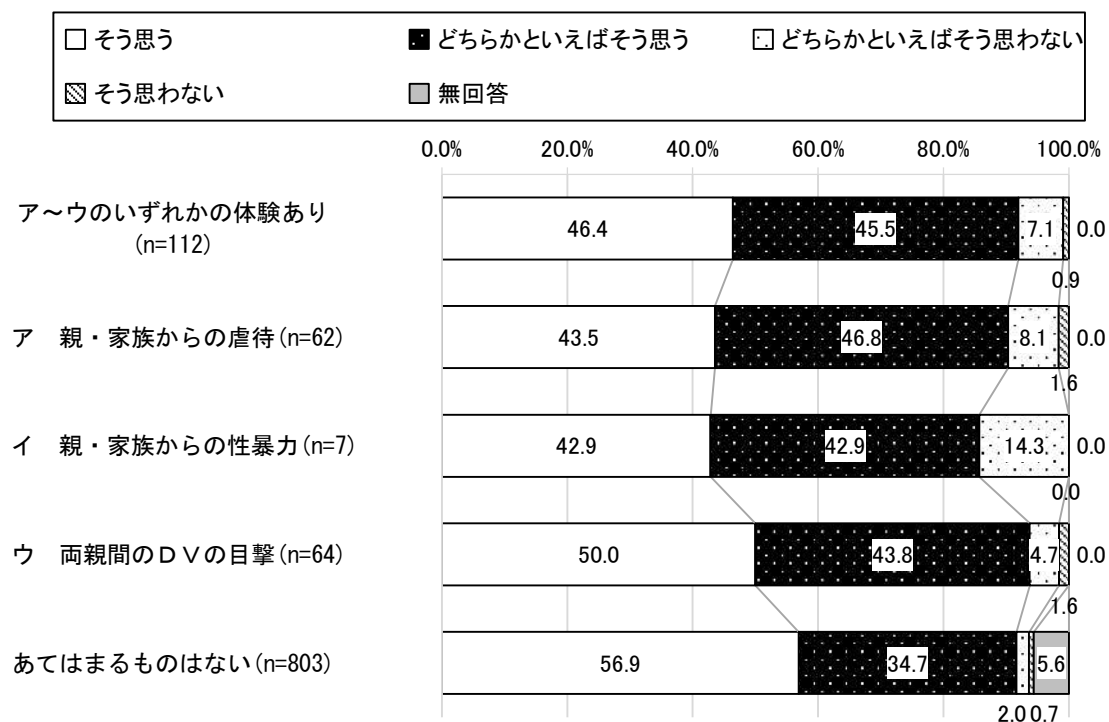
全体でみると、『そう思う』と答えた割合は89.9%、『そう思わない』と答えた割合は3.6%という結果となった。『そう思う』が圧倒的多数となった。

<年齢別>

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、30歳代(98.9%)で最も高く、70歳以上(79.7%)、で最も低くなっている。

＜その他＞

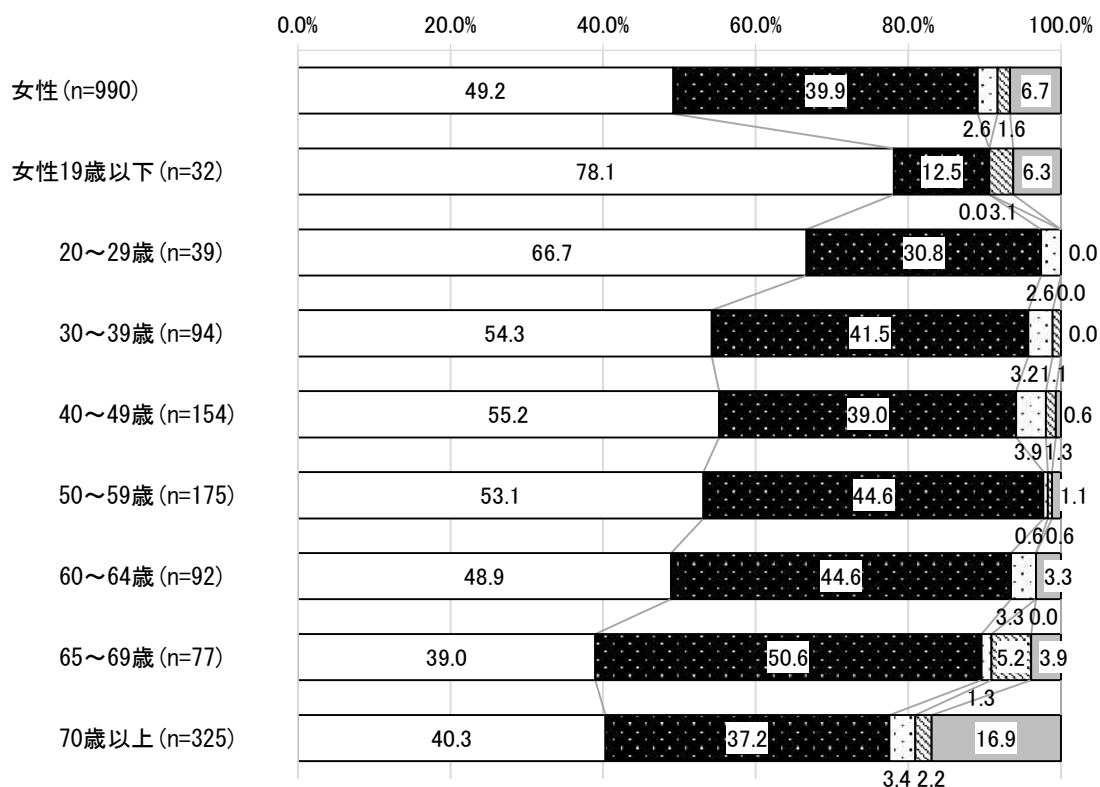
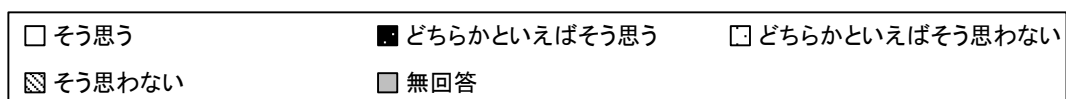
子ども時代の体験別でみると、「そう思う」の割合は、「ア 親・家族からの虐待」、「イ 親・家族からの性暴力」、「ウ 両親間のDVの目撃」のいずれかの体験がある人では46.4%と、「あてはまるものはない」（56.9%）と比べ低くなっている。



＜前回調査との比較＞

前は調査項目なし。

ウ 自分のことは自分が決めていいと思う



<全体結果>

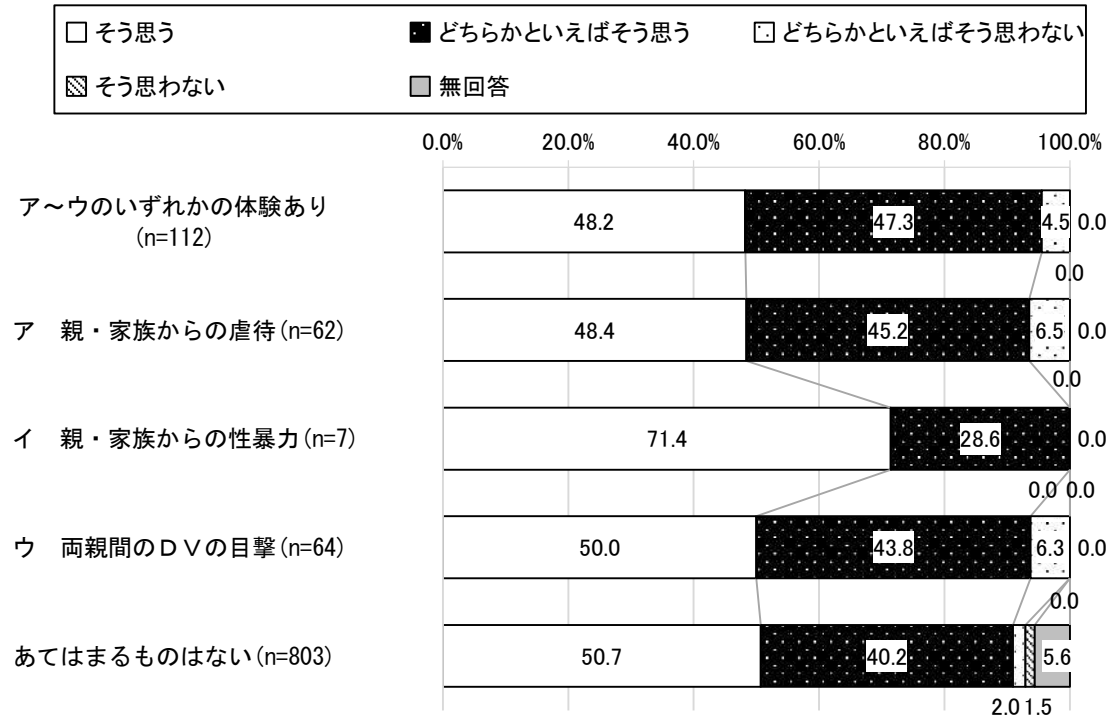
全体でみると、『そう思う』と答えた割合は89.1%、『そう思わない』と答えた割合は4.2%という結果となった。『そう思う』が圧倒的多数となった。

<年齢別>

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、50歳代(97.7%)で最も高く、70歳以上(77.5%)で最も低くなっている。

<その他>

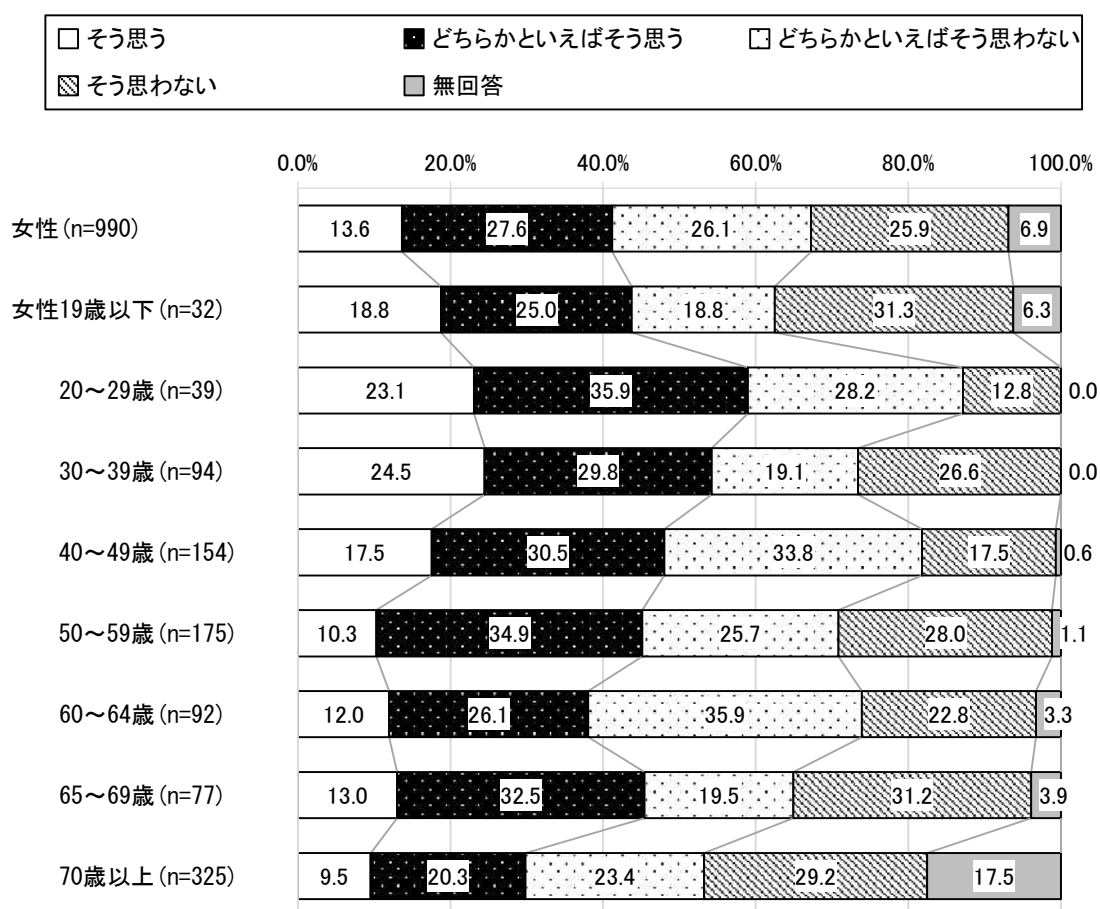
子ども時代の体験別でみると、「そう思う」の割合は、「ア 親・家族からの虐待」、「イ 親・家族からの性暴力」、「ウ 両親間のDVの目撃」のいずれかの体験がある人では48.2%と、「あてはまるものはない」(50.7%)と答えた人との差はわずかであった。



<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

エ なんとなく、生きづらさを感じる



<全体結果>

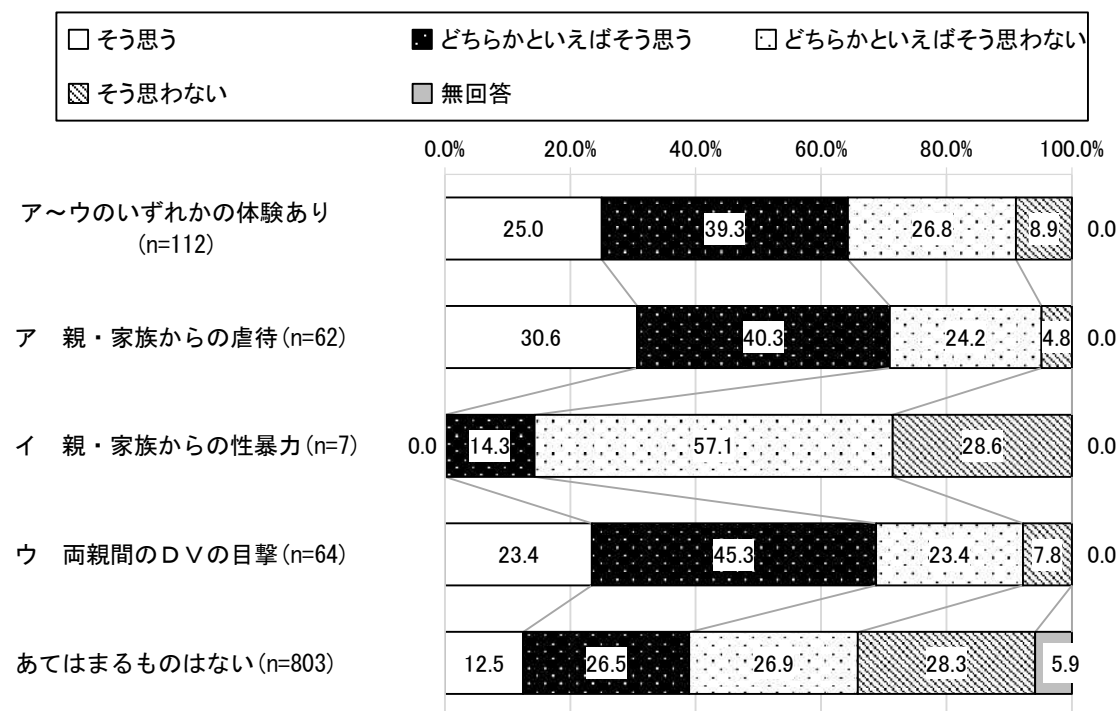
全体でみると、『そう思う』と答えた割合は41.2%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』(以下同)と答えた割合は51.9%という結果となった。『そう思わない』が『そう思う』を上回っている。

<年齢別>

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、20歳代(59.0%)で最も高く、70歳以上(29.8%)で最も低くなっている。

<その他>

子ども時代の体験別でみると、『そう思う』の割合は、「ア 親・家族からの虐待」、「イ 親・家族からの性暴力」、「ウ 両親間のDVの目撃」のいずれかの体験がある人では64.3%と、「あてはまるものはない」（39.0%）と答えた人との差が大きい。

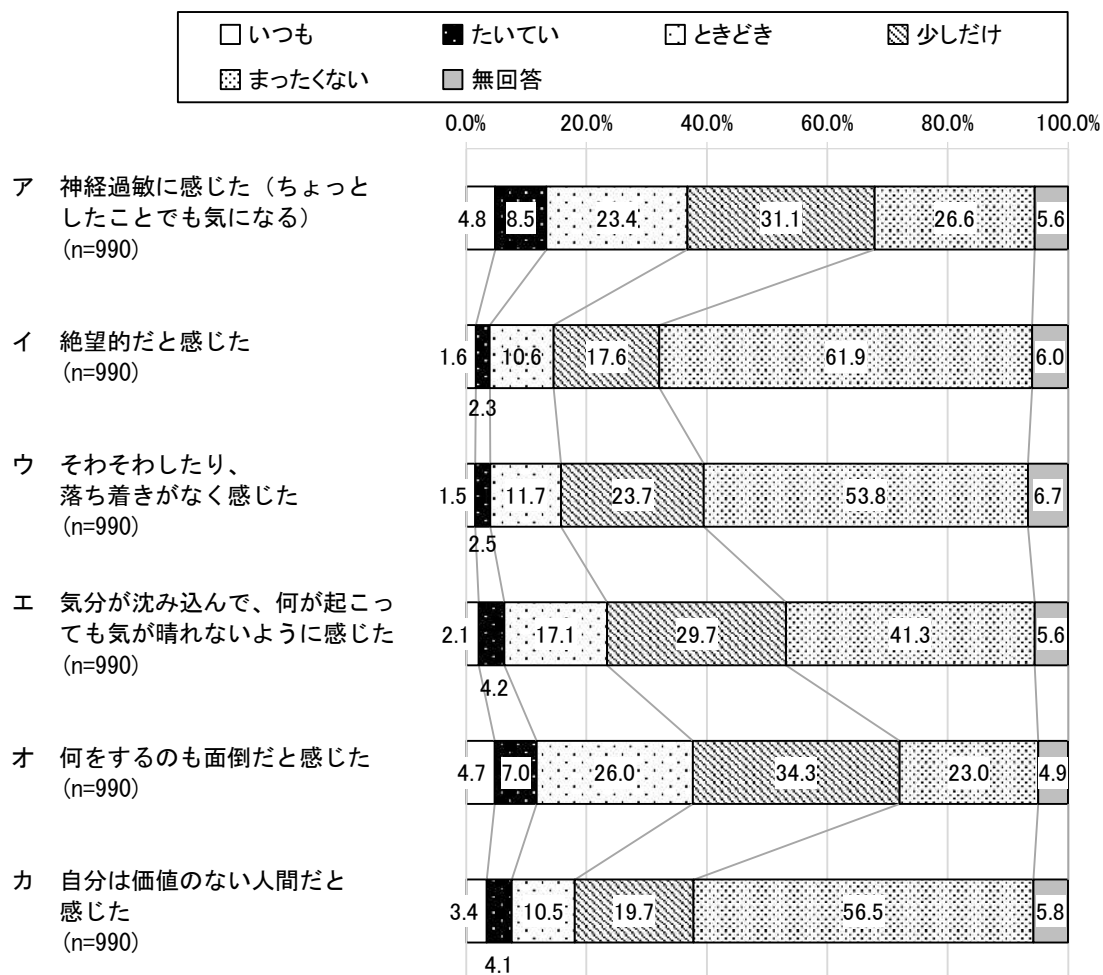


<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(2) 普段感じていることの頻度

問 37 あなたは、過去1か月の間、次のことがどれくらいの頻度でありましたか。
ア～カについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)



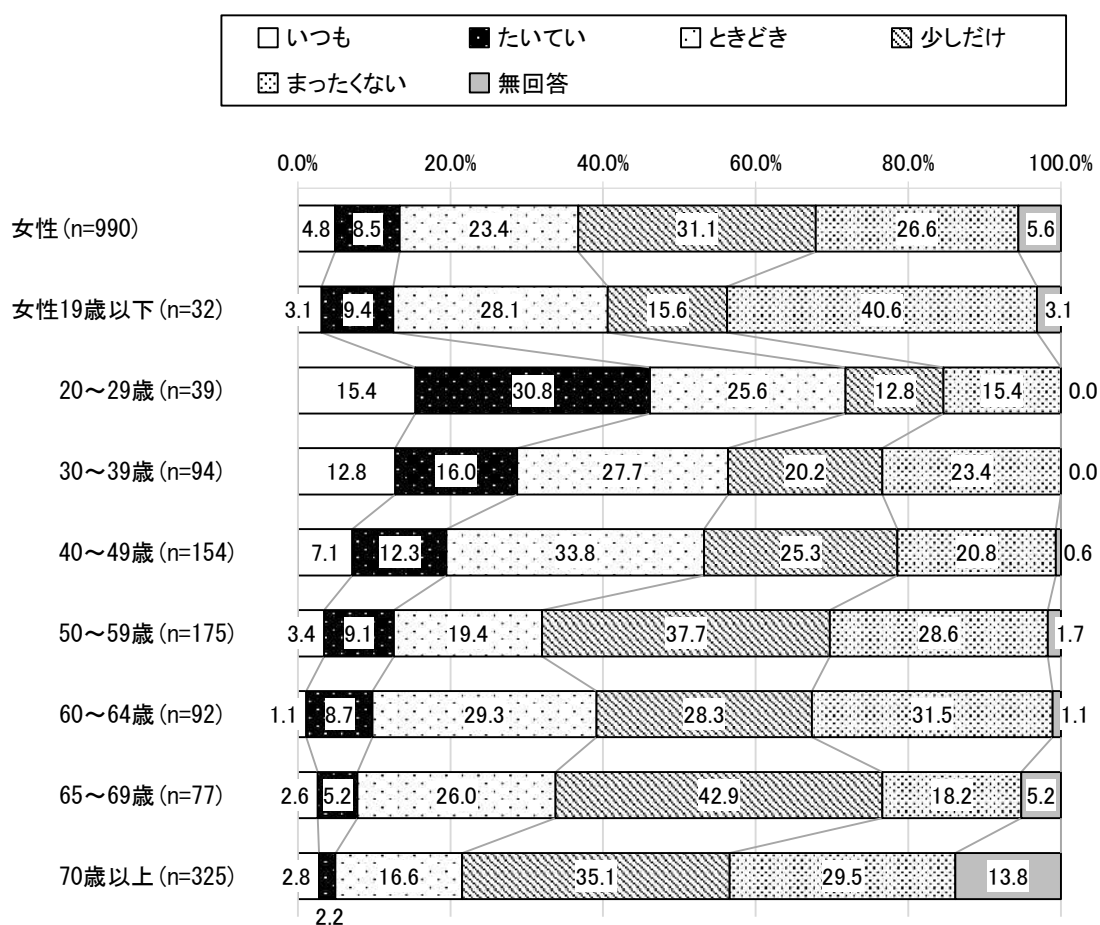
<全体結果>

ア～カの6項目について、「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」を合わせた『ある』（以下同）と答えた割合は、「オ 何をするのも面倒だと感じた」（72.0%）、「ア 神経過敏に感じた（ちょっとしたことでも気になる）」（67.9%）、「エ 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた」（53.1%）、「ウ そわそわしたり、落ち着きがなくなった」（39.5%）、「カ 自分は価値のない人間だと感じた」（37.8%）、「イ 絶望的だと感じた」（32.1%）の順に高くなっている。

<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

ア 神経過敏に感じた（ちょっとしたことでも気になる）



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は67.9%、「まったく」と答えた割合は26.6%という結果となった。

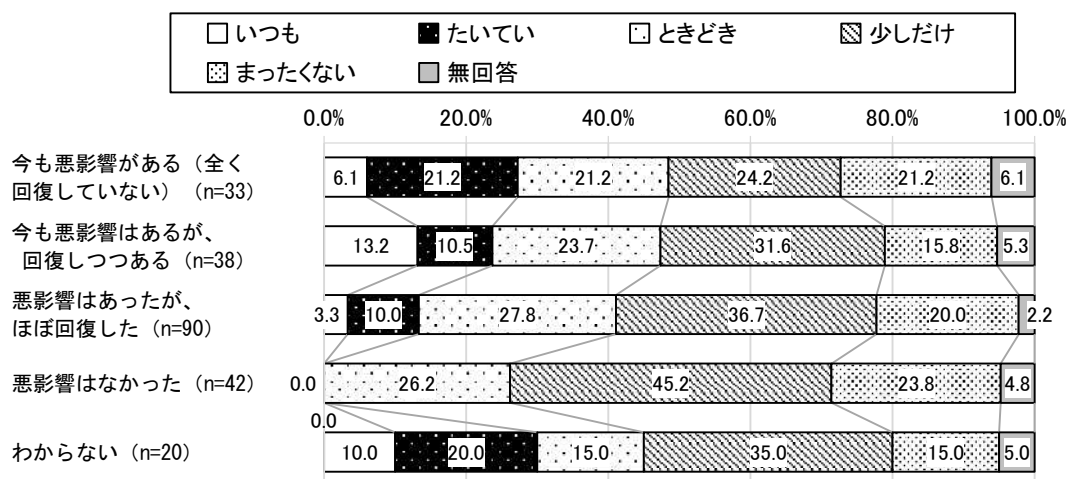
<年齢別>

年齢別でみると、20歳代で「いつも」（15.4%）、「たいてい」（30.8%）と答えた割合が高く、他との差が大きい。

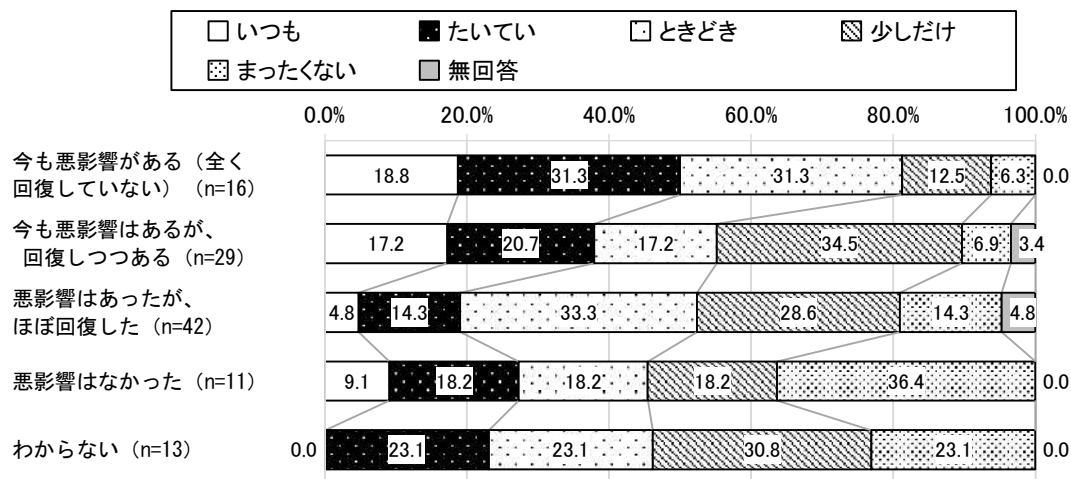
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合高くなる傾向がみられる。特に子ども時代の体験、デートDV後の悪影響からの回復状況別で強くみられる。

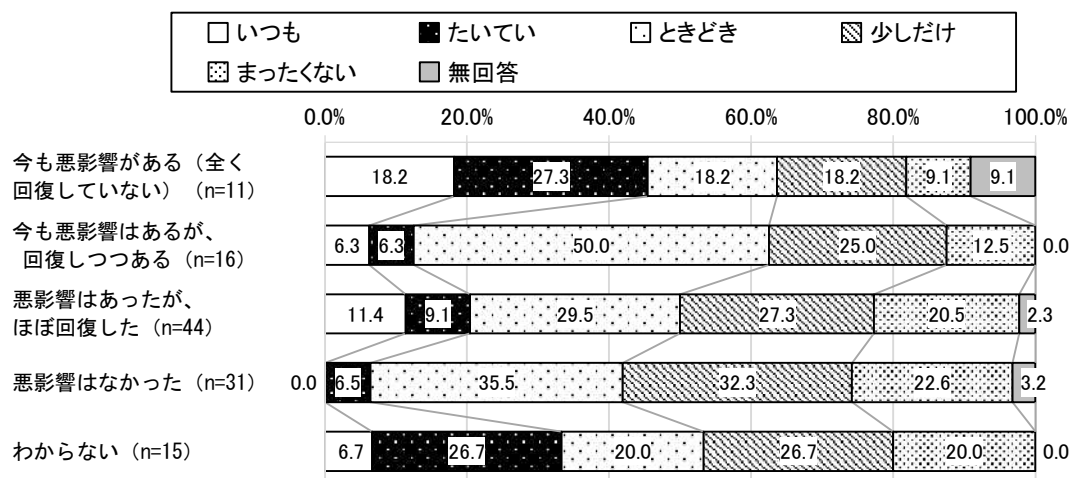
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



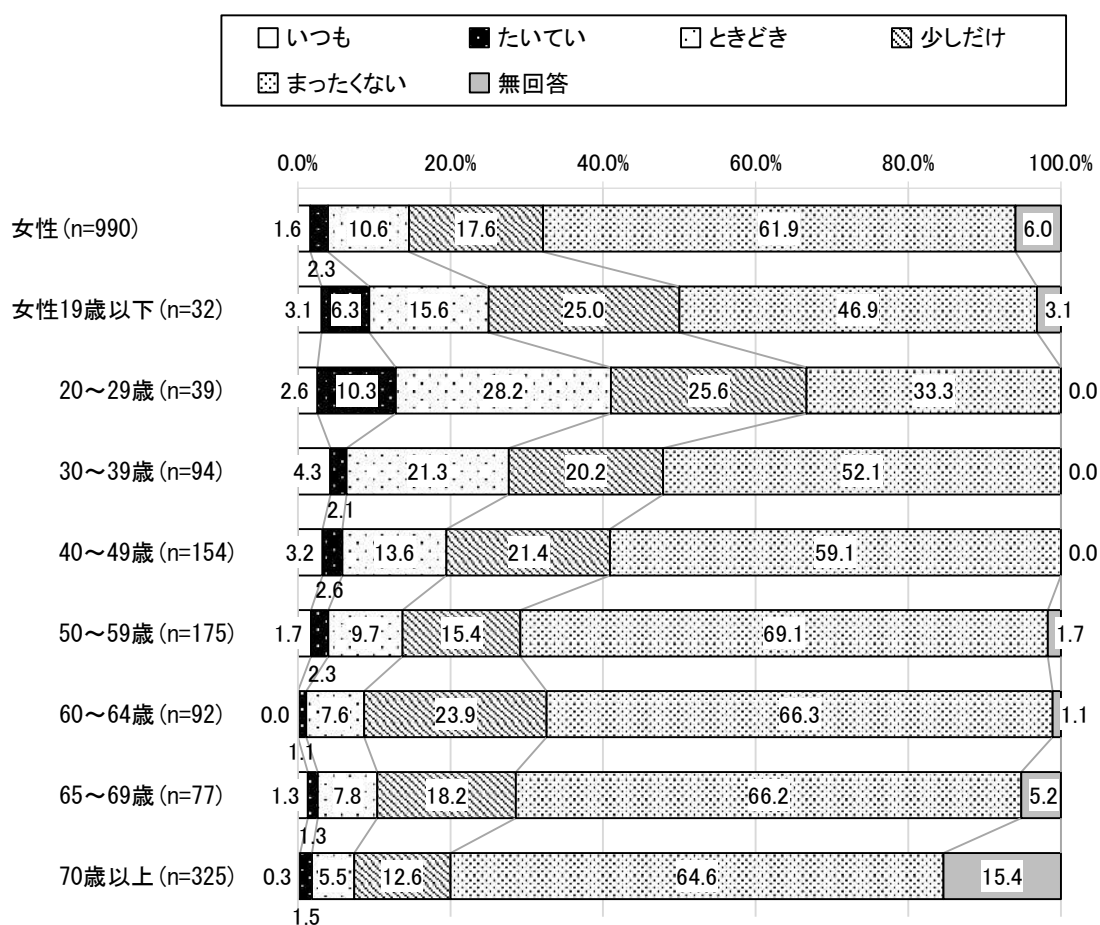
【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

イ 絶望的だと感じた



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は 32.1%、「まったく」と答えた割合は 61.9% という結果となった。

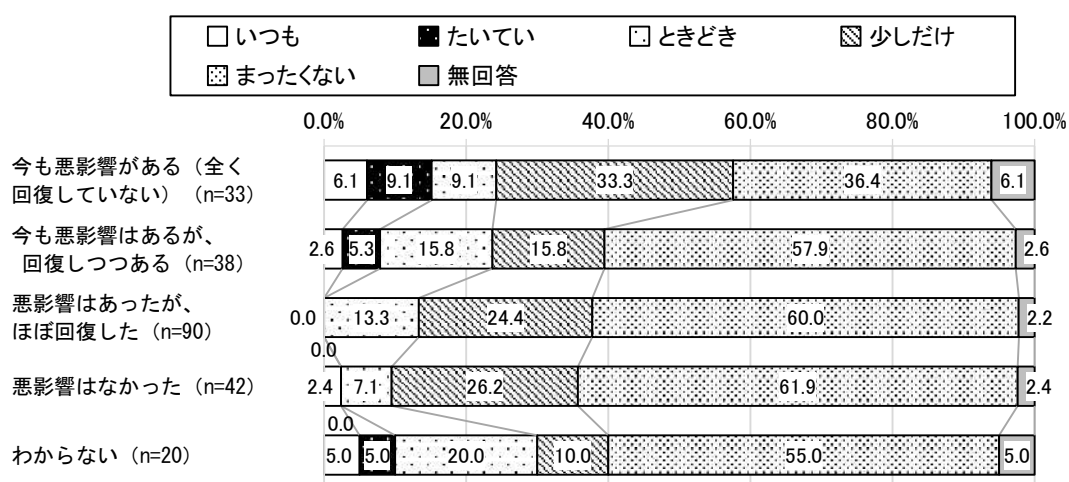
<年齢別>

年齢別でみると、20 歳代で『ある』(66.7%) と答えた割合が高く、他との差が大きい。

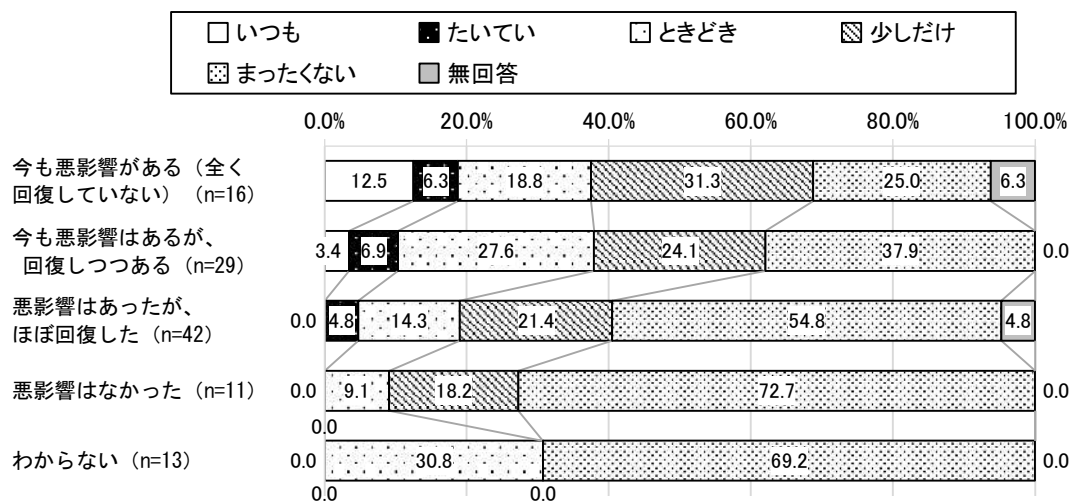
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合高くなる傾向がみられる。

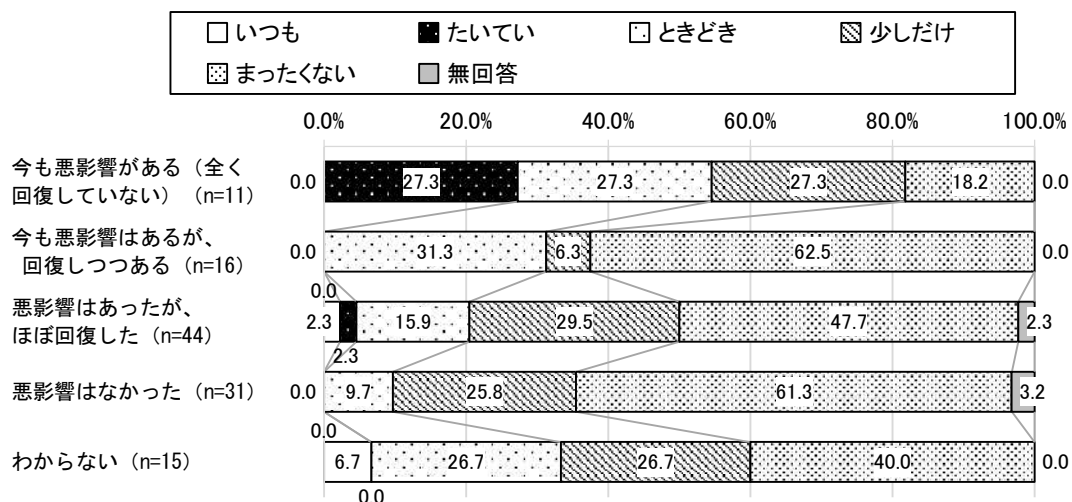
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



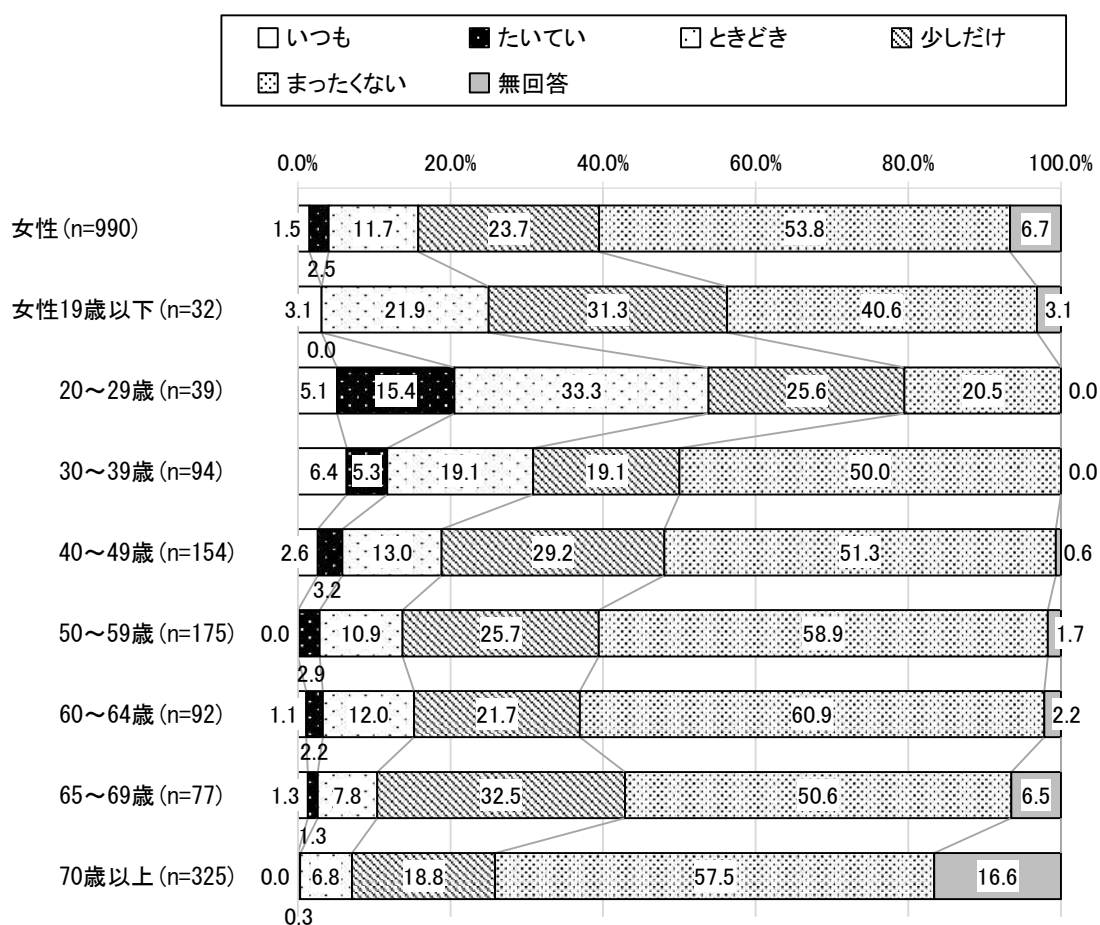
【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

ウ そわそわしたり、落ち着きがなくなった



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は 39.5%、「まったくない」と答えた割合は 53.8% という結果となった。

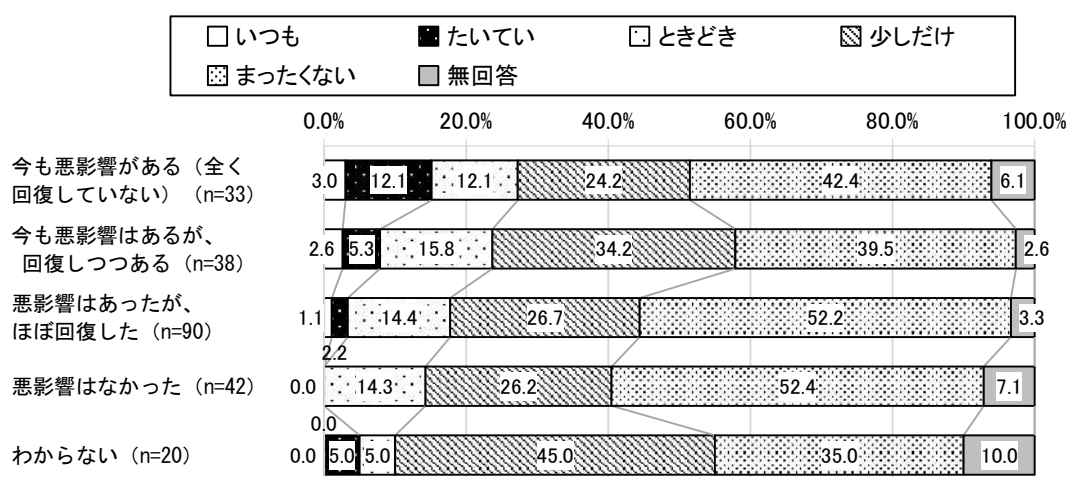
<年齢別>

年齢別でみると、20 歳代で『ある』(79.5%) と答えた割合が高く、他との差が大きい。

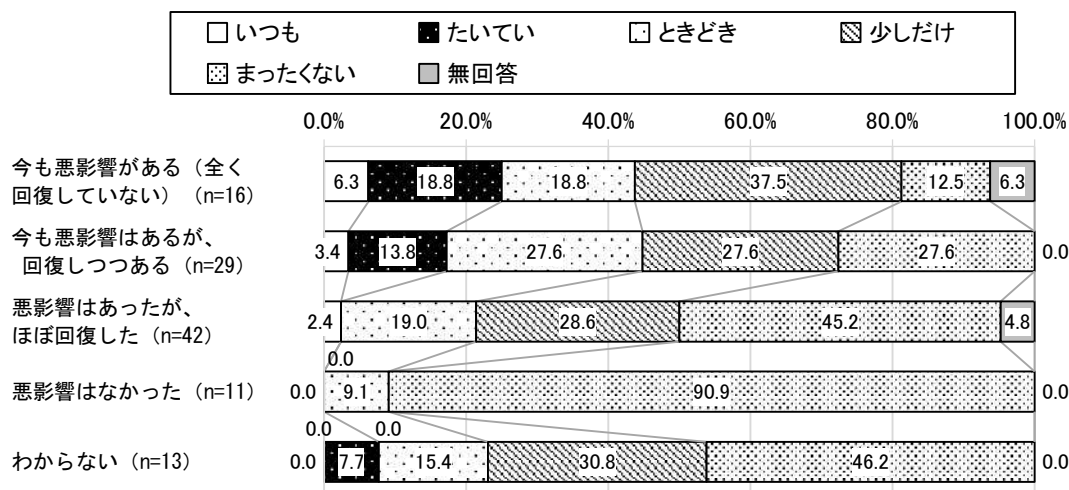
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合高くなる傾向がみられる。特に子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別で強くみられる。

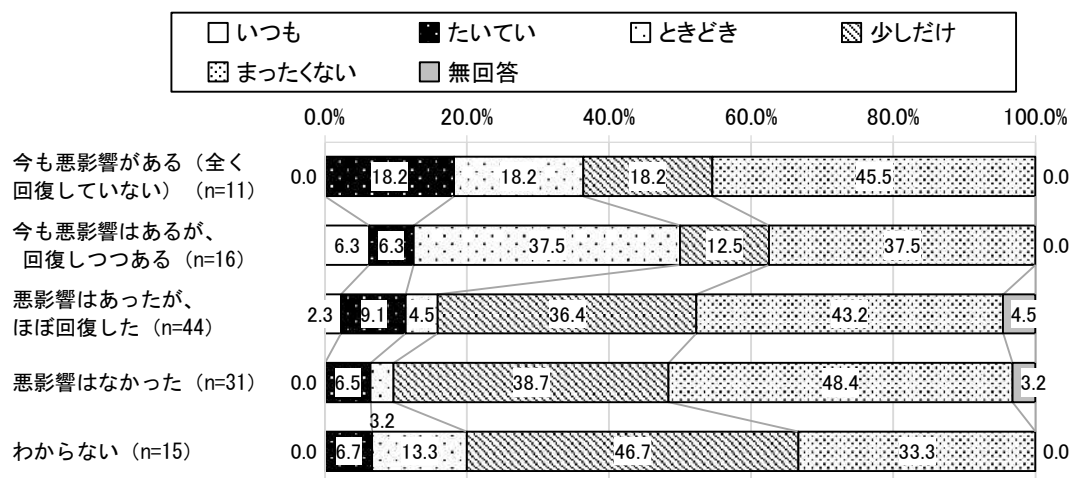
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



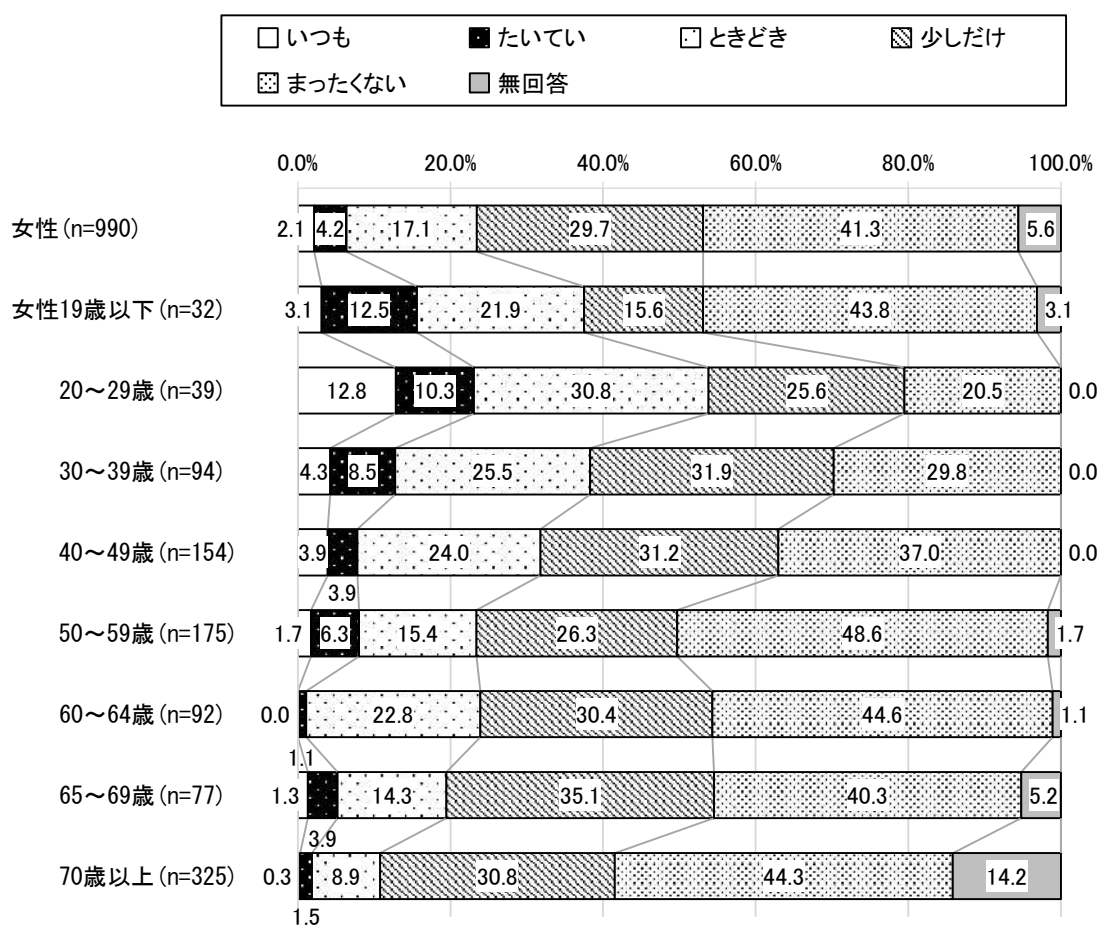
【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

エ 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は 53.1%、「まったく」と答えた割合は 41.3%という結果となった。

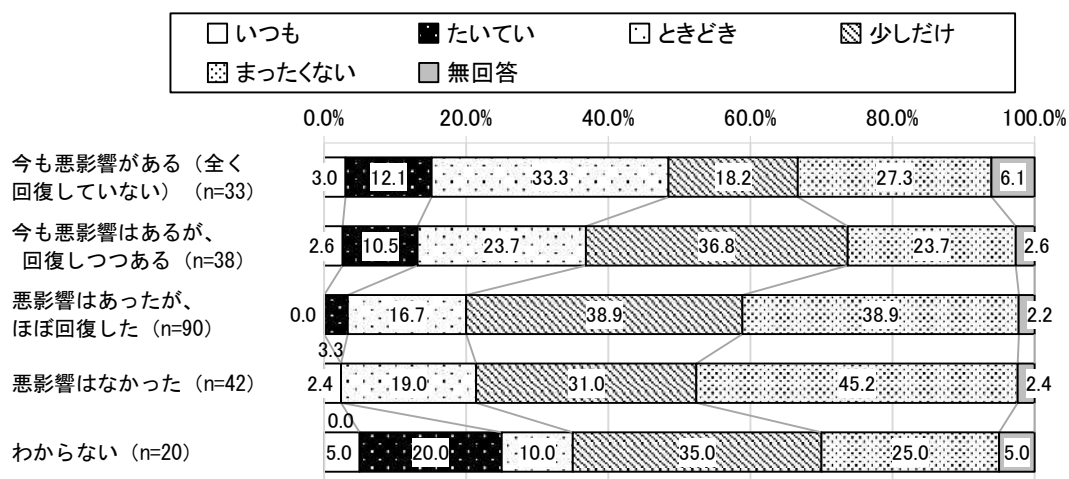
<年齢別>

年齢別でみると、20 歳代で『ある』(79.5%) と答えた割合が高く、他との差がみられた。

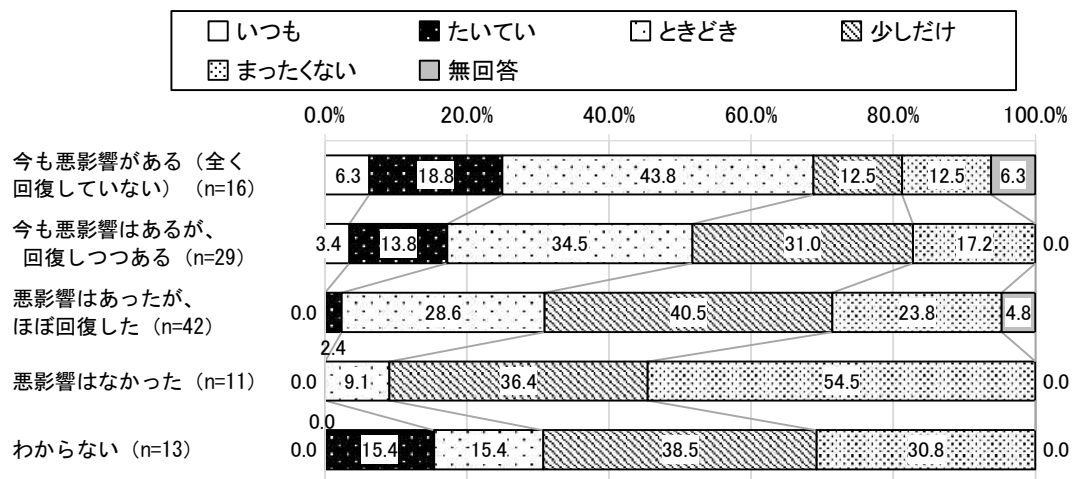
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられる。特に子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別で強くみられる。

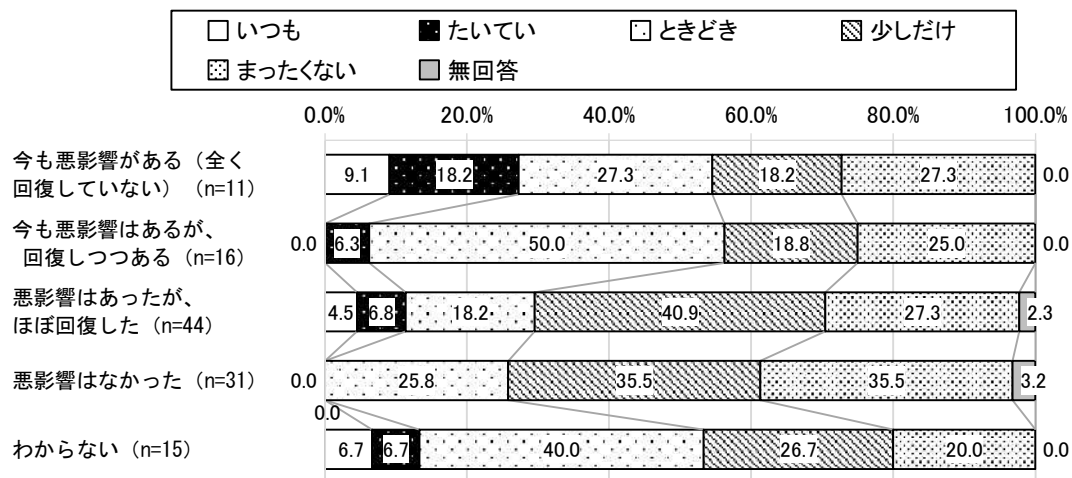
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



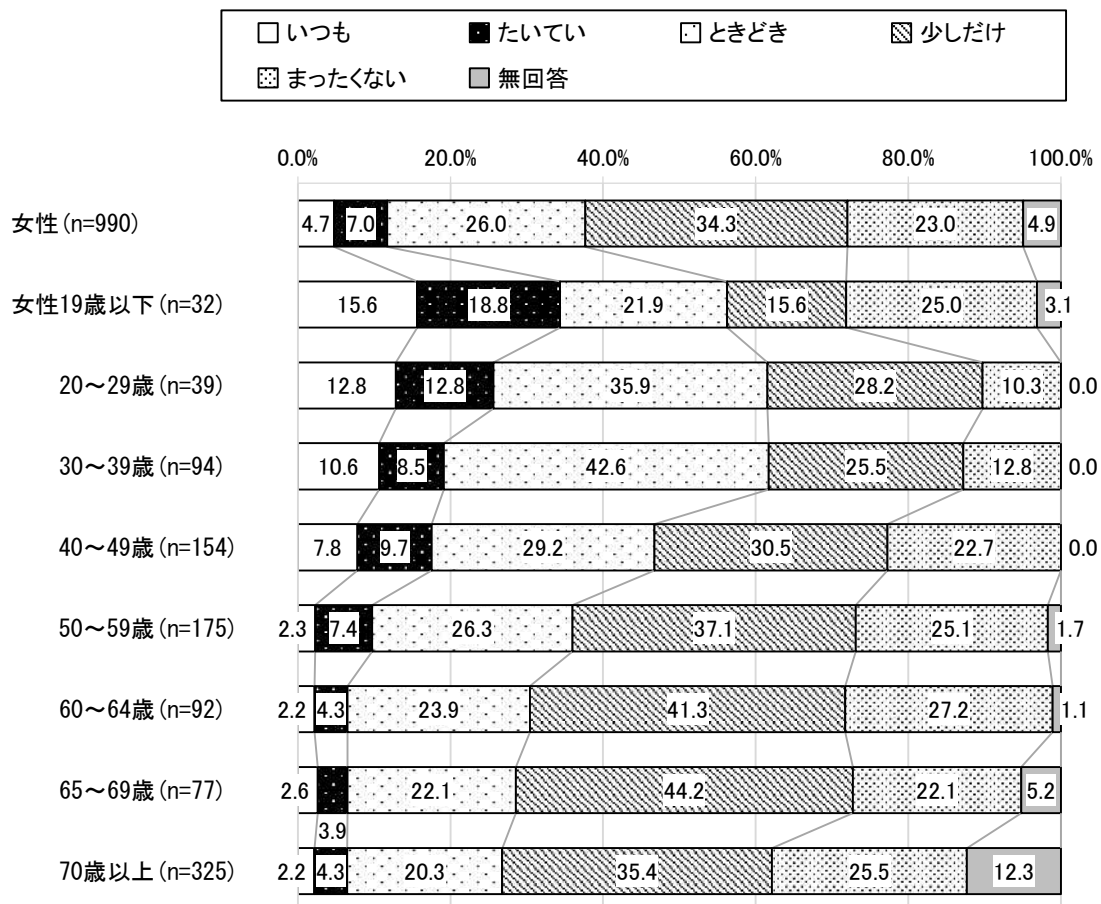
【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

オ 何をするのも面倒だと感じた



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は72.0%、「まったくない」と答えた割合は23.0%という結果となった。

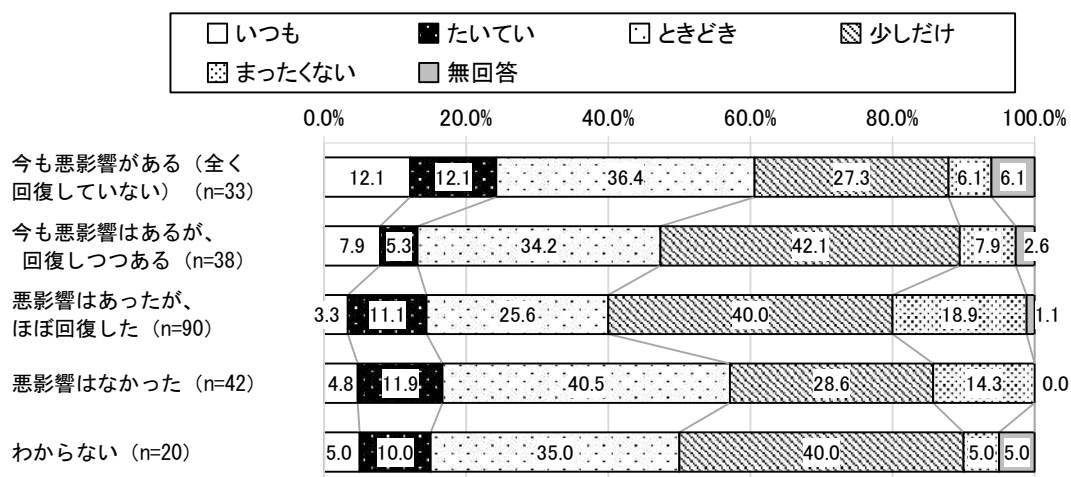
<年齢別>

年齢別でみると、20歳代で『ある』(89.7%)と答えた割合が最も高い。

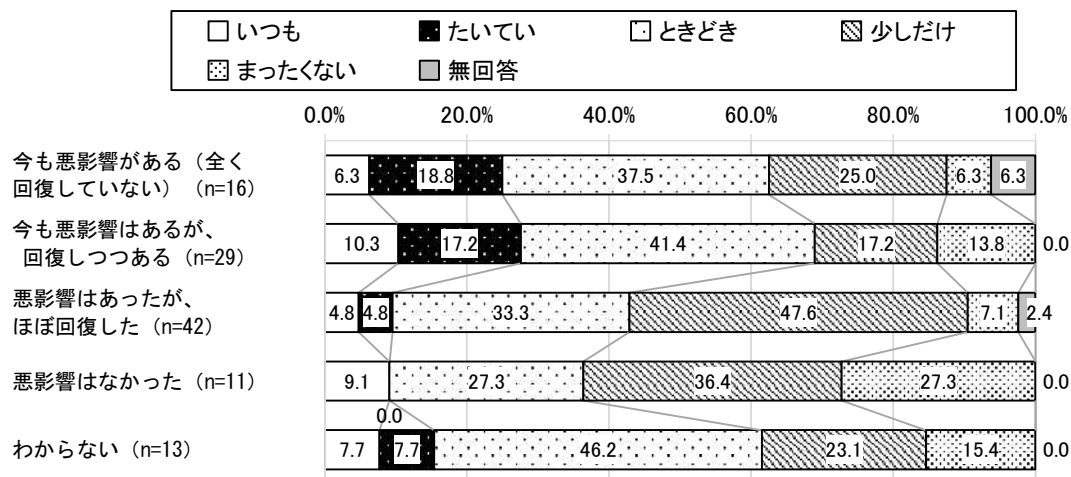
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合高くなる傾向がみられる。特にデートDV後の悪影響からの回復状況別で強くみられる。

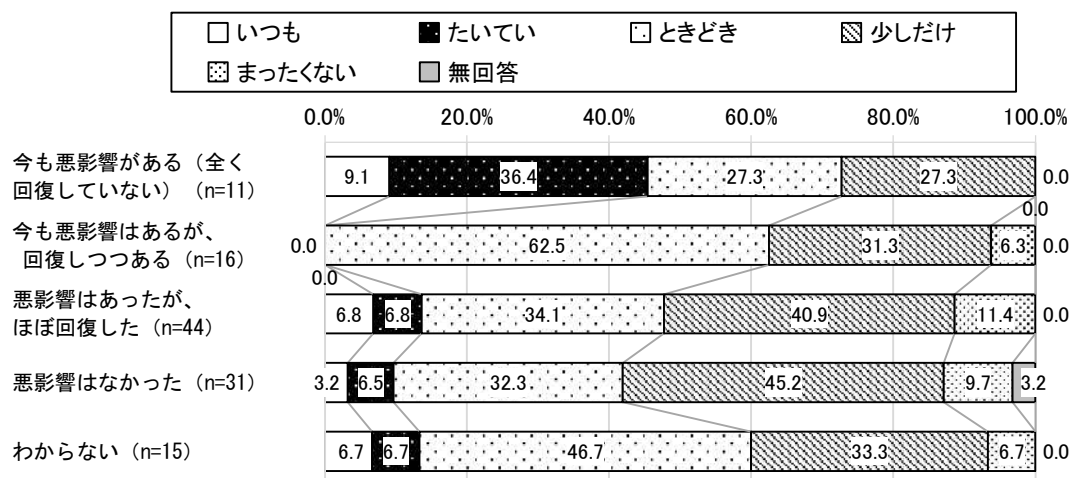
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



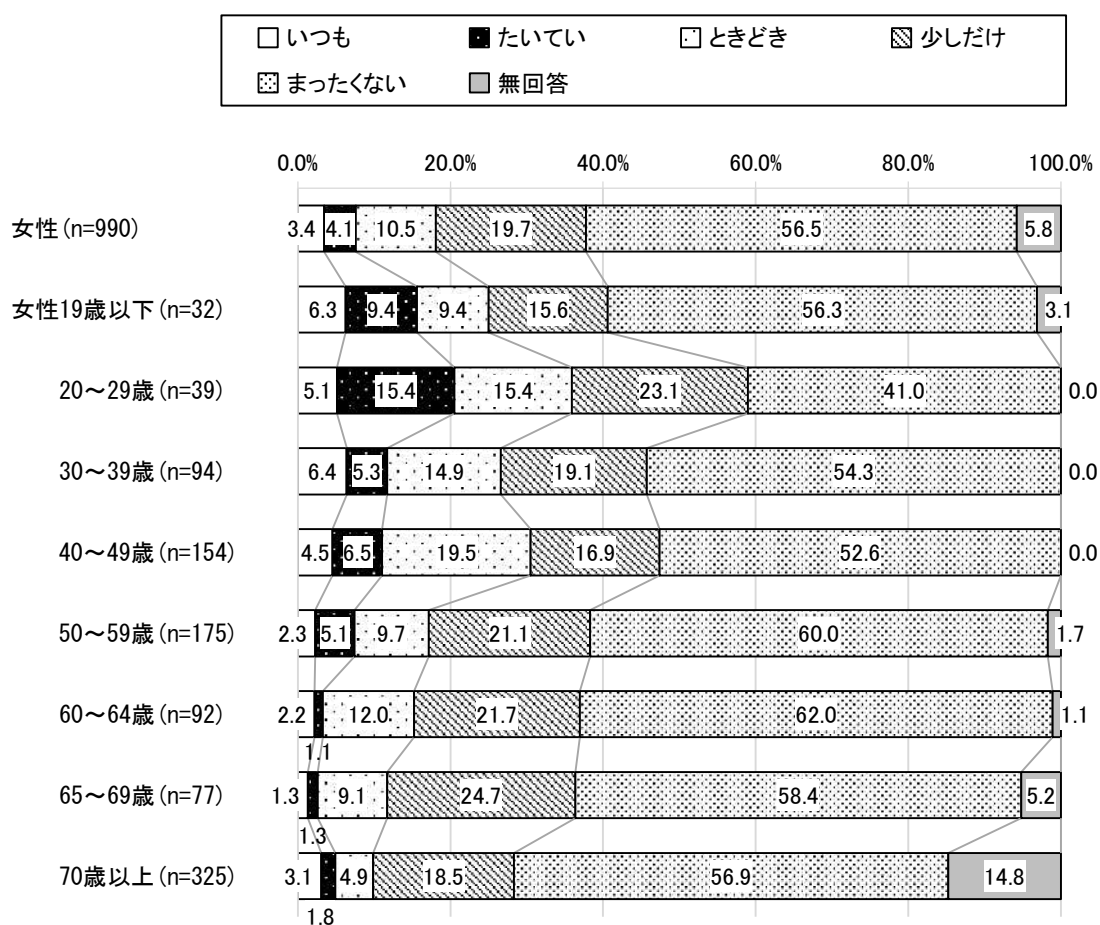
【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

カ 自分は価値のない人間だと感じた



<全体結果>

全体でみると、『ある』と答えた割合は37.8%、「まったく」と答えた割合は56.5%という結果となった。

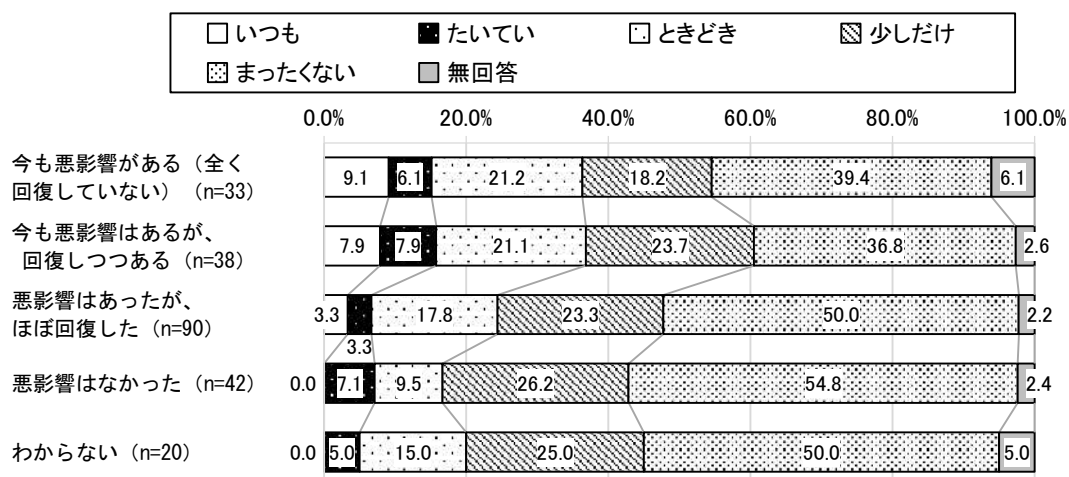
<年齢別>

年齢別でみると、20歳代で『ある』と答えた割合（59.0%）が高く、他との差がみられた。

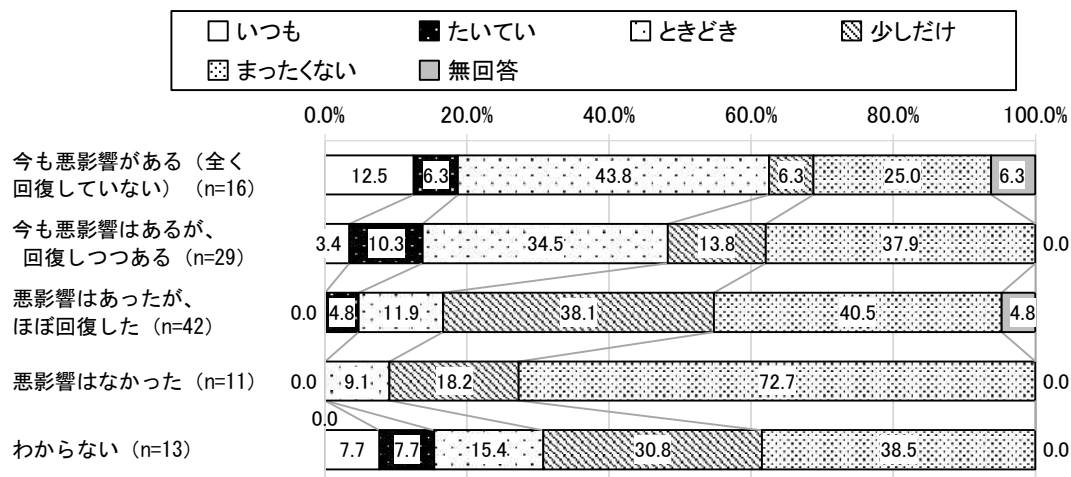
<その他>

回答者数が少ないため参考値ではあるが、DV、子ども時代の体験、デートDVの悪影響からの回復状況別でみると、回復できていないほど、「いつも」、「たいてい」と答えた人の割合高くなる傾向がみられる。

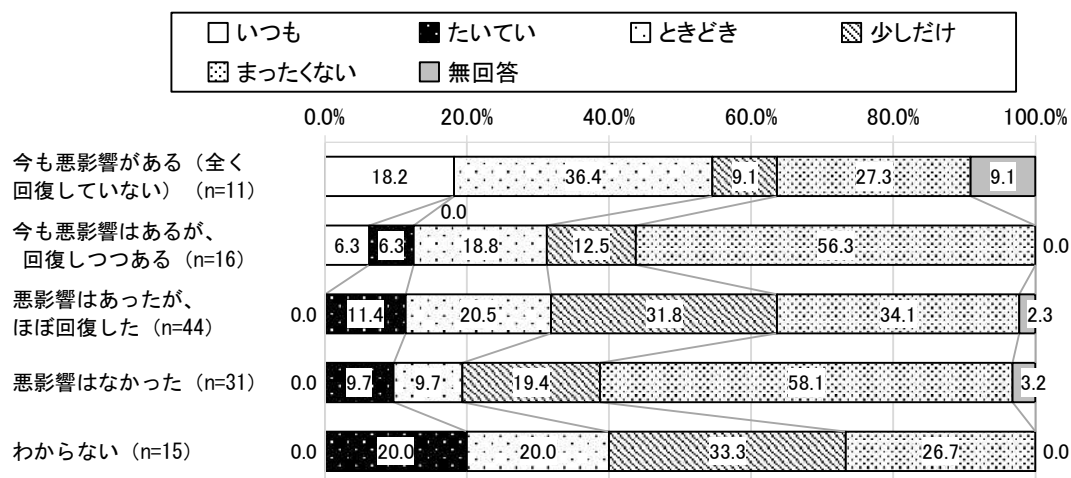
【DV後の悪影響からの回復状況別（問 23-2）】



【子ども時代の体験の悪影響からの回復状況別（問 26-1）】



【デートDV後の悪影響からの回復状況別（問 27-1）】



<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

(3) 大変なときや重大な決断をするときに、味方になってくれる人

問 38 あなたが大変なときや重大な決断をするときに、味方になってくれる人はいませんか。(〇はいくつでも)

割合 (%)	家族	友人	職場やアルバイト先の人	交際相手	SNSやインターネット上の人	支援機関の人	学校の先生	保健室の先生(養護教諭)	その他	味方になってくれる人はいない	無回答
女性 (n=990)	86.9	49.7	11.8	3.8	1.7	1.6	0.7	0.1	1.9	2.6	3.0
女性19歳以下 (n=32)	87.5	75.0	0.0	6.3	9.4	0.0	15.6	0.0	0.0	0.0	3.1
女性20～29歳 (n=39)	89.7	66.7	38.5	33.3	5.1	0.0	5.1	0.0	2.6	2.6	0.0
女性30～39歳 (n=94)	95.7	56.4	22.3	6.4	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性40～49歳 (n=154)	87.7	52.6	19.5	5.8	3.2	0.6	0.0	0.0	1.3	4.5	0.6
女性50～59歳 (n=175)	84.6	51.4	16.0	3.4	2.3	1.1	0.0	0.0	4.0	5.1	1.7
女性60～64歳 (n=92)	91.3	52.2	16.3	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0
女性65～69歳 (n=77)	89.6	46.8	7.8	1.3	0.0	1.3	0.0	0.0	2.6	0.0	5.2
女性70歳以上 (n=325)	82.8	40.9	0.6	0.0	0.6	3.1	0.0	0.3	1.8	2.5	6.5

<全体結果>

全体でみると、「家族」(86.9%)の割合が8割半ばで最も高く他との差が大きい。次いで「友人」(49.7%)が約5割、「職場やアルバイト先の人」(11.8%)が約1割、他は5%未満となった。「味方になってくれる人はいない」は2.6%であった。

<年齢別>

「家族」と答えた割合は、30歳代(95.7%)で最も高い。「友人」と答えた割合は、19歳以下(75.0%)で最も高く、年齢が低いほど割合が高くなっている。「職場やアルバイト先の人」、「交際相手」は、いずれも20歳代(各38.5%、33.3%)で最も割合が高い。

<年齢×世帯別>

	割合 (%)	家族	友人	職場やアルバイト先の人	交際相手	SNSやインターネット上の人	支援機関の人	学校の先生	保健室の先生（養護教諭）	その他	味方になってくれる人はいない	無回答
女性 (n=990)		86.9	49.7	11.8	3.8	1.7	1.6	0.7	0.1	1.9	2.6	3.0
19歳以下												
1人世帯 (n=1)		100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1世代世帯 (n=0)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2世代世帯 (n=24)		87.5	79.2	0.0	4.2	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
3世代世帯 (n=7)		85.7	57.1	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3
20歳～29歳												
1人世帯 (n=12)		75.0	75.0	50.0	41.7	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0
1世代世帯 (n=4)		100.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2世代世帯 (n=17)		94.1	70.6	35.3	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3世代世帯 (n=5)		100.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳～39歳												
1人世帯 (n=10)		80.0	60.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1世代世帯 (n=14)		92.9	50.0	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2世代世帯 (n=65)		98.5	58.5	24.6	6.2	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3世代世帯 (n=4)		100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳～49歳												
1人世帯 (n=14)		57.1	78.6	35.7	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1世代世帯 (n=19)		89.5	52.6	26.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0
2世代世帯 (n=112)		90.2	48.2	17.0	3.6	4.5	0.9	0.0	0.0	0.9	5.4	0.9
3世代世帯 (n=8)		100.0	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳～59歳												
1人世帯 (n=22)		72.7	68.2	27.3	13.6	9.1	4.5	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0
1世代世帯 (n=34)		94.1	41.2	14.7	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0
2世代世帯 (n=92)		84.8	48.9	15.2	2.2	2.2	1.1	0.0	0.0	3.3	5.4	3.3
3世代世帯 (n=20)		75.0	60.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0	0.0
60歳～64歳												
1人世帯 (n=9)		88.9	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1世代世帯 (n=32)		96.9	56.3	9.4	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2世代世帯 (n=35)		82.9	48.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0
3世代世帯 (n=13)		100.0	61.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
65歳～69歳												
1人世帯 (n=13)		76.9	46.2	23.1	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7
1世代世帯 (n=23)		100.0	47.8	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
2世代世帯 (n=29)		89.7	41.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9
3世代世帯 (n=9)		100.0	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上												
1人世帯 (n=68)		79.4	39.7	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	4.4	1.5	4.4
1世代世帯 (n=104)		91.3	47.1	1.0	0.0	1.9	1.0	0.0	0.0	1.9	1.0	2.9
2世代世帯 (n=99)		79.8	41.4	1.0	0.0	0.0	5.1	0.0	1.0	1.0	4.0	7.1
3世代世帯 (n=36)		77.8	33.3	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	2.8	11.1

<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

(4) 安心できる・ほっとできる場所

問 39 あなたが安心できる場所や、ほっとできる場所がありますか。
(○はいくつでも)

割合 (%)	家の中で一人でいられる場所 (自分の部屋など)	家族と過ごす場所 (自分の家や親せきの家など)	職場やアルバイト先 (過去の職場を含む)	インターネット空間	通っている学校や卒業した学校	その他	安心できる場所、 ほっとできる場所はない	無回答
女性 (n=990)	74.8	59.4	7.1	3.8	1.1	4.9	1.8	2.8
女性19歳以下 (n=32)	78.1	56.3	0.0	15.6	21.9	3.1	0.0	3.1
女性20～29歳 (n=39)	79.5	69.2	23.1	10.3	2.6	5.1	0.0	0.0
女性30～39歳 (n=94)	70.2	71.3	8.5	9.6	2.1	2.1	2.1	0.0
女性40～49歳 (n=154)	68.8	64.9	8.4	7.1	0.0	3.2	5.2	0.0
女性50～59歳 (n=175)	77.1	60.0	7.4	2.3	0.0	4.0	1.1	1.1
女性60～64歳 (n=92)	81.5	51.1	12.0	1.1	0.0	6.5	2.2	1.1
女性65～69歳 (n=77)	72.7	54.5	7.8	0.0	0.0	7.8	2.6	5.2
女性70歳以上 (n=325)	75.4	55.4	3.1	1.2	0.3	6.2	0.6	6.2

<全体結果>

全体でみると、「家の中で一人でいられる場所（自分の部屋など）」（74.8％）の割合が7割半ばで最も高く他との差が大きい。次いで「家族と過ごす場所（自分の家や親せきの家など）」（59.4％）が約6割、他は1割未満となった。「安心できる場所、ほっとできる場所はない」は1.8％であった。

<年齢別>

30歳代を除く年代では、「家の中で一人でいられる場所（自分の部屋など）」と答えた割合が最も高い。30歳代では、「家族と過ごす場所（自分の家や親せきの家など）」（71.3％）と答えた割合が最も高い。「職場やアルバイト先（過去の職場を含む）」は20歳代（23.1％）、「インターネット空間」、「通っている学校や卒業した学校」は19歳以下（各15.6％、21.9％）で最も高い。

<年齢×世帯別>

割合 (%)		家の 中 で 一 人 で い る 場 所 (自 分 の 部 屋 な ど)	家 族 と 過 ご す 場 所 (自 分 の 家 や 親 せ き の 家 な ど)	職 場 や ア ル バ イ ト 先 (過 去 の 職 場 を 含 む)	イ ン タ ー ネ ッ ト 空 間	通 っ て い る 学 校 や 卒 業 し た 学 校	そ の 他	安 心 で き る 場 所 、 は っ と で き る 場 所 、 は な い	無 回 答
女性 (n=990)		74.8	59.4	7.1	3.8	1.1	4.9	1.8	2.8
19歳以下	1人世帯 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1世代世帯 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	2世代世帯 (n=24)	83.3	58.3	0.0	16.7	25.0	4.2	0.0	0.0
	3世代世帯 (n=7)	57.1	57.1	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3
20歳～29歳	1人世帯 (n=12)	83.3	58.3	16.7	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1世代世帯 (n=4)	75.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2世代世帯 (n=17)	82.4	76.5	23.5	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
	3世代世帯 (n=5)	60.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
30歳～39歳	1人世帯 (n=10)	100.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1世代世帯 (n=14)	85.7	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	2世代世帯 (n=65)	60.0	80.0	10.8	7.7	3.1	3.1	3.1	0.0
	3世代世帯 (n=4)	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳～49歳	1人世帯 (n=14)	64.3	50.0	14.3	14.3	0.0	7.1	7.1	0.0
	1世代世帯 (n=19)	78.9	57.9	21.1	5.3	0.0	5.3	10.5	0.0
	2世代世帯 (n=112)	67.0	67.0	5.4	7.1	0.0	2.7	4.5	0.0
	3世代世帯 (n=8)	75.0	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳～59歳	1人世帯 (n=22)	95.5	31.8	0.0	4.5	0.0	4.5	4.5	0.0
	1世代世帯 (n=34)	85.3	67.6	8.8	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0
	2世代世帯 (n=92)	71.7	65.2	6.5	2.2	0.0	3.3	1.1	2.2
	3世代世帯 (n=20)	65.0	65.0	10.0	5.0	0.0	10.0	0.0	0.0
60歳～64歳	1人世帯 (n=9)	100.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1世代世帯 (n=32)	78.1	53.1	15.6	3.1	0.0	0.0	3.1	0.0
	2世代世帯 (n=35)	77.1	51.4	11.4	0.0	0.0	8.6	2.9	2.9
	3世代世帯 (n=13)	84.6	69.2	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
65歳～69歳	1人世帯 (n=13)	76.9	23.1	7.7	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7
	1世代世帯 (n=23)	65.2	69.6	8.7	0.0	0.0	4.3	4.3	4.3
	2世代世帯 (n=29)	75.9	62.1	6.9	0.0	0.0	10.3	0.0	3.4
	3世代世帯 (n=9)	88.9	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上	1人世帯 (n=68)	83.8	33.8	7.4	1.5	0.0	2.9	0.0	8.8
	1世代世帯 (n=104)	79.8	63.5	0.0	2.9	1.0	7.7	0.0	0.0
	2世代世帯 (n=99)	68.7	63.6	4.0	0.0	0.0	7.1	1.0	7.1
	3世代世帯 (n=36)	80.6	58.3	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0	8.3

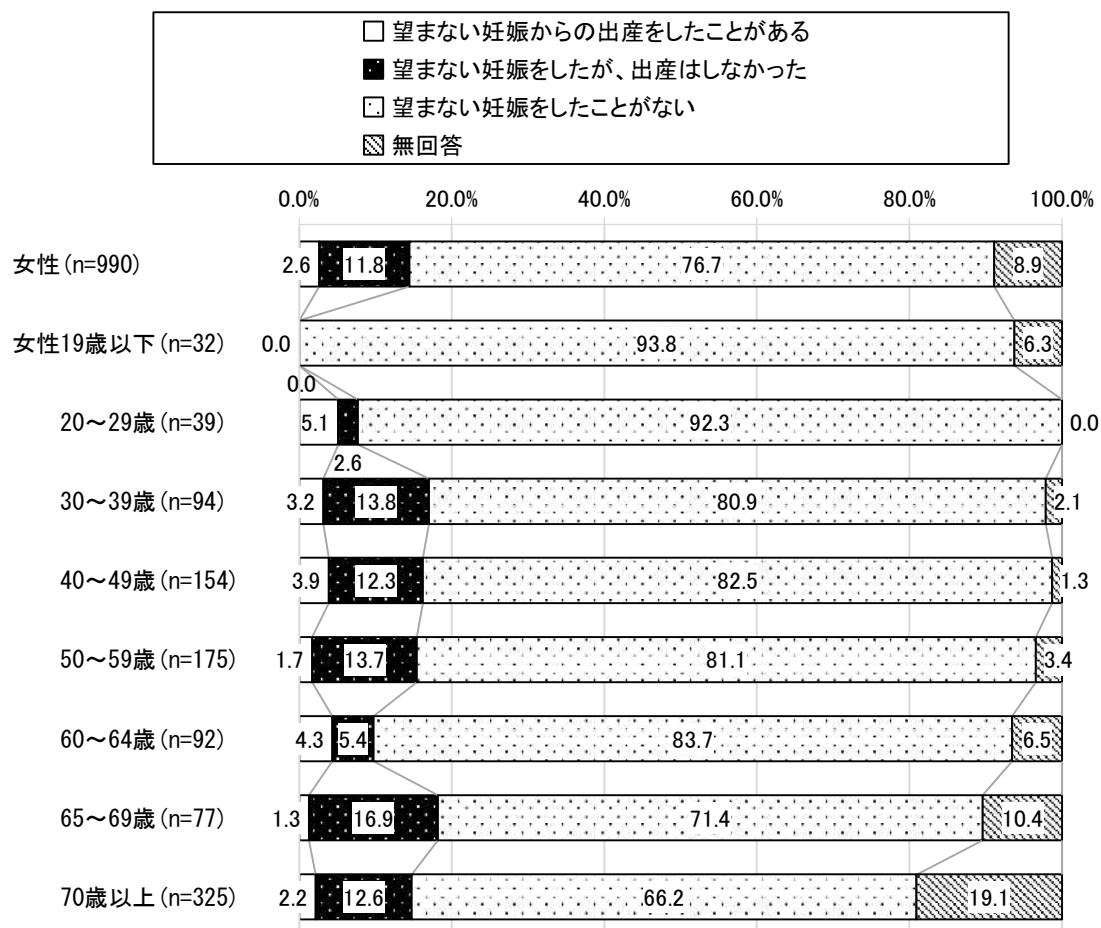
<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

14 望まない妊娠

(1) 望まない妊娠の体験の有無

問 40 あなたは、望まない妊娠をしたことがありますか。（○は1つだけ）



<全体結果>

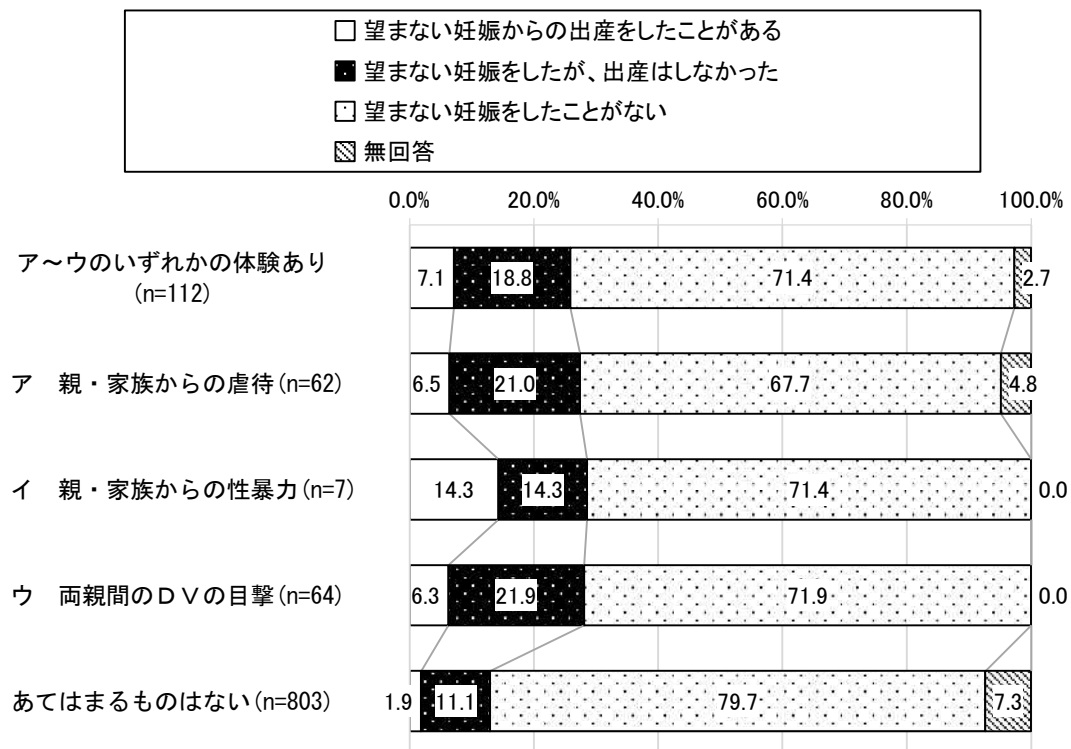
全体では、「望まない妊娠からの出産をしたことがある」が2.6%、「望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」（11.8%）を合わせた『望まない妊娠をしたことがある』（以下同）は14.4%となった。

<年齢別>

『望まない妊娠をしたことがある』は、30歳代以上で高く、60～64歳を除き、1割半ばを占めている。

<子ども時代の体験別>

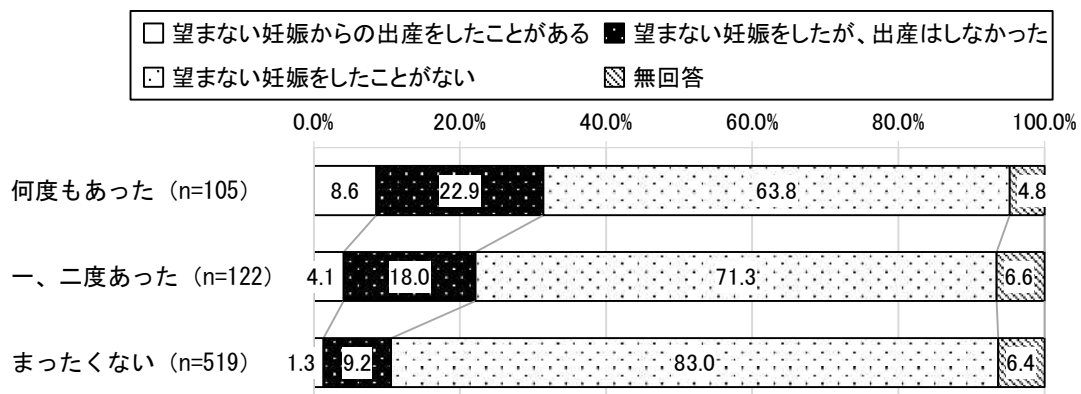
子ども時代の体験別でみると、「望まない妊娠からの出産をしたことがある」、または「望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と答えた割合は、「ア 親・家族からの虐待」、「イ 親・家族からの性暴力」、「ウ 両親間のDVの目撃」のいずれかの体験がある人では25.9%と、「あてはまるものはない」と答えた人（13.0%）よりも高い。



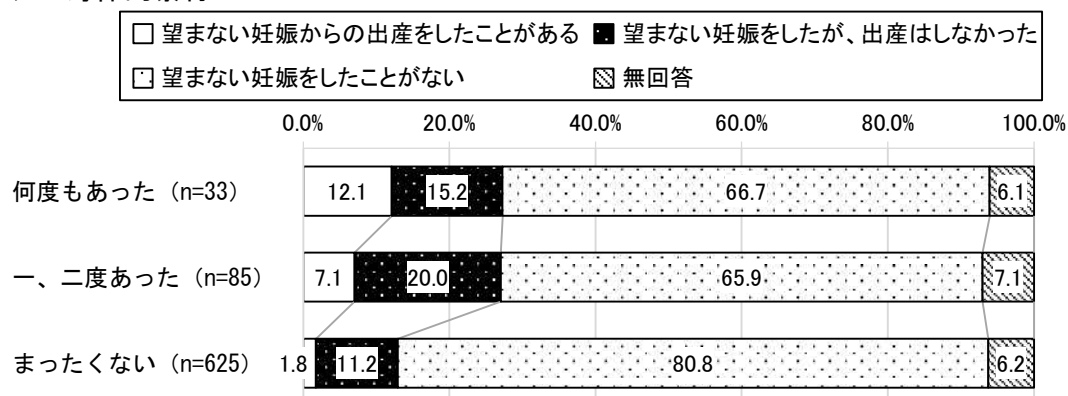
<配偶者からの暴力（DV）の体験別>

配偶者からの暴力（DV）の体験別でみると、「望まない妊娠からの出産をしたことがある」、または「望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と答えた割合は、「ア 身体的暴行」、「イ 心理的攻撃」、「ウ 経済的圧迫」、「エ 性的強要」のいずれかの体験が「何度もあった」人では31.4%、「一、二度あった」人では22.1%、「まったくない」人（10.6%）と、体験があった人、特に「何度もあった」人で割合が高い。特に「エ 性的強要」でその傾向が強く表れている。

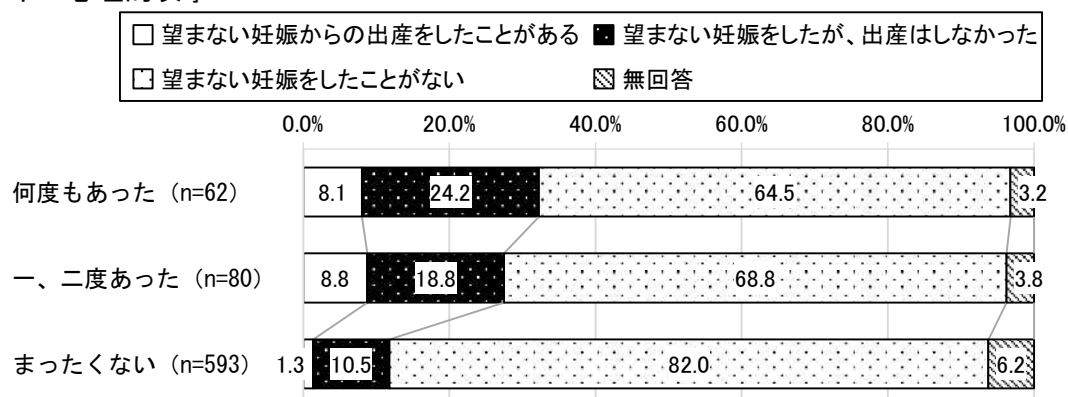
ア～エのいずれかの体験別



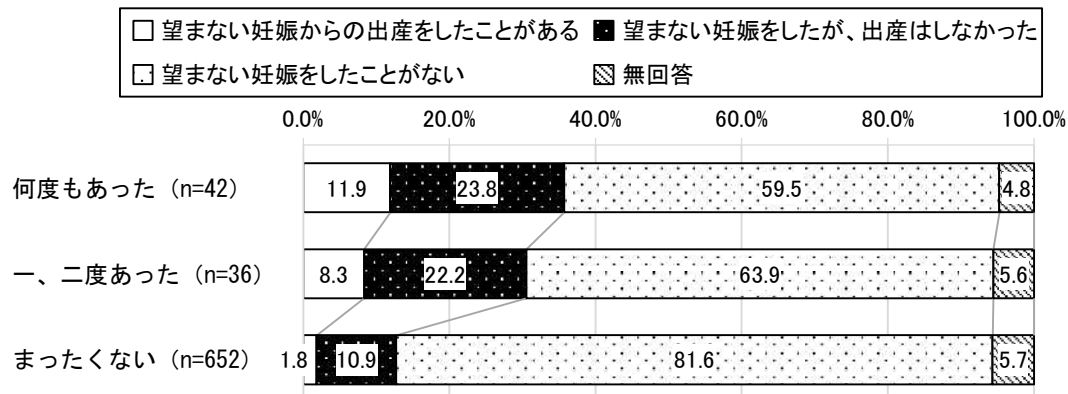
ア 身体的暴行



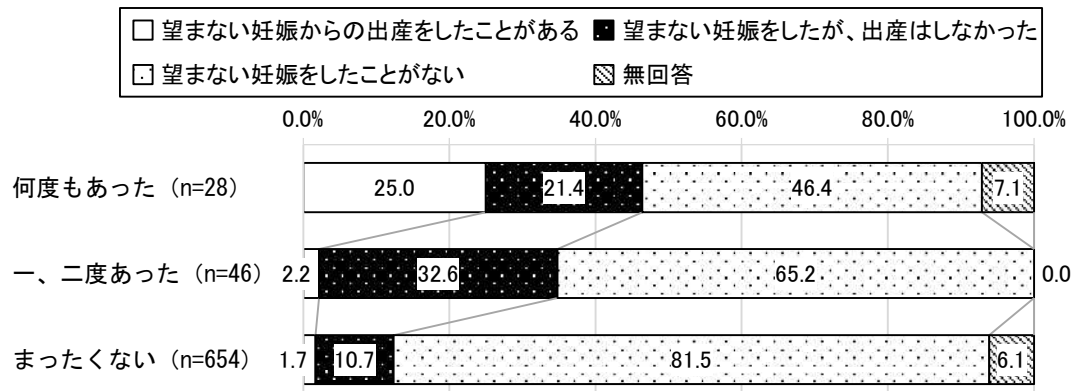
イ 心理的攻撃



ウ 経済的圧迫



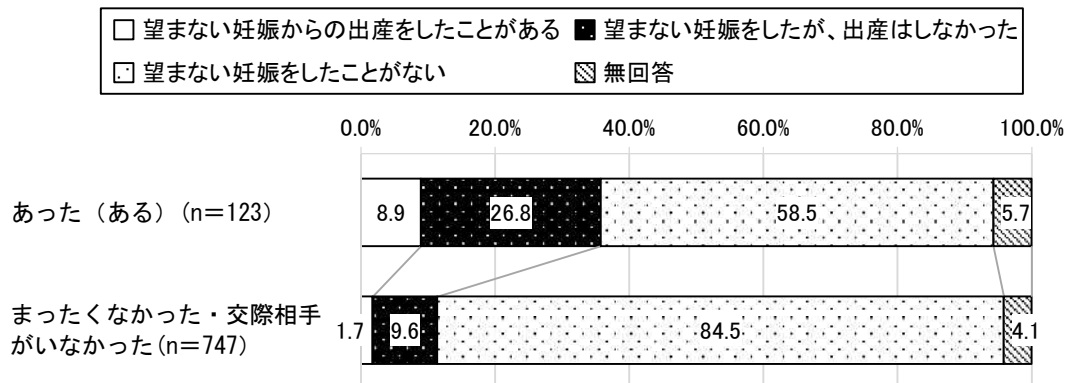
エ 性的強要



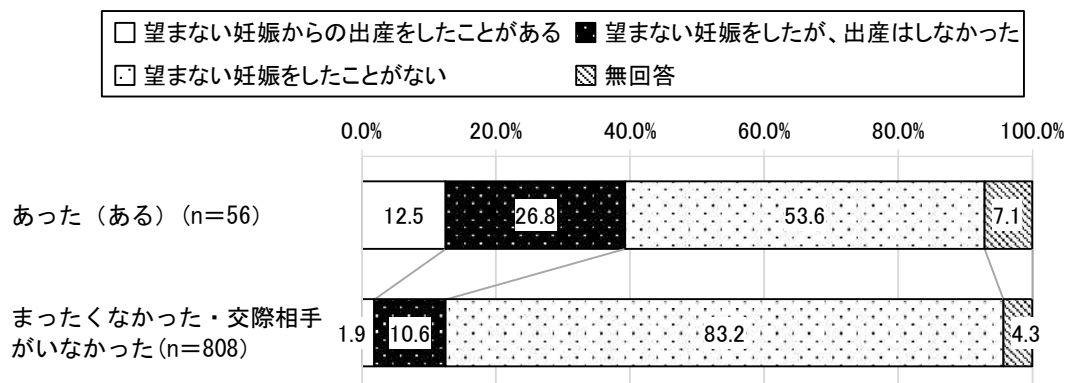
＜交際相手からの暴力（デートDV）の体験別＞

交際相手からの暴力（デートDV）の体験別でみると、「望まない妊娠からの出産をしたことがある」、または「望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と答えた割合は、「ア 身体的暴行」、「イ 心理的攻撃」、「ウ 経済的圧迫」、「エ 性的強要」のいずれかの体験が「あった（ある）」人では35.8%、「まったくなかった・交際相手がいなかった」人（17.3%）と答えた人より高い。特に「何度もあった」人で割合が高い。特に「ア 身体的暴行」と「エ 性的強要」で差が大きい。

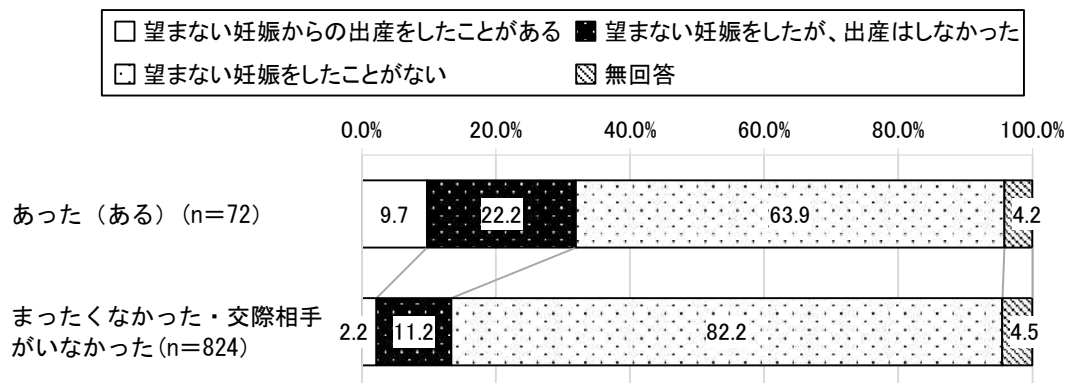
ア～エのいずれかの体験別



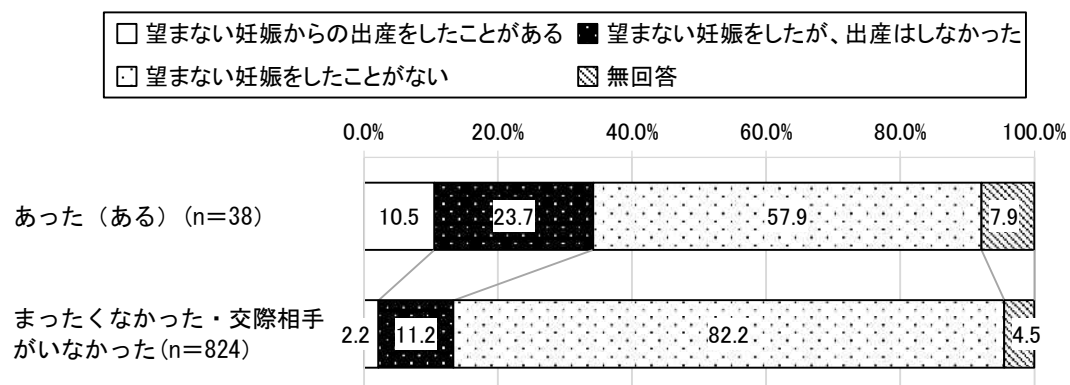
ア 身体的暴行



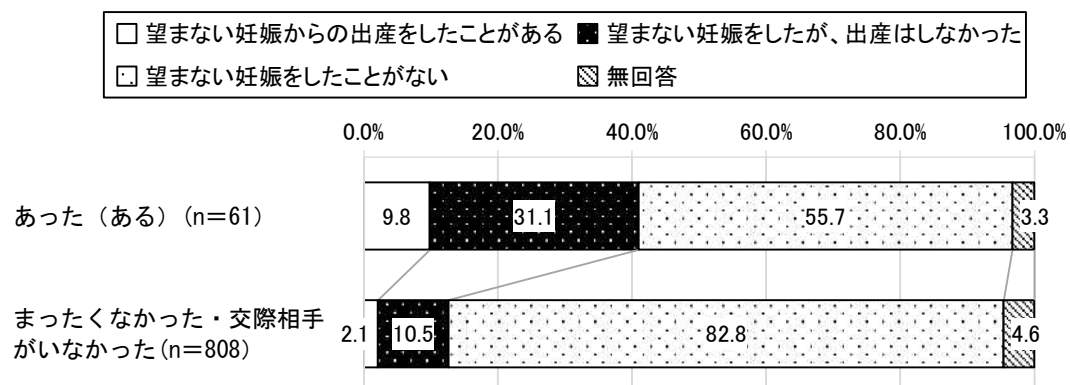
イ 心理的攻撃



ウ 経済的圧迫



エ 性的強要



<前回調査との比較>

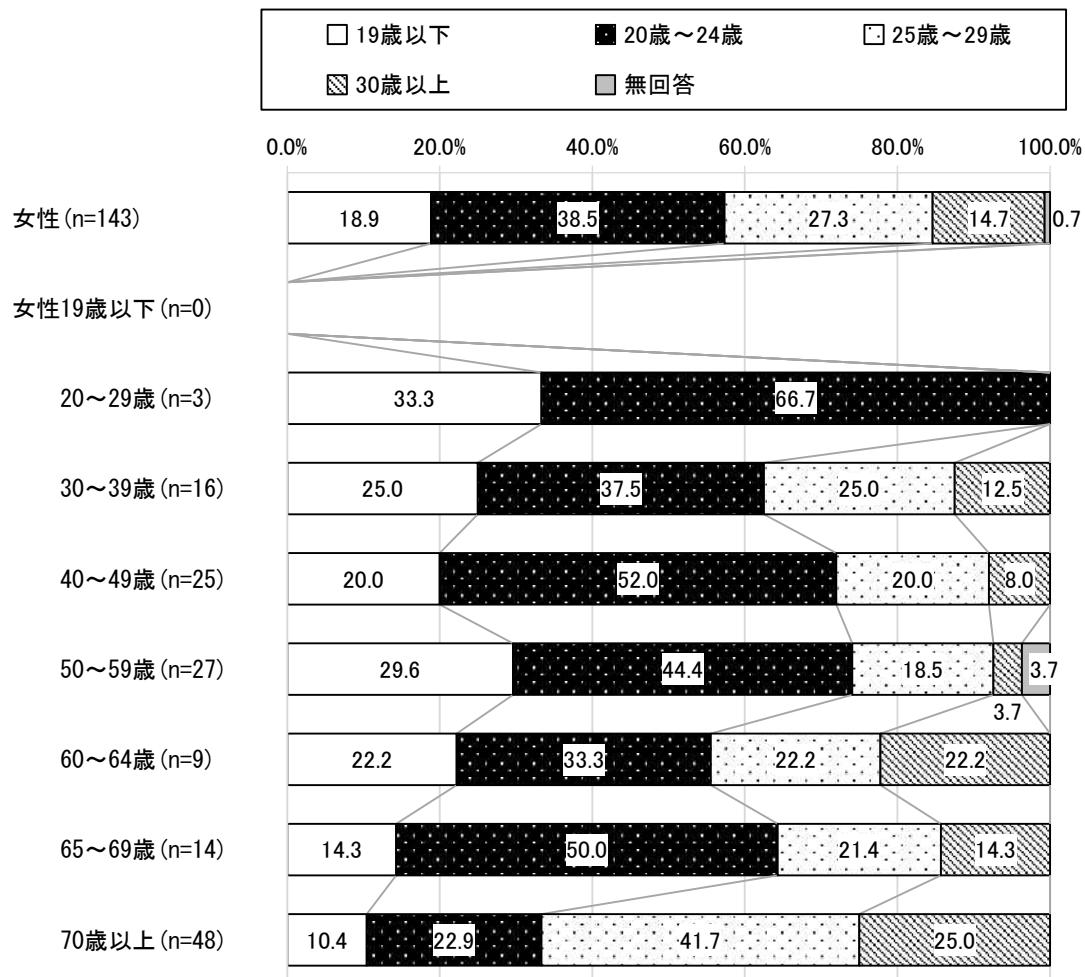
前回調査は調査項目なし。

(2) 望まない妊娠をした年齢

<問 40 で 1、2 と回答した方だけ>

問 40-1 望まない妊娠をしたのは、何歳の時でしたか。(○は 1 つだけ)

(複数回ある方は、最初の年齢をお答えください。)



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「20 歳～24 歳」(38.5%)、「25 歳から 29 歳」(27.3%)、「19 歳以下」(18.9%)、「30 歳以上」(14.7%) の順に割合が高かった。

<年齢別>

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

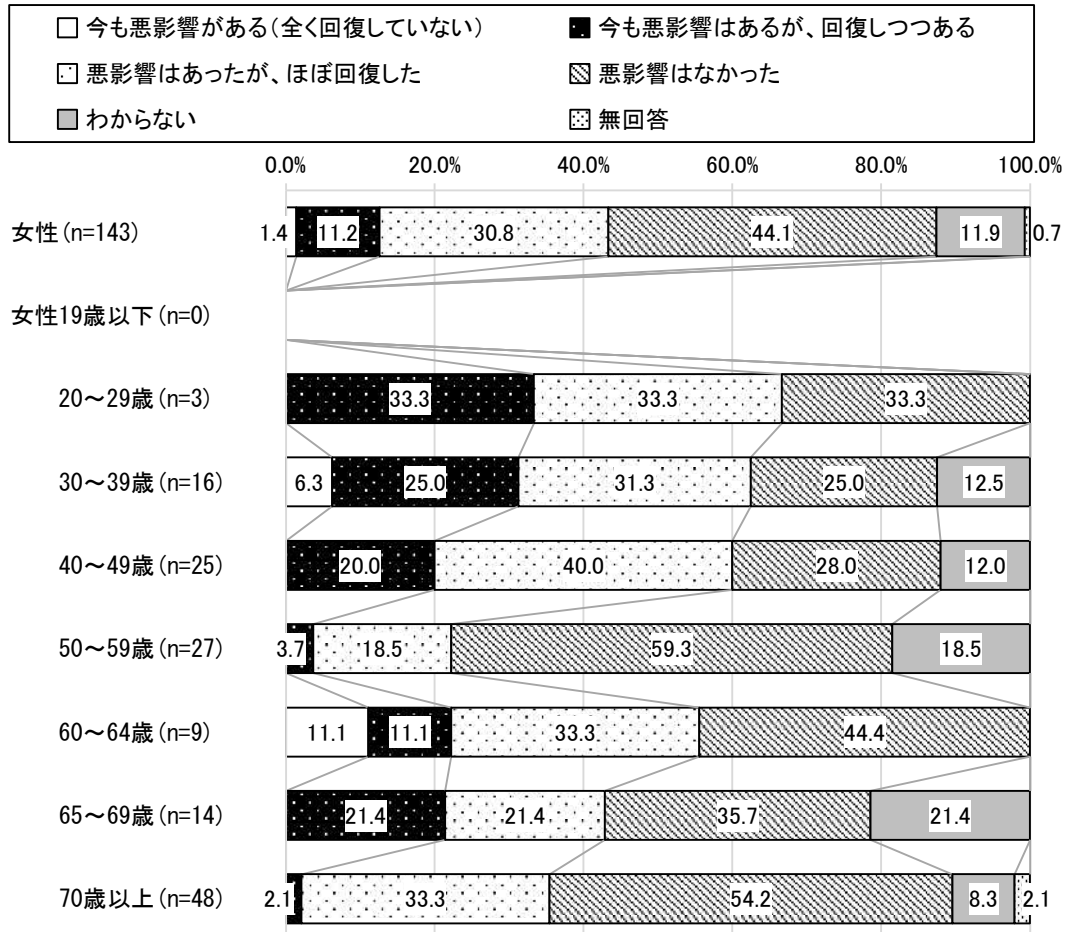
<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(3) 望まない妊娠による心身や暮らしへの悪影響（生きづらさ）

<問 40 で 1、2 と回答した方だけ>

問 40-2 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。（○は 1 つだけ）



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「今も悪影響がある（全く回復していない）」が 1.4%、「今も悪影響はあるが、回復しつつある」（11.2%）が約 1 割、「悪影響はあったが、ほぼ回復した」（30.8%）が約 3 割、「悪影響はなかった」（44.1%）が 4 割半ば、「わからない」（11.9%）が約 1 割となった。

<年齢別>

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

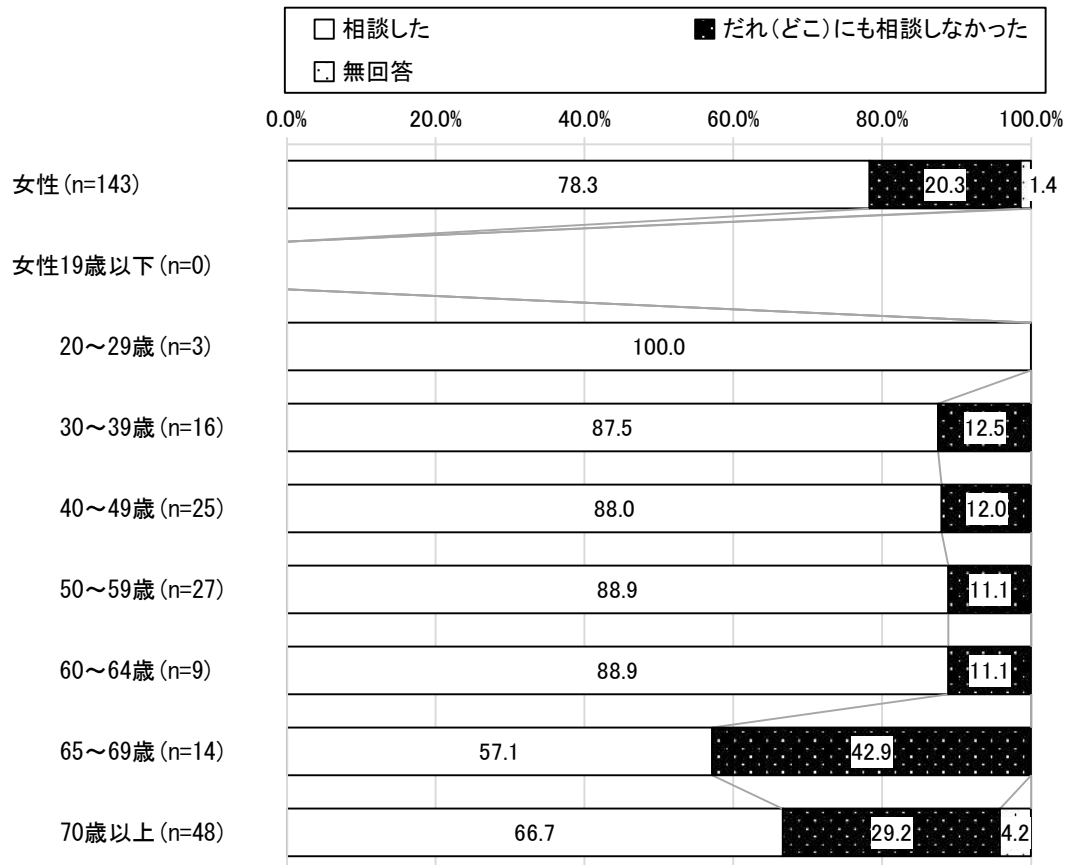
<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(4) 望まない妊娠がわかったときの相談の有無

<問 40 で 1、2 と回答した方だけ>

問 40-3 妊娠がわかったとき、だれかに相談しましたか。(○は 1 つだけ)



※数値が 0 の場合、グラフ内に数値を表示していない。

<全体結果>

全体でみると、「相談した」(78.3%) が約 8 割、「だれ(どこ)にも相談しなかった」(20.3%) が約 2 割となった。

<年齢別>

年齢別は、サンプル数が少ないため、グラフのみの掲載とする。

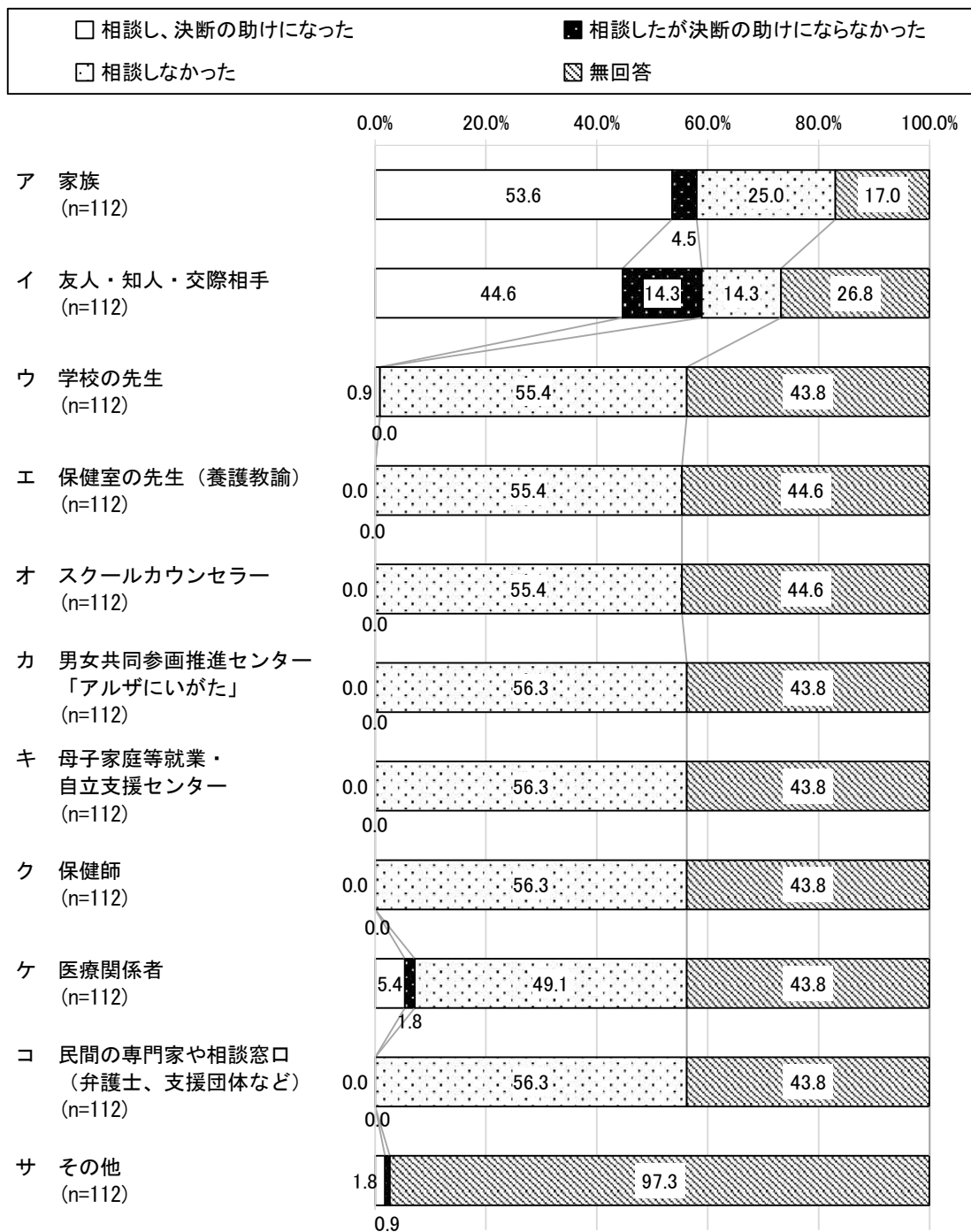
<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(5) 望まない妊娠がわかったとき相談した相手

<問 40-3 で「1 相談した」と回答した方だけ>

問 40-4 相談した相手はだれですか。また、相談したことで、あなたの決断の助けになりましたか。ア～サについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)



＜全体結果＞

全体でみると、「相談し、決断の助けになった」と「相談したが決断の助けにならなかった」を合わせた『相談した』（以下同）の割合は、「イ 友人・知人・交際相手」（58.9%）、「ア 家族（58.0%）」の割合が高く約6割となっているが、他は1割未満であった。年齢別は、サンプル数が少ないため割愛する。

＜前回調査との比較＞

今回は調査項目なし。

(6) 望まない妊娠がわかったとき相談をしなかった理由

＜問 40-3 で「2 だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方だけ＞
問 40-5 だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

割合（％）	相談しても無駄だと思った	相談していいことだと思わなかった	だれ（どこ）にも相談しなかったらよいかわからなかった	相談することを思いつかなかった	その他	無回答
女性（n=29）	48.3	20.7	10.3	6.9	6.9	10.3
女性19歳以下（n=0）	-	-	-	-	-	-
女性20～29歳（n=0）	-	-	-	-	-	-
女性30～39歳（n=2）	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
女性40～49歳（n=3）	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
女性50～59歳（n=3）	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
女性60～64歳（n=1）	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性65～69歳（n=6）	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
女性70歳以上（n=14）	50.0	0.0	7.1	14.3	7.1	21.4

＜全体結果＞

全体でみると、「相談しても無駄だと思った」（48.3％）が約5割で最も割合が高く、次いで「相談していいことだと思わなかった」（20.7％）が約2割、「だれ（どこ）に相談したらよいかわからなかった」（10.3％）が約1割で続く。

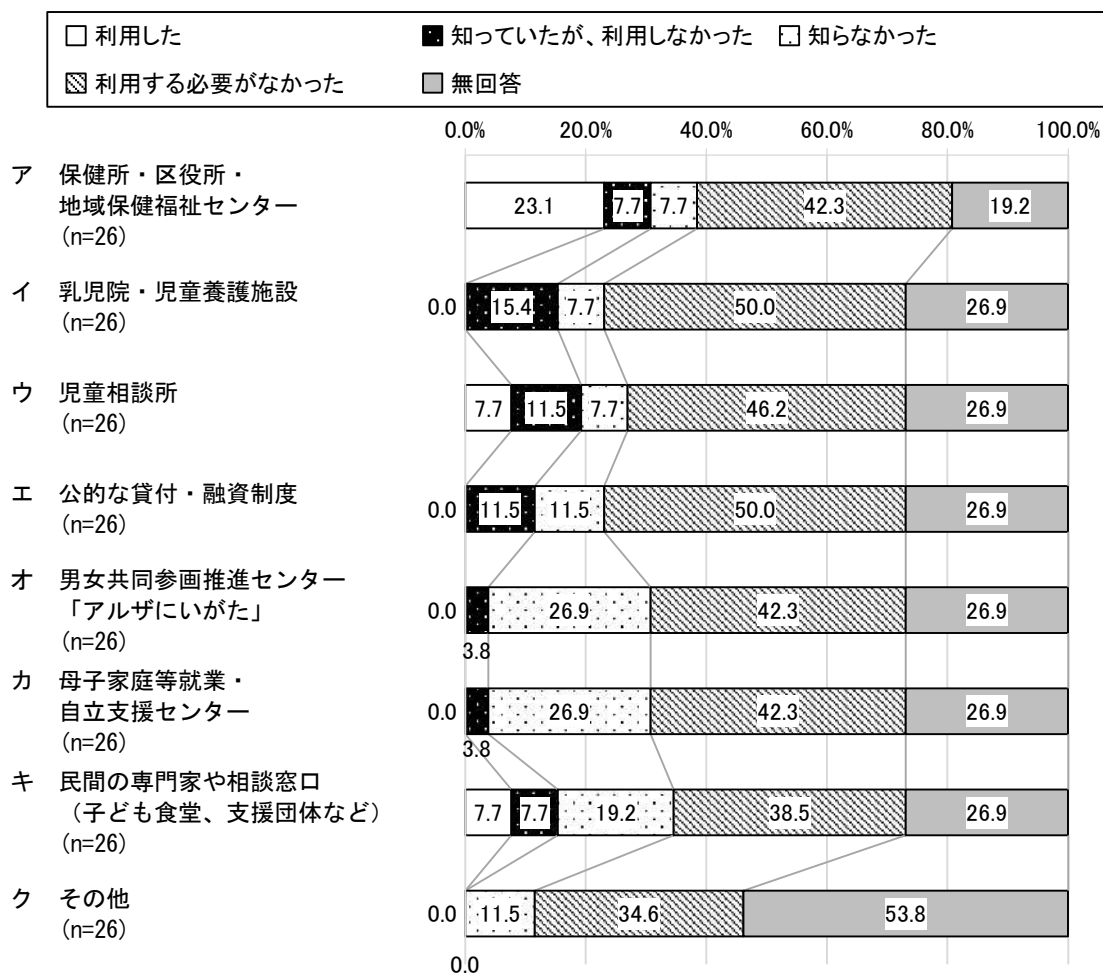
年齢別は、サンプル数が少ないため割愛する。

＜前回調査との比較＞

前回は調査項目なし。

(7) 相談窓口や支援の利用状況

＜問 40 で「1 望まない妊娠からの出産をしたことがある」と回答した方だけ＞
 問 40-6 出産後、次のような相談窓口や支援を利用したことがありますか。ア～クについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)



＜全体結果＞

ア～クの8項目について、「利用した」と答えた割合は、「ア 保健所・区役所・地域保健福祉センター」が23.1%、「ウ 児童相談所」、「キ 民間の専門家や相談窓口 (子ども食堂、支援団体など)」が7.7%であり、他の利用はなかった。

年齢別は、サンプル数が少ないため割愛する。

＜前回調査との比較＞

前は調査項目なし。

15 女性に対するサポート

(1) 相談窓口の認知度

問 41 次の相談窓口で知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

割合（％）	新潟市消費生活センター	新潟市児童相談所	民生委員・児童委員、主任児童委員	新潟市の保健所・地域保健福祉センター配置の保健師	新潟市こころの健康センター	新潟市男女共同参画推進センター（アール・ザ・タワーズ）（万代市民会館内）	ひとり親家庭等自立支援相談	妊娠・子育てほっとステーション	新潟市配偶者暴力相談支援センター
女性（n=990）	39.6	37.6	34.9	25.9	19.9	18.6	14.5	13.2	12.6
女性19歳以下（n=32）	37.5	46.9	6.3	3.1	34.4	0.0	6.3	0.0	6.3
女性20～29歳（n=39）	15.4	30.8	10.3	15.4	20.5	5.1	5.1	23.1	10.3
女性30～39歳（n=94）	23.4	30.9	8.5	27.7	17.0	9.6	19.1	35.1	10.6
女性40～49歳（n=154）	29.9	44.2	26.6	23.4	21.4	20.1	18.2	24.7	14.9
女性50～59歳（n=175）	42.9	41.7	35.4	26.3	24.6	22.3	14.3	10.9	13.7
女性60～64歳（n=92）	54.3	45.7	43.5	37.0	27.2	25.0	18.5	12.0	19.6
女性65～69歳（n=77）	49.4	41.6	45.5	20.8	27.3	22.1	10.4	5.2	14.3
女性70歳以上（n=325）	44.0	31.1	47.4	28.0	12.3	19.4	13.5	5.2	10.2

割合（％）	新潟市児童発達支援センター「こころ」	新潟市女性相談支援課（区役所健康福祉課に配置）	新潟市助産師会「助産」による電話相談	性暴力被害者支援センターにいがた	よりそいホットライン（一般社団法人社会の包摂サポートセンター）	親子のための相談LINE	タイム（イム）（CSN）（関係性暴力に関する相談）	知っているものはない	無回答
女性（n=990）	12.0	8.4	7.7	5.7	4.6	4.2	0.7	17.9	8.0
女性19歳以下（n=32）	9.4	0.0	0.0	12.5	15.6	25.0	0.0	31.3	0.0
女性20～29歳（n=39）	7.7	2.6	5.1	5.1	2.6	2.6	0.0	41.0	0.0
女性30～39歳（n=94）	16.0	5.3	18.1	5.3	5.3	7.4	0.0	25.5	2.1
女性40～49歳（n=154）	19.5	9.1	9.7	7.1	5.8	6.5	0.6	14.3	1.3
女性50～59歳（n=175）	12.6	9.7	5.7	5.1	4.6	2.3	0.0	20.6	1.1
女性60～64歳（n=92）	12.0	9.8	9.8	7.6	3.3	4.3	2.2	13.0	5.4
女性65～69歳（n=77）	7.8	13.0	3.9	3.9	6.5	0.0	0.0	11.7	9.1
女性70歳以上（n=325）	8.9	8.3	6.2	4.6	3.1	2.5	1.2	14.8	18.2

<全体結果>

全体でみると、「新潟市消費生活センター」(39.6%) が約4割で最も割合が高く、次いで「新潟市児童相談所」(37.6%)、「民生委員・児童委員、主任児童委員」(34.9%) が3割台、「新潟市の保健所・区役所・地域保健福祉センター配置の保健師」(25.9%) が2割台で続く。

<年齢別>

「民生委員・児童委員、主任児童委員」を知っていると答えた割合は、年齢が高いほど高い。「知っているものはない」と答えた割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。

＜その他＞

困っていること別でみた場合、「将来に対する不安がある」など 50 人以上の回答がある中では、「新潟市消費生活センター」「新潟市児童相談所」と答えた割合が高い。

「知っているものはない」と答えた中で割合が高いのは、「家計が苦しい」が 22.0%、「将来に不安がある」が 17.9%だった。

割合 (%)	新潟市消費生活センター	新潟市児童相談所	民生委員・主任児童委員	新潟市保健所・地域保健所・福祉センター	新潟市こころの健康センター	新潟市男女共同参画推進センター（市民会館内）	ひとり親家庭等自立支援相談	妊娠・子育てほっとステーション	新潟市配偶者暴力相談センター
将来に対する不安がある (n=468)	42.3	38.2	35.7	25.4	20.9	18.6	14.7	14.5	13.5
家計が苦しい (n=241)	35.3	31.5	25.3	22.0	19.5	16.6	16.6	20.3	12.0
健康に問題を抱えている (n=142)	46.5	39.4	34.5	29.6	20.4	31.0	12.0	10.6	18.3
家事・育児・介護の負担が大きい (n=99)	32.3	43.4	25.3	30.3	25.3	15.2	16.2	35.4	15.2
非正規雇用のため不安がある (n=60)	46.7	35.0	38.3	25.0	30.0	26.7	10.0	18.3	16.7
人間関係がうまく築けない (n=53)	37.7	39.6	26.4	20.8	32.1	17.0	5.7	13.2	11.3
メンタルヘルスの問題を抱えている (n=35)	34.3	42.9	25.7	28.6	22.9	17.1	11.4	22.9	17.1
転職先を探しているが、見つからない (n=27)	33.3	44.4	40.7	29.6	14.8	22.2	25.9	25.9	11.1
仕事を探しているが、見つからない (n=15)	40.0	33.3	20.0	26.7	20.0	13.3	6.7	20.0	6.7
配偶者や交際相手からのDV・デートDVがある (n=8)	37.5	50.0	37.5	50.0	62.5	25.0	12.5	12.5	25.0
いじめ・嫌がらせを受けている (n=8)	25.0	12.5	37.5	0.0	50.0	37.5	12.5	0.0	12.5
引きこもっている (n=5)	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
その他 (n=47)	42.6	25.5	23.4	21.3	29.8	25.5	10.6	10.6	10.6
困っていることはない (n=262)	42.4	43.1	41.2	28.6	17.6	19.5	15.3	12.2	11.1

割合 (%)	新潟市児童発達支援センター（こころの支援）	新潟市女性相談支援センター（区役所に設置）	新潟市保健所・地域保健所・福祉センター	新潟市こころの健康センター	新潟市男女共同参画推進センター（市民会館内）	ひとり親家庭等自立支援相談	妊娠・子育てほっとステーション
将来に対する不安がある (n=468)	11.8	8.5	7.7	5.1	4.3	3.4	0.6
家計が苦しい (n=241)	12.4	8.7	7.9	4.6	4.1	4.1	0.8
健康に問題を抱えている (n=142)	12.0	10.6	7.0	7.7	5.6	2.8	1.4
家事・育児・介護の負担が大きい (n=99)	14.1	6.1	18.2	7.1	6.1	8.1	1.0
非正規雇用のため不安がある (n=60)	18.3	13.3	13.3	8.3	11.7	5.0	1.7
人間関係がうまく築けない (n=53)	15.1	7.5	9.4	7.5	9.4	3.8	0.0
メンタルヘルスの問題を抱えている (n=35)	11.4	11.4	11.4	11.4	5.7	0.0	0.0
転職先を探しているが、見つからない (n=27)	14.8	7.4	18.5	3.7	7.4	11.1	3.7
仕事を探しているが、見つからない (n=15)	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
配偶者や交際相手からのDV・デートDVがある (n=8)	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0
いじめ・嫌がらせを受けている (n=8)	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
引きこもっている (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=47)	12.8	10.6	10.6	4.3	6.4	0.0	0.0
困っていることはない (n=262)	11.5	9.9	6.5	6.9	5.3	5.0	0.4

＜前回調査との比較＞ 前は調査項目なし。

(2) 女性が困難な状況から回復するために必要だと思うこと

問 42 女性がDVや虐待、性的な被害、望まない妊娠、家族との不仲、生活困窮などの困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

割合 (%)	安心できる居場所	困難な状況に気づいてくれる人の存在	経済的な自立	支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること	実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること	いざという時に自分で自由に使えるお金	弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート	経済的な自立に必要なスキルや資格	その他	必要なことはない	わからない	無回答
女性 (n=990)	52.5	51.2	31.4	25.2	24.8	21.3	17.8	17.5	1.1	0.7	5.6	5.8
女性19歳以下 (n=32)	59.4	65.6	25.0	12.5	12.5	18.8	15.6	9.4	0.0	0.0	12.5	0.0
女性20～29歳 (n=39)	61.5	74.4	38.5	41.0	30.8	23.1	10.3	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0
女性30～39歳 (n=94)	55.3	60.6	36.2	29.8	28.7	29.8	17.0	8.5	1.1	0.0	1.1	1.1
女性40～49歳 (n=154)	51.9	51.3	45.5	21.4	24.0	28.6	21.4	25.3	1.3	0.0	1.9	0.0
女性50～59歳 (n=175)	58.3	58.3	32.0	33.7	31.4	20.0	18.9	21.7	1.7	0.0	3.4	0.6
女性60～64歳 (n=92)	56.5	51.1	34.8	28.3	25.0	18.5	19.6	16.3	0.0	0.0	5.4	2.2
女性65～69歳 (n=77)	61.0	54.5	27.3	22.1	24.7	18.2	22.1	20.8	1.3	0.0	3.9	6.5
女性70歳以上 (n=325)	44.3	40.0	23.1	20.3	21.2	17.8	15.4	15.1	1.2	2.2	9.8	14.5

<全体結果>

全体でみると、「安心できる居場所」(52.5%)、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(51.2%)の割合が5割を超え高い。次いで「経済的な自立」(31.4%)、「支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること」(25.2%)、「実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること」(24.8%)、「いざという時に自分で自由に使えるお金」(21.3%)、「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」(17.8%)、「経済的な自立に必要なスキルや資格」(17.5%)が続く。

<年齢別>

「困難な状況に気づいてくれる人の存在」、「支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること」と答えた人の割合は、20歳代で74.4%と最も高く、19歳以下、30歳代で6割を超えている。

<その他>

困っていること別でみた場合、「将来に対する不安がある」など 50 人以上の回答がある中では、「安心できる場所」、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」と答えた割合が高い。

割合 (%)	安心できる居場所	困難な状況に気づいてくれる人の存在	経済的な自立	支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること	実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること	いざという時に自分で自由に使えるお金	弁護士や医師、カウンセラーなどの専門的な知識を持つてい	や経済的な自立に必要なスキルや資格	その他	必要なことはない	わからない	無回答
将来に対する不安がある (n=468)	54.3	55.3	35.0	28.6	25.6	23.5	20.3	19.4	0.6	0.2	3.6	2.6
家計が苦しい (n=241)	51.0	54.8	34.4	27.4	19.9	29.0	13.7	17.0	0.8	0.4	4.6	4.6
健康に問題を抱えている (n=142)	50.0	55.6	32.4	31.0	23.2	23.9	21.8	23.2	0.7	1.4	2.8	4.2
家事・育児・介護の負担が大きい (n=99)	52.5	57.6	41.4	18.2	23.2	26.3	15.2	20.2	3.0	0.0	4.0	3.0
非正規雇用のため不安がある (n=60)	58.3	48.3	50.0	30.0	23.3	30.0	21.7	25.0	0.0	0.0	0.0	1.7
人間関係がうまく築けない (n=53)	50.9	62.3	24.5	15.1	20.8	28.3	22.6	24.5	0.0	0.0	5.7	3.8
メンタルヘルスの問題を抱えている (n=35)	57.1	51.4	45.7	22.9	17.1	40.0	31.4	22.9	0.0	0.0	0.0	2.9
転職先を探しているが、見つからない (n=27)	44.4	55.6	51.9	40.7	29.6	29.6	14.8	25.9	0.0	0.0	0.0	0.0
仕事を探しているが、見つからない (n=15)	60.0	53.3	33.3	33.3	26.7	20.0	20.0	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者や交際相手からのDV・デートDVがある (n=8)	75.0	37.5	50.0	12.5	25.0	37.5	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
いじめ・嫌がらせを受けている (n=8)	62.5	37.5	25.0	37.5	12.5	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
引きこもっている (n=5)	40.0	20.0	60.0	40.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
その他 (n=47)	44.7	51.1	23.4	31.9	29.8	19.1	23.4	17.0	4.3	0.0	6.4	6.4
困っていることはない (n=262)	55.0	50.4	26.3	20.2	27.1	17.6	17.6	16.0	1.1	0.8	9.2	4.6

<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(3) 居場所がない女性たちに必要と思われるサポート

問 43 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どのようなサポートがあるといいと思いますか。(〇は3つまで)

割合 (%)	一時的に（数日）安心して泊まれる場所	なんでも相談できる場所や人	就業など自立に向けた支援	住まいに関する支援	同じ悩みを持つ人たちと出会う場所	無料・低額で食事の提供	数時間程度安心して過ごせる場所	助一晩程度を過ごせるお金の援助	その他	必要なことはない	わからない	無回答
女性 (n=990)	52.5	48.7	42.0	30.5	26.5	16.6	9.8	2.8	1.1	0.7	6.6	6.0
女性19歳以下 (n=32)	40.6	34.4	28.1	28.1	34.4	31.3	12.5	0.0	3.1	0.0	15.6	0.0
女性20～29歳 (n=39)	56.4	33.3	59.0	35.9	38.5	33.3	2.6	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
女性30～39歳 (n=94)	68.1	42.6	39.4	30.9	25.5	25.5	17.0	7.4	0.0	1.1	1.1	0.0
女性40～49歳 (n=154)	55.2	45.5	55.8	43.5	22.7	20.1	5.8	3.2	3.2	0.0	5.8	0.0
女性50～59歳 (n=175)	56.0	49.1	52.0	39.4	30.3	17.1	10.3	4.0	2.3	0.6	2.9	0.6
女性60～64歳 (n=92)	57.6	56.5	43.5	31.5	22.8	16.3	4.3	1.1	0.0	1.1	4.3	1.1
女性65～69歳 (n=77)	50.6	61.0	37.7	26.0	28.6	13.0	19.5	1.3	0.0	0.0	6.5	5.2
女性70歳以上 (n=325)	44.9	50.2	31.1	20.0	24.9	9.5	9.2	1.2	0.3	1.2	10.8	16.0

<全体結果>

全体でみると、「一時的に（数日）安心して泊まれる場所」（52.5％）の割合が5割を超え最も高い。次いで「なんでも相談できる場所や人」（48.7％）、「就業など自立に向けた支援経済的な自立」（42.0％）、「住まいに関する支援」（30.5％）、「同じ悩みを持つ人たちと出会う場所」（26.5％）が続く。

<年齢別>

「一時的に（数日）安心して泊まれる場所」は30歳代（68.1％）で最も高く約7割となった。「なんでも相談できる場所や人」は概ね年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。逆に「就業など自立に向けた支援」「無料・低額で食事の提供」は、概ね年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

<その他>

困っていること別でみた場合、「将来に対する不安がある」など 50 人以上の回答がある中では、「一時的に（数日）安心できる場所」「何でも相談できる場所や人」と答えた割合が高い。

割合（％）	一時的に（数日）安心して泊まれる場所	なんでも相談できる場所や人	就業など自立に向けた支援	住まいに関する支援	同じ悩みを持つ人たちと出合える場所	無料・低額で食事の提供	数時間程度安心して過ごせる場所	助一晩程度を過ごせるお金の援助	その他	必要なことはない	わからない	無回答
将来に対する不安がある（n=468）	54.9	52.1	47.4	35.0	27.6	17.9	9.0	3.4	1.3	0.0	4.5	3.0
家計が苦しい（n=241）	54.4	43.6	43.6	36.1	22.4	19.9	11.6	4.6	1.2	0.4	6.2	5.4
健康に問題を抱えている（n=142）	52.1	45.8	47.9	35.9	21.8	14.1	12.0	4.2	1.4	0.0	7.0	6.3
家事・育児・介護の負担が大きい（n=99）	65.7	46.5	40.4	37.4	17.2	27.3	10.1	7.1	3.0	0.0	4.0	2.0
非正規雇用のため不安がある（n=60）	61.7	56.7	50.0	43.3	26.7	13.3	6.7	6.7	8.3	0.0	0.0	0.0
人間関係がうまく築けない（n=53）	60.4	41.5	45.3	24.5	32.1	22.6	9.4	1.9	1.9	0.0	9.4	3.8
メンタルヘルスの問題を抱えている（n=35）	74.3	37.1	57.1	48.6	17.1	28.6	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0
転職先を探しているが、見つからない（n=27）	51.9	48.1	51.9	55.6	25.9	18.5	25.9	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0
仕事を探しているが、見つからない（n=15）	80.0	53.3	40.0	46.7	33.3	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
配偶者や交際相手からのDV・デートDVがある（n=8）	50.0	62.5	62.5	50.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いじめ・嫌がらせを受けている（n=8）	62.5	50.0	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0
引きこもっている（n=5）	80.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
その他（n=47）	57.4	44.7	42.6	34.0	23.4	14.9	12.8	2.1	4.3	0.0	6.4	6.4
困っていることはない（n=262）	53.1	50.0	37.4	26.0	29.4	14.1	11.5	1.5	0.4	1.9	9.5	3.4

<前回調査との比較>

前は調査項目なし。

(4) 相談しやすい方法

問 44 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所で相談したいですか。 (○は3 つまで)											
割合 (%)	電話	気軽に立ち寄れる場所 (対面)	支援機関 (対面)	メール	SNS (LINE、X、 Instagram 等)	自宅に訪問 (対面)	学校 (対面)	その他	相談したり支援を受けたりし たいと思わない	わからない	無回答
女性 (n=990)	46.2	43.0	38.1	22.2	22.1	6.7	0.9	0.1	2.1	8.6	5.9
女性19歳以下 (n=32)	9.4	25.0	12.5	31.3	50.0	0.0	15.6	0.0	0.0	18.8	0.0
女性20～29歳 (n=39)	51.3	56.4	33.3	35.9	56.4	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性30～39歳 (n=94)	42.6	39.4	34.0	41.5	53.2	7.4	0.0	0.0	2.1	2.1	0.0
女性40～49歳 (n=154)	36.4	41.6	35.7	35.1	32.5	5.2	0.6	0.0	0.6	8.4	0.6
女性50～59歳 (n=175)	52.0	46.3	46.3	23.4	29.1	2.9	1.1	0.0	1.7	5.1	1.1
女性60～64歳 (n=92)	57.6	43.5	42.4	25.0	19.6	5.4	0.0	0.0	2.2	6.5	1.1
女性65～69歳 (n=77)	58.4	46.8	39.0	16.9	6.5	6.5	0.0	0.0	2.6	6.5	6.5
女性70歳以上 (n=325)	45.8	42.5	37.8	8.0	2.2	10.8	0.3	0.3	3.4	13.2	14.8

<全体結果>

全体でみると、「電話」(46.2%)、「気軽に立ち寄れる場所で相談 (対面)」(43.0%)の割合が4割を超え高い。次いで「支援機関(対面)」(38.1%)が3割台、「メール」(22.2%)、「SNS (LINE、X、Instagram 等)」(22.1%) が2割台で続く。

<年齢別>

「SNS (LINE、X、Instagram 等)」と答えた人は、年齢が低い層で割合が高く、30 歳代以下では、5割以上となっており、19 歳以下や 30 歳代では、最も割合が高くなっている。

<その他>

困っていること別でみた場合、「将来に対する不安がある」など 50 人以上の回答がある中では、「電話」「気軽に立ち寄れる場所で相談（対面）」と答えた割合が高い。

割合 (%)	電話	気軽に立ち寄れる場所 (対面)	支援機関 (対面)	メール	INS (LINE、X、Instagram 等)	自宅に訪問 (対面)	学校 (対面)	その他	相談したり支援を受けた り 相談したいと思わなかった	わからない	無回答
将来に対する不安がある (n=468)	48.5	47.9	40.2	26.1	23.7	5.3	0.6	0.0	1.9	6.0	3.0
家計が苦しい (n=241)	42.3	44.8	32.8	29.0	29.5	2.9	0.0	0.0	1.2	7.9	5.4
健康に問題を抱えている (n=142)	52.1	45.8	41.5	16.2	23.2	4.2	0.0	0.0	1.4	9.2	6.3
家事・育児・介護の負担 が大きい (n=99)	48.5	41.4	33.3	29.3	39.4	8.1	1.0	0.0	1.0	7.1	1.0
非正規雇用のため不安が ある (n=60)	51.7	53.3	36.7	30.0	38.3	3.3	1.7	0.0	1.7	6.7	1.7
人間関係がうまく築け ない (n=53)	47.2	41.5	28.3	26.4	18.9	3.8	1.9	0.0	1.9	11.3	5.7
メンタルヘルスの問題 を抱えている (n=35)	54.3	45.7	42.9	34.3	45.7	0.0	0.0	0.0	2.9	8.6	0.0
転職先を探しているが、 見つからない (n=27)	59.3	63.0	44.4	29.6	48.1	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
仕事を探しているが、見 つからない (n=15)	53.3	46.7	40.0	53.3	53.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
配偶者や交際相手からの DV・デートDVがある (n=8)	25.0	62.5	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
いじめ・嫌がらせを受け ている (n=8)	62.5	50.0	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
引きこもっている (n=5)	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
その他 (n=47)	57.4	51.1	40.4	19.1	27.7	6.4	0.0	0.0	0.0	10.6	4.3
困っていることはない (n=262)	46.9	41.6	38.2	20.6	20.6	9.9	1.9	0.4	3.1	9.5	3.4

<前回調査との比較>

前回は調査項目なし。

(付) 調 査 票

令和6年度 男女共同参画に関する基礎調査

ご協力をお願い

日頃、市政にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

新潟市では、男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな取り組みを進めています。

このたび、広く市民の皆様から男女共同参画や配偶者からの暴力(DV)、困難を抱える女性への支援などに関するお考えをうかがい、今後の施策や事業の資料とするため「男女共同参画に関する基礎調査」を実施することといたしました。

この調査は、新潟市にお住まいの満15歳以上の方の中から、無作為に4,000人を抽出し、実施するものです。調査は無記名で実施し、記載いただいた内容につきましては、プライバシーに配慮し処理しますので、個人のお名前、ご住所などが公表されることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年9月

新潟市長 中原 ハー

ご記入に当たってのお願い

1. 必ずあて名の方ご本人が記入日時点の状況をお答えください。
 2. 質問は、全部で44問です。(枝問を除く。)
 3. 問33までは、全員がお答えください。
問34からは、女性のみお答えください。
該当者にだけお答えいただく質問については、質問中の記載に従ってお答えください。
 4. 質問文の後にある(○は1つだけ) (○は3つまで) (○はいくつでも) などのことわり書きは、お答えいただく数を意味します。
 5. 過去の経験など、答えることが心理的な負担となる場合には、その質問は答えずに次の質問にお進みください。
 6. 調査票、返信用封筒に住所、氏名の記入の必要はありません。
- ※ご記入が完了しましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、

令和6年9月17日(火) までに ご投函ください。

本アンケートはインターネットでもご回答いただけます。

次のアドレスまたは、右のQRコードからアンケート画面へお入りください。

【アドレス】: <https://questant.jp/q/danjyo>

最初に表示される入力欄に以下のIDを入力してお答えください。

※この調査票は、封筒に入れた後で、ご住所とお名前のラベルを順不同で貼付しています。
どなたにどのIDが付番されたかはわからない仕組みになっています。



※インターネットでご回答いただく場合は、この調査票の投函は不要です。

【この調査に関するお問い合わせ先】

新潟市 市民生活部 男女共同参画課 電話025-226-1061 / FAX025-228-2230

あてはまるものに○をつけてください。

●はじめにあなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別を教えてください。

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

問2 あなたの年齢を教えてください。

1 19歳以下	4 40～49歳	7 65～69歳
2 20～29歳	5 50～59歳	8 70歳以上
3 30～39歳	6 60～64歳	

問3 あなたのお住まいを教えてください。

1 北区	4 江南区	7 西区
2 東区	5 秋葉区	8 西蒲区
3 中央区	6 南区	

問4 あなたの職業について教えてください。

なお、複数の職業をお持ちの方は、主なものをお選びください。

育児・介護休業中の方は、休業中の職業をお選びください。（○は1つだけ）

1 正社員・正職員
2 派遣社員・契約社員・非常勤嘱託員
3 パート・アルバイト
4 自営業、家族従業者、個人事業主
5 農林水産業
6 学生
7 専業主婦・専業主夫
8 無職（学生、専業主婦・専業主夫を除く）
9 その他（

問5 あなたは現在結婚していますか。(○は1つだけ)

- 1 配偶者あり（事実婚を含む） → 問5-1を回答してください
- 2 配偶者なし（離別・死別） → 問6へお進みください
- 3 未婚 → 問6へお進みください

＜問5で1と回答した方だけ＞

問5-1 お二人の就労状況を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 夫婦とも働いている（パートタイム・内職などを含む）
- 2 夫のみ働いている
- 3 妻のみ働いている
- 4 夫婦とも働いていない

問6 あなたのご家庭の世帯構成を教えてください。(○は1つだけ)

- 1 1人世帯
2 1世代世帯（夫婦のみ）
3 2世代世帯（親と子）
4 3世代世帯（親と子と孫）
5 その他の世帯（ ）

問7 あなたにはお子さんがいますか。(○はあてはまるものすべて)

- 1 乳幼児（小学校入学前まで） 4 高校生 7 子どもはいない
2 小学生 5 専門学校・短大・大学生
3 中学生 6 1～5以外

問8 あなたには介護が必要な方がいますか。(○は1つだけ)

- 1 いる
2 近い将来に可能性がある（おおむね5年以内）
3 いない

●男女の平等感についておたずねします。

- 問9 次にあげる場面・分野において、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。
ア～キについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	男性が優遇されている	どちらかというと、男性が優遇されている	平等である	どちらかというと、女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
イ 職場（就職活動を含む）で	1	2	3	4	5	6
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
エ 地域社会（自治会・町内会など）で	1	2	3	4	5	6
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
カ 社会通念や慣習、しきたりで	1	2	3	4	5	6
キ 政治の場で	1	2	3	4	5	6

問10 「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。（○は1つだけ）

1 賛成	→ 問10-1を回答してください
2 どちらかといえば賛成	
3 どちらかといえば反対	→ 問10-2を回答してください
4 反対	
5 わからない	→ 問11へお進みください

<問10で1、2と回答した方だけ>

問10-1 その理由として、あてはまる番号をお選びください。（○は2つまで）

1 男性は仕事、女性は家事・育児・介護にむいているから
2 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから
3 女性が外に出ると、家事・育児・介護にさしつかえるから
4 子どものころからそうした教育をされているから
5 女性が外に働きに出るのは男性と比べると不利だから
6 その他（ ）

<問10で3、4と回答した方だけ>

問10-2 その理由として、あてはまる番号をお選びください。（○は2つまで）

1 男女ともに仕事を持つ方がよいから（生きがいや経済的な面で）
2 家事・育児・介護は男女が協力してやるべきだから
3 仕事と家庭は男女のどちらが分担してもよいから
4 男（夫）が仕事だけしている、女（妻）が家庭だけにいると視野が狭くなるから
5 その他（ ）

●仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関することについておたずねします。

→1人世帯の方は、問13へお進みください。

問11 次の事柄について、あなたの家庭では、だれが担当していますか。

ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。

（○はそれぞれ1つずつ）

	すべて女性が担当している	おもに女性が担当し、男性は手伝う程度	おおむね平等に分担している	おもに男性が担当し、女性は手伝う程度	すべて男性が担当している	該当なし
ア 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）	1	2	3	4	5	6
イ 育児（子どもの世話、しつけ、教育、PTAなど）	1	2	3	4	5	6
ウ 介護	1	2	3	4	5	6
エ 地域活動（自治会・町内会など）	1	2	3	4	5	6

問12 あなたの家庭での問11の「家事」の分担について、あなたは納得していますか。

（○は1つだけ）

- 1 納得している
- 2 おおむね納得している
- 3 あまり納得していない
- 4 納得していない

- 問13** あなたは、一日のうちで睡眠時間を除き、ア～オについて、それぞれどの程度の時間を費やしていますか。まったくしていない場合は「0」と記入してください。
仕事や学校に行っている人は、平日と休日のそれぞれについて、記入してください。

	仕事や学校に行っている人						仕事や学校に行っていない人		
	平日 (仕事や学校の ある日)			休日 (仕事や学校の ない日)					
ア 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）	時間		分	時間		分	時間		分
イ 育児（子どもの世話、しつけ、教育、PTAなど）	時間		分	時間		分	時間		分
ウ 介護	時間		分	時間		分	時間		分
エ 仕事・学校（通勤・通学時間を含む）	時間		分	/			/		
オ 自由に使える時間（地域活動・ボランティア活動、趣味、読書、テレビなど）	時間		分						

- 問14** 仕事と、家庭生活（家事・育児・介護等）または地域活動（自治会・町内会やボランティアなど）との関係について、あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。
(○は1つだけ)

1 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2 家庭生活または地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる
3 家庭生活または地域活動と、仕事を同じように両立させる
4 仕事よりも、どちらかといえば家庭生活または地域活動を優先させる
5 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6 わからない

問15 あなたは、男性が家庭生活（家事・育児・介護等）や地域活動（自治会・町内会やボランティアなど）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 男性が家庭生活や地域活動に参加することについて男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家庭生活や地域活動に参加することについての評価を高めること
- 3 子どものころに家事などを男女で分担するようしつけや育て方をする事
- 4 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 5 まわりの人が、それぞれの家庭での夫婦の役割分担等についての考え方を尊重すること
- 6 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
- 7 職場において家庭生活や地域活動に参加しやすい雰囲気をつくること
- 8 労働時間の短縮や休暇制度を充実させて利用を促進すること
- 9 その他（ ）
- 10 特にない
- 11 わからない

問16 あなたは、男性が「育児休業・介護休業制度」を利用するためのさまたげとなっているものは何だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 周囲に育児休業や介護休業を取った男性がいないこと
- 2 職場に理解や取りやすい雰囲気がないこと
- 3 仕事が忙しいこと
- 4 取ると仕事上周りの人に迷惑がかかること
- 5 取ると人事評価や昇給などに悪い影響があること
- 6 取ると経済的に困ること
- 7 男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないこと
- 8 男性自身が取りたいと思わないこと
- 9 その他（ ）
- 10 わからない

●女性の活躍推進に関することについておたずねします。

問17 あなたは、女性の職業と生活設計についてどのように考えますか。(○は1つだけ)

- 1 結婚や出産の後も仕事を続ける方がよい
- 2 結婚をきっかけとして一時家庭に入り、再び職業を持つ方がよい
- 3 出産をきっかけとして一時家庭に入り、再び職業を持つ方がよい
- 4 結婚をきっかけとして家庭に入る方がよい
- 5 出産をきっかけとして家庭に入る方がよい
- 6 結婚前も結婚後も職業を持たない方がよい
- 7 その他 ()

問18 女性が職業を持ち続けていくうえで、あなたが課題だと思うことは何ですか。(○は3つまで)

- 1 家事や育児・介護との両立がむずかしい
- 2 家族の協力や理解が得られない
- 3 育児休業や介護休業などの制度が十分でない
- 4 職場が結婚・出産した女性をきらい傾向がある
- 5 職場が責任ある仕事を女性に任せない
- 6 男性に比べて賃金が安く、職種も限られている
- 7 保育施設の数や内容が十分でない
- 8 介護に関するサービスが十分でない
- 9 女性自身の職業に対する自覚が不足している
- 10 その他 ()
- 11 わからない

問19 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときにさまたげとなっているものは何だと思いますか。（○はいくつでも）

- | |
|---|
| 1 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと |
| 2 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと |
| 3 長時間労働の改善が十分ではないこと |
| 4 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと |
| 5 企業などにおいては、管理職となると広域異動が増えること |
| 6 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと |
| 7 女性自身がリーダーになることを希望しないこと |
| 8 その他（ ） |
| 9 特にない |
| 10 わからない |

問20 あなたは、男女共同参画の視点で考えたときの災害対応として、日頃から、どのようなことを行っていく必要があると思いますか。

（○は3つまで）

- | |
|---|
| 1 防災に関する会議の女性委員の数を増やす |
| 2 男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施 |
| 3 女性への配慮を盛り込んだ避難所運営マニュアルの作成 |
| 4 女性が多く参加する防災訓練の実施 |
| 5 男女共同参画の視点で作成した防災用啓発冊子の配布 |
| 6 防災の女性リーダーの養成 |
| 7 その他（ ） |
| 8 特にない |
| 9 わからない |

●女性の健康と権利に関することについておたずねします。

問21 あなたは、妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、乳がん等の検査、性感染症など女性の健康と権利について、職場、地域、学校、家庭などで配慮する必要があると思いますか。

(○は1つだけ)

- | |
|---------------------|
| 1 配慮する必要がある |
| 2 どちらかといえば配慮する必要がある |
| 3 どちらかといえば配慮する必要はない |
| 4 配慮する必要はない |
| 5 わからない |

問22 あなたは、妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、乳がん等の検査、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。

(○は3つまで)

- | |
|------------------------|
| 1 配偶者やパートナー間の話し合い |
| 2 親子間の話し合い |
| 3 学校における性教育 |
| 4 学校における女性の健康と権利に関する教育 |
| 5 職場における女性の健康に関する研修や啓発 |
| 6 性や健康についての相談窓口 |
| 7 講座の開催などによる学習機会の提供 |
| 8 女性の健康と権利に関する情報の提供 |
| 9 その他 () |
| 10 わからない |

●配偶者からの暴力（DV）に関することについておたずねします。

(ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の妻や夫、元配偶者も含まれます。)

→配偶者がいる(いた)以外の方は、問24へお進みください。

問23 あなたは、配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。

(○はそれぞれ1つずつ)

(○はそれぞれ1つつ)		何 度 も あ っ た	一 、 二 度 あ っ た	ま っ た く な い
ア	身体的暴行 (なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	1	2	3
イ	心理的攻撃 (人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分または自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	1	2	3
ウ	経済的圧迫 (生活費を渡さない、外で働くことを妨害される、給料や貯金を勝手に使われるなど)	1	2	3
エ	性的強要 (嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	1	2	3

＜問23でア～エのいずれかの行為について、「何度もあった」または「一、二度あった」に1つでも
○をつけた方だけ＞

問23-1 あなたがそのような暴力を最初に受けたのは、いつですか。(〇は1つだけ)

- 1 交際を始めてからすぐ
- 2 性関係をもってから
- 3 結婚（同居）してから
- 4 妊娠中
- 5 出産後
- 6 別居前後
- 7 離婚前後
- 8 その他（ ）

＜問23でア～エのいずれかの行為について、「何度もあった」または「一、二度あった」に1つでも
○をつけた方だけ＞

問23-2 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。
（○は1つだけ）

- 1 今も悪影響がある（全く回復していない）
- 2 今も悪影響はあるが、回復しつつある
- 3 悪影響はあったが、ほぼ回復した
- 4 悪影響はなかった
- 5 わからない

問23-3 あなたは今までに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいいくつでも)

- 1 市配偶者暴力相談支援センターに相談した
- 2 市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」相談室（万代市民会館内）に相談した
- 3 市女性相談支援員（区役所健康福祉課）に相談した
- 4 県女性相談支援センター（県配偶者暴力相談支援センター）に相談した
- 5 県男女平等推進相談室（ユニソンプラザ内）に相談した
- 6 性暴力被害者支援センターにいがたに相談した
- 7 警察署や性犯罪被害相談電話に相談した
- 8 女性の人権ホットライン（新潟地方法務局）に相談した
- 9 民間団体「女のスペース・にいがた」「ウィメンズサポートセンターにいがた」などに相談した
- 10 法律の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、法テラスなど）に相談した
- 11 家族や親戚に相談した
- 12 友人・知人に相談した
- 13 その他（ ）
- 14 だれ（どこ）にも相談しなかった

「14 だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答した方は、問23-4へお進みください。

＜問23-3で「14 だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答した方だけ＞

問23-4 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○は3つまで)

- 1 だれ（どこ）に相談してよいかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
- 4 相談しても無駄だと思ったから
- 5 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 6 加害者から「だれにも言うな」とおどされたから
- 7 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 8 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 9 世間体が悪いから
- 10 他人を巻き込みたくなかったから
- 11 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 12 そのことについて思い出したくなかったから
- 13 自分にも悪いところがあると思ったから
- 14 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 15 相談するほどのことではないと思ったから
- 16 自分の愛情で相手を変えられると思ったから
- 17 別れるつもりがなかったから
- 18 その他（ ）

問24 あなたはDVについて相談するところを知っていますか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| 1 市配偶者暴力相談支援センター |
| 2 市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」相談室（万代市民会館内） |
| 3 市女性相談支援員（区役所健康福祉課） |
| 4 県女性相談支援センター（県配偶者暴力相談支援センター） |
| 5 県男女平等推進相談室（ユニゾンプラザ内） |
| 6 性暴力被害者支援センターにいがた |
| 7 警察署や性犯罪被害相談電話 |
| 8 女性の人権ホットライン（新潟地方法務局） |
| 9 民間団体「女のスペース・にいがた」「ウィメンズサポートセンターにいがた」など |
| 10 その他の相談窓口（ ） |
| 11 どこも知らない |

問25 あなたはDVを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1 児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う |
| 2 暴力を防止するための研修会、イベントなどを地域で行う |
| 3 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う |
| 4 テレビ、雑誌、ゲーム、インターネットなどの暴力的な情報を規制する |
| 5 加害者への処罰を強化したり、更生のための教育を行うなどの対策を行う |
| 6 男女間の経済的、社会的な地位や力の格差をなくしていく |
| 7 その他（ ） |
| 8 特にない |
| 9 わからない |

●子ども時代の体験についておたずねします。

問26 あなたが子ども時代（概ね17歳まで）を過ごした家庭で、次のような体験をしたことがありますか。（○はいくつでも）

- 1 親・家族からの虐待（ネグレクト、過干渉、行動制限を含む）
- 2 親・家族からの性暴力
- 3 両親間のDVの目撃
- 4 あてはまるものはない → 問27へお進みください

＜問26で1～3のいずれかの行為について1つでも○をつけた方だけ＞

問26-1 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。（○は1つだけ）

- 1 今も悪影響がある（全く回復していない）
- 2 今も悪影響はあるが、回復しつつある
- 3 悪影響はあったが、ほぼ回復した
- 4 悪影響はなかった
- 5 わからない

問26-2 その状況を変えるために、だれかに助けを求めたことはありますか。（○は1つだけ）

- 1 助けを求めたことがある → 問26-3へお進みください
- 2 助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある
- 3 助けを求めたり、話したりしなかった → 問26-4へお進みください

<問26-2で1、2と回答した方だけ>

問26-3 助けを求めたり、話を聞いてもらったりした相手はだれですか。
また、それによって状況は改善しましたか。
ア～サについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つつ)

	助けを求めた話をした		助けを求めたり、話したりしなかった
	状況が改善した	状況が改善しなかった	
ア 家族	1	2	3
イ 友人・知人・交際相手	1	2	3
ウ 学校の先生	1	2	3
エ 保健室の先生（養護教諭）	1	2	3
オ スクールカウンセラー	1	2	3
カ 児童相談所	1	2	3
キ その他の公的な相談窓口	1	2	3
ク 警察	1	2	3
ケ 医療関係者	1	2	3
コ 民間の専門家や相談窓口（弁護士、支援団体など）	1	2	3
サ その他（ ）	1	2	

<問26-2で3と回答した方だけ>

問26-4 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○はいくつでも)

1 だれ（どこ）に助けを求めたり、話したりしたらよいかわからなかった 2 助けを求めたり、話したりしても無駄だと思った 3 助けを求めたり、話したりしていいことだと思わなかった 4 助けを求めたり、話したりすることを思いつかなかった 5 その他（ ）

●交際相手からの暴力（デートDV）に関することについておたずねします。

問27 あなたは、これまでに、交際相手から次のア～エのようなことをされたことがありますか。
ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はあてはまるものすべて)

		交 際 相 手 が い な か っ た (い な い)	ま っ た く な か っ た	10 歳 代 に あ っ た (あ る)	20 歳 代 に あ っ た (あ る)	30 歳 代 以 上 に あ っ た (あ る)
ア	身体的暴行 (なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	1	2	3	4	5
イ	心理的攻撃 (人格を否定するような暴言、交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分または自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	1	2	3	4	5
ウ	経済的圧迫 (デート代や生活費を無理やり払わされる、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)	1	2	3	4	5
エ	性的強要 (嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	1	2	3	4	5

↓
<問27でア～エのうち1つでも「あった(ある)」と回答した方だけ>

問27-1 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）を与えていますか。
(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1 今も悪影響がある（全く回復していない）
2 今も悪影響はあるが、回復しつつある
3 悪影響はあったが、ほぼ回復した
4 悪影響はなかった
5 わからない |
|--|

＜問27でア～エのうち1つでも「あった(ある)」と回答した方だけ＞

問27-2 あなたは、問27の行為を受けたあと、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。相談先としてあてはまる番号をお選びください。(○はいくつでも)

- 1 市配偶者暴力相談支援センターに相談した
- 2 市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」相談室（万代市民会館内）に相談した
- 3 市女性相談支援員（区役所健康福祉課）に相談した
- 4 県女性相談支援センター（県配偶者暴力相談支援センター）に相談した
- 5 県男女平等推進相談室（ユニソンプラザ内）に相談した
- 6 性暴力被害者支援センターにいがたに相談した
- 7 警察署や性犯罪被害相談電話に相談した
- 8 女性の人権ホットライン（新潟地方法務局）に相談した
- 9 民間団体「女のスペース・にいがた」「ウィメンズサポートセンターにいがた」などに相談した
- 10 法律の専門家や専門機関（弁護士、弁護士会、法テラスなど）に相談した
- 11 学校や大学の先生、養護教諭、スクールカウンセラーなどに相談した
- 12 家族や親戚に相談した
- 13 友人・知人に相談した
- 14 その他（)
- 15 だれ（どこ）にも相談しなかった

＜問27-2で「15 だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方だけ＞

問27-3 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○は3つまで)

- 1 だれ（どこ）に相談してよいかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 自分が受けている行為がデートDVとは認識していなかったから
- 4 相談しても無駄だと思ったから
- 5 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 6 加害者から「だれにも言うな」とおどされたから
- 7 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 8 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 9 世間体が悪いから
- 10 他人を巻き込みたくなかったから
- 11 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 12 そのことについて思い出したくなかったから
- 13 自分にも悪いところがあると思ったから
- 14 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 15 相談するほどのことではないと思ったから
- 16 自分の愛情で相手を変えられると思ったから
- 17 別れるつもりがなかったから
- 18 その他（)

●性の多様性に関することについておたずねします。

問28 あなたは、LGBTQ※など性的マイノリティ（性のあり方が少数派とされる人々）に関する言葉や法律を知っていますか。ア～キについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○はそれぞれ1つつ）

※LGBTQ：下記の頭文字をとった性的マイノリティを表す言葉の一つ

L（レズビアン）＝女性同性愛者

G（ゲイ）＝男性同性愛者

B（バイセクシャル）＝両性愛者

T（トランスジェンダー）＝こころとからだの性に違和感を感じる人

Q（クエスチョニング）＝自分の性別が分からない、意図的に決めていない、決まっていない人

Q（クィア）＝性的マイノリティを包括する言葉

	内容まで知っている	言葉は知っている	まったく知らない
ア LGBTQ	1	2	3
イ 性的指向（好きになる性）、性自認・ジェンダーアイデンティティ（こころの性）	1	2	3
ウ 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律	1	2	3
エ 新潟市パートナーシップ宣誓制度	1	2	3
オ アライ（ALLY）（性的マイノリティの理解者・支援者）	1	2	3
カ カミングアウト（自分の性のあり方を周囲に伝えること）	1	2	3
キ アウティング（性のあり方を本人の了承なく第三者に暴露すること）	1	2	3

問29 あなたは、LGBTQなど性的マイノリティが日常生活を送るうえで直面している課題にはどのようなものがあると思いますか。（○はいくつでも）

1 学校・教育（いじめ、制服、トイレ、更衣室、プール、宿泊行事など） 2 職場（採用試験、いじめ、トイレ、更衣室、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生など） 3 地域（差別、偏見） 4 住宅（賃貸住宅の入居） 5 医療（パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護） 6 民間サービス（家族割引や生命保険金の受領など親族と同等のサービス） 7 恋愛・結婚（偏見、同性婚の法整備） 8 死別（葬儀への出席や遺産の相続） 9 その他（ ） 10 特にない 11 わからない

問30 あなたは、LGBTQなど性的マイノリティに対する理解の促進や支援にはどのようなものが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- | | |
|------------------------|---|
| 1 法律の整備や制度の見直し | |
| 2 専門相談窓口の充実 | |
| 3 啓発や広報活動の推進 | |
| 4 学校における児童・生徒などへの教育の充実 | |
| 5 行政職員や教職員に対する研修の実施 | |
| 6 職場における理解の促進 | |
| 7 当事者同士が集まる居場所の創設 | |
| 8 トイレや更衣室などの環境の整備 | |
| 9 その他 (|) |
| 10 特にない | |
| 11 わからない | |

●男女共同参画社会の実現に関することについておたずねします。

問31 新潟市では平成17年に、男女共同参画社会の実現に向けて、「新潟市男女共同参画推進条例」を制定し、さまざまな施策を実施しています。

あなたは、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(〇は3つまで)

- | | |
|--|---|
| 1 男女共同参画の考え方を市全体に浸透させるための啓発を充実させること | |
| 2 学校で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること | |
| 3 生涯学習の場で、男女の平等・相互理解や協力についての学習を充実させること | |
| 4 男性に対して男女共同参画の意識を向上させること | |
| 5 女性を政策決定の場に積極的に登用すること | |
| 6 自治会・町内会の会長や役員に女性を増やすなど地域における男女共同参画の推進 | |
| 7 職場において男女の均等な取り扱いを行うよう働きかけること | |
| 8 男女が働き続けるための仕組みや制度を整備すること | |
| 9 家庭や地域の活動に参加しやすい環境を整えるよう、企業に働きかけること | |
| 10 子育てや介護を社会的に支援する施設・サービスを充実させること | |
| 11 男女の健康教育や啓発活動を推進し、生涯にわたり健康を維持できるよう支援すること | |
| 12 性の多様性に関する正しい理解の普及と支援 | |
| 13 人間関係や生き方、配偶者等からの暴力などについて相談を充実させること | |
| 14 その他 (|) |
| 15 特にない | |
| 16 わからない | |

問32

あなたは、次のような言葉や法律、名称について知っていますか。

ア～ソについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○はそれぞれ1つつ)

	内容まで知っている	言葉は知っている	まったく知らない
ア 男女共同参画社会	1	2	3
イ ジェンダー（社会的につくられた性別）	1	2	3
ウ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み・偏見）	1	2	3
エ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
オ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	1	2	3
カ デートDV（恋人など親密な関係にある人の間で起こる暴力）	1	2	3
キ 男女雇用機会均等法	1	2	3
ク 育児・介護休業法	1	2	3
ケ 女性活躍推進法	1	2	3
コ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
サ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
シ 新潟市男女共同参画推進条例	1	2	3
ス 新潟市男女共同参画行動計画	1	2	3
セ 新潟市配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
ソ 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」	1	2	3

問33 その他、男女平等や男女共同参画についてのご意見・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

すべての方への質問はここまでです。
女性は次ページ以降もお答えください。

ここからは、女性のみお答えください。

●あなたの現在の暮らしについておたずねします。

問34 あなたは、現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)

- 1 満足している
- 2 まあ満足している
- 3 どちらでもない
- 4 やや不満だ
- 5 不満だ

問35 あなたが現在困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 家計が苦しい
- 2 家事・育児・介護の負担が大きい
- 3 仕事を探しているが、見つからない(失業している)
- 4 転職先を探しているが、見つからない
- 5 非正規雇用のため不安がある(雇い止め、勤務時間の減少による収入減、待遇格差など)
- 6 配偶者や交際相手からのDV・デートDV(精神的・経済的・性的暴力を含む)がある
- 7 配偶者や交際相手以外からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)がある
- 8 いじめ・嫌がらせを受けている
- 9 引きこもっている
- 10 人間関係がうまく築けない
- 11 メンタルヘルスの問題を抱えている(うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など)
- 12 健康(メンタルヘルス以外)に問題を抱えている
- 13 将来に対する不安がある
- 14 その他()
- 15 困っていることはない

<問35で1～14(現在困っていることがある)と回答した方だけ>

問35-1 困っていることについて、だれかに相談しましたか。(○は1つだけ)

- 1 相談したことがある

2 いくつかは相談したが、相談していないことがある

3 だれ(どこ)にも相談していない

<問35-1で2、3と回答した方だけ>

問35-2 その理由としてあてはまる番号をお選びください。(○はいくつでも)

- 1 だれ(どこ)に相談したらよいかわからない

2 相談するか迷っている

3 これから相談しようと思っている

4 相談しなくても解決できる

5 相談しても無駄だと思っている

6 その他()

●あなたの心の状態や人間関係についておたずねします。

問36 次のことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。

ア～エについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
ア だいたいにおいて、自分に満足している	1	2	3	4
イ 困った時は、人に助けを求めてもいいと思う	1	2	3	4
ウ 自分のことは自分が決めていいと思う	1	2	3	4
エ なんとなく、生きづらさを感じる	1	2	3	4

問37 あなたは、過去1か月の間、次のことがどれくらいの頻度でありましたか。
ア～カについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
ア 神経過敏に感じた(ちょっとしたことでも気になる)	1	2	3	4	5
イ 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
ウ そわそわしたり、落ち着きがなく感じた	1	2	3	4	5
エ 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
オ 何をするのも面倒だと感じた	1	2	3	4	5
カ 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問38 あなたが大変なときや重大な決断をするときに、味方になってくれる人はいますか。
(○はいくつでも)

1 家族 2 友人 3 交際相手 4 学校の先生 5 保健室の先生(養護教諭) 6 職場やアルバイト先の人 7 支援機関の人 8 SNSやインターネット上の人 9 その他() 10 味方になってくれる人はいない

問39 あなたが安心できる場所や、ほっとできる場所がありますか。(○はいくつでも)

1 家の中で一人でいられる場所(自分の部屋など) 2 家族と過ごす場所(自分の家や親せきの家など) 3 通っている学校や卒業した学校 4 職場やアルバイト先(過去の職場を含む) 5 インターネット空間 6 その他() 7 安心できる場所、ほっとできる場所はない

●望まない妊娠についておたずねします。

問40 あなたは、望まない妊娠をしたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 望まない妊娠からの出産をしたことがある | → 問40-1～3、問40-6を回答してください |
| 2 望まない妊娠をしたが、出産はしなかった | → 問40-1～3を回答してください |
| 3 望まない妊娠をしたことがない | → 問41へお進みください |

<問40で1、2と回答した方だけ>

問40-1 望まない妊娠をしたのは、何歳の時でしたか。(○は1つだけ)
(複数回ある方は、最初の年齢をお答えください。)

- | |
|-----------|
| 1 19歳以下 |
| 2 20歳～24歳 |
| 3 25歳～29歳 |
| 4 30歳以上 |

問40-2 そのことが、今のあなたの心身や暮らしに悪影響(生きづらさ)を与えていますか。
(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------|
| 1 今も悪影響がある(全く回復していない) |
| 2 今も悪影響はあるが、回復しつつある |
| 3 悪影響はあったが、ほぼ回復した |
| 4 悪影響はなかった |
| 5 わからない |

問40-3 妊娠がわかったとき、だれかに相談しましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 相談した | → 問40-4を回答してください |
| 2 だれ(どこ)にも相談しなかった | → 問40-5を回答してください |

＜問40-3で「1 相談した」と回答した方だけ＞

問40-4 相談した相手はだれですか。また、相談したことで、あなたの決断の助けになりましたか。ア～サについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。
(○はそれぞれ1つずつ)

	相談した		相談しなかった
	決断の助けになった	決断の助けにならなかった	
ア 家族	1	2	3
イ 友人・知人・交際相手	1	2	3
ウ 学校の先生	1	2	3
エ 保健室の先生（養護教諭）	1	2	3
オ スクールカウンセラー	1	2	3
カ 男女共同参画推進センター「アルザにいがた」	1	2	3
キ 母子家庭等就業・自立支援センター	1	2	3
ク 保健師（保健所・区役所・地域保健福祉センターに配置）	1	2	3
ケ 医療関係者	1	2	3
コ 民間の専門家や相談窓口（弁護士、支援団体など）	1	2	3
サ その他（ ）	1	2	

＜問40-3で「2 だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答した方だけ＞

問40-5 だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

1 だれ（どこ）に相談したらよいかわからなかった 2 相談しても無駄だと思った 3 相談していいことだと思わなかった 4 相談することを思いつかなかった 5 その他（ ）

＜問40で「1 望まない妊娠からの出産をしたことがある」と回答した方だけ＞

問40-6 出産後、次のような相談窓口や支援を利用したことがありますか。

ア～クについて、それぞれあてはまる番号をお選びください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	利用した	知っていたが、利用しなかった	知らなかった	利用する必要がなかった
ア 保健所・区役所・地域保健福祉センター	1	2	3	4
イ 乳児院・児童養護施設	1	2	3	4
ウ 児童相談所	1	2	3	4
エ 公的な貸付・融資制度	1	2	3	4
オ 男女共同参画推進センター「アルザにいがた」	1	2	3	4
カ 母子家庭等就業・自立支援センター	1	2	3	4
キ 民間の専門家や相談窓口（子ども食堂、支援団体など）	1	2	3	4
ク その他（ ）	1	2	3	4

●女性に対するサポートなどについておたずねします。

問41 次の相談窓口で知っているものはありますか。(○はいくつでも)

- 1 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」相談室（万代市民会館内）
- 2 新潟市配偶者暴力相談支援センター
- 3 新潟市女性相談支援員（区役所健康福祉課に配置）
- 4 妊娠・子育てほっとステーション
- 5 ひとり親家庭等自立支援相談
- 6 新潟市助産師会「助産師による電話相談」
- 7 新潟市児童相談所
- 8 親子のための相談LINE
- 9 民生委員・児童委員、主任児童委員
- 10 新潟市児童発達支援センター「こころん」
- 11 新潟市こころの健康センター
- 12 新潟市の保健所・区役所・地域保健福祉センター配置の保健師
- 13 新潟市消費生活センター
- 14 性暴力被害者支援センターにいがた
- 15 よりそいホットライン（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）
- 16 内閣府性暴力に関するSNS相談「Cure Time（キュアタイム）」
- 17 知っているものはない

問42 女性がDVや虐待、性的な被害、望まない妊娠、家族との不仲、生活困窮などの困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 困難な状況に気づいてくれる人の存在
- 2 安心できる居場所
- 3 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること
- 4 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること
- 5 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート
- 6 経済的な自立
- 7 経済的な自立に必要なスキルや資格
- 8 いざという時に自分で自由に使えるお金
- 9 その他（）
- 10 必要なことはない
- 11 わからない

問43 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どのようなサポートがあるといいと思いますか。（〇は3つまで）

- | | |
|----------------------|---|
| 1 数時間程度安心して過ごせる場所 | |
| 2 一時的に（数日）安心して泊まれる場所 | |
| 3 無料・低額で食事の提供 | |
| 4 なんでも相談できる場所や人 | |
| 5 同じ悩みを持つ人たちと出会える場所 | |
| 6 一晚程度を過ごせるお金の援助 | |
| 7 住まいに関する支援 | |
| 8 就業など自立に向けた支援 | |
| 9 その他（ | ） |
| 10 必要なことはない | |
| 11 わからない | |

問44 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所で相談したいですか。（〇は3つまで）

- | | |
|--------------------------|---|
| 1 電話 | |
| 2 メール | |
| 3 SNS（LINE、X、Instagram等） | |
| 4 学校（対面） | |
| 5 支援機関（対面） | |
| 6 自宅に訪問（対面） | |
| 7 気軽に立ち寄れる場所で相談（対面） | |
| 8 その他（ | ） |
| 9 相談したり支援を受けたりしたいと思わない | |
| 10 わからない | |

質問は以上で終了です。

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて
令和6年9月17日（火）までにご投函くださいますようお願いいたします。
お名前・ご住所を記入する必要はありません。

新潟市男女共同参画に関する基礎調査報告書

令和6年9月調査

新潟市市民生活部男女共同参画課

新潟市中央区学校町通1番町602番地1

電話 025-226-1061
